



鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報15：平成11年度

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 |
| 巻 | 15 |
| ページ | 1- 103 |
| 発行年 | 2001-03 |
| URL | http://hdl.handle.net/10232/00031508 |

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報

15

平成11年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2001年3月

例 言

凡 例

1. 本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成11年度に行った調査活動の成果をまとめたものである。なお、郡元団地 M~T-7~10区（運動場）における発掘調査報告を付編として掲載した。

2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査における図面・写真的担当は以下のとおりである。

2：大西智和、付編：中村直子・峰山いづみ・池口洋人・陣内高志

3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。

2：新里貴之、付編：中村直子・峰山いづみ・鈴川章子

製図は中村・新里・新原和子が担当した。写真撮影は中村・新里が行った。

執筆は1：中村、2：新里、3：中村、付編：中村が行った。編集は中村が行った。

4. 付編掲載の出土遺物に関しては、中村和美氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、中園聰氏（鹿児島国際大学）、成尾英仁氏（鹿児島県立博物館）、大塚裕之氏、橋本達也氏、本田道輝氏、渡辺芳郎氏（鹿児島大学）のご教授を賜った。

5. 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理の下、各学部、部局に収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれから埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のようである。

(1) 郡元団地では、国土座標第2座標系 ($X=-158.200, Y=-42.400$) を基点として一辺50mの方形地区割りを行った (Fig.3参照)。

(2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系 ($X=-161.600, Y=-44.400$) を基点として一辺50mの方形地区割りを行った。

2 本年報において報告を行った調査地点については、Fig.3にその位置を記している。

3 本年報におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。

4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。

SK：土壤状遺構 SD：溝状遺構 P：ピット

5 2・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6 遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。胎土：砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。R：赤色粒、W：白色粒、B：黒色粒、Q：石英、H：角閃石、S：礫である。それぞれの粒子ごとに大きさや多さを示した。粒子の大きさはA：礫（～3mm）、B：粗砂粒、C：砂粒、D：細砂粒に分けた。胎土中の砂粒の多さについては、以下のとおり、面積率によって便宜的に1～5の5段階に分けた。

5：15%以上、4：10%前後、3：5%前後、2：1%前後、1：1%以下とした。

法量：復原による法量は、()をつけた。

7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

本文目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1 平成11年度調査の概要 | 1 |
| 1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境 | 1 |
| 1.2 調査概要 | 1 |
| 2 郡元団地J-10区（理工学研究棟建設予定地）における試掘調査 | 5 |
| 2.1 調査にいたる経過 | 5 |
| 2.2 調査の体制 | 5 |
| 2.3 調査の経過 | 5 |
| 2.4 層位 | 5 |
| 2.5 遺物 | 6 |
| 2.6 まとめ | 7 |
| 3 立会調査 | 8 |
| 鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項 | 10 |
| 受贈図書一覧 | 12 |
| 付編 郡元団地M～T-7～10区（運動場）発掘調査報告 | 19 |
| 1 調査に至る経過 | 19 |
| 2 調査体制 | 19 |
| 3 調査の経過 | 19 |
| 4 各トレンチの説明 | 19 |
| 5 まとめ | 98 |

1 平成11年度調査の概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾(錦江湾)が広がり、他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。

本書に掲載する調査地点は、鹿児島大学構内の郡元団地で、鹿児島大学構内遺跡郡元団地と呼んでいる。郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し、標高約7mを測る。從来から周知の遺跡として知られており、校舎などの建設に伴う事前の発掘調査が多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており、県立医大遺跡、附属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡も郡元団地内の遺跡である¹⁾。付近には弥生時代の住居跡が確認された一ノ宮遺跡がある。

郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見されている。現在三つの住居跡群が把握できている。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部、もう一つは南西部で、いずれも微高地に形成されている。中央に位置する住居跡のすぐ北側には河川が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木枕が出土している。平成9年度の工学部における調査では、弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ、構内ではまだ発見されていないが、古墳時代の包含層中には多量のイネ・プラント・オバー

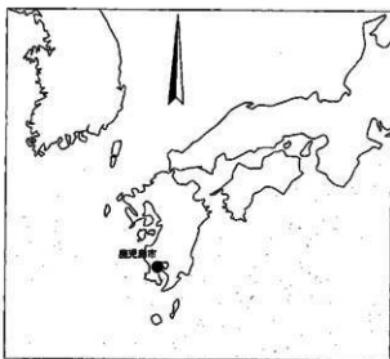


Fig. 1 鹿児島市の位置

ルが含まれており²⁾、稻作が継続的に行われていたことがわかる。

1.2 調査概要 (Tab. 1)

平成11年度に行った調査は本調査1件、試掘調査1件、立会調査6件を行っている。本調査の99-1では、古墳時代の住居跡群が確認された釘田第一地点³⁾の南に隣接しており、同様な遺構が多く存在することが予想される。平成11年度内の調査では、3層上面において中世の烟跡とみられる数百条からなる畝状遺構が検出された。また、古墳時代遺物

Tab. 1 平成11年度調査一覧表

| 種類 | 調査コード | 地区 | 調査・工事 | 調査期間 | 調査面積 |
|------|-------|------------------------|-----------------------|------------------------|--------------------|
| 本調査 | 99-1 | 郡元団地J・K-4区 | 総合研究棟建設に伴う発掘調査 | 平成11年12月20日～平成12年8月18日 | 1300m ² |
| 試掘調査 | 99-2 | 郡元団地J・K-10区 | 理工学研究棟建設予定地の試掘調査 | 平成12年3月22日～3月29日 | 4m ² |
| 立会調査 | 99-A | 郡元団地J・K-10・11区 | 工学部校舎新設その他機械設備工事 | 平成11年4月2日～28日 | |
| | 99-B | 郡元団地P・Q-4～7区・伊敷町養護学校 | 基幹整備(太陽光発電設備)工事 | 平成11年4月5・6日 | |
| | 99-C | 郡元団地I-9区 | 郡元団地他機関整備(給水等)工事 | 平成11年6月15・21日 | |
| | 99-D | 郡元団地H-5区 | 工学部校舎新設その他電気設備工事 | 平成11年9月21～23日 | |
| | 99-E | 郡元団地I-10区 | 中央変電所高圧保護器改修その他電気設備工事 | 平成11年11月16日 | |
| | 99-F | 郡元団地C-8,D-E-6,J-K-4-5区 | 総合研究棟建設に伴う樹木移植工事 | 平成12年2月3日 | |

包含層の上面からは、多量の遺物がゆるやかな塚状に集積しているのが、配管埋設跡の断面観察によって確認されている。これらの遺物群は、古墳時代後期のものがほとんどである。

註

- (1) 松永幸男 (1986)、第II章 鹿児島大学構内遺跡の位置と環境。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報、1. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室。
- (2) 稽元団地L-6区（中央図書館：未報告）におけるブラント・オパール定量分析の分析結果などによる。
- (3) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 (1992)、付録 釘田第一地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告-遺構および遺構出土遺物編-（昭和50年度鹿児島県教育委員会文化課調査）、南九州地域における原始・古代文化の諸様相に関する総合的研究 平成3年度教育研究学内特別経費研究成果報告書 鹿児島大学埋蔵文化財調査室、鹿児島大学法文学部。



Fig. 2 鹿児島大学の位置

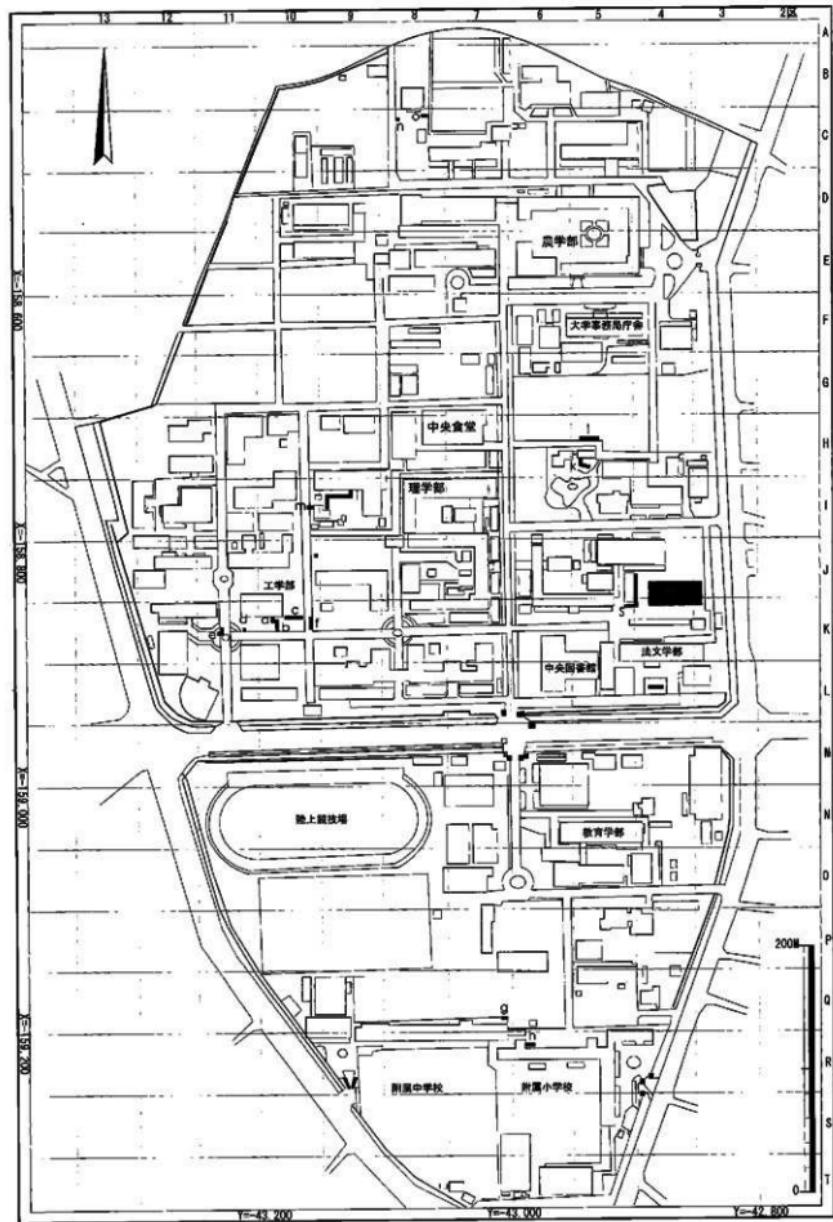


Fig. 3 鹿児島大学郡元園地構内図 S=1/4000

2 郡元団地J-10区（理工学研究棟建設予定地）における試掘調査

2.1 調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地内に理工学研究棟施設の建設が計画され、郡元団地中央西よりの化学工学科棟の東側駐車場が予定地とされた(Fig.4)。これまで行われた本地点の付近の調査から、東側のI・J-9・10区（理学部3号館「理学部1号館増築地」）では、古墳時代の多数の住居跡群が検出されており^{1,2)}、そのほかにも北側では弥生時代～古墳時代の河川跡などが検出されている^{3,4)}。南西部のJ-10・11区（工学部校舎建設に伴う発掘調査）では、平成5年に発掘調査が行われ、弥生時代の水田跡が検出されている。また、中世の遺構や河川跡も本地点の南北側で認められる^{5,6,7)}。これらのことから、本地点における埋蔵文化財の包蔵が推定された。そこで、埋蔵文化財調査室では、本地点における遺構および遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を行うことになった。

2.2 調査の体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長

上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

大西智和

発掘調査作業員 畠谷ミエ子、坂口ミエ子、名越ヒデ子、増満ミエ子、盛満アイ子



PL.1 調査地点

西側から撮影

発掘調査補助員 鮎島伸吾、松元一浩（鹿児島大学大学院2年）、稻丸雅文（鹿児島大学大学院1年生）、小倉浩明（鹿児島大学2年生）

2.3 調査の経過

試掘調査は、平成12年3月22日～3月29日にかけて実施した。理工学研究棟建設予定地内、化学工学科棟の東側の駐車場に、2×2mのトレンチを設定した(Fig.4)。

地表下約1.6mまで掘り下げ、一部は、約2.3mまで掘り下げたが、遺構は検出されていない。それ以下は、無遺物層であろうと判断し、調査を中止した。層位断面図を作成し、埋め戻して調査を終了した。

2.4 層位 (Fig.5)

- 1層 表土、砂利、砂など。遺物少量あり。
- 2層 客土、填圧されていて堅い。
- 3層 灰黄褐色シルト層 (10YR5/2)。やや粘性があり、1cm程度までのバニスを含む。遺物の出土多し。
- 4層 にぶい灰黄褐色シルト層 (10YR4/3)。やや粘性があり、1cm程度までのバニスを含む。
- 5層 灰黄褐色シルト層 (10YR5/2)。マンガンの浸透が著しい。やや粘性を帯び、1cm程度までのバニスを含む。下半部は、やや暗い色調を呈する (5-2層)。遺物の出土僅かにあり。
- 6層 鍋灰色シルト層 (7.5YR6/1)。マンガンの浸

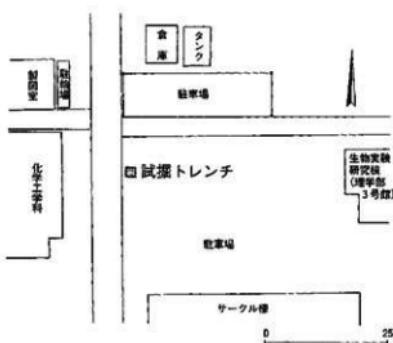


Fig.4 調査位置図 S=1/1000

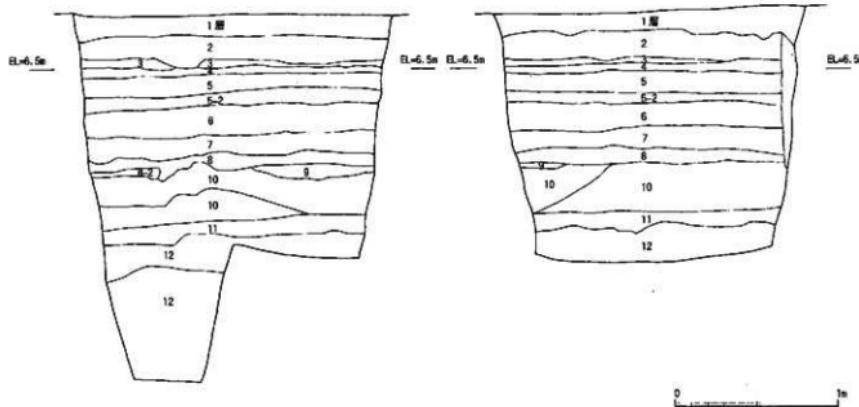


Fig. 5 層位断面図 S=1/30

透が著しい。粘性がややあり、1cm大程度のバミス（まれに5cm大までのバミス）を含む。遺物出土多し。

7層　褐灰色（10YR5/1）と灰黄褐色（10YR4/2）を呈するシルト混土層。粘性がややあり、2cm大程度までのバミスを含む。マンガンの浸透が見られ、5~30cmの大範囲で、粗砂・細砂をブロックで含んでいる。どのように形成されたのかは不明確。遺物出土多し。

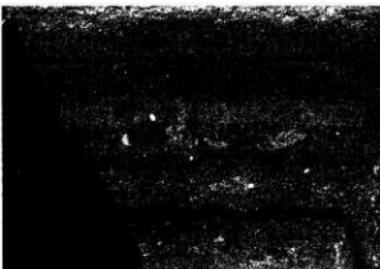
8層　灰黄褐色（10YR5/2-10YR4/2）を呈するシルト質層。粘性を帯び、堅い。マンガンの浸透が見られ、2cm大程度までのバミス少量含む。下部にやや暗い色調を呈する場所有り（8-2層）。遺物の出土僅かにあり。

9層　黒褐色シルト及び細砂層（10YR3/2-10YR2/2）。やや粘性を帯び、マンガンの浸透が見られる。2cm大の程度までのバミス少量含む。

10層　粗砂層。0.5~5cm大程度までのバミスを多量に含む。洪水によってもたらされたものと考えられる。細砂部分の上部にはマンガンの浸透が見られる。

11層　黒褐色シルト及び細砂上混じり（10YR2/2）。粘性があり、1cm大程度までのバミスを含む。

12層　地山、粗砂層。5cm大程度までのバミスを含む。上方は黄色だが、下方は灰色を呈する。



PL. 2 北壁

2.5 遺物 (Fig. 6)

出土量の多寡はあるものの、1~8層までの各層にわたって、古墳時代の土器片が多量に出土した。ほかに、陶器片、薩摩焼、石、詳細不明鉄製品などが出土している。

以下に、実測可能な遺物の所見を記す。

1は、古墳時代の成川式と考えられる脚部破片で、縦状突起がつく。著しくローリングを受けている。器色は浅黄橙色10YR8/3である。胎土には無色・黒色の石英粒（0.5mm前後）、不透明な黑色粒（0.5mm前後）が多く、稀に灰黒色粒（2~3mm前後）が混じる。7層出土。

2は、成川式の脚部と思われ、著しくローリングを受けている。器色は橙色2.5YR6/6である。胎土には乳白色のチャート（0.5mm前後）、不透明な黒

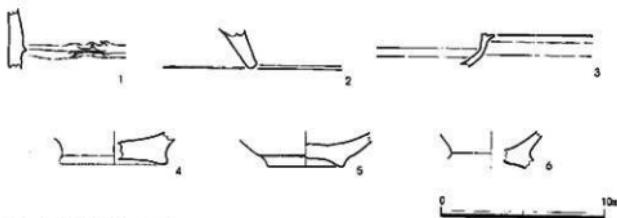


Fig. 6 出土遺物 S=1/3

色粒（0.5mm前後）が少量混じる。7層出土。

3は、須恵器の杯身の小破片であり、その特徴から、6世紀後半に属するものと思われる。灰色(Hue N 5/0)を呈する。7層出土。

4~6は、古代の土師器の底部である。高台は高くない。全てローリングを受けている。4は、底径6.6cmを計る。器色はにぶい黄褐色10YR7/3、乳白・灰色のチャート（0.5~1mm）が多い。5は、底径4.6cmで、外側が明黄褐色10YR7/6、内側が浅黄褐色10YR8/4を呈する。乳白・灰色のチャート（0.5~1mm）が多く、稀に0.5mm大の赤色粒が所領混じっている。6は、内外側がにぶい黄褐色10YR7/3、肉が褐色10YRS/1を呈する。0.3mm大の風化した白色粒が多量に混じる。4~6は、全て6層出土である。

ほかにも黒曜石片や薩摩焼、磁器などが認められたが、小破片のため、詳細は不明確であった。

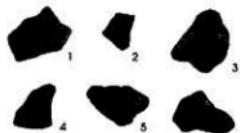
2.6まとめ

調査結果、本試掘部では、明確な遺構は検出なかったが、6・7層は比較的多く土器が出土し、3層にも比較的遺物は多かった。そのほとんどが古墳時代の土器であり、郡元キャンパスに広く存在する同時期の遺物包含層であろう。土器はほとんど小破片で、ローリングを受けており、堆積までにかなりの遺物の動きがあったことが窺い知れる。

しかしながら、古墳時代の遺物包含層は、擾乱を受けることなく安定して水平堆積しており、残存状況が良好であるといえる。したがって、本地点において現状の変更が行われる場合は、事前に埋蔵文化財発掘調査が必要と考えられる。

註

- 1) 松永幸男・坪根伸也 1986「第Ⅳ章1 郡元団地I・



PL. 3 出土遺物

J-9・10区（理学部1号館増築地）の発掘調査報告書『鹿児島大学埋蔵文化財調査年報Ⅰ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

- 2) 松永幸男 1987「第Ⅱ部第2章 鹿児島大学郡元団地J-9区における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅱ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室
- 3) 大西智和 1998「付録 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報12』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

大西智和・鮎川章子1999「付録1 郡元団地H-11区における発掘調査出土木製遺物の紹介」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報13』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

- 4) 松永幸男・中村直子・黒木綾子・有馬孝一 1992「付録II 郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室
中村直子・黒木綾子1993「付録I 鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11・12区工学部情報工学科建設地発掘調査河2出土遺物の紹介」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅸ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

5) 松永幸男 1988「第2章 鹿児島大学郡元団地G・H-9・10区（電子計算機室増築地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅲ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室

- 6) 4) に同じ
- 7) 大西智和編 1994『鹿児島大学構内遺跡郡元団地L-11・12区・鹿児島大学福島会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』『鹿児島大学埋蔵文化財調査室

3 立会調査

99-A 郡元団地J・K-10・11区 工学部校舎新営その他機械設備工事

調査日 平成11年4月2日～28日

校舎新営工事に伴う立会調査で、Fig. 3a～f 地点の調査を行なった。

a 地点

幅80cm、地表下85cmまで掘削を行なった。層位は次のとおりである。

1層：暗灰褐色2.5Y5/2やわらかく、ブロックなどを含む。層厚35cm。2層：暗灰褐色2.5Y5/2砂質シルト。3層：黄褐色2.5Y5/4シルト質砂、鉄分浸透、1cm大の軽石を含む、層厚12cm。4層：灰黄褐色10YR6/2シルト質砂、鉄分・マンガン浸透、1cm大の軽石を含む、層厚13cm。

b 地点

幅80cm、地表下115cmまで掘削を行なった。層位は次のとおりである。1層：暗灰褐色2.5Y5/2やわらかく、ブロックなどを含む。層厚35cm。2層：2.5Y6/1シルト、かたい、層厚16cm。3層：灰黄褐色10YR6/2シルト質砂、鉄分・マンガン浸透、1cm大の軽石を含む、層厚27cm。4層：5YR4/1、砂質シルト、13cm。5層：2.5Y7/6粗砂層、17cm。

c 地点

幅60cm、地表下1.3mの深さまで掘削を行なった。ほとんどが既掘部であったが、南端のみプライマリーな層が残存していた。また1～4層は、a地点の1～4層と同一層であった。

1層：層厚35cm。2層：層厚20cm。3層：26cm。4層：32cm。5層：黄褐色2.5Y6/1シルト、1cm大の軽石を含む、層厚24cm。6層：暗灰色N3/1シルト、層厚10cm。7層：黄褐色2.5Y5/1シルト、マンガンを含む、層厚7cm。8層：灰色N6/1、マンガンを含む、層厚3cm。

d 地点

地表下132cmまで掘削を行なった。1層：暗灰褐色2.5Y5/2やわらかく、ブロックなどを含む、層厚42cm。2層：暗灰褐色2.5Y5/2砂質シルト、層厚25cm。3層：黄褐色2.5Y5/4シルト質砂、鉄分浸透、1cm大の軽石を含む、層厚22cm。4層：暗灰褐色シルト、下部粗砂混じりシルト、層厚35cm。砂、マンガン浸透、層厚8cm。

e 地点

地表下65cmの深さまで掘削を行なった。既掘部で、埋蔵文化財には影響はなかった。

f 地点

地表下90cmまで掘削を行なった。b地点と同じであった。

99-B 郡元団地P・Q-4～7区・伊敷町養護学校 基幹整備（太陽光発電設備）工事に伴う立会調査

調査日 平成11年4月5・6日

教育学部附属小学校・中学校・幼稚園と鹿児島市伊敷町に所在する養護学校の基幹整備事業に伴う立会調査で、Fig. 3g～i 地点の調査を行なった。

g・h 地点

プライマリーな層は確認できなかった。h地点の廃土中より土師器片が出土した。

i 地点

幅80cm、地表下160cmまで掘削を行なった。5層は古墳時代の包含層だが、今回の掘削では遺物は出土しなかった。

1層：表土、層厚50cm。2層：シラス客土、層厚20cm。3層：灰褐色シルト、水田層と考えられる、層厚20cm。4層：黄褐色シルト、層厚15cm。5層：黒褐色シルト、層厚55cm。

99-C 郡元団地I-9区 郡元団地他機関整備（給水等）工事

調査日 平成11年6月15・20・21日

工学部電気・電子工学科棟南側の給水配管工事に伴う立会調査で、Fig. 3j 地点の調査を行なった。

j 地点

地表下80cmの深さまで掘削を行なった。1層：茶褐色シルト質砂、層厚55cm。2層：灰白色10YR7/1砂層、鉄分浸透、層厚25cm。

99-D 郡元団地H-5区 工学部校舎新営その他電気設備工事

調査日 平成11年9月21～23日

大学会館西側の木造家屋南側を電気配線工事に

伴う立会調査を行った。Fig. 3k・l 地点である。
どちらとも、地表下 60cm の掘削を行ったが、既掘部であった。

99-E 郡元団地 I-10 区 中央変電所高圧保護 繼電器改修その他電気設備工事

調査日 平成 11 年 11 月 16 日

工学部電気電子工学科棟南側の倉庫の西を電気配管工事に伴う立会調査を行った。Fig. 3m 地点である。

倉庫北側を道路を横断するように掘削した。地表下 85cm まで掘削を行い、2・3 層は水田層であると推定できる。

1 層：表土、層厚 45cm。2 層：にぶい黄褐色 10YR5/3 砂質シルト、粘性やや帶びる、層厚 20cm。3 層：にぶい黄橙色、砂質シルト、粘性がややあり、マンガン浸透、層厚 20cm。

99-F 郡元団地 C-8・D・E-6 区・J・K-4・5 区 総合研究棟建設に伴う樹木移植等工事

平成 12 年 2 月 3 日

総合研究棟建設予定地内の樹木移植工事と、周辺配管工事に伴う立会調査を、農学部と総合研究棟周辺で行った。Fig. 3n～s 地点である。

n 地点

樹木移植先として、1.8m 四方を地表下 80cm まで掘削したが、既掘部で埋蔵文化財に対する影響はなかった。

o 地点

樹木移植先として、1.8m × 1.5 m のトレンチを地表下 80cm の深さまで、8 筒所掘削した。掘削されたのは 1 層のみで、埋蔵文化財への影響はなかった。

p 地点

1 层：層厚 85cm。2 層：にぶい黄褐色 10YR4/3、シルト、5mm 大の軽石を含む、層厚 20cm。3 層：灰黄褐色 10YR5/2 砂質シルト、5mm 大のバミスを含む、層厚 15cm。4 層：黄灰色 2.5Y6/1 砂質シルトを基調とし、鉄分浸透、層厚 19cm。5 層：褐灰色 10YR4/1 シルト質砂、層厚 20cm。5 層：黒褐色 10YR2/2 シルト、層厚 8cm。

q 地点

樹木移植先として、地表下 190cm まで掘削を行った。1 层：表土、層厚 60cm。2 層：にぶい黄褐色 10YR4/

3 シルト、1cm 大の軽石を含む、マンガンが浸透、層厚 30cm。3 層：にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質シルト、少し粘質、層厚 9cm。4 層：灰黄褐色 10YR5/2 砂質シルト、5mm 大のバミスを含む、層厚 20cm。5 層：にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト質砂を基調とし、鉄分浸透、層厚 6cm。6 層：黄灰色 2.5Y6/1 砂質シルトを基調とし、鉄分浸透、層厚 12cm。7 層：黒褐色 10YR3/1 シルト、粘質やや強い、層厚 13cm。8 層：にぶい黄褐色 10YR3/1 シルト、層厚 12cm。9 層：黒褐色 10YR3/2 シルト、層厚 4cm。10 層：にぶい黄褐色 10YR5/3、シルト、層厚 7cm。

r 地点

p 地点と同じ。

s 地点

共通教育棟校舎から南側を L 字状に掘削を行った。南北方向の溝は、掘削深度が 65cm、東西方向の溝は掘削深度が 90cm に及んだ。4 层は水田層、5 层は古墳時代の遺物包含層である。遺構・遺物などは検出されなかった。

1 层：表土、層厚 27cm。2 層：2.5Y3/2 シルト質砂、層厚 19cm。3 層：明褐色 7.5YR5/8 シルト質砂、層厚 16cm。4 層：褐灰色 10YR4/1 シルト質砂、層厚 20cm。5 層：黒褐色 10YR2/2 シルト、層厚 8cm。

埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各学部長、附属図書館長、医学部附属病院長および歯学部附属病院長

(3) 事務局長

(4) 学生部長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聽くことができる。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関する事。

(3) 第13条に規定する調査室の予算に関する事。

(4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関する事。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

(1) 各学部の教授、助教授、講師の中から選任された者各1名

(2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聽くことができる。

(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

(1) 調査実施計画の立案

(2) 発掘調査、分布調査及び確認調査

(3) 調査報告書の作成

(4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和60年4月18日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定に

かかわらず、昭和 62 年 3 月 31 日までとする。
3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和 51 年
1 月 22 日制定)は、廃止する。

付則

この規則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(平成 11 年 4 月
1 日現在)
委員長 田中弘允(鹿児島大学学長)
委員 石田忠彦(法文学部長)
坂尾 隆(教育学部長)
堀田 満(理学部長)
佐伯 武(医学部長)
宮田昌明(医学部付属病院長)
笠原泰夫(歯学部長)
井上昌一(衛生学部付属病院長)
赤坂 裕(工学部長)
堀口 稔(農学部長)
市川英雄(水産学部長)
宮内信文(適合農学研究科長)
山口建太郎(事務局長)

野崎 勉(学生部長)
山下 智(附属図書館長)
・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員(平成 11 年
4 月 1 日現在)
委員長 古川純康(工学部教授)
委員 本田道輝(法文学部助教授)
日隈正守(教育学部助教授)
秋山伸一(医学部教授)
小掠 正(衛生学部教授)
小柴洋一(理学部教授)
松元光春(農学部助教授)
西 隆昭(水産学部講師)
上村俊雄(調査室長併任 法文学部教授)
鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長(併) 法文学部教授 新田栄治
主任(併) 法文学部助手 中村直子
(併) 法文学部助手 大西智和
技術補佐員 新原和子(平成 11 年 7 月 31 日まで)
寒川朋枝(平成 11 年 8 月 1 日から)
技術補佐員 新里貴之

受贈図書目録

(1999年4月1日～2000年3月31日まで)

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|----------------------------------|-------------------------------|---|-----------------------------|
| 逐次刊行物 | | | |
| 財団法人君津都市文化財センター広報誌 きみさらづ 第14.15号 | 一 | 網路市舞鶴港埋立調査報告書IV | 北海道釧路市埋立文化財調査センター |
| 千葉県立房総風土記の丘だより 第36・37号 | 千葉県立房総風土記の丘 | ボーグロ4 連続発掘調査概要報告書 虎次浜2・ポンヨロ4遺跡 | 白老町教育委員会 白老町教育委員会 |
| 加止里 第5号 | 香取市文化財センター | 宮城県古川市文化財調査報告書第17集 倉泊遺跡 | 古川市教育委員会 古川市建設部都市計画課 |
| 復元版博物館ノート NO. 51-100 | 大田区立江戸博物館 | 宮城県古川市文化財調査報告書第18集 小寺遺跡 | 古川市教育委員会 古川市産業部農村整備課 |
| 東京都埋蔵文化財センター 研究論集XVII | 東京都埋蔵文化財センター | 宮城県古川市文化財調査報告書第19集 国指定史跡 名生館古が遺跡XV | 古川市教育委員会 |
| 青山史学第17号 | 青山学院大学文学部史学研究室 | 宮城県古川市文化財調査報告書第20集 桐ノ森遺跡 | 古川市教育委員会 古川市産業部農村整備課 |
| 人類誌年報1999 | 東京大人類類研究グループ | 宮城県古川市文化財調査報告書第21集 国指定史跡 名生館古が遺跡XVI | 古川市教育委員会 |
| 研究ノート8号 | 財団法人人間系累代教育財團 | 宮城県古川市文化財調査報告書第25集 御所遺跡 | 古川市教育委員会 東日本旅客鉄道株式会社 |
| 名古屋市博物館だより127-132 | 名古屋市博物館 | 柳生台遺跡 | 仙台市教育委員会 |
| 研究所報N.79, 80 | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 河原町遺跡 | 仙台市教育委員会 |
| 自然と人の文化No.15 | 多治見市文化財保護センター | 山形県酒田市 史跡城輪塚跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| かみがはらの歴史 各務原市埋蔵文化財センターだより第7号 | 各務原市埋蔵文化財センター | 木工台遺跡2 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 茨城県埋蔵文化財ニュース 第227-232号 | 茨城県埋蔵文化財センター | 古峯A遺跡、古峯B遺跡、高土古墳群内留谷作成跡、木工台遺跡3 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 茨城県埋蔵文化財ニュース 佐賀大第10号 | 坂田郡社会教育研究会文化財部会 | 中里寺三塚遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 三重県埋蔵文化センター通信 みえNo.25 | 三重県埋蔵文化財センター | 荒陵寺寺子西遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 京都府埋蔵文化財情報 第72-74号 | 財团法人京都府埋蔵文化財調査研究センター | 孫日山遺跡、孫日古墳群 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 大阪府立近つ飛鳥 錦84 | 近づ飛鳥博物館 | 中原遺跡2 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 大阪府文化財情報 孫天79-84号 | 財团法人大阪市文化財協会 | 六十日山跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 博物館だよりアスカディア・古墳の森 vol.10, 11 | 大阪府立近づ飛鳥博物館 | 沢田遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 秋方文化財だより 第38・39号 | 財团法人秋方市文化財研究調査室 | ニガサ遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 兵庫県埋蔵文化財情報 32-34号 ひよこの増補 | 兵庫県教育委員会 | 下野古遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 櫻井 第23・24号 | 広島県立歴史民俗資料館 | 孫の山古跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| いぶきNo.24, 25 | 広島県教育委員会事務局生涯学習部文化政策中等階層調査研究室 | 西平遺跡、玉安遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 所報吉備 第26, 27号 | 岡山県立古代吉備文化財センター | 石原遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 自然科学研究所 研究報告 第24号 | 岡山市埋蔵文化財調査研究センター | 房石燃燈、明石北原遺跡、上白畑遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 鳥取県埋蔵文化財調査報第1号 | 岡山理科大学 | 美崎古墳群、尾代日遺跡IV | 財团法人茨城県教育財團 |
| 鳥取県埋蔵文化財調査報第2号 | 鳥取県埋蔵文化財調査研究センター | 仲丸遺跡、久保翠群、五ヶ堀古墳、向原遺跡、向原翠群、前原 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 鳥取県埋蔵文化財調査報第3号 | 島根県埋蔵文化財調査センター | 仲、伊丹 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 古代文化研究 1999 N.0.7 | 島根県古代文化センター | 平岡遺跡、市立川考古博物館研究調査報告書第7号、市立川考古博物館研究調査報告書第149号、井遺跡 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 出雲國土記とその周辺 | 財团法人島根県埋蔵文化財調査研究所 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第150号、庄作台遺跡I | 財团法人茨城県教育財團 |
| 研究所報 No.82, 83 | 下関市立考古博物館 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第151号、猪古墳群II | 財团法人茨城県教育財團 |
| あやらぎ | 愛媛県埋蔵文化財調査センター | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第152号、戸戸古墳 | 財团法人茨城県教育財團 |
| まいふんえひめNo.26 | 大野城市教育委員会 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第153号、岩隅隕鉄塔遺跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書 | 財团法人茨城県教育財團 |
| 大野城市文化財第31号 大野城市の民具① | 大分県歴史博物館 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第154号、高砂遺跡II | 財团法人茨城県教育財團 |
| おおいた歴博No.3-6 | 別府大学附属博物館 | 山谷遺跡 | 市立市川考古博物館 |
| 別府大学附属博物館だより 42号 | 大分市埋蔵文化財研究会 | 西久保下遺跡 | 財团法人君津都市文化財センター 富津市 |
| 大分市埋蔵文化財研究会ニュースNo.44-46 | 歴史人類 第27号 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第155号、高砂遺跡II | 財团法人君津都市文化財センター 東京電力株式会社 |
| 歴史人類 第27号 | 南日本文化第32号 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第156号、高砂遺跡II | 財团法人君津都市文化財センター 富津市 |
| 魔界文化 第66. 67号, 第68. 69合併号 | 魔界文化短期大学附属南日本文化研究所 | 財团法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第157号、高砂遺跡II | 財团法人君津都市文化財センター 富津市 |
| 人歴史研究 第11号 | 人歴史研究会 | 山谷遺跡 | 財团法人君津都市文化財センター 西郷克充・株式会社尾瀬 |
| 琉球大学考古学研究集録 初刊号 | 琉球大学法文学部考古学研究室 | 西久保下遺跡 | 財团法人君津都市文化財センター |
| 大河・古墳の民話 | 鹿児島教育委員会・歴史民俗資料館 | 財团法人君津都市文化財センター | 財团法人君津都市文化財センター |

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|-------------------------|-----------------|---|----------------------|
| 雪原道跡 | 財團法人君津都市文化財センター | 四谷内谷道跡 | 香取都市文化財センター |
| 椎古墳群III | 財團法人君津都市文化財センター | 向仲野道跡 | 香取都市文化財センター |
| 北笠原遺跡 | 財團法人君津都市文化財センター | 中里西口遺跡 | 香取都市文化財センター |
| 金井崎遺跡発掘調査報告書 | 財團法人君津都市文化財センター | かのへ塚・寺ノ上遺跡 | 香取都市文化財センター |
| 今部力内遺跡 | 香取都市文化財センター | 鹿野谷大戸遺跡 | 香取都市文化財センター |
| 青馬新西保跡 | 香取都市文化財センター | キサキ遺跡 | 香取都市文化財センター |
| 地蔵原風神跡 | 香取都市文化財センター | 堀川鉢跡 | 東京文化財センター |
| 中ノ台遺跡A地区 | 香取都市文化財センター | 多摩ニュータウン遺跡-No.446遺跡- | 東京都埋蔵文化財センター |
| 竹ノ台遺跡 | 香取都市文化財センター | 多摩ニュータウン遺跡-No.452遺跡- | 東京都埋蔵文化財センター |
| 古里敷遺跡 | 香取都市文化財センター | 多摩ニュータウン遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 西大須賀モ田古墳群 | 香取都市文化財センター | No.72・79・79' | 東京都埋蔵文化財センター |
| 長部山遺跡 | 香取都市文化財センター | 多摩ニュータウン遺跡- | 東京都埋蔵文化財センター |
| 後田遺跡 | 香取都市文化財センター | No.450・451・452遺跡- | 東京都埋蔵文化財センター |
| 伊地山遺跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第50編 多摩ニュータウン遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 浅間山号塙・城房宮作遺跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第59編 多摩ニュータウン遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 杉内遺跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第64編 多摩ニュータウン遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 村田山遺跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第65編 多摩ニュータウン遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 中ノ台遺跡B地区 | 香取都市文化財センター | 先行調査報告41 | 東京都教育委員会 |
| 高間清水道跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第66編 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 大六天遺跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第67編 | 富士見市都市教育委員会 |
| 多古台運跡群No.8地点II | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第69編 多摩ニュータウン遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 織幡妙見堂遺跡II | 香取都市文化財センター | 第69集 多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告14 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 谷津遺跡 | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財調査報告書第70集 | 東京都教育委員会 |
| 小見川城跡 | 香取都市文化財センター | 尾張等上野遺跡調査IV | 東京都埋蔵文化財センター |
| 事業報告書-平成9年度- | 香取都市文化財センター | 東京都埋蔵文化財センター調査報告第71集 多摩ニュータウン遺跡 - N0113・11遺跡- | 東京都埋蔵文化財センター |
| 権藤谷大戸丘遺跡 | 香取都市文化財センター | 尾張等上野遺跡調査概要VII | 東京都埋蔵文化財センター |
| 城山1号塙 | 香取都市文化財センター | 沙留遺跡 - 旧沙留貨物駅遺跡内遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 五十坂古墳群 | 香取都市文化財センター | 発掘調査概要V- | (財)京都教育文化財団 |
| 台原らく遺跡 | 香取都市文化財センター | 多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告 | 東京都教育委員会東京都埋蔵文化財センター |
| 大越遺跡 | 香取都市文化財センター | 告13 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 名号戸遺跡 | 香取都市文化財センター | 多摩ニュータウン遺跡No.753遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 城山3号塙 | 香取都市文化財センター | 埼久保遺跡II | 東京都南紺住宅建設事務所 |
| 小野女台遺跡 | 香取都市文化財センター | 武蔵丘遺跡 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 反原遺跡 | 香取都市文化財センター | 武蔵野市井の頭遺跡遺跡群 | 武蔵野市教育委員会 |
| 桜之宮1号塙 | 香取都市文化財センター | No.160遺跡発掘調査報告書 | 伊勢原市No.160遺跡発掘調査報告書 |
| 桜田野原土手跡 | 香取都市文化財センター | 愛名宮地遺跡 | 愛名宮地遺跡調査団 |
| 月輪社遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告52 上柏殿・小山遺跡 三の宮・下柏原遺跡 上柏殿・柏原遺跡 | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 青馬大門遺跡 | 香取都市文化財センター | ・引東遺跡 上柏殿・引東遺跡 | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 鶴山遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告53 下大根遺跡 (No. 30) Ⅲ | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 下秀山遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告54 斎木木遺跡 (No. 27) | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 岩部遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告55 三ノ宮・下谷井遺跡 (No. 14) I | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 西原南古墳群 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告56 上柏殿・上尾根遺跡 (No. 14) II | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 乞塙堆遺跡 | 香取都市文化財センター | ・上尾根遺跡 上柏殿・引北遺跡 | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 御座・八戸遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告57 神戸・上宿遺跡 | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 香取新福寺遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告58 金利谷聚丁目Ⅱ地区やぐら群・谷津町北地区横穴墓 | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 猪崎天神台遺跡 | 香取都市文化財センター | かながわ考古学財団調査報告59 尾瀬谷やぐら群 | 財團法人かながわ考古学財団 |
| 鍋畠カジメ遺跡群 | 香取都市文化財センター | | |
| 神代瓦方遺跡・稻荷入跡跡・稻荷入1号塙・2号塙 | 香取都市文化財センター | | |
| 四角山遺跡 | 香取都市文化財センター | | |
| 津宮荒沙門遺跡 | 香取都市文化財センター | | |

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|---|------------------------|---|----------------|
| 施子遺跡群 赤堀廻 池子米家墓 住宅建設に伴う発掘調査記録 | 財団法人かながわ考古学財団 | 垂露文化財調査概要-平成10年度- | 財団法人富山県黒文化振興財団 |
| 白久保遺跡 | 財団法人かながわ考古学財団 | 越后高田町教育委員会垂露文化財 調査報告書 美道寺遺跡 | 同上 |
| 吉岡遺跡群V | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告115-10 | 三重県垂露文化財センター |
| 福泉遺跡(No.342)所在やぐら群 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告115-12 | 三重県垂露文化財センター |
| 長勝寺跡(No.88)所在やぐら群 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告146-10 | 三重県垂露文化財センター |
| 櫛木寺やぐら群(No.128) | 財団法人かながわ考古学財団 | 城之越遺跡・驚ヶ尾古墳群 | 三重県垂露文化財センター |
| 一升舟遺跡(No.293)所在やぐら群 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告166-2 犬 伏山内遺跡 (第2次) 芭道銅鏡報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 籠倉城(No.87)所在やぐら群 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告166-3 佐 喜原新井遺跡調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 御井島やぐら群・げんじが谷穴古墓 群及びやぐら群・高巖穴古墓・堂地 谷やぐら群 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告166-4 九 十九歳遺跡・日向糸通り遺跡 | 三重県垂露文化財センター |
| 新宮台洞穴墓 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告171 緑通 庵・アカリ通路遺跡調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 松崎井坪穴古墓群 | 財団法人かながわ考古学財団 | 三重県垂露文化財調査報告172 犬野 城跡新井遺跡調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 神奈川県垂露文化財調査報告41 | 神奈川県立美術館 | 三重県垂露文化財調査報告175 前田 町遺跡・南次溝調査 | 三重県垂露文化財センター |
| 豊島の生人 | 神奈川県立美術館 | 三重県垂露文化財調査報告176 小野 江口遺跡・小野江口古墳群発掘 調査報告書 | 三重県垂露文化財センター |
| 北ノ入道跡 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告178 宮ノ 瀬遺跡・東根遺跡調査報告国見 | 三重県垂露文化財センター |
| 力水遺跡 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告179 田村 西根古跡群 | 三重県垂露文化財センター |
| 源名川遺跡 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告181 コド ノ瀬遺跡・コドノ瀬遺跡調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 押出シ遺跡(遺傳編) | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告182 宮 山遺跡 | 三重県垂露文化財センター |
| 山の神遺跡 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告187 香良 子山遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 笑輪遺跡 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告189 大川 上遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 川合遺跡 八反岳地区I | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告198 企削 坂遺跡 (第4次)・底の口古墳群 (第2次) | 三重県垂露文化財センター |
| 池ヶ谷遺跡I 遺物編 | 財团法人 鶴川市立垂露文化財 センター | 三重県垂露文化財調査報告199 立海 遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 池ヶ谷遺跡II 遺物編 | 名古屋大学古代史資料研究 セミナー | 三重県垂露文化財調査報告191 安城 比叡山遺跡調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 上土遺跡I 遺物編 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告192 馬田 遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 上土遺跡II 遺物編 | 財团法人静岡県垂露文化財調 査研究所 | 三重県垂露文化財調査報告193 神戸 遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 財团法人横浜市垂露文化財センター 調査報告第21集 上野郡蟹川遺跡II 名古屋大学加藤賀賀分析計量報 告書(X) | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 三重県垂露文化財調査報告194 横地 四丁目内遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 西ヶ瀬遺跡・西ヶ瀬山遺跡 | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 三重県垂露文化財調査報告195 はい 川西遺跡 (第2次)・芭道銅鏡報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第26集 上田村平遠跡 | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 三重県垂露文化財調査報告196 南山 の奥古跡 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第26集 犬伏小山南跡C地點 | 水資源開発公社 | 三重県垂露文化財調査報告197 奥ホ リ瀬遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第44集 牛田内遺跡 | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 近畿県丹波市・名古屋市戸幡 (第2 名跡)・近畿文化財調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第45集 丸山遺跡 | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 一般国営475号支那海防施設跡車道 埋藏文化財発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第46集 蔵原遺跡・大坪遺跡 | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 一般国営23号 中勢道路 埼玉文化 財発掘調査報告X I | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第47集 木下ノ古墳 | 財团法人 横浜市立垂露文化財 センター | 天王寺・稻佐古墳 (第1次)・薬師寺北 裏遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第50集 土岐方面山古窯跡 | 住宅都市整備公團 財团法人 | 東海道遺跡 (第2次) 発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 岐阜県文化財保護センター調査報告 書第53集 横野遺跡・梨子谷遺 跡・千日遺跡・宮上遺跡 | 岐阜県 | 高井A遺跡発掘調査報告 | 三重県垂露文化財センター |
| 櫛ノ木瀬遺跡 | 財团法人岐阜県文化財保護セ ンター | 鴻ノ木瀬遺跡 | 三重県垂露文化財センター |
| 各頭城跡・冬頭山1号古墳・冬頭山 2号古墳・冬頭山1号横穴 | 財团法人岐阜県文化財保護セ ンター | | |
| 南雲理遺跡 | 財团法人岐阜県文化財保護セ ンター | | |
| 御手前遺跡 | 財团法人岐阜県文化財保護セ ンター | | |
| 泊井ヶ塚墓1・2号墓発掘調査報告書 | 多治見市教育委員会 | | |

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|--------------------------------------|----------------------|--|-----------------------------|
| 佐野耕(第3次)発掘調査報告 | 三重県埋蔵文化財センター | 美乃利遺跡 | 兵庫県教育委員会 |
| 前ヶ谷遺跡発掘調査報告 | 三重県埋蔵文化財センター | 本州四国道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ(中原遺跡) | 兵庫県教育委員会 |
| 草田遺跡発掘調査報告 | 三重県埋蔵文化財センター | 宮籠遺跡発掘調査報告 | 兵庫県教育委員会 |
| 西畠野跡(ツヅミ遺跡)発掘調査報告書 | 安曇野市教育委員会・安曇町遺跡調査会 | 南本町遺跡 | 兵庫県教育委員会 |
| 大城遺跡発掘調査報告書-内多東工業団地造成事業に伴う発掘調査報告書- | 安曇野市教育委員会・安曇町遺跡調査会 | 高畑町遺跡(Ⅰ) | 兵庫県教育委員会 |
| 京都府埋蔵文化財情報第71号 | 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター | 清水遺跡 | 兵庫県教育委員会 |
| 仰木遺跡発掘調査報告紙(1)(道塚編) | 立命館大学文学部学芸課程 | 高畠町遺跡(Ⅱ) | 兵庫県教育委員会 |
| 武具塚 | 奈良大学文学部考古学研究室 | 本州四国連絡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV | 兵庫県教育委員会 |
| 秋葉・山陰遺跡 | 奈良大学文学部考古学研究室 | 嵐澤(岡号) | 兵庫県教育委員会 |
| 大庭町福原区堂島遺跡 | 財団法人大阪市文化財協会 | 安倉南遺跡 | 兵庫県教育委員会 |
| 大庭町志野区長浜遺跡東部地区発掘調査報告書 | 財団法人大阪市文化財協会 | 豊能町遺跡 | 兵庫県教育委員会 |
| 古墳時代代表系譜変動パターンの比較研究 | 大阪府大学文学部考古系課程 | 有馬遺跡 | 兵庫県教育委員会 |
| 水走・鬼川遺跡発掘調査報告書 | 東大阪市教育委員会 | 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書136 | 岡山県教育委員会 |
| 鬼川・造跡跡35-2・3次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 山道遺跡・笠置遺跡・野辺遺跡・先丸山遺跡・且山古墳群・奥田古墳・水神ヶ古墳跡 | 岡山県教育委員会 |
| 宮の下遺跡第8次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県埋蔵文化財毫端調査報告書137 | 岡山県教育委員会 |
| 鬼川・川瀬跡第35-2・3次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県埋蔵文化財毫端調査報告書138 | 日本道路公团中国支社津山工事事務所・岡山県教育委員会 |
| 宮の下遺跡第10次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 加茂坂遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡 | 岡山県教育委員会 |
| 出雲井遺跡第1次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県埋蔵文化財毫端調査報告書139 | 岡山県教育委員会 |
| 山岸遺跡第15次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 原尾島遺跡(原尾光町3丁目地区) | 岡山県教育委員会 |
| 岩挑战山遺跡第4次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書140 | 岡山県教育委員会 |
| 岩挑战山遺跡第5次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 田益田中(笠置川隕石坑)遺跡 | 岡山県教育委員会 |
| 寄坊山遺跡第2次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書141 | 岡山県教育委員会 |
| 埋蔵文化財毫端調査報酬費-1998年度 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書142 | 岡山県教育委員会 |
| 埋蔵文化財毫端調査報酬費(2)-1999年度 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 庵寺三木遺跡・寺寺一軒屋遺跡 | 岡山県教育委員会 |
| 東大阪市文化財基金報酬費-1997年度 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書143 | 岡山県教育委員会 |
| 瓦生土遣跡発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 立田遺跡2・高松原古才遺跡2・加茂坂遺跡2・津守遺跡6 | 岡山県教育委員会 |
| 上小坂遺跡第3次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書144 | 岡山県教育委員会 |
| 若江遺跡第70次・第75次発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 大成山たたら遺跡群 | 岡山県教育委員会 |
| 兵系・瓜破遺跡発掘調査報告書? | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書145 | 岡山県教育委員会 |
| 大阪市埋蔵文化財発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 岡山県黒瀬文化財毫端調査報告書146 | 岡山県教育委員会 |
| 青99年度 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 小舟遺跡 | 岡山県教育委員会 |
| 大阪市埋蔵文化財発掘調査報告書1997年度 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 倉敷遺跡文化財毫端調査報告書8集 | 倉敷埋蔵文化財センター |
| 長原遺跡発掘調査報告VII | 財团法人東大阪市文化財協会 | 丸舟貝冢 | 岡山県教育委員会 |
| 岸洋寺移築発掘調査報告I | 財团法人東大阪市文化財協会 | 道面遺跡・塙地古墳 | 岡山県教育委員会 |
| 山之内遺跡発掘調査報告II | 財团法人東大阪市文化財協会 | 府中市遺跡4 | 府中市教育委員会 |
| 大阪市平野区長原・爪道跡発掘調査報告書Ⅲ | 財团法人東大阪市文化財協会 | 万掛跡 | 千代田町教育委員会 |
| 大阪市天王寺区耕工道跡発掘調査報告書! | 財团法人東大阪市文化財協会 | 研究所研究-平成11年度- | 財团法人鳥取県埋蔵文化財調査研究会 |
| 大阪市阿倍野区阿倍野遺跡発掘調査報告書 | 財团法人東大阪市文化財協会 | 下関市埋蔵文化財調査報告書88 | 下関市教育委員会 |
| 大阪城跡IV | 財团法人大阪市文化財協会 | 平尾塙墓群 | 香川県綾歌郡綾歌町教育委員会・岡山理科大学人間学研究室 |
| 平成10年度財团法人八尾市文化財調査研究会事業報告書 | 財团法人大阪市文化財協会 | 乃万の裏遺跡-2次調査 | 松山市教育委員会・財团法人松山市生涯学習振興財團 |
| 世界文化遺産姫路城毫端調査報告書 | 財团法人八尾市文化財調査研究会 | 小野川流域の遺跡II | 姫路市教育委員会・財团法人松山市生涯学習振興財團 |
| 姫路城今瓦葺 特別史跡姫路城跡出土 | 姫路市教育委員会 | 松山大学構内遺跡III | 松山市教育委員会・財团法人松山市生涯学習振興財團 |
| 北青作跡毫端調査報告書-第3調査- | 神戸市教育委員会 | 瀬戸谷遺跡 | 松山市教育委員会・財团法人松山市生涯学習振興財團 |
| 白水遺跡 第4次-神戸岡崎空港都建設事業に伴う埋蔵文化財毫端調査報告書- | 神戸市教育委員会 | 藤山櫻文化公園律教院に係る大西町と富士地区との協議要録 | 松山市教育委員会・財团法人松山市生涯学習振興財團 |
| 書-1 | 神戸市教育委員会 | 藤山櫻史資料館ホームページ記録 | 埋蔵文化財センター |

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|--|-------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 裏の子古墳群・新谷森の前述跡 | 財團法人 愛媛県埋蔵文化財センター | 前述跡群 I 那珂川町文化財調査報告書第45集 | 那珂川町教育委員会 |
| 上井遺跡 | 財團法人 愛媛県埋蔵文化財センター | 竹木寺原ノ木遺跡 黒石原地帯総合土石良瓦戸窓に伴う埋蔵文化財整理調査 | 唐津市教育委員会 |
| 筑后市遺跡・植松1号墳式石棺・柳内遺跡・宮ノ谷遺跡・大川遺跡・正法寺遺跡 | 財團法人 愛媛県埋蔵文化財センター | 唐津市内遺跡調査報告書(15) 土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告書 | 唐津市教育委員会 |
| 馬島鬼ヶ浦遺跡・馬島ハゼケ浦遺跡 | 財團法人 愛媛県埋蔵文化財センター | 菅牟田山西遺跡 (2) | 唐津市教育委員会 |
| 井門I遺跡・井門II遺跡 | 財團法人 愛媛県埋蔵文化財センター | 黒崎内田遺跡 (2) | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第120集 寺塚館内下道遺跡 | 小郡市教育委員会 | 東頭遺跡I区 | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第121集 墓園文化財調査報告書3 | 小郡市教育委員会 | 江須遺跡-9区の調査-森田遺跡-1区の調査- | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第122集 井上塚 | 小郡市教育委員会 | ウ一星遺跡 | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第123集 大崎中央I遺跡2 | 小郡市教育委員会 | 牛田寺遺跡-10714区の調査- | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第124集 繩負坂遺跡M地点 | 小郡市教育委員会 | 長瀬一本木遺跡1区・高木城跡1区 | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第125集 三沢堀塚2遺跡 | 小郡市教育委員会 | 江須遺跡-1?8区の調査- | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第126集 力武南遺跡 | 小郡市教育委員会 | 浮の上遺跡II | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第127集 | 小郡市教育委員会 | 徳永遺跡9区 | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第128集 小郡官衛跡北邊跡 I | 小郡市教育委員会 | 上和泉遺跡6区 | 佐賀市教育委員会 |
| 小郡市文化財調査報告書第129集 小坂井ぐうてさん遺跡 | 小郡市教育委員会 | 肥前古跡遺跡 | 佐賀県前古南海埋蔵文化財保存対策連絡会事務局 |
| 小郡市文化財調査報告書第130集 | 小郡市教育委員会 | 山中遺跡 | 那珂川町教育委員会 |
| 福間削除跡 福間町文化財調査報告書第14集 | 福間町教育委員会 | 美津島町文化財調査報告書第8集 水崎遺跡 | 小倉賀町文化財調査報告書第9集 黒崎御殿場に伴う確認調査報告書・1 |
| 手光北号墳群 I 手光北号墳 福岡町文化財調査報告書第15集 | 福間町教育委員会 | 小倉賀町文化財調査報告書第10集 | 小倉賀町文化財調査報告書第11集 |
| 筑後国府跡・国分寺跡 -平成10年度発掘調査報告- 久留米市文化財調査報告書第149集 | 久留米市教育委員会 | 大村市文化財調査報告書 第21集 落の原遺跡大村城跡・下荒瀬山下墓地 | 大村市文化財調査報告書 第22集 板口細跡 |
| 寄中前跡 -第2次発掘- 久留米市文化財調査報告書 第146集 | 久留米市教育委員会 | 竹田地区南都遺跡群VI・史跡城坡周辺遺跡 | 竹田市文化財保護協会 |
| 白口基遺跡 -第一・二・六段調査- 久留米市文化財調査報告書第147集 | 久留米市教育委員会 | 戸上遺跡・穴井追跡2遺跡 | 竹田市教育委員会 |
| 山川南北古墳群 -第17次調査- 久留米市文化財調査報告書第148集 | 久留米市教育委員会 | 竹田地区南都遺跡群VII・史跡城坡周辺遺跡 | 竹田市教育委員会 |
| 二本木遺跡 -第147次調査- 久留米市文化財調査報告書第149集 | 久留米市教育委員会 | 平成7年度史跡岡崎城跡保存修理事業報告書 | 竹田市教育委員会 |
| ベノ木遺跡 久留米市文化財調査報告書第151集 | 久留米市教育委員会 | 平成8年度史跡岡崎城跡保存修理事業報告書 | 竹田市教育委員会 |
| 筑後国府跡 -第159次調査- 久留米市文化財調査報告書第152集 | 久留米市教育委員会 | 平成9年度史跡岡崎城跡保存修理事業報告書 | 竹田市教育委員会 |
| 筑後国府跡 -第152次調査報告- 久留米市文化財調査報告書第141集 | 久留米市教育委員会 | 史跡岡崎城跡XIII | 竹田市教育委員会 |
| 筑後国府跡 -第155次調査報告- 久留米市文化財調査報告書第142集 | 久留米市教育委員会 | 平成8年度史跡岡崎城跡保存修理事業報告書 | 竹田市教育委員会 |
| 平成10年度 -久留米市内遺跡群、柳原街地遺跡群、大園遺跡、高良山食塚跡、井田古墳群、東野亭塚跡、念仏寺遺跡 | 久留米市教育委員会 | 史跡岡崎城跡XIV | 竹田市教育委員会 |
| 中・寺尾遺跡III | 大野城市教育委員会 | 中川牛之助跡群・鶴荷谷近傍墓地群 | 竹田市教育委員会 |
| 森倒跡II | 大野城市教育委員会 | 中川牛之助遺跡群・財隈家屋敷跡 | 竹田市教育委員会 |
| 石く邊跡群-I 地点の調査- | 大野城市教育委員会 | 西山社製糸工場跡発掘調査報告書 | 竹田市教育委員会 |
| 萩の原遺跡群・古風歌遺跡群 那珂川町文化財調査報告書第46集 | 那珂川町教育委員会 | 城下町遺跡・立花屋敷 | 竹田市教育委員会 |
| 仲絆跡群II 那珂川町文化財調査報告書第45集 | 那珂川町教育委員会 | 竹田地区遠藤跡・史跡岡崎城跡周辺遺跡群II | 竹田市教育委員会 |
| 前田遺跡群II 那珂川町文化財調査報告書第44集 | 那珂川町教育委員会 | 竹田地区遠藤群平田地区・城下町遺跡群II | 竹田市教育委員会 |
| | | 一般国道67号竹田松原屋藏庫文化財発掘調査報告書 | 竹田市教育委員会 |
| | | 同藩御跡見羽調査報告書 | 竹田市教育委員会 |
| | | 祇園遺跡 (IV) 東入堀地区・祇園遺跡八反ガソウ地区 | 中津市教育委員会 |

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|---|-----------------------------|---|-------------------|
| 板切道跡群(第17V)・小原田遺跡 | 大分県久住町教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第56号 大橋田平・山之原 | 鹿児島県鹿屋市教育委員会 |
| 東山田遺跡 | 大分市教育委員会 | 追・松原遺跡 | |
| 曾後国分寺跡 | 大分市教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第57号 谷平(他)・鹿屋城跡 | 鹿屋市教育委員会 |
| 楠南遺跡 | 大分市教育委員会 | (三) | |
| 羽田遺跡 | 大分市教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第58号 小牧遺跡・山の上B | 鹿屋市教育委員会 |
| 羽田遺跡Ⅱ | 大分市教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第59号 老松遺跡 | 鹿屋市教育委員会 |
| 龜原古墳 | 大分市教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第60号 鳥先遺跡 | 鹿屋市教育委員会 |
| 龜原古墳 | 大分市教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第61号 小野原遺跡 | 鹿屋市教育委員会 |
| 曲遺跡 | 大分市教育委員会 | 鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第62号 中間原竹塹遺跡 | 鹿屋市教育委員会 |
| 櫛原遺跡 | 大分市教育委員会 | 1999年川内市平佐麻績群分布調 査・見え書き | |
| 大分市の文化財第30集 | 大分市教育委員会 | えびの市埋蔵文化財調査報告書 第23集 | 宮崎県えびの市教育委員会 |
| 木ノ上地区當原遺跡発掘調査報告書 | 大分市教育委員会 | 姶良市埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集 | 鹿児島県姶良町教育委員会 |
| 大分元町石仏 | 大分市教育委員会 | 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告 書第24号 | 鹿児島市教育委員会 |
| 妙ヶヶ瀬跡 原島浜町文化財調査報 告書第1集 | 大分県下毛郡原島浜町教育委 員会 | 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告 書第25号 | 鹿児島市教育委員会 |
| 鹿原古墳 | 熊本県不知火町教育委員会 | 宇佐村文化財調査報告書第2集 | 宇佐村教育委員会 |
| 史跡 人吉城跡 IX | 人吉市教育委員会 | 鹿児島県大島郡宇佐村・糸木 崎跡佐多御子屋跡発掘調査報告書 | 鹿児島県大島郡宇佐村 |
| 史跡 人吉城跡 X | 人吉市教育委員会 | 崎跡佐多御子屋跡発掘調査報告書 第14号 鶴山遺跡 | 鹿児島県大口市教育委員会 |
| 東九州自動車道伴隨埋蔵文化財発掘 調査要綱書卷III | 宮崎県埋蔵文化財センター | 大口市教育委員会埋蔵文化財調 査報告書 (20) 新平田遺跡 | 鹿児島県大口市教育委員会 |
| 牧の原跡2遺跡 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 町B遺跡 | |
| 上の原跡3遺跡 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 大口市教育委員会埋蔵文化財調 査報告書 (21) 小原跡 | 鹿児島県大口市教育委員会 |
| 内里敷跡 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 鶴丸古墓群 (II) | 鹿嶼市教育委員会 |
| 鈴野内中水流遺跡 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 奈良原貝塚 | 奈良市教育委員会 |
| 上牧2遺跡・母智原原跡2遺跡 | 宮崎県埋蔵文化財センター | 当山東原遺跡 | 浦添市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第23集天神 原遺跡 | 宮崎県都城市教育委員会 | 内間西原古墳群Ⅲ | 浦添市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第25集久五 進跡第5次発掘調査・油田遺跡・正坂 原遺跡 | 都城市教育委員会 | 中間面原古墳群 | 浦添市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第35集加治 尾跡2 | 宮崎県都城市教育委員会 | 伊祖の入め御押領臺 | 浦添市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第37集 大 浦遺跡 | 宮崎県都城市教育委員会 | 真久原遺跡 | 浦添市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第38集 田 谷・尻枕遺跡 | 宮崎県都城市教育委員会 | 伊祖の入め御押領臺の辺と 波聲者 | 浦添市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第41集 都 城市中央公園地区史跡・旧宿館等調 査報告書 | 宮崎県都城市教育委員会 | 名護松尾原兩遺跡 | 那霸市教育委員会 |
| 都城市文化財調査報告書第47集 犬 穴遺跡 | 宮崎県都城市教育委員会 | 真嘉比・古島古墓群 | 那霸市教育委員会 |
| 古代遺跡出土骨からみたわが国のイ ノシシアカブの起源ならびに飼育に 關する研究 | 延岡農業大学農学部獣医学科 | 年報 | |
| 帖地遺跡 | 喜入町教育委員会 | 調査年報11 | 財團法人北海道埋蔵文化財センター |
| 志風原遺跡・奥名野遺跡 | 加茂田市教育委員会 | 東北大學埋藏文化財調査年 報11.12 | 東北大學埋藏文化財調査研究センター |
| 後ヶヶ瀬跡 | 糸水市教育委員会 | 年報18 | 財團法人茨城県教育財團 |
| 桃原貝塚 | 糸水市教育委員会 | 東絶文化財センター年報4 | 東絶文化財センター |
| 串良町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3) 上小牧遺跡・両崎15号古墳 | 糸水市教育委員会 | 千葉県立房総風土記の丘年報 21 -平成9・10年度- | 千葉県立房総風土記の丘 |
| 塔原遺跡 (2) | 肝臓郡草町町教育委員会 | 君津都市文化財センター 年報 N.16 -平成9年度- | 財團法人君津都市文化財センター |
| 松尾跡-松尾田地進計画に伴う発 掘調査報告書- | 天明町教育委員会 | 年報N.17 | 財團法人君津都市文化財センター |
| 古代遺跡出土骨からみたわが国のイ ノシシアカブの起源ならびに飼育に 關する研究 平成8年度?10年度文部 省科学研究費補助金 | 出水市教育委員会 | 平成7年度、市立市川考古博物 館年報 第24-28号 | 市立市川考古博物館 |
| 七つ谷遺跡・石打遺跡 | 研究代表者 西中川慶(延岡 農業大学農学部教授) | 東京大學構内遺跡調査研究年 報2 别冊 東京大學構内遺跡 出土土器群・土器の分類 (1) 東京大學構内遺跡調査研究年 報2 | 東京大學埋藏文化財調査室 |
| 出水築造跡 (2) | 吉川町教育委員会 | 東京都埋蔵文化財センター年 報19 | 東京都埋蔵文化財センター |
| 下郡山・新村B遺跡・往良坂 | 出水市教育委員会 | 年報6 | 財團法人かながわ考古学財團 |
| 加計已麻盛ノロ祭調査報告 | 南日本文化研究所 | | |

| 書名 | 発行所 | 書名 | 発行所 |
|---------------------------------|-------------------------------------|---|----------------------------|
| 橋木黒しほつけ風土記の丘資料館年報 第13号 | 橋木黒しほつけ風土記の丘資料館年報 第13号 | 老爪山の歴史と民俗 | 静岡市立登呂博物館 |
| 年報??? | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 出土品図録 | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 |
| 静岡市立登呂博物館報9 | 静岡市立登呂博物館 | 静岡の原像をさぐる | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 |
| 埋蔵文化財年報(10) | 財団法人富山市文化振興財团 | 絆縁 平成11年度春期特別展 | 大阪府立 近つ飛鳥博物館 |
| 京都大学構内遺跡調査研究年報 1995 年度 | 復元文化財センター | 大規模発掘十年の出土品展 | 財団法人富山県文化振興財团 |
| 平成10年度 三重県埋蔵文化財年報 | 三重県埋蔵文化財センター | 新松原古墳発掘調査レポート-平成10 年度富山県ボランティア埋蔵文化財 調査活動事業実績体験講座- | 財団法人富山県文化振興財团 |
| 高崎市文化財年報 平成9年度 | 高崎市教育委員会 | 是狂症のやきもの | 土岐市美濃太田歴史館 |
| 年報 | 氏庭黒教育委員会埋蔵文化財 調査事務所 | 三重の発掘展 | 三重県埋蔵文化財センター |
| 城郭研究年報 | 鷹見市立城郭研究室 | 特別展示 続・洛中桃山御所の世界 -三条界隈出土- | 京都市考古資料館 |
| 平成8年度 神戸市埋蔵文化財年報 | 神戸市教育委員会 | 吉古島・吉門前古墳航空写真コレ クション | 近づ飛鳥博物館 |
| 令和復元文化財センター年報5 平成9 年度 | 倉敷整理文化財センター | 発掘された大阪 1979?1999 | 財団法人大阪市文化財協会 |
| 岡山大学構内遺跡調査研究年報16 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究 センター | 20年のあゆみ | 財団法人大阪市文化財協会 |
| 広島大学統合移転地埋蔵文化財調査 年報XV | 広島大学環境政策全委員会埋蔵 文化財調査室 | 義人・佐生人-その時代を生きた人 との表裏- | 神戸市教育委員会 |
| 下関市立考古博物館4 -平成10年度- | 下関市立考古博物館 | 地下に眠る神戸の歴史展? | 神戸市教育委員会 |
| 大分県埋蔵文化財年報(1998年度) | 大分県立歴史博物館 | むかしのアカセサリー | 神戸市教育委員会 |
| 宇佐黒土記の丘歴史民俗資料館年報 (1997年度) | 大分県立歴史民俗資料館年報 (1997年度) | 誰が遺跡を探る?発掘調査からわか ること? | 岡山県教育委員会 |
| 大分市埋蔵文化財調査年報4-9 | 大分市教委員会 | 岡山鬼! 開闢のナゾ最前線 | 岡山理科大学「岡山学」研究 会 |
| 松山市埋蔵文化財調査年報11 | 松山市教育委員会・財団法人 松山市埋蔵文化財調査年報 | 先生の装い | 下関市考古博物館 |
| 愛比売 平成7?10年度年報 | 愛媛県埋蔵文化財調査センタ ー | 城のゆくえ | 松山市考古館 |
| 王麻子古墳館 年報 3, 4 | 王麻子古墳館 | 古墳とその時代 | 大西町長 門田道郎 |
| 熊本大学埋蔵文化財調査年報 1998 年度 | 熊本大学埋蔵文化財調査室 | 平成11年度伊都歴史資料館春季企画 展 最近話題の遺跡と遺物 | 伊都歴史資料館 |
| 川内市歴史資料館年報 平成9年度 | 川内市歴史資料館 | 創原市まらづくり講演会 伊都園と 草野町の時代 | 前原市伊都歴史資料館 糸島 地区社会教育振興会 |
| 鹿谷村立歴史民俗資料館年報24号 | 鹿谷村立歴史民俗資料館 | 上陸・耀光遺跡群 | 前原市伊都歴史資料館 糸島 地区社会教育振興会 |
| 紀要 | 大田区立郷土博物館 | 尼前古墳御厨跡を守りたい | 上津藤光土地区監理組 合・久留米市教育委員会 |
| 大田区立郷土博物館紀要 第9号 | 神奈川県立埋蔵文化財センタ ー 財団法人かがわ考古学 財团 | 日韓新石器時代交流研究会 第3回鹿 児島大会資料集 | 佐賀県教育厅文化部課 |
| かながわの考古学 研究紀要4 | 群馬県立歴史博物館 | 神野のふるさと金峰町の遺跡 | 九州總文研究会 |
| 群馬県立歴史博物館紀要 第20号 | 名古屋市博物館 研究紀要 第22卷 | 瓦屋-かわらのれきし- | 金峰町 |
| 名古屋市博物館 研究紀要 第22卷 | 多治見市埋蔵文化財センター研究紀要 第5号・市原藏海跡図録2- | 天理大学考古学研究室 | 始良町埋史民俗資料館 |
| 研究紀要 第8号 | 財団法人富山県文化振興財團 | 上高津貝塚ふるさと歴史の広 場 | |
| 古事 | 財団法人富山県文化振興財團 | 上高津貝塚ふるさと歴史の広 場 | |
| 紀要 富山考古学研究第2号 | 復元文化財調査事務所 | 大田区立郷土博物館 | |
| 大阪市文化財協会研究紀要第2号 | 財団法人大阪市文化財協会 | 大田区立郷土博物館 | |
| 大阪市文化財協会 研究紀要第2号 | 財団法人大阪市文化財協会 | 上高津貝塚ふるさと歴史の広 場 | |
| 研究紀要第3号 | 下関市立考古博物館 | 大田区立郷土博物館 | |
| 鹿谷村立歴史民俗資料館紀要 第23号 | 鹿谷村教育委員会 | 上高津貝塚ふるさと歴史の広 場 | |
| 図録・パンフレット | | | |
| 常名台の古代のむら | | | |
| 焼き物にみる中世の世界―県内出土の 土器・陶器を中心に― | | | |
| 支輪工の輝き | | | |
| 上みがえる大田区の風景 | | | |
| 仏堂のある風景 | | | |

付編 郡元団地M~T-7~10区(運動場)発掘調査報告

1 調査に至る経過

鹿児島大学では、郡元団地の運動場・球技場・附属中学校の校庭に、22か所の照明灯の設置を予定した。その範囲は郡元団地南東部に位置し、郡元団地の約1/4の面積を占める。調査区範囲内では、過去に7か所の調査を行なっている。昭和38年に河口貞徳が教育学部附属中学校敷地内遺跡として発掘調査を行った¹⁾のをはじめ、附属中学校プール(Fig.7 89-4)²⁾や附属小学校プール(Fig.7 90-4)³⁾の調査において古墳時代の住居跡群が発見されている。そのため、照明灯設置地点のほとんどに古墳時代を中心とする埋蔵文化財が含まれていることが予想され、発掘調査を行うことになった。

2 調査体制

調査は以下の体制で行った。

調査主体 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 中村直子・峰山いずみ

発掘調査作業員 有馬美恵子・池口洋人・池島美智子・上野純子・植原ひろみ・上原文代・北方耕三・川畑文夫・坂元裕子・佐々木智子・陣内高志・瀬戸口論・永里幸子・中野裕子・中村いつ子・新原和子・西庄司・西之瀬ツヤ子・寝古美保子・馬場千寿子・矢住純子・柳田縁・吉永幸子

3 調査の経過

発掘調査は、平成6年1月10日～4月19日にかけて実施した。照明灯基礎部分が調査区となつたため、照明灯を設置する22か所をそれぞれトレンチとして設定し、南側から1トレンチ～22トレンチと呼称した(Fig.7)。

調査は、南側のトレンチから作業を行ったが、いずれのトレンチも地山である砂層までの調査を行った。調査対象地域が広範囲であったことから、トレンチごとに層位が異なつたため、トレンチごとに層名を付した。各トレンチの層位の関係は、5節にまとめている。遺物は、トレンチの層や遺構ごとに取り上げたが、型式・器種・部位などがわ

かる破片は通し番号を付して出土地点を測量した後、取り上げた。

3・4トレンチは、地山の砂層まで現代の掘削が及んでいた。トレンチからは、古代の土壤状遺構を、8・15・16トレンチからは古墳時代の住居跡を確認した。なお、2・7・17トレンチからは住居跡に伴うと考えられるピット群が検出された。

15・16トレンチでは複数の住居跡が切りあっていたため、新旧関係を確認後、新しいものから先に掘り下げを行なったが、埋土が類似しているため、埋土の違いが確認できなかったものについては、埋土観察用のベルトを残し、床面検出まで同時に掘り下げを行なった。ほとんどの住居跡に張り床が認められたので、それらの切り合いによって住居跡の範囲や新旧関係を判断した。

各トレンチとも、掘削作業終了の後、層位断面図を作成して調査を終了した。

4 各トレンチの説明

4.1 1トレンチ

附属中学校校庭の南西隅に位置する。鉄棒の近くで、調査区東側一角はその基礎が地山の深さに及んでいた。約3m四方の大きさである。

4.1.1 層位 (Fig.8)

基本層位は1～3層までを確認したが、地山である砂層まで現代の掘削が及んでいて遺物包含層が残っているのはわずかであった。遺構は3層上面および4層上面から検出した。

2層からは古代の土師器が出土した。

4.1.2 遺構と遺物

3層上面および4層上面から土壤状遺構6基、ピット7基が検出された(Fig.9)。

S K 1

トレンチ北側に位置する。SK5を切っている。平面形は円形で底面は平坦である。遺物は、古墳時代の土器片や土師器片・須恵器片など19点が出土している。いずれも埋土中から出土し、底面より浮いて出土している。出土遺物のうち、型式がわかるものをみると(Fig.10-1)中津野式と考えられる甕の口縁部1点のみである。土器片や須恵器が出土していること、また、切りあい関係にある

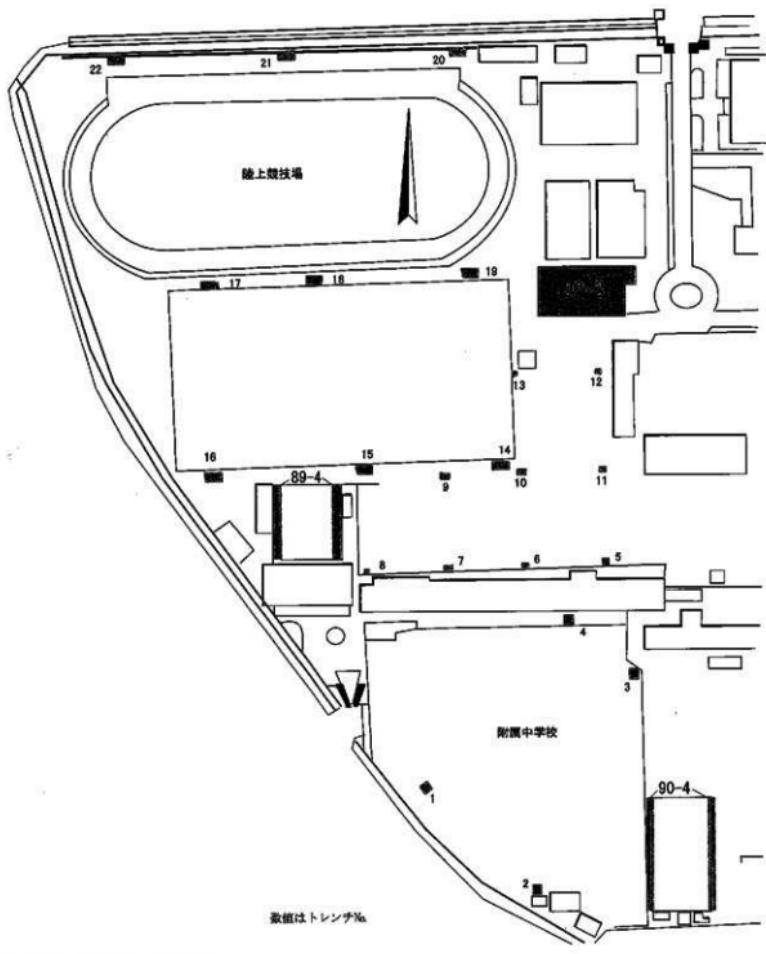


Fig.7 トレンチ位置図 S=1/2000

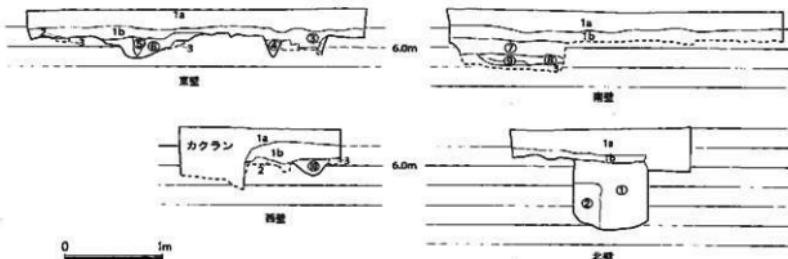
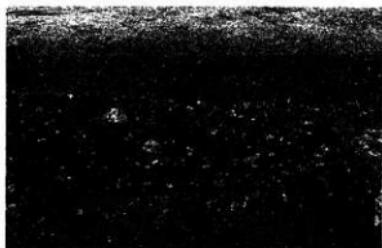


Fig. 8 1トレーンチ層位断面図 S=1/40



PL. 4 1 トレーンチ北壁層位

Tab. 2 1 トレーンチ層位一覧表

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|--|---------|
| 1a | 暗灰青色(2.5Y2/4)シルト質砂を基調、絆 現代 石や粗砂、コンクリートブロック等を含む。 | |
| 1b | 灰黄褐色(10YR2/4)シルト質砂を基調、2 現代 粘土(黒色土)や3層土をブロックで含む。 | |
| 2 | 深褐色(10YR3/2)砂混じりシルト。 古代 | |
| 3 | 黒褐色(10YR6/5)粗砂、粗石を含む。 | |
| ① | 黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト、1~5cm SK5埋土 大の粗石の塊を含む。 | SK5埋土 |
| ② | 黄褐色(2.5Y3/5)シルト混じり粗砂。 SK5埋土。 | SK5埋土。 |
| ③ | 黒褐色(10YR1/3)シルト。 P3埋土。 | P3埋土。 |
| ④ | 黒褐色(10YR1/3)シルト。 SK11埋土。 | SK11埋土。 |
| ⑤ | 黒褐色(10YR3/2)シルト質砂、軽石を含む。 SK11埋土。 | SK11埋土。 |
| ⑥ | にぶい黄褐色(10YR3/4)シルト混じり砂、軽 SK4埋土。 石が多く含む。 | SK4埋土。 |
| ⑦ | 黒褐色(10YR2/2)シルト。 SK4埋土。 | SK4埋土。 |
| ⑧ | 黒色、黄土の⑦との混土。 SK4埋土。 | SK4埋土。 |
| ⑨ | 黒褐色(10YR2/2)砂混じりシルト。 P7埋土。 | P7埋土。 |

SK5の出土遺物が古代の土器器が多くあることなどから、古代以降の遺構であると考えられる。

S K 2

トレーンチ中央付近に位置する。鉄棒の基礎部分の搅乱によって東側は切られている。不定形を呈し、底面も狭い。遺物は1点も出土していない。S



PL. 5 2層上面遺構検出状況 調査区北側付近

Tab. 3 1 トレーンチ層・造構別遺物出土数

| 層 | 陶 | 漆 | 古 | 須 | 土 | 滑 | レ | ガ | 石 | そ | 計 |
|-----|---|---|---|---|----|-----|----|---|---|---|-----|
| | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | 3 | | 8 | 46 | 5 | | | | 62 |
| 2 | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| SK1 | | | 3 | 1 | 6 | 9 | | | | | 19 |
| SK3 | | | | | | 12 | 14 | | | | 26 |
| SK4 | | | | | | 7 | 13 | | | | 20 |
| SK5 | | | 1 | 1 | 14 | 39 | | | | | 55 |
| P2 | | | | | | 1 | 2 | | | | 3 |
| 計 | | | 7 | 2 | 49 | 123 | 5 | | | | 186 |

K 3・4を切ることから、時期は古代以降と考えられる。

S K 3

S K 2 の北側に位置し、SK 2 に切られている。平面形は橢円形で、底面は広く、平坦である。遺物は、土器片や土器器片が26点出土している。実測できる遺物をみると (Fig. 10-2 ~ 7), 中津野式・古代の土器器の破片が出土している。土器器から、古代の遺構であると考えられる。

S K 4

調査区南側に位置し、SK 2 に切られる。東側は、調査区外に広がっている。平面形は橢円形で、

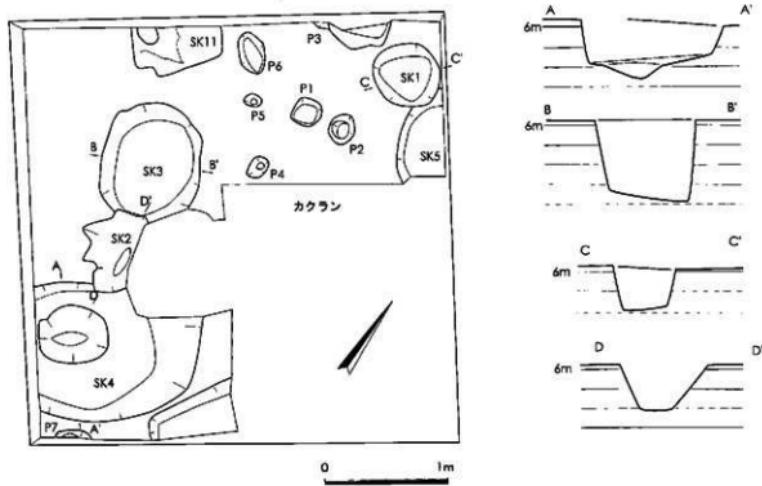
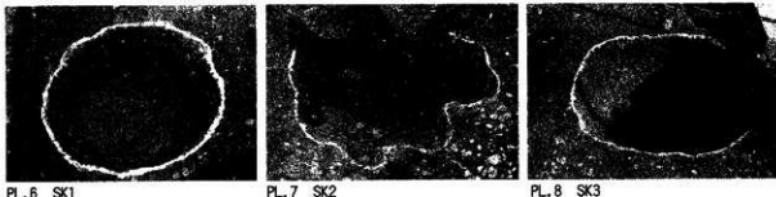


Fig.9 1トレンチ造構図 S=1/40



Tab. 4 1 トレンチ遺構一覧表

| 造橋名 | 長径 (cm) | 窓徑 (cm) | 窓S (cm) | 埋土. | 備考 |
|------|------------|------------|------------|--|---------|
| SK1 | 56.4 | 52.8 | | 黒褐色(10YR3/2)砂混じ りシルト。 | -OSK5 |
| SK2 | 76.4 | 45.0+* | | 暗褐色(10YR3/3)シルト | -OSK3・4 |
| SK3 | 98 | 82.4 | | 2層土を基準として、SK2 と同様 | -OSK2 |
| SK4 | 136.8+* | 116 | | 板土をブロックで含む。 層位断面図①・④・⑤ | -OSK2 |
| SK5 | 78.0+* | 40.0+* | | 層位断面図①・② | -OSK1 |
| SK11 | 74.8 | 39.6+* | | 層位断面図③・⑥ | |
| P1 | 27.2 | 27.2 | 22.2 | 黒褐色7.5YR3/2シルト を基準として3層土をブ ロックで含む。0.5m大 の炭を含む | |
| P2 | 27.6 | 22.8 | 17.3 | 黒褐色7.5YR3/2シルト を基準として3層土をブ ロックで含む。0.5m大 の炭を含む | |
| P3 | 14.4 | 7.6+* | - | 黒褐色7.5YR3/2シルト | |
| P4 | 22.5 | 14 | 11.2 | 黒褐色7.5YR3/2シルト | |
| P5 | 17.2 | 13.6 | 16.8 | 黒褐色7.5YR3/2シルト | |
| P6 | 38 | 22.8 | 8.1 | 黒褐色7.5YR3/2シルト | |
| P7 | 32 | 8.4+* | 13.1 | 黒褐色7.5YR3/2シルト | |

—○ 切る、—● 切られる

断面は底面に段を有する。埋土は3つに分層できるが、レンズ状に堆積するのではなく、水平に埋まっている。また、最下の埋土には、炭が多量に含まれており、SK4は、人為的に埋められたものと考えられる。

遺物は、土器片と上部器片が20点出土しているが、実測できるもの(Fig.10-8~12)をみると、いずれも土師器で古代のものと考えられる。器種は壺と杯がみられるが、いずれも破片で埋める際に、混入したものと考えられる。

SK 5

調査区北東隅に位置する。南側は搅乱によって切られ、北側はSK1に切られている。東側は調査区外に広がっており、全形は不明。

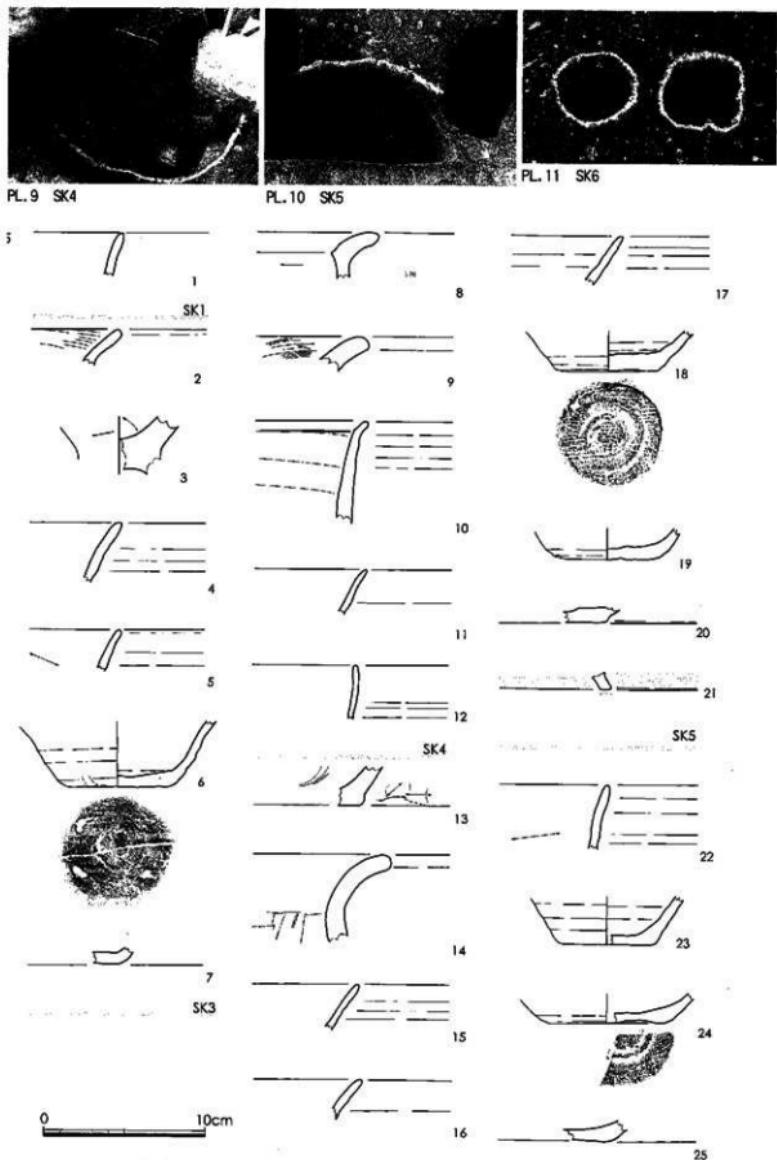
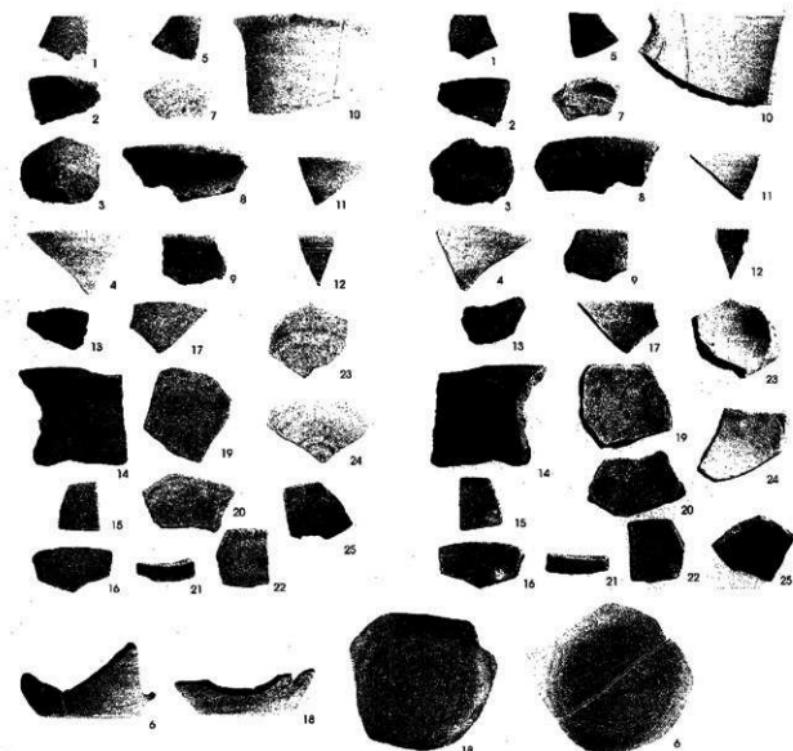


Fig. 10 1 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 12-1 トレンチ出土遺物 左:表、右:裏 下段左:側面、中・右:底面

である。遺物は、土器・土師器・古墳時代の土器・須恵器・弥生土器など5点が出土している。実測可能なものの(Fig. 10-13~21)をみると、古墳時代の壺底部1点のはかは、古代の土師器である。壺と杯、それから高台状の杯の底部片(21)があるが、これは底面まで赤色顔料を添付している。

SK 11

調査区北西壁際に位置する。西側は調査区外に広がっており、全形は不明である。断面はゆるやかに段を有しながら立ち上がる形態を呈する。遺物は出土していない。

包含層出土遺物

いずれも1層から出土している。土師器の杯の破片である。遺構から出土した土師器片と同類のものである。

4.2 2トレンチ

附属中学校校庭の南隅に位置する。2.6m四方の大きさである。

4.2.1 層位

基本層位は、1~5層までを確認した。層位は整合的に堆積しているが、5層上面が北側に傾斜している。2層までは近現代の遺物も出土しているが、3~4層は古代・古墳・弥生時代の遺物が出土しており、古代の層であると考えられる。また、5層

Tab. 5 1トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層・遺物 | 種類 | 部位 | 色調 | 表面 | 断土 | | | | | 備考 |
|--------|------|--------|-----|----------------------------|--------------------------------|-----|------|-----|----|-------------|---|
| | | | | | | R | W | B | O | H | |
| 1 SK1 | 土器 | 杯 口縁部 | 外側 | 赤褐色SYR4/E-5/G. | 内外面：白粘ナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 白粘ナダによる凸凹がみられる。外側の赤褐色は赤色顔料の可能性あり。内側と部にも少し残存している。ただし、焼拂ははつきりしない。 |
| | | | 内側 | 褐色SYR6/G. | | BCD | D | D | | | |
| 2 SK2 | 朱塗土器 | 壺 口縁部 | 外側 | スス付着のため墨色。内 | 外面：ナダ。内面：ハケ | | | | | | くの字状に埋蔵する口縁部形態を呈する。底面部 |
| | | | 内側 | 褐色SYR6/G. | 面：灰青褐色のちナダ。 | BCD | B | B | | | で火鉢。 |
| 3 SK3 | 土器 | 壺 頭部 | 外側 | 薄青色SYR6/E. | 外面：ハケのちナダ。内 | | | | | | 陶台上部の被膜である。外側は、二次加熱を受け未 |
| | | | 体部 | 灰青褐色SYR5/2. | 面見込：ナダ。 | ABC | ABCD | CD | C | A | 変色している。 |
| 4 SK3 | 土器 | 杯 口縁部 | 外側 | 浅青色SYR4/E. | 内外面：白粘ナダ。 | 2 | 2 | | | | 外側口縁部附近にわずかに赤色顔料らしい付着物 |
| | | | 内側 | 褐色SYR6/G. | 上部ナダ調査直の赤褐色：褐色 | BC | D | | | | あり。ナダの内部に残る。残存率1/4。 |
| 5 SK3 | 土器 | 杯 口縁部 | 外側 | 黄褐色SYR4/L. | 内外面：白粘ナダ。内 | 2 | 2 | | | | |
| | | | 内側 | 斜め方向のナダあり。 | BCD | BCD | | | | | |
| 6 SK3 | 土器 | 杯 底部 | 裏面 | 内面赤込：赤褐色10RS/6. | 内外面：白粘ナダ。底 | 2 | 2 | 2 | | | 底径5.2cm。底面付近が内外面とも変色している。二 |
| | | | 内側 | 面：灰青色7.SYR7/4. | 面：ヘラ切りのナダ。 | C | D | D | | | 次の過熱か？ |
| 7 SK3 | 土器 | 杯 底部 | 内外面 | 浅青褐色10RS/3. | 体部の立ち上がり部分に一帯、ユビによってなで上げた跡あり。 | | | | | | |
| | | | 外側 | ナダ。内面：白粘 | | 2 | | | | | |
| | | | 内側 | ナダ。底面：ヘラ切りの | CD | | | | | | |
| 8 SK4 | 土器 | 壺 口縁部 | 外側 | 赤褐色SYR6/G. | 外面：ハケのちナダ。内 | 2 | 2 | 2 | | | 外側：部分的にスス付着。丁寧な作り。 |
| | | | 内側 | 面：白粘ナダ。口縫部：ヨコナダ。内面：左方向のナダ。 | CD | D | CD | | | A 軽石 | |
| 9 SK4 | 土器 | 壺 口縁部 | 外面 | スス付着のため墨色。内 | 11縫合部・外：ヨコナダ。内：白粘ナダ。内面：ハケのちナダ。 | ABC | ABC | CD | | | 外面：スス付着。器壁が分厚い。 |
| | | | 内側 | 面：明褐色2.SYR6/G. | | | | | | | |
| 10 SK4 | 土器 | 壺 口縁部 | 外側 | 褐色7.SYR6/G. | 口縫部と内外面：白粘ナダ。 | 2 | | | | | 外面：赤色顔料付着？ |
| | | | 内側 | 内面の一部：褐色SYR6/G. (赤色 | D | | | | | | |
| 11 SK4 | 土器 | 杯 口縁部 | 内外面 | にぼい赤褐色10RS/3. | 内外面：白粘ナダ。 | 2 | | | | | 丁寧な作り。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | B | | | | | | |
| 12 SK4 | 器 | 壺 口縁部 | 開始 | 灰褐色。始葉：オリーブ褐 | 内外面：白粘ナダ。9.2.SYR4/を喪失する半透明 | 1 | 1 | | | | |
| | | | 後 | 。底葉：墨色。 | D | D | | | | | |
| 13 SK5 | 土器 | 壺 底部 | 内外面 | にぼい赤褐色SYR5/4. | 外面：ナダ。内面：ハケのちナダ。内：灰褐色2.SYR1/L. | CD | D | BCD | CD | A | 底面立ち上がり部の一部が粘土がめくり上がって |
| | | | 内側 | ナダ。 | | | | | | | いる。 |
| 14 SK5 | 土器 | 壺 口縁部 | 内外面 | 褐色7.SYR6/G. | 外面～口縫部内面：ヨコナダ。内面：白粘ナダ；ケズリのちナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 少し變色している。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | CD | D | D | | | CD | |
| 15 SK5 | 土器 | 杯 口縁部 | 内外面 | 浅青褐色10RS/3. | 内外面：白粘ナダ。 | 2 | 2 | | | | 白粘ナダ型による器底の凸凹が明確。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | D | D | | | | | |
| 16 SK5 | 土器 | 杯 口縁部 | 外側 | スス付着のため黒色。一部 | 内外面：白粘ナダ。 | 2 | 2 | | | | 外側：スス付着。内面：赤色顔料付着。 |
| | | | 内側 | 内面：白粘 | D | CD | | | | | |
| 17 SK5 | 土器 | 杯 口縁部 | 内外面 | 褐色7.SYR6/G. | 内外面：白粘ナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 底径：6.3cm。外側：細かい突起状にスス付着。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | CD | CD | ABC | | | | |
| 18 SK5 | 土器 | 杯 底部 | 内外面 | 褐色7.SYR7/6. | 内外面：白粘ナダ。底 | 2 | 2 | 2 | | | |
| | | | 内側 | 面：ヘラ切りのちナダ。 | D | D | D | | | | |
| 19 SK5 | 土器 | 杯 底部 | 内外面 | にぼい褐色7.SYR7/4. | 内外面：ナダ。底面：ハケ状のナダ？。 | 2 | 2 | | | | 反応斑点。底径：(5.1) cm。断面を含む表面に灰化物有。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | D | D | | | | | |
| 20 SK5 | 土器 | 杯 底部 | 内外面 | 浅青褐色7.SYR6/4. | 内外面：ナダ。 | 2 | | | | | 変色している。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | D | D | | | | | |
| 21 SK5 | 土器 | 高台 口縁? | 外面 | 底部：赤褐色2.SYR6/G. | 内：内外面：ナダ。 | 2 | 2 | | | | 接合部で欠損。赤色顔料：内外側・周縁部にも若干。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | D | D | | | | | |
| 22 1 | 土器 | 杯 口縁部 | 内外面 | 褐色7.SYR7/5. | 内外面：白粘ナダ。内面 | 2 | 2 | 2 | | | 外側全面と内面・表面の口縫部に灰化物付着。内 |
| | | | 内側 | 斜め方向のナダあり。 | CD | D | D | | | 側ナダとの凸凹が明確。 | |
| 23 1 | 土器 | 杯 制部～底 | 内外面 | 灰白色2.SYR6/2. | 底面：ナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 1/4強。反応斑点。底径：(5.7) cm。 |
| | | | 内側 | ナダ。 | D | D | D | | | | |
| 24 1 | 土器 | 杯 頭部～底 | 内外面 | 浅青褐色10RS/3. | 内：外面：白粘ナダ。底 | 2 | 2 | 2 | | | 反応斑点。1/4強。底径：(7.0) cm。へら切り |
| | | | 内側 | 面：ヘラ切り。 | BCD | U | D | | | | |
| 25 1 | 土器 | 杯 底部 | 内外面 | 浅青褐色10RS/4. | 内外面：ナダ？。 | 2 | 2 | 2 | | | 底径：(5.7) cm。表面に鉛付着のため詳細な説明等は不明。 |
| | | | 内側 | ナダ？。 | D | D | | | | | |

上面で遺構が検出された。

遺構の埋土は3層土に類似するが、出土遺物に土師器がないことから、古墳時代としてとらえておきたい。

4.2.2 遺構と遺物

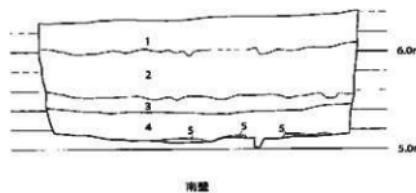
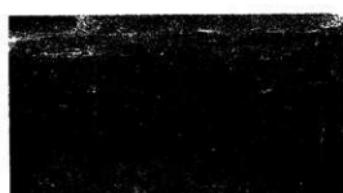
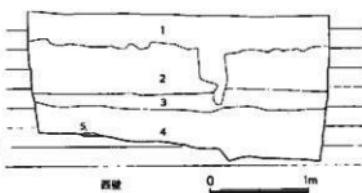


Fig. 11 2トレンチ層位断面図 S=1/40

遺構は、4層上面より上塙状遺構3基、ピット1基が検出された。以下、遺構ごとに説明を加える。

S K 7

トレンチ南壁付近に位置し、全形は不明である。遺物は、埋土中より土器片が出土しているが、実



Pl. 13 2トレンチ南壁

Tab. 6 2トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|--|----|
| 1 | 赤土、黒褐色10YR3/3、シルト質砂、ブロック・近現代 礫等多く含む。 | |
| 2 | 灰青褐色10H2/1、砂質シルト、0.5cm~1cmの砾、近現代 石を含む。 | |
| 3 | 暗灰黄褐色2.5Y2/4、砂質シルト、2層に似るが、古 代分混入。 | |
| 4 | 黒褐色2.5Y1/3、粗砂混じりシルト、0.5~2cm 古墳 大の砾石を含む。 | |
| 5 | にじい黄色2.5Y4/6、粗砂。 | |

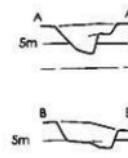
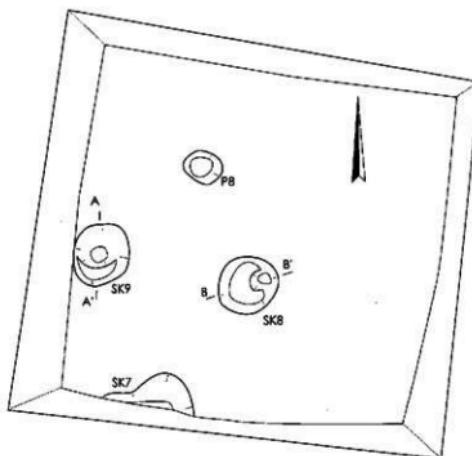


Fig. 12 2トレンチ遺構図 S=1/40



PL.14 2トレンチ完掘状況

Tab. 7-2 トレンチ遺物出土状況

| | 萬 支 生 古 墳 | 須 恵 器 | 土 師 器 | 上 器 | 圓 錫 器 | レン ガ | ガ ラ ス 器 | 石 器 | その 他 | 計 |
|-----|-----------------------|-------------|-------------|--------|-------------|---------|------------------|--------|---------|------|
| 1 | | 4 | 1 | 2 | 36 | 7 | | | | 52 |
| 2 | 5 | 33 | | 7 | 192 | 30 | | 1 | | 268 |
| 3 | | 130 | 26 | 15 | 1418 | 73 | | | 3 | 1665 |
| 4 | | 26 | 3 | 2 | 91 | | | | | 122 |
| SK7 | | 2 | | | 6 | | | | | 8 |
| SK8 | | | | | 7 | | | | | 7 |
| SK9 | | 3 | | | 5 | | | | | 5 |
| 計 | 5 | 198 | 30 | 26 | 1757 | 110 | | 1 | 3 | 2130 |

Fig. 8 2トレンチ遺構一覧

| 選択名 | 長径 (cm) | 幅径 (cm) | 深さ (cm) | 種上 |
|------|------------|------------|------------|--------------------------------------|
| SK 7 | 97.78 | 29.4+ε | 46.0 | 黒褐色2.5Y1/3.粗砂混じシリルh0.5~2cmの大粒を含む。 |
| SK 8 | 48.26 | 46.82 | 23.0 | 黒褐色2.5Y1/3.粗砂混じシリルh0.5~2cmの大粒を含む。 |
| SK 9 | 51.3 | 44.38 | 24.0 | 黒褐色2.5Y1/3.粗砂混じシリルh0.5~2cmの大粒を含む。 |
| P8 | 31.62 | 23.7 | 18.0 | 黒褐色10Y6/8粗砂混じシリルト.10Y6/8明黄色2cm大粗石含む。 |

測できるものはない。

SKR

トレンチ中央部に位置する。平面形は円形で、東側が一段下がっている。埋土中より、土器片が出土しているが、実測できるものはない。

SK 9

調査区西端近くに位置する。ほぼ円形で、下場は北よりに一段下がっている。遺物は、埴土中より土器片が出土しているが、実測できるものはない。胎土などから古墳時代のものと考えられる破片が数点確認できる。

P 8

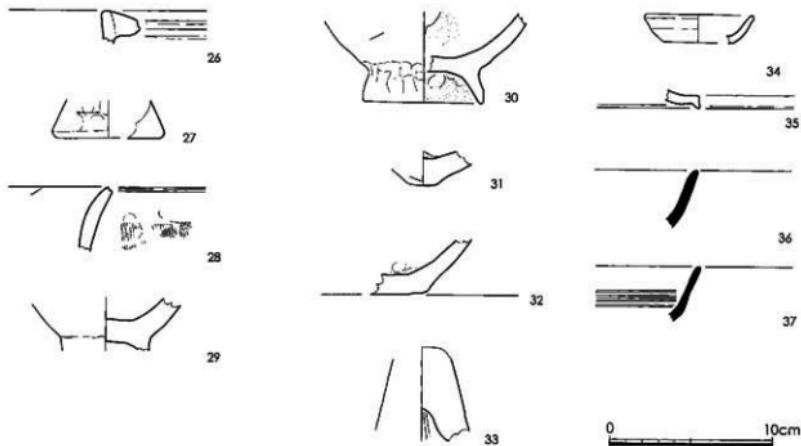
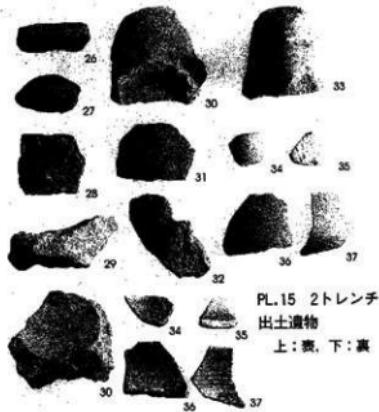


Fig.13 2トレンチ出土遺物 S-1/3

Tab. 9 2トレンチ出土遺物調査表

| No. | 種類 | 標識 | 部位 | 色調 | 捕手式 | | | | | 備考 |
|------|----------------------|-----|--|---------------------|-----|---|---|---|-------------------------------------|---|
| | | | | | R | G | B | Q | K | |
| 26-2 | 赤身・土 黒 器(中期) | 口端部 | 口端部上面: 淡褐色SYR4/6、赤色 外面: ヨコナガ、内面: 錆黒ナ、外側に: にぼい赤色 7.SYR6.5/4、内側: にぼい青色 10YR8.5/4。 | 4 ARCD 0 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 人夫式、前面に口端部貼り付けの接着部明瞭、此 器はABC紙で封緘している。 |
| 27-2 | 赤身・土 黒 器(中期) | 底部 | 外面: 赤色2.SYR5/1、暗赤褐色 外側: ヨビオチサのち赤 2.SYR5/2、 内側: にぼい橙色 10YR8.5/4、前面と上面と内面: イエ、内面: ヨビオチサのち赤 にぼい青色10YR7.4/ | 3 D D | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/6機存、反復復元、底径 (6.4) cm、いわゆる ナゲ。 | |
| 28-2 | 古墳・土 壁 器(未実 現) | 口端部 | 外面: 口端部: にぼい橙色 10YR8.5/4、前面と上面と内面: イエ、内面: ヨビオチサのち赤 にぼい青色10YR7.4/ | 3 ARCD 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 中体方式、くの字に沿屈する口端部形状を有する が、底面部で欠損している。わずかに滑溝が曲線 している。 |
| 29-3 | 古墳・土 壁 器 | 底部 | 外面: 暗赤褐色7.SYR5/5、外板 内面: 暗赤褐色2.0R8.3/3に黒墨、内面 面: 暗赤色2.0R8.1/5 | 3 BC C | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/2機存、非常によく底面部に厚い 壁がある。 |
| 30-4 | 古墳・土 壁 器 | 底部 | 外面: 暗赤色2.0R8.1/5、脚部内 面: 明褐色SYR5/5、赤色 2.SYR7.1/5-1、一部赤褐色 2.SYR4/6、赤色剥離。 | 4 EC CD CD | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 約1/6機存、反復復元、底径 (6.95) cm、黒墨など が、脚部外側には、赤土跡り付け度が強め、内面の 一部と脚部内面に赤色剥離。 |
| 31-2 | 古墳・土 壁 器 | 底部 | 外面: 暗赤褐色SYR5/5、内面: 壁: ハケ? 内面のハ ク=鳥居H3.0/2-2/0C/5級、 内: 黄褐色SYR5/5-3/5級、 内: 黄色SYR5/5級。 | 3 C CD | 3 | 5 | 3 | 5 | 3 | 外側: 脱付部分、底径 1.7cm、底被している、作 用は底面である。 |
| 32-2 | 古墳・土 壁 器 | 底部 | 内外面: 暗褐色SYR7.3/5-3/5、 内: 黄色SYR5/5級。 | 3 0 C | 3 | 5 | 3 | 5 | 3 | 分析分量、底被している。 |
| 33-3 | 古墳・土 高杯 器 | 脚部 | 外面: 暗赤褐色にぼい黄褐色 10YR8.5/3~7.3、脚内面: 暗赤褐色 合部: 暗赤褐色SYR5/5級、 10YR8.5/2級。 | 3 ARCD D | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 底被している、杯部との接合部で欠損している。 |
| 34-3 | 土高杯 器 | 口端部 | 外面: 暗褐色10YR-2.0SY8.2、 内外面: 四回輪ナ。 | 2 C D D | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 反復復元、1/6機存、口端 (6.6) cm、底径 (4.3) cm、器高 1.7cm。 |
| 35-3 | 七面形 器 | 口端部 | 内外面: 暗褐色SYR7.3/5級、 内外面: 四回輪ナ? | 2 ARCD D | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 杯部の器蓋、底被している。 |
| 36-3 | 倒垂唇 器 | 口端部 | 内外面: 黄色SYR5/5級、 内外面: 黄色SYR5/5級無し。 | 2 D D | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| 37-3 | 倒垂唇 器 | 口端部 | 内外面: 黄色SYR5/5級無し。 内外面: 黄色SYR5/5級無し。 | 1 D | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |



調査区北西側に位置する。遺物は出土していない。

匱金廬出土遺物 (Fig. 13)

弥生土器・中津野式・古墳時代の土器・古代の土師器・須恵器などがある。弥生土器は中期(26・27)と中津野式(28)である。いずれも小片で磨滅して

112

4.3 3トレンチ

附属中学校校庭東端に位置する。3m四方の大きさである。掘削の結果、地山である砂層まで現代の掘削がおよんでいて、プライマリーな層は確認できなかつたが、表土層に遺物が包含されていた(Fig. 14)。遺物は、陶磁器・古墳時代の土器・土師器・須恵器などがある。この中で実測可能なものは2点のみ(Fig. 14・Tab. 10・PL. 16)であった。

4.4 4トレンチ

附属中学校校庭の北東隅に位置する。3m四方の大きさである。掘削の結果、地山である砂層まで現代の掘削が及んでおり、プライマリーな層は確認できなかった。遺物も出土しなかった。

4, 5 5トレンチ

附属中学校北側のテニスコート南東隅に位置する。2.5m四方の大きさである。

4.5.1 屈位 (Fig. 15)

基本層位として、1~8層までを確認した。なお、

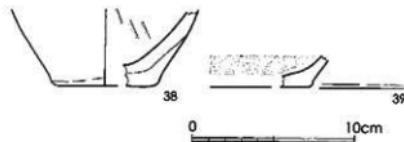
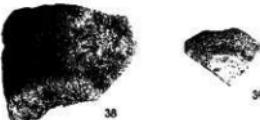


Fig. 14 3トレンチ出土遺物



PL. 16 3トレンチ出土遺物 表

Tab. 10 3トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層位 | 種類 | 部材 | 部位 | 色調 | 測定 | 地質 | | | | | 備考 |
|------|------------|----|----|----|---|-----------------------|----|---|---|---|---|-------------------|
| | | | | | | | R | W | B | G | H | |
| 38.1 | 古墳・土壙 器 | 瓶 | 瓶 | 瓶 | 外面：灰褐色～灰青色 7.5-10YR7/4. 内面：白色SYR2/1. 洗色 白色2.5YR2/2. 灰色SYR1/1. 洗色 34/0. 頂内：暗灰～墨色K3/0～ 2/0. | 外面：ナゲ、内面：ハケ | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/3残存、皮膜微光、底径(3.6)cm. 平底の底 ABC ABC ABC 底面に接合痕が認められる。 | |
| 39.1 | 土師器 | 杯 | 杯 | 杯 | 外面：浅黄褐色～灰褐色 10YR8/4～7/4. 内面：赤褐色 2.5YR4/7. 赤色顔料。 | 内外面：圓柱ナゲ、底 面：赤切り？。 | 2 | 2 | | | | 内面に赤色顔料付着、崩壊している。 |

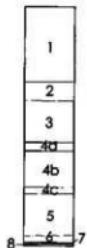


Fig. 15 5トレンチ層位柱状図

Fig. 11 5トレンチ層位

| 層名 | 色調 | 土質 | 備考 |
|----|------------------------------------|----|----|
| 1 | 灰土。 | | |
| 2 | 黄土。 | | |
| 3 | 黑褐色7.5YR3/1. シルト。 | | |
| 4 | 褐色SYR2/1. 相紗混じりシルト。1～2cm大の粗石を含む。 | | |
| 5 | 褐色SYR2.5YR1/1. シルト。1cm大の粗石を含む。 | | |
| 6 | 褐色SYR2.5YR1/1. シルト。0.5～1cm大の粗石を含む。 | | |
| 7 | 褐色SYR2.5YR1/1. シルト。0.5～1cm大の粗石を含む。 | | |
| 8 | 褐色SYR1.7/1. シルト。粘質。2cm大の粗石を含む。 | | |
| 9 | 黑色10YR2/1. 粘土。 | | |
| 10 | 褐色SYR2/1. 粘土。 | | |

4層は3つに分層できた。いずれも水平に堆積していた。遺物は、4層まで出土しているが、各層とも土師器や古墳時代の土器のほか、陶磁器を含んでおり、4層までは近現代の層であると考えられる。また、5層以下は無遺物層で時期は不明である。

4.5.2 包含層出土遺物 (Fig. 16)



PL. 17 5トレンチ南壁

Fig. 12 5トレンチ遺物出土状況

| 層 | 風文 | 古墳 | 須 | 土器 | 上器 | 陶器 | 磁器 | ガラス | レガニ | 石器 | その他の | 計 |
|---|----|----|---|----|----|----|----|-----|-----|----|------|-----|
| | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | 7 | 6 | 1 | | | | 14 |
| 2 | | | | | 8 | 1 | 1 | 2 | 3 | | | 15 |
| 3 | | | | | 47 | 3 | 2 | 264 | 10 | | 3 | 329 |
| 4 | | | | | 5 | 1 | 71 | 11 | 1 | 1 | | 90 |
| 5 | | | | | 60 | 4 | 4 | 344 | 30 | 1 | 1 | 448 |

1～4層で出土した遺物は、陶磁器・土師器・古墳時代の土器・須恵器などである。このうち、実測できるものは11点であった。中津野式の壺・古墳時代の壺・壺・高杯・塔、土師器の杯・壺、磁器皿がある。いずれも小片である。

4.6 6トレンチ

附属中学校北側のテニスコート南側に位置する。

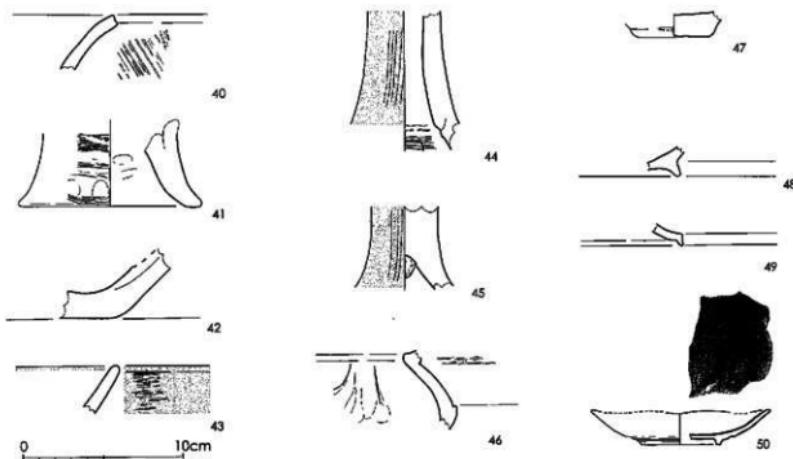
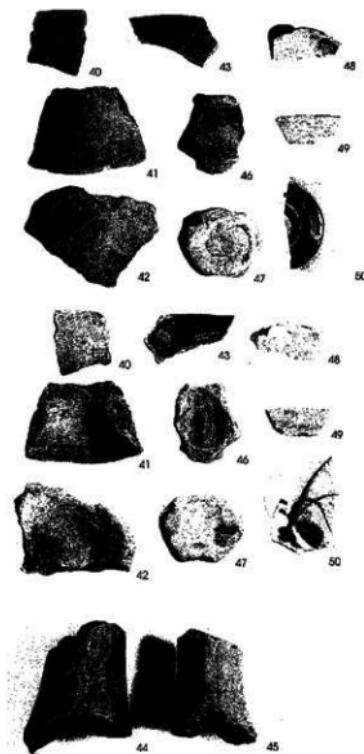


Fig. 16 5トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab.13 5トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層 深度 | 種類 | 部位 | 色調 | 測量 | 出土 | | | | | 備考 |
|------|---------------|-----|---|---------------------------|-------------------|--|--|---|---|---|----|
| | | | | | | E | W | B | H | S | |
| 40 3 | 生糞・薪灰 灰・土器 | 口縁部 | 外観：にぼい青灰色7.5TBG/4に類似。内面：にぼい赤褐色～赤褐色7.5R/3.5、器内：暗褐色～黒色8.5R/2.0。 | ヨコナデ、外腹下方面：約3.5cm。心方向のハケ。 | 3 3 3 3 | 3 | 中腹野式、くの字に傾する器形を示す。縁部Aで、底面部付近で欠損している。火目のハケ跡が特徴的である。 | | | | |
| 41 3 | 古墳・土 器 | 縁部 | 外観：にぼい青灰色10TBG/5.4、内面：にぼい褐色～にぼい黒色。 | ヨビオラエのち横方向のハケ。 | A B C D E F G H I | 3 | 約1/3残存、反復復元、底径(10.8)cm。縁部ABCと、体部との結合部で欠損している。外腹ハケ調査が非常に多い。輪郭線が突出する器形を示す。 | | | | |
| 42 2 | 古墳・土 器 | 底部 | 外観：にぼい黄褐色10TBG/4に類似。内面：黄褐色2.5TBG/4に類似。 | ナダ？ | 4 4 4 4 | 5 | 継やかな凸面をなす平底、分厚い器壁である。底面CDに縁合痕が認められる。底減している。 | | | | |
| 43 3 | 古墳・土 高杯 | 口縁部 | 外観：明赤褐色2.5TBG/7、赤褐色外腹：1ガキ、口縁部～内面：16CBN/4に類似。内面：ヨコナデ。 | 1ガキ、16CBN/4に類似。 | 2 2 2 2 | 2 | 外腹～口縁部内面：赤褐色斜付差、外腹は継かい1ガキを残すが、あらいため、器表に凸凹が認められる。 | | | | |
| 44 3 | 古墳・土 高杯 | 縁部 | 外観：赤～赤褐色10TBG/5.6、内面：赤褐色5～7.5TBG/5.6、上部灰褐色5/5に類似。 | ヨビオラエのちナダ？下端部ハケ。 | D D D D | 2 | 外腹：赤褐色斜付差、内側底部に粘土接合部が認められる。 | | | | |
| 45 3 | 古墳・土 高杯 | 縁部 | 外観：赤～赤褐色10TBG/5.6、内面：16CBN/4に類似。 | ヨビオラエのちナダ？下端部ハケ。 | D D D D | 2 | 外腹の上端部、外腹に赤色斜料が付着しているが、所々剥落している。 | | | | |
| 46 2 | 古墳・土 壁 | 縁部 | 外観：赤褐色7.5TBG/6、赤色縫合7.5TBG/6。 | ハケのち横方向のナゲ。 | 5 2 | 断続している。底部周辺部に段を持つ器形を呈するが、外反する口縁部を持つと推定できるが、欠損している。 | | | | | |
| 47 2 | 土師器 | 杯 | 外観：浅青色10TBG/3に類似。(底減のため)不明。 | ナダ。 | 2 2 | 底径4.4cm、ヘラ切り底、平底で分厚い。底減している。 | | | | | |
| 48 4 | 土師器 | 杯 | 底色5/6/11に類似。器内：灰白色2.5TBG/2に類似。 | ヨコナデ？底減している。 | 2 | 白色底は灰白色2.5TBG/2に類似。底減している。 | | | | | |
| 49 3 | 土師器 | 口縁部 | 外観：浅青色10TBG/3.5、内面：16CBN/5.6に類似。 | ヨコナデ。 | 3 3 3 3 3 | 約1/3残存、反復復元、口径(10.8)cm。底径(4.7)cm。底高1.85～2.1cm。底入有り。口縁部化粧状。 | | | | | |
| 50 2 | 磁器 | 杯 | 完形 | 1 | | | | | | | |



PL. 18 5 トレンチ出土遺物
上段：表面、中段：裏、下段：側面

2.8m四方の大きさである。

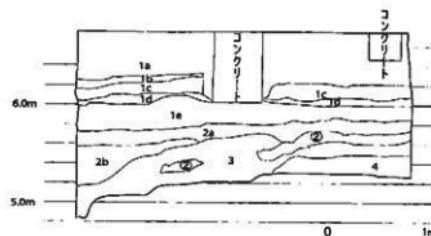
4.6.1 層位 (Fig. 17)

6トレンチでは、1~4層までの基本層位を確認した。2a層まではほぼ水平に堆積しているが、2b層以下が西側に傾斜していた。また、3層上層や3層中に粗砂が含まれるなど、層位が混在しているところもみられた。出土遺物は、古墳時代の土器・土師器・陶磁器などが出土しているが、3層まで陶磁器を含んでおり、近現代の層であると考えられる。

4.6.2 包含層出土遺物 (Fig. 18)

出土した遺物は古墳時代の土器・土師器・陶磁器

などであるが、実測可能なものは3点のみであった。中津野式か古墳時代前期土器と考えられる壺と高杯、それから染付け椀である。



PL-17 6トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 14 6トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|--|-----|
| 1a | にぶい黄褐色10YR6/3. | 現代 |
| 1b | 灰オリーブ7.5Y5/2., 粗砂 | 現代 |
| 1c | 淡黄褐色10YR8/4., シラス2次堆積層 | 現代 |
| 1d | 灰褐色7.5YR4/2., シルト質砂を基調とし、1.e層土 苔化をプロックで含む。 | 古代 |
| 1e | 褐灰色7.5YR4/1, シルト質砂、軽石礫を含む。 | 現代 |
| 2a | 褐灰色7.5YR5/1, 砂鉄混じシリルト質砂、1ca大 細粒石を含む。 | 近現代 |
| 2b | 2a層土と3層土の混入、黒褐色10YR3/1, シルト 近現代 をプロックで含む。 | 近現代 |
| 3 | 青灰褐色5PB6/1, 砂質シルト。 | 近現代 |
| 4 | 明褐色5.YR5/6, 粗砂、軽石礫を多く含む。 | |
| ① | 灰オリーブ7.5YR5/2粗砂。 | |
| ② | 黑褐色2.5Y3/2, 粗砂を基調とし、3層土をプロックで含む。 | |



PL-19 6トレンチ南壁

Tab. 15 6 トレンチ遺物出土状況

| 場 | 國文 | 弥生 | 古墳 | 紙 | 土 | 上 | 陶 | レン | ガラス | 石器 | その | 計 |
|---|-----|-----|----|----|----|----|----|------|------|-----|-----|-----|
| | 弥生器 | 古墳器 | 漆器 | 漆器 | 漆器 | 漆器 | 磁器 | ガラス類 | ガラス類 | 石器類 | その他 | |
| 2 | | 9 | 3 | 59 | | | | | | | | 71 |
| 3 | | 5 | | 28 | 3 | | | 1 | | | | 37 |
| 計 | | 14 | 3 | 87 | 3 | | | 1 | | | | 108 |

Tab.16 6トレンチ出土遺物観察表

| No. | 場所・土質 | 性質 | 器種 | 部位 | 色調 | 測定 | 粘土 | | | | | 備考 |
|------|---------|-----|--------------------------------|----|-----------------|-------------|-------------------------|---|---|---|---|--|
| | | | | | | | E | V | B | G | H | |
| 51.2 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外側：明赤褐色2.5YR5/6に類似。内面：ヨコナゲ、内面： | | 3 3 3 3 3 3 | | くの字状にゆるやかに外折する唇形を呈し、その | | | | | |
| | | | 内面：に赤い緑色5YR5/4、に赤いナデ。 | | B BC D C C A | | 粘土部より上の部分であると考へられる、比 | | | | | |
| | | | 緑色7.5YR5/3、黒色NO.9。 | | | | 較的下がりである。 | | | | | |
| 52.3 | 古墳・土 高杯 | 脚部 | に赤い褐色7.5YR5/3に類似。ナデ? | | | 3 3 3 3 3 3 | 小窓の蓋付脚部、杯脚との複合部で欠損、両高内面 | | | | | |
| | | | | | BC D ABC NC ABC | | には、粘土貼り付け痕が認められる。 | | | | | |
| 53.3 | 集竹 | 脚 | 口縁～底部 | | | 1 | | | | | | 約1/3残存、比較対応、口径(8.4)cm、底径(3.8)cm、高さ3.4cm。 |
| | | | | | D | | | | | | | |

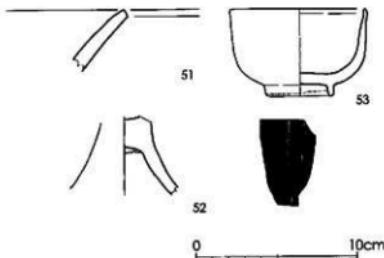
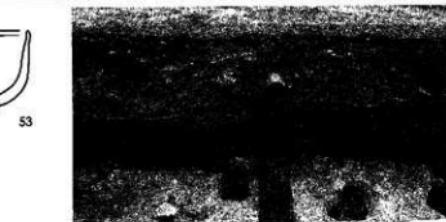


Fig.18 6トレンチ出土遺物 S=1/3



PL.21 7トレンチ北壁

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|---------------------------|------|
| 1 | シラスの2次堆積土、底土。 | 現代 |
| 2 | 黒色1/1.7シルト。 | 古墳時代 |
| 3 | に赤い黄色2.5YR5/6、赤帯混じりシルト。 | |
| 4 | 灰青色2.5YR2/T、楕円。幾分が浸透している。 | |
| 5 | 5cm大的の軽石礁の間に4層状の粗砂を含む。 | |
| ① | 灰青褐色10YR2/6、粗砂。 | |

Tab.18 7トレンチ遺物出土状況

| 層番 | 純 | 赤 | 古 | 原 | 土 | 土 | 南 | レ | ガ | 石 | 其 |
|------|---|----|---|---|-----|---|---|---|---|---|-----|
| 文 | 苔 | 生 | 埴 | 瓦 | 瓦 | 器 | 器 | 器 | 器 | 器 | 他 |
| 1 | | 2 | | | 23 | | | | | | 25 |
| 2 | | 9 | | | 70 | | | | | | 79 |
| 4 | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| SK26 | | 2 | | | 7 | | | 1 | | | 10 |
| 計 | | 13 | | | 104 | | | 1 | | | 118 |

4.7 7トレンチ

東西2.8m, 南北1.6mのトレンチである。

4.7.1 層位 (Fig.19)

基本層位として、1～5層までを確認した。このうち、2層までが遺物包含層である。1層は現代、2層は古墳時代の包含層である。3層上面から土壌状造構とピット群が検出された。

4.7.2 遺構と遺物

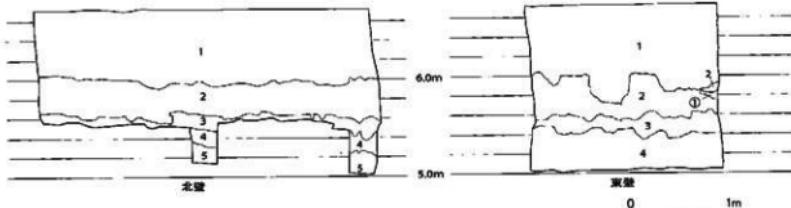


Fig.19 7トレンチ層位断面図 S=1/3

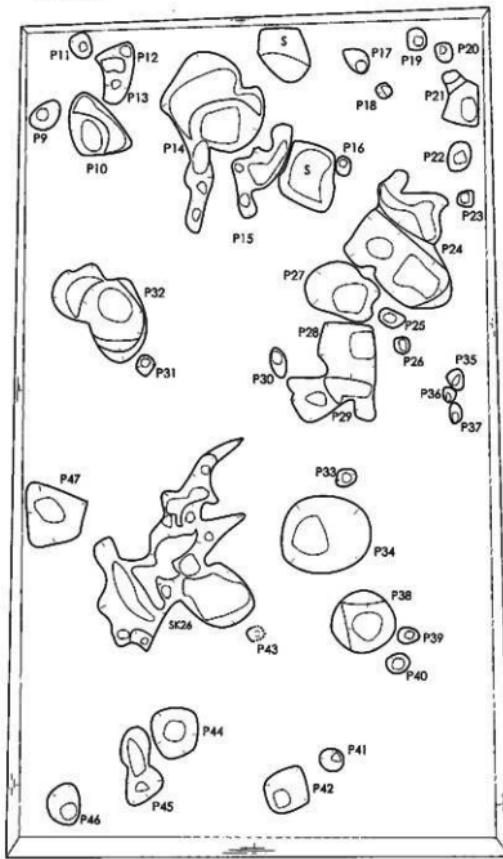
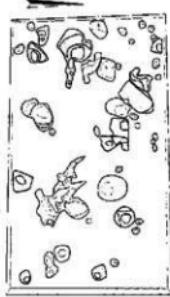


Fig. 20 7トレンチ遺構平面図 S=1/40



PL. 23 7トレンチ3層上面遺構実観状況



網掛け部分は、深さ20cm以上のもの。



PL. 21 7トレンチ3層上面遺構検出状況

3層上面では、1基の土壙と38基のピットが検出された (Fig. 20)。

SK26

最長部100.5cm、幅62.2cmだが、不定形で、浅いピットが重なったものと考えられる。この埋土中からは古墳時代の土器と石器が出土している。このうち、実測できるものは2点であった (Fig. 21-54-55)。

54は甕の脚台である。脚端部が細く丸い形状と、

Tab.19 7トレンチ遺構一覧

| 遺構名 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 地土 |
|------|------------|------------|------------|------------|
| SK26 | 100.5 | 62.2 | 10.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P9 | 13.9 | 8.6 | 7.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P10 | 29.4 | 19.2 | 36.2 | 黒色1/1.7シルト |
| P11 | 10.3 | 8.1 | 3.1 | 黒色1/1.7シルト |
| P12 | 14.1 | 3.7 | 7.5 | 黒色1/1.7シルト |
| P13 | 13.5 | 9.7 | 33.8 | 黒色1/1.7シルト |
| P14 | 43.2 | 33.5 | 20.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P15 | 43.8 | 15.7 | 4.1 | 黒色1/1.7シルト |
| P16 | 9.1 | 5.4 | 9.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P17 | 13.2 | 7.8 | 5.9 | 黒色1/1.7シルト |
| P18 | 7.1 | 6.2 | 9.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P19 | 9.0 | 7.8 | 6.7 | 黒色1/1.7シルト |
| P20 | 9.3 | 7.8 | 3.4 | 黒色1/1.7シルト |
| P21 | 25.0 | 16.0 | 32.7 | 黒色1/1.7シルト |
| P22 | 13.1 | 10.0 | 9.1 | 黒色1/1.7シルト |
| P23 | 7.0 | 6.1 | 2.7 | 黒色1/1.7シルト |
| P24 | 58.4 | 37.5 | 58.2 | 黒色1/1.7シルト |
| P25 | 10.8 | 7.2 | 9.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P26 | 8.4 | 7.0 | 7.3 | 黒色1/1.7シルト |
| P27 | 31.6 | 19.3 | 12.9 | 黒色1/1.7シルト |
| P28 | 23.6 | 21.9 | 34.2 | 黒色1/1.7シルト |
| P29 | 8.7 | 6.5 | 6.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P30 | 12.0 | 7.1 | 5.9 | 黒色1/1.7シルト |
| P31 | 7.6 | 7.6 | 3.3 | 黒色1/1.7シルト |
| P32 | 44.1 | 26.5 | 41.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P33 | 9.3 | 8.3 | 7.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P34 | 37.3 | 32.8 | 19.5 | 黒色1/1.7シルト |
| P35 | 10.1 | 7.6 | 9.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P36 | 7.3 | 6.5 | 3.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P37 | 9.6 | 5.5 | 0.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P38 | 25.5 | 22.6 | 32.5 | 黒色1/1.7シルト |
| P39 | 8.6 | 7.9 | 5.6 | 黒色1/1.7シルト |
| P40 | 10.1 | 8.0 | 6.6 | 黒色1/1.7シルト |
| P41 | 9.1 | 8.5 | 4.5 | 黒色1/1.7シルト |
| P42 | 17.8 | 13.8 | 29.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P43 | 6.2 | 6.9 | 4.9 | 黒色1/1.7シルト |
| P44 | 20.3 | 17.4 | 17.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P45 | 32.3 | 11.9 | 9.8 | 黒色1/1.7シルト |
| P46 | 17.0 | 13.4 | 24.0 | 黒色1/1.7シルト |
| P47 | 29.4 | 26.5 | 44.5 | 黒色1/1.7シルト |

脚台部付け根が細く脚台が三角形状を呈することから、中津野式から東原式の壺であろうと考えられる。55は磨製石器で、刃部はシャープで表面は非常に滑らかである。下面是欠損しているが、端部に擦過痕があり、段を有して下方に伸びていたことが推定される。その形状から、石戈であると推定した。

ピット群 (P9～P47)

ピットは、39基検出された。Fig. 20左に深さが20cm以上のものを網かけによって図示した。南東から北西方向にはほぼ平行に、比較的深いピットが並んでいることがわかる。しかし、建物跡として認定できるものではない。2層出土遺物の残りが比較的よいことなどから、住居跡の一部である可能性も高い。

包含層出土遺物 (Fig. 21-56～59)

1・2・4層中から土器が出土している。このうち、実測できたものは4点である。これらはいずれも2層出土遺物である。56・57は壺の底部で、脚台内面の天井部がドーム状を呈し、脚端部が細く丸い。これは、SK26から出土した54とも同じ特徴で、中津野式から東原式の特徴である。58は壺の口縁部であるが、少し湾曲しながら外に聞く器形を呈する。59は小形の鉢だが、底部が非常に小さく、尖り気味で、口縁部は外面にヨコナデによる段を有し、端部は尖っている。外面の下半部にはミガキ痕が認められるが、ミガキ痕の中には細かい擦過痕が認められる。59の器形・調整とも、中津野式から東原式の特徴である。

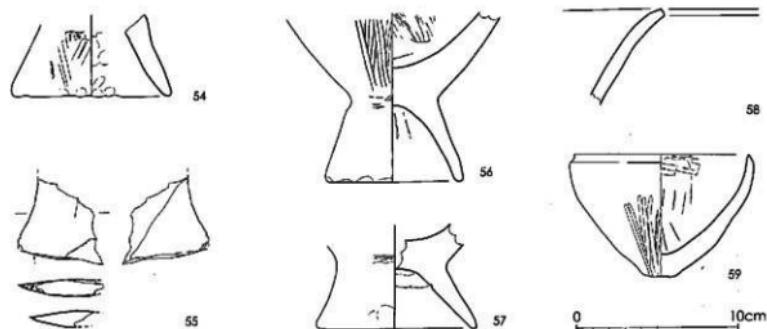


Fig. 21 7トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 20 7トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層・ 遺物 | 層 番号 | 部位 | 色調 | 調整 | 粘土 | | | | | 備考 | |
|-----|----------|--------------|---------------------|---|--|----|--|---|---------------------------------------|---|--|----|
| | | | | | | R | K | B | Q | H | | |
| 54 | SK26 | 古墳(弥生 土器) | 口縁部 | 外面：にぼい青緑～明黄褐色 内面：褐色 底面：灰褐色 | 外蓋：ナゲ、内蓋：ユビ オカニのちナゲ。調査は 底面でユビナガニ痕明 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 底径9.4cm。底合面ではざれている。内面の剥落部 と外縁部の一部に白色の細かい粒子付着。 | |
| 56 | 2 | 古墳・土 壺 | 口縁部 | 外面：にぼい青緑色10YR7/4に加 底：薄青天井井：越色2.5YR6/4に加 底：灰褐色3.5/1に加紅。 内面：黒褐色5.0/1に加紅。 | 内面底：ハケのちナゲ。 底：ハメの時に平行の細か 底：内面：黒褐色5.0/1に加紅。 内面：黒褐色5.0/1に加紅。 | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 底径7.95cm。調台内面がドーム状を呈する。 調台内面に接合板有り。 | |
| 57 | 2 | 古墳・土 壺 | 調台下部 蓋 | 外面：にぼい青緑色10YR6.5/4。 内面：～底部 | 内面底：ユビナガニのち ナゲ。 | 4 | 4 | 5 | 底径9.5cm。調台内面がドーム状を呈する。調台内 側に接合板有り。 | | | |
| 58 | 2 | 古墳・土 壺 | 口縁部 | 外面：にぼい青緑色7.5YR7/4。 底：灰褐色6/6に加黒、にぼい青緑 色10YR7/3。 | 外蓋：ナゲ、内蓋：ナゲ。 底：ハメの時：ナゲ。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 外蓋：剥落している。 | |
| 59 | 2 | 古墳・土 壺 | 先端 | 外蓋：にぼい青緑色7.5YR6.5/4・黑 底：7.5YR3/1など。内面：にぼい 色7.5YR5/4・黒褐色10YR3/1など | 外蓋：ユビナガニ、構造 部同じ工具による剥離。下 部は同じ工具によるミガ キ、ミガキ痕の中に纖維 質あり。内面：ハケのち 纖維状のこぐらによるナ ギ。あらうナギ痕明顯。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 口徑10.55cm。高さ1.75cm。底面7.55cm。内面は 軽微な大往の位置から下の剥落が認められる。 | |
| 55 | SK26 | 石戈 | 5.2e 5.3e 5.1 | 厚さ (cm) 23.0 | 重さ (g) | 石材 | 粘土 | | | | | 備考 |
| 55 | | | | | | | 万能が非常にシャープであるが、断面は穂やかで後徳はほとんど見られない。下表面は完全で欠陥しているが、溝跡 を一跡堆積している部分が残っており、断面から突起部があったと推定できる。表面に比べると下表面の表面はあらい。 | | | | | |

SK26の遺物も含めて、これらは中津野式から東原式の遺物では同時期のものである。

4.8 8トレンチ

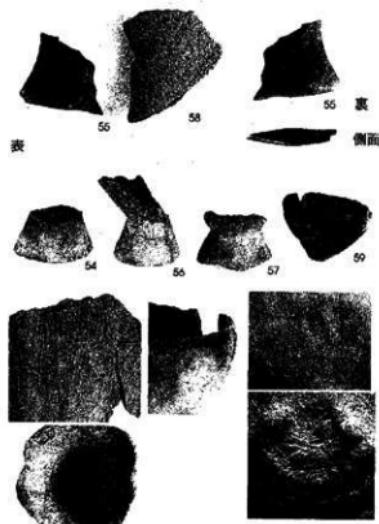
附属中学校プールの南東隅に隣接する。2m四方の大きさである。

4.8.1 層位 (Fig. 22)

基本層位として1～5層までを確認している。このうち、1・3・4層が遺物包含層である。4層出土のものは、古墳時代の土器がほとんどだが、土師器も少し出土していることから、古代から古墳時代の包含層としたい。なお、4層上面で遺構を検出した。

4.8.2 遺構と遺物

4層上面より土壤状遺構1基、5層上面よりピット



PL. 24 7トレンチ出土遺物

左上：56 外面のハケ調整

左下：57 調台内面の接合縫

中：59 口唇部、右上：59 外面のミガキ痕、擦過痕が認められる。右下：59 底面、纖維状の圧痕が認められる



PL. 25 8トレンチ東壁

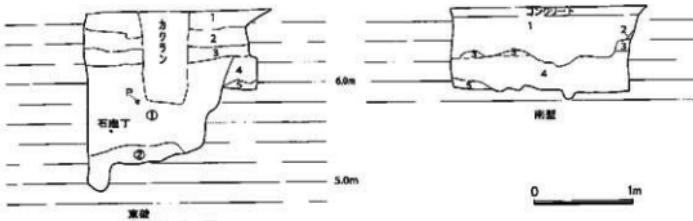


Fig.22 8トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab.21 8トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 参考 |
|---------------------------------------|--------|----|
| 1 表土 | | 現代 |
| 2 赤灰色2.5YR1/6, シルト質砂, 1~2cm大の軽石を多く含む。 | | |
| 3 黄褐色2.5Y6/6, 砂混じりシルト質砂。 | | |
| 4 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 | | 古墳 |
| 5 灰褐色2.5Y2/7, 粗砂。 | | |
| ① 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト, 岩石やわらか | SK6埋土 | |
| ② ①と5層上の泥土。 | SK6埋土。 | |

Tab.22 8トレンチ遺構出土状況

| 層 | 種 文 | 生 物 | 古 物 | 項 目 | 土 器 | 土 器 | 陶 器 | 器 | ガ ス | ガ ス | 石 器 | 其 他 | 計 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|--------|--------|--------|--------|------|
| 1 | | 82 | 2 | 1 | 149 | 1 | | | | | | | 235 |
| 3 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 4 | | 71 | | 3 | 338 | | | | | | | | 412 |
| SK6 | | 266 | | 2 | 870 | 2 | | | | | | | 1140 |
| 計 | | 419 | 2 | 6 | 1356 | 3 | | | | | | | 1788 |

24基を検出した (Fig.23)。

SK6

4層上面で検出した。配管によって、遺構の上部がL字状に搅乱を受けている。遺構は、平面形方形の北東角付近であると考えられる。非常に水分を含んだ土質であったため、掘削坑内には、明確な床面を検出できなかったが、土層断面観察によって、約20cmの厚さの張床(層位断面図 Fig. 22-②)を有する住居跡であることがわかった。また、北東角部分の下端には幅10cm、深さ5~10cmの細長い溝が認められる。板溝ではないかと考えられる。なお、張床除去後に底面にピットを9基確認した。このうち、B-B'に示しているように、調査区南西すみの2つのピットは深さ30cm前後で柱穴であると考えられる。他のピットは、深さ10cm前後で、浅い。

出土遺物は、1140点出土しているが、いずれも

Tab.23 8トレンチ遺構一覧

| 遺構名 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 埋土 |
|-----|------------|------------|------------|-----------------------|
| SK6 | 191.2+ε | 173.2+ε | | 層位断面図① ② |
| P51 | 9.6+ε | 9.2 | 6.6 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P52 | 22.8+ε | 15.2 | 7.0 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P53 | 8.4 | 9 | 4.8 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P54 | 15.6 | 13.2+ε | 10.2 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P55 | 10.4 | 8 | 7.3 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P56 | 6.8 | 4.0+ε | - | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P57 | 8.8 | 6.8 | 5.3 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P58 | 8 | 6 | 7.6 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P59 | 12.8 | 11.2+ε | 7.4 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P60 | 11.2 | 5.6 | 6.5 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P61 | 12.4 | 8.4 | 7.1 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P62 | 19.8 | 12.4 | 3.3 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P63 | 32 | 10 | 11.1 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P64 | 16.08 | 9.6 | 2.8 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P65 | 8 | 6.8 | 6.2 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P66 | 8.4 | 5.6 | 4.6 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P67 | 21.2 | 14.44 | 5.2 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P68 | 12.4 | 8.8 | 4.8 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P69 | 18.12 | 6.48 | 6.8 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P70 | 32.8 | 16.2 | 10.1 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P71 | 12 | 7.2 | 5.1 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P72 | 8.4 | 4.4+ε | 10.6 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P73 | 8.8 | 6.88 | 4.8 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |
| P74 | 8 | 6.2 | 4.1 | 赤灰色2.5YR1/4, 砂混じりシルト。 |

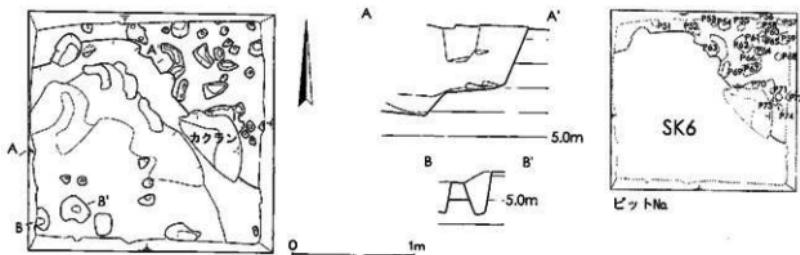


Fig. 23 8トレンチ造構図 S=1/40
赤は、張床掘削後の底面。



PL. 27 ピット完掘

埋土中に浮いた状態で出土している。また、小さい破片のものが多い。このうち実測できるものは、25点であった。古墳時代の壺8点(60~67)、壺4点(68~71)、高杯4点(72~75)、埴1点(76)、鉢2点(77~78)、手づくね土器1点(79)、須恵器杯1点(80)、壺(81)1点、磁器1点(82)、石包丁1点(83)、軽石製品1点(84)である。

このうち、磁器は配管による搅乱の直下で出土しており、配管工事の掘削による混ざりこみである可能性が高い。

これを除去すると、ほとんど古墳時代後半もので、筏貫式にあたると考えられる。80はTK10に比定できると考えられる。

ピット群 (P51~74)

SK8の北東に24基のピットを検出した。検出面は5層上面で、SK6に切られているものもあるため、SK6よりは古いものもあるが、その関係は不明である。ほとんどが10cm前後の小さなものである。埋土は、4層土に類似している。

包含層出土遺物 (Fig. 25)

実測できるものは、1層と4層出土遺物である。古墳時代前半の壺1点(85)、古墳時代後半の壺3点(86・88・89)、弥生時代終末期~古墳時代前期1点(87)、古墳時代後半の高杯2点(90・91)、古墳時代後半期の埴1点(92)、土師器1点(93)、石器1点(94)、青銅製品1点(95)となっている。

4.9 9トレンチ

テニスコート北西すみに位置し、東西3m、南北1.5mの大きさである。

4.9.1 層位 (Fig. 26)

基本層位として、1~5層までを確認した。ほぼ水平に整合的に堆積しているが、5層上面が北東側に傾斜しており、4層も同様に傾斜している。遺物は、1~4層までに包含されている。3層までは陶磁器が多く含まれており、近世以降の包含層である。4層は、古墳時代の土器と土師器が1点含まれており、古墳時代から古代の包含層と考えられる。

4.9.2 包含層出土遺物 (Fig. 27)

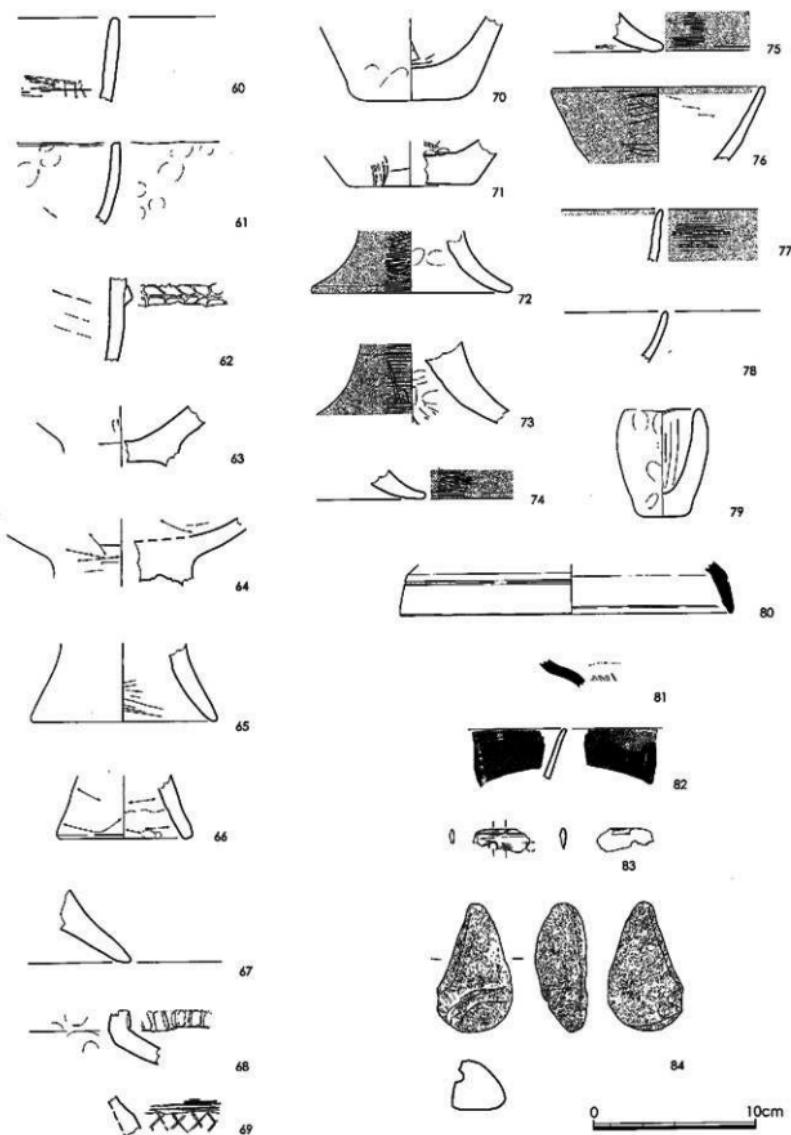


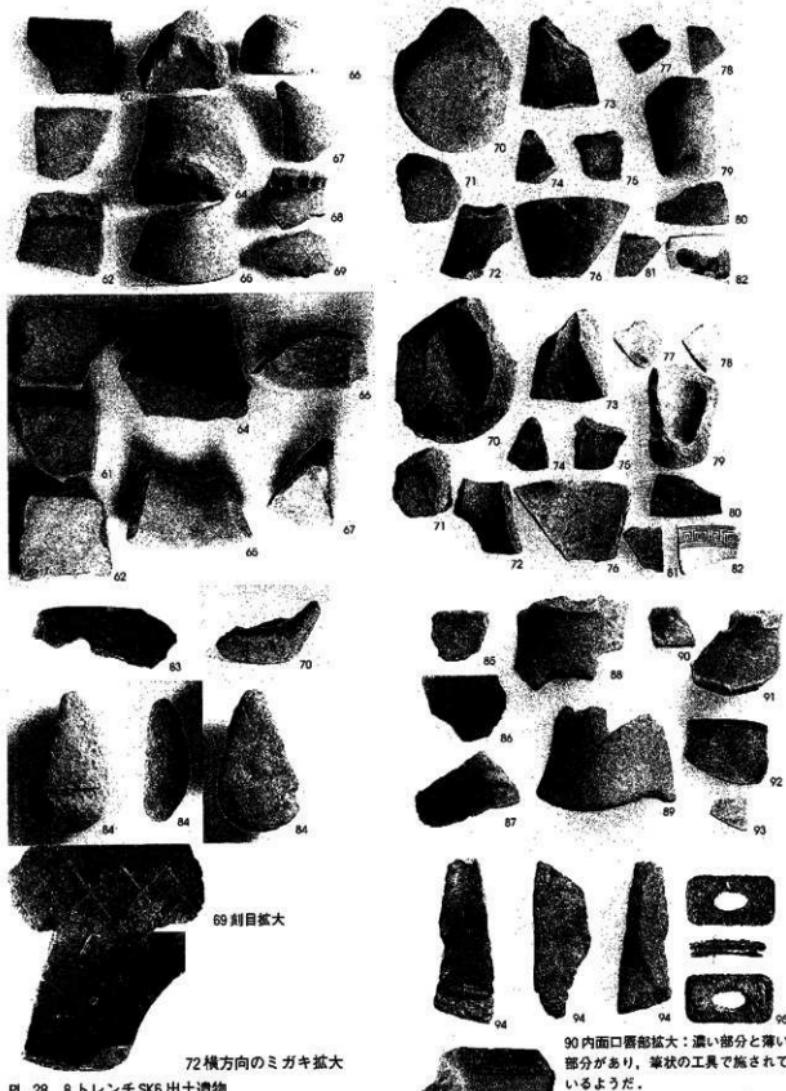
Fig.24 8トレンチSK6出土遺物 S=1/3

Tab. 24 8トレンチSK6出土遺物観察表

| No. | 第 通路 | 種類 | 器種 | 基部 | 色調 | 測定 | 地土 | | | | | 参考 | |
|--------|----------|-----|--|---|-----------|------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------------------------|
| | | | | | | | E | W | B | Q | H | S | |
| 60 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：黒灰褐色10R7/4、内面：白 | 外腹：黒灰褐色のナダ、内面：ナダのナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付する山根様で、下部少頭部分に突起 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 柱式、底付する山根様で、下部少頭部分に突起 |
| 61 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 内腹上部：に赤い橙色 外腹：黒灰褐色10R7/4、内面：白 | 外腹：ユビオサエのものナ 7.5R2/4、F型、底付側へにナ 内面：に赤い橙色 内腹上部：10R8/3~7/2、 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付する山根様で、下部少頭部分に突起 | C | C | D | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付する山根様で、下部少頭部分に突起 |
| 62 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 内腹上部：黄褐色2.5YR5/1、内面：灰 Y-側部 白10YR2~2.5YR2、 | 外腹：ナダ、内面：ナダ Y-側部 ナダのナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | C | RHD | AHC | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 63 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：に赤い黄褐色10YR5/1に似 内腹：灰に赤い黄褐色 | 外腹：ナダのナダ。 内腹：ナダ。 | 4 4 4 4 4 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | C | AHC | D | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 64 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 内腹上部：黄褐色10R8/4、下部 内面：灰に赤い黄褐色 | 内腹上部：ナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | C | AHC | D | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 65 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：に赤い黄褐色7.5YR7/3、下部 内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ、 | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダのナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | C | AHC | D | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 66 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：黒灰褐色10R8/2~2.5YR5/2、内 面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、下部、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | BHD | D | RHD | RHD | RHD | RHD | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 67 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：に赤い黄褐色10YR7/4に似 内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、下部、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 4 4 4 4 4 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | CD | BC | BC | BC | BC | BC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 68 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ、内面には 10R8/6に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ。 | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | RHD | D | BC | DC | DC | DC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 69 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ、内面には 10R8/6に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ。 | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 5 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | B | C | C | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 70 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：浅灰褐色10YR7/3、下部、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ、内面には 10R8/6に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3、内面：ナダ。 | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | D | AHC | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 71 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：浅灰褐色10YR7/3に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3に似る、内面：ナダ、内面には 10R8/6に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3に似る、内面：ナダ。 | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | C | AHC | D | BC | DC | DC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 72 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：黒灰褐色10R8/4に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | RHD | B | RHD | RHD | RHD | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 73 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：黒灰褐色10R8/4に似る、内面：灰に赤い黄褐色7.5YR7/3に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | D | AHC | C | BC | BC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 74 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：灰青褐色2.5YR5/4に似る、内面：灰青褐色2.5YR5/4に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | RHD | D | BC | BC | BC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 75 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：灰青褐色2.5YR5/4に似る、内面：灰青褐色2.5YR5/4に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | D | B | CD | CD | CD | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 76 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：灰青褐色2.5YR5/4に似る、内面：灰青褐色2.5YR5/4に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | RHD | RHD | RHD | RHD | RHD | RHD | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 77 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：内面下部：赤褐色10R8/4、内面腹：内面下部：赤褐色10R8/4、内面腹：内面下部：と て赤褐色10R8/4に似る、内面下部：ナダ。 | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | CD | B | CD | B | CD | CD | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 78 566 | 古墳・土 壁 | 口標部 | 外腹：灰に赤い黄褐色10YR7/4に似る、内面：灰に赤い黄褐色10YR7/4に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | D | D | D | D | D | D | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 79 566 | 古墳・土 小屋 | 口標部 | 外腹：灰に赤い黄褐色10YR7/4に似る、内面：灰に赤い黄褐色10YR7/4に似る、内面：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | RHD | BC | AHC | BC | AHC | BC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 80 566 | 板状部 板柱 | 口標部 | 外腹上部：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面腹：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面下部：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面下部：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面下部：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | AHC | AHC | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 81 566 | 板状部 板柱 | 口標部 | 外腹：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面腹：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面下部：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 2 2 2 2 2 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | AHC | AHC | AHC | AHC | AHC | AHC | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |
| 82 566 | 參合 壁 口標部 | 外腹 | 外腹上部：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面腹：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面下部：灰-赤褐色2.5YR7/3~4、内面下部：ナダ | 外腹：ナダのナダ。 内面：ナダ。 | 1 0 | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が | | | | | | | 柱式、底付突起を付す、底付する口標部の地盤が |

Fig. 25 8トレンチSK6出土遺物観察表2

| 号・ 通標 | 種類 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 参考 |
|----------|------|------------|-----------|------------|-----------|----|--|
| 83 SK6 | 石包丁 | 3.3±ε | 1.4±ε | 0.3±ε | 1.57 | 青岩 | 穿孔付近の一面向だけ残存している。表面は削落している。表面に成形時に施された撫過痕が認められる。 |
| 84 SK6 | 整石型品 | 8.0 | 4.65 | 3.1 | 18.8 | 鰐石 | 下駄らみの状跡形を呈する。ひとつの中面と裏面には下駄面を持つ。下駄に横方向の凹線が認められる。 |



PL. 28 8トレンチSK6出土遺物

PL. 29 8トレンチ包含層出土遺物

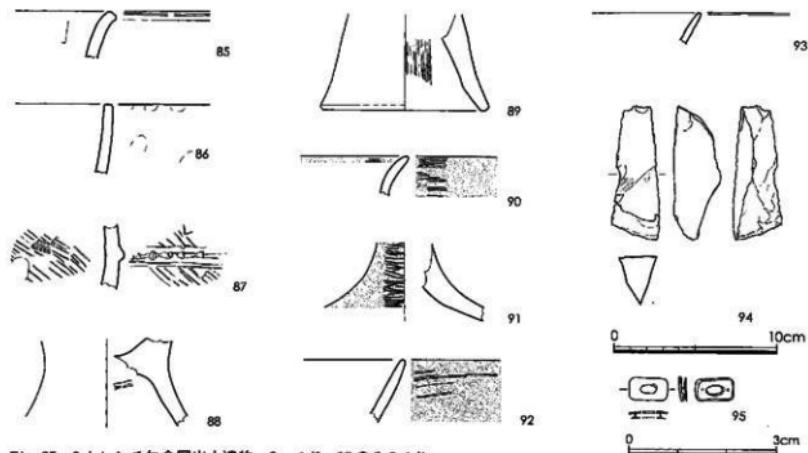


Fig. 25 8 ブレンチ包含層出土遺物 S=1/3, 95のみS=1/1

Tab. 26 8 ブレンチ包含層出土遺物観察表

| No. | 層・遺物 | 種類 | 骨格 | 部位 | 色調 | 調査 | K | E | B | Q | S | 備考 |
|------------------------|----------------|---|--|--|--|--|--|---|---|---|---|----|
| 85.1 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外表面：にぼい黒褐色5YR6/4に黒 化、内面：にぼい橙～褐色 7.5YR6/4～6/6。 | 内面：上部：ヨコナギ、外 部：下部：ナメ、内面下部： ハケのものナメ。 | 4 4 4 5 4 | わざかに背溝しながら外反する器形を有す ABCD D ABCD ABCD ABCD 5.11番組はヨコナギによって底をもたら 壁の厚さよりわずかに拡張している。 | | | | | | |
| 86.4 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外表面：黒褐色2.5YR6/1～2、内面：にぼ い褐色5YR6/1～2、下部：黒褐色10YR23/1、 内面：褐色～深褐色5YR4/1～ 10YR23/3、下部：黒褐色10YR23/1、 工具による横方向のナメ。 | 外表面：ヨコナギのちナ ゲ、内面：幅0.5cm単位のナ メ工具による横方向のナメ。 平行線の横島模倣。 | 3 3 3 3 | 径式、内溝式に直立する器形を呈する。 BCD BCD BCD BC 外面にはスヌが付着している。 | | | | | | |
| 87.4 | 古墳・土 器 | 胴部 | 外表面：にぼい黒褐色10YR6/5、暗 灰～黒褐色2.5YR6/2～3、内面：にぼ い黒褐色10YR6/5～6/3。 | 内面：ハケ、 ABCD D ABCD | 3 3 3 | 3 胴部に1条の割込み突帯を有する。割みは浅 ABCD く、小さい。 | | | | | | |
| 88.カクラ 古墳・土 器 | 底部 | 外表面：にぼい黒褐色10YR6/5/4、 内面：褐色～深褐色5YR4/1～ 5/1、内面下部：10YR6/5後黒 向のナメ。 | 外表面：底溝のため不明、内 面：ナメ、薄片内面：横方 向のナメ。 | 3 3 3 3 3 | 約1/3強残、反転復元、薄片部を欠損してい る。 | | | | | | | |
| 89.カクラ 古墳・土 器 | 胴部 | 外表面：黄褐色2.5YR3/3に黒化、内 面：にぼい黒褐色5YR6/4、下 部：後半黒褐色7.5～10YR23/4、器 内：にぼい褐色5YR7/4。 | 外表面：底溝のため不明、内 面：ナメ、下部：テクニカルハケ、 下部：ヨコナメ。 | 4 5 4 4 | 約1/3強残、反転復元、底辺(9.8)cm 傷 ABCD ABC ABC ABC 部、結合部で付着している。内面と器身が二 次的加熱のため変色している。外側は堆積し ている。 | | | | | | | |
| 90.4(第) 古墳・土 高杯 土 器 | 口縁部 | 外表面～内腹上面：赤土10YR4/7、内 外表面：にぼい橙～褐色7.5YR6/1～ 7/6、内面：褐色5YR6/1～7/6。 | 外表面～内腹上面：横方向の ナメ、内面下部：ヨコ方 向のナメ。 | 2 2 2 0 0 0 | 鉢の可逆性もあり、この字にさつき想定する 器形を呈するものと推定できる。内面と器身が二 次的加熱のため変色している。外側は堆積し ている。 | | | | | | | |
| 91.4 | 古墳・土 高杯 土 器 | 胴部 | 外表面：暗赤褐色2.5YR3/6に黒化、内 面：褐灰～墨褐色7.5YR4/1～ 2/2。 | 外表面：横方向のミガキ、内 面：ナメ？。 | 2 2 2 2 2 | 約1/3強残、反転復元、外表面：赤色剥離付 着。 | | | | | | |
| 92.カクラ 古墳・土 高杯 土 器 | 口縁部 | 外表面：暗赤褐色2.5YR3/6に黒化、 内面：無色。 | 外表面：横方向のミガキ、内 面：堆積している。 | 2 2 2 2 2 2 | 2 棒状の器形を呈するものと推定される。外表面：赤 ABC ABC 色剥離付着、器面があり、部分的に剥落して いる。 | | | | | | | |
| 93.4 | 土器器 杯 | 口縁部 | 外表面：後赤褐色10YR6/4、 内面：墨褐色5YR6/4。 | 内面：墨褐色ナメ。 | 2 2 0 0 | 器面に肉桂色などによる凸凹がわざかに認め られる。 | | | | | | |
| No. | 層・ 遺物 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 備考 | | | | | |
| 94.3 | | 8.15 | 2.65 | 2.65 | 65 | 頁岩 | 断面三角形を呈する。下端部のみ丸い。裏面には平坦面を有し、削痕が認められる。 | | | | | |
| 95.4不明 | | 1.55 | 0.9 | 0.3 | 0.96 | 青銅製品 | 厚さ1mmと0.5mmの間に複数の削痕が認められ、裏面には約1.5mmの突起がある。複数の部分は若狭 どく、厚をつけている部分の大きさは不明である。少し、深い窓の方へ傾いている。 | | | | | |

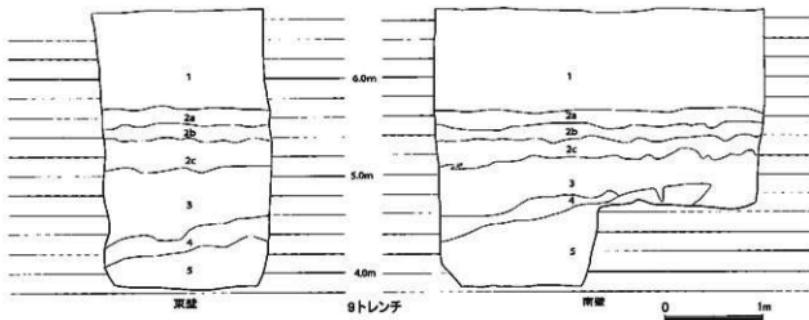


Fig. 26 9トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 27 9トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 堆積 |
|-----|--|----|
| 1層 | シラスの2次堆積土、硬土。 | |
| 2a層 | 10YR1/4褐色灰色、砂混じりシルト。1cm 大の砾石を含む。 | |
| 2b層 | 2.5Y2/4暗灰黄色、砂混じりシルト。 | |
| 2c層 | 2.5Y1/4黃灰色、砂混じりシルト。 | |
| 3層 | 2.5Y1/6黃灰色、粗砂、3層中位には細 砂と砾石と2.5Y1/4黃灰色を基調と する赤の泥土が遺る。 | |
| 4層 | 2.5Y1/3黒褐色、粗砂混じりシルトを 基調として砾石や5層土をブロックで 含む。 | |
| 5層 | 粗砂。 | |

Tab. 28 9トレンチ遺物出土状況

| 場所 | 発 生 層 | 古 墳 形 式 | 土 器 類 | | | | | | その 他の 遺 物 | 計 |
|----|-------------|------------------|-------------|-------------|--------|--------|-------------|-------------|--------------------|------|
| | | | 研 磨 器 | 土 師 器 | 陶 器 | 罐 器 | レ ン ガ | ガ ラ ス | | |
| 1 | | | 4 | | 11 | 2 | | | 1 | 18 |
| 2 | | | 20 | 2 | 219 | 1 | 2 | 2 | 2 | 246 |
| 3 | | | 155 | 1 | 15 | 1609 | 50 | 2 | 4 | 1838 |
| 4 | | | 45 | 1 | 98 | | | 1 | | 145 |
| 計 | | | 254 | 1 | 18 | 1937 | 53 | 4 | 3 | 2247 |



PL. 30 9トレンチ東壁

出土遺物のうち、実測可能なものは21点であった。古墳時代前半の壺2点(96・97)、古墳時代後半の壺7点(98～104)、弥生時代後期と考えられる壺1点(106)、古墳時代の壺1点(107)、古墳時代前期の高杯4点(108～111)、高杯1点(112)、古墳時代の鉢1点(113)、土師器の壺1点(114)、磁器碗1点(115)、石器1点(116)である。

4.10 10トレンチ

テニスコートの中央部に位置する。東西3m、南北1.5mの大きさのトレンチである。

4.10.1 層位 (Fig. 28)

基本層位として、1～8層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは1・2層のみで、出土量も少ない。

4.10.2 包含層出土遺物 (Fig. 29)

1・2層より土師器、土器、陶器が出土している。このうち、実測できるものは磁器碗(117)と陶器碗(118)の2点であった。

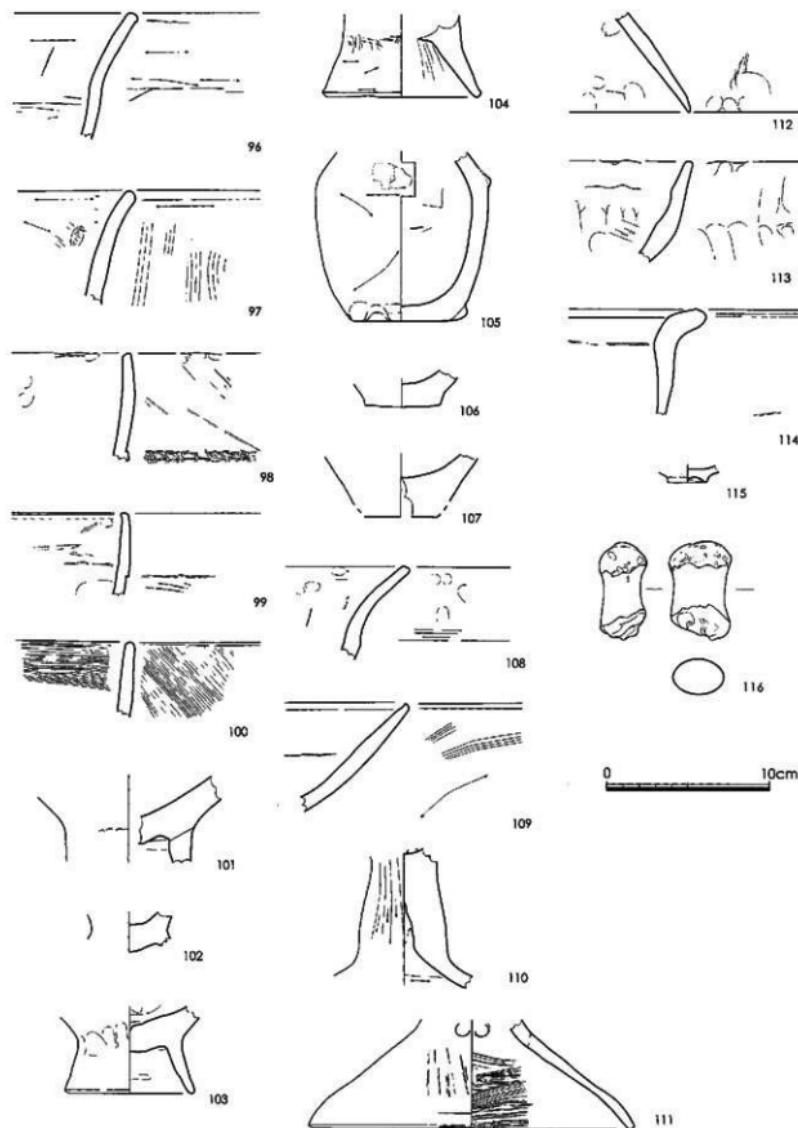


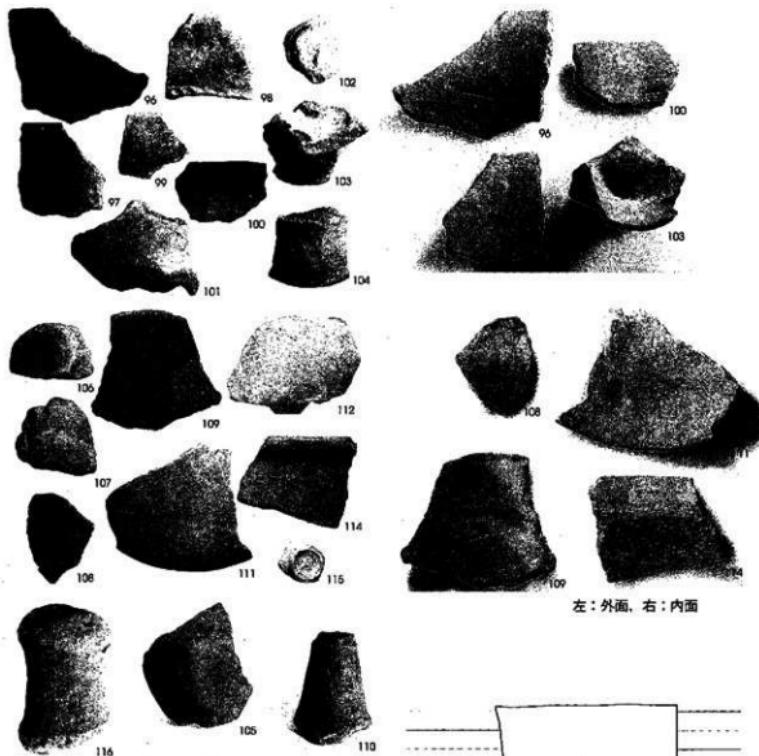
Fig. 27 9 ドレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 29 9トレンチ出土遺物觀察表

| No. | 層 | 遺物 | 器種 | 部位 | 色調 | 調整 | 胎土 | | | | 備考 |
|---------|---------|-----|--|---|-----------|----|--|---|---|---|----|
| | | | | | | | P | Y | B | S | |
| 96 4 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外裏：褐色～黒褐色2.5YR1/1～3/1、内裏：褐色7.5YR6/6? | 内外面：ハケのち後方側のナデ。 | 4 4 4 4 4 | 4 | 外表面曲部には、上方に向てしたハケ調節の工具打込み痕が横方向に並んでおり、被覆状を成す。内面鉄分付着。 | | | | |
| 97 3 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外裏：褐色2.5YR6/6? | ハケのち後方側のナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 注出原式?。わずかに外側に反する口縁部。 | | | | |
| 98 4 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外裏：褐色5YR6/6、内裏：黃褐色2.5YR1/2.5YR5/1、灰白色2.5YR2/1、浅黃褐色7.5YR5/5 | ハケのち後方側のナデ。 | 4 4 4 4 4 | 4 | 籠貫式、内溝気孔に直立する口縁部で胎土充盈を1全有する。外側にスリット付。 | | | | |
| 99 4 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外裏：褐灰色7.5YR1/2に網目状、内裏：褐色2.5YR1/1、内面：褐色 | 部：ハケのちナデ、内面：ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 籠貫式、直立する口縁部形態を呈するが、上部は他 | | | | |
| 100 3 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外裏：褐色7.5YR3/1、下部：褐7.5YR7/2に網目状、内裏：褐色7.5YR4/3、内面：褐色10YR7/6に網目状。 | 内外面：ハケ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 籠貫式、直立する口縁部形態を呈する。 | | | | |
| 101 4 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外裏：にぼい褐色7.5YR2/4に網目状、内面：にぼい黄褐色7.5YR4/4、器内：10YR7/2に網目状、内面：褐色10YR7/6に網目状、下部：呑10YR2/1、右内：黒褐色10YR4/1。 | 内外面：ハケのちナデ?、剥見込：ユビオサニ。 | 4 4 5 4 4 | 4 | 約1/3残存、以板微元、剥見込に痕跡、接合部アリ、前面にも接合痕が認められる。埋滅している。外側鉄分付着。 | | | | |
| 102 2 | 古墳・土 墓? | 底部 | 外裏：淡褐色10YR8/3に網目状、内裏：褐色7.5YR4/4、器内：2.5YR4/3に網目状。 | 内外面：ナデ?鉄分付着、剥見込：ユビオサニ。 | 3 3 3 5 5 | 3 | 小品品、座識が著しく、鉄分も付着している。 | | | | |
| 103 2 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外裏：淡褐色～黄褐色10YR7/2.5YR3/3、内裏：黒褐色2.5YR1/1。 | 内外面：ユビオサニのちナデ、内面：ハカのちナデ、中央部にシリボリ痕あり、剥見込：ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 約1/2残存、反板復元、底径(7.45)cm、内面内側部は中央部が下方へ突き出し、脚部との接合部はユビオサニによってくぼんでいる。 | | | | |
| 104 4 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外裏：にぼい黄褐色10YR6/5.4/5、内面：黑色10YR7/1.1に網目状、内面：黑色10YR2/1.1。 | 内外面：ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 約1/4残存、反板復元、底径(9.15)cm、内面鉄分付着。 | | | | |
| 105 4 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 脚部一帯：外裏：褐色7.5YR6/6、器内：褐色2.5YR6/6、内裏：褐色7.5YR6/6、内面：褐色10YR6/1、黒褐色10YR7/3.1、内裏：褐色5YR6/7。 | 内外面：ナデ、内面：ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 約1/2残存、反板復元、底径(6.0)cm、表面に突出した状態が付着しているが、剥落のため全体は不明、埋滅する可能性もある。底部外側には、ふたつの突起を有する。 | | | | |
| 106 4 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外裏：褐色5YR6/6? | 鉄分付着で前筋不明。 | 3 3 3 3 | 3 | 約2/3残存、底径4.6cm、平底だが、底面はゆるやかな凸面を有する。 | | | | |
| 107 4 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外裏：褐色5YR6/6、内面：褐色7.5YR6/6。 | 剥離していて不規則。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 約1/2残存、反板復元、底径(4.5)cm、底やかな凸面を有する形状であるが、非常に座識、剥落している。 | | | | |
| 108 4 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外裏：褐色10YR2/1～1.7/1に網目状、内面：黒褐色5YR2/5.1、内裏：黒褐色5YR2/5.1、下部：にぼい黄褐色5YR6/4に網目状。 | 内外面：ハケのちナデ、ナデは横方向。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 高脚部から、外側に海殻で大きく窪く形態を呈する。底部部は低い壁を持つ、鉄分付着。 | | | | |
| 109 4 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外裏：黒褐色10YR2/1に網目状、にぼい黄褐色2.5YR4/5.4、内面：黒褐色5YR2/5.1、黒褐色5YR2/5.1に網目状、明赤褐色2.5YR4/3。 | 内外面：ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 5 | 窪い輪狀の部形を呈する部分、内面口唇部は、ヨコナデによってくぼんでいる。中間に、ハバ工具を口縁部に沿って追削して打ち込んだ跡が1条の比較状に認知される。外側：スリット付、内面：黒く光沢のある座識あり。 | | | | |
| 110 3 | 古墳・土 高杯 | 脚部 | 内外面：淡褐色～灰褐色2.5YR2/2～7/2、にぼい黄褐色10YR7/3Cに網目状。 | 外裏：下方向のナデ、内面：上部はナデ、下部は横方向のナデ。 | 2 2 2 | 2 | 中程で埋めして蓋部が特に広がる形態を呈する。底部はわずかに膨らんでいる。鉄分付着、剥離している。 | | | | |
| 111 3・4 | 古墳・土 高杯 | 脚部 | 外裏：にぼい黒～黒褐色7.5YR6/4～6/6、内面：褐灰～灰褐色7.5YR8/1～3/1? | 内外面：ハケのちナデ。 | 2 2 2 2 2 | 2 | 約1/6残存、反板復元、底径(19.7)cm、非孔様ABCD B C CD A 0.85cm、内面鉄分付着、内側する脚部、底辺の穿孔を施す。 | | | | |
| 112 3 | 古墳・土 高杯 | 脚部 | 外裏：黄褐色2.5YR4/1に網目状、にぼい黄褐色10YR7/4、内面：黒褐色10YR2/1、内面：黒褐色10YR2/1、内面：にぼい黄褐色10YR2/1。 | ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 内部らみ気孔に広がる脚部、縫隙はユビオサニのため少しやがんでいる。鉄分付着。 | | | | |
| 113 4 | 古墳・土 神器 | 口縁部 | 外裏：暗褐色3/3に網目状、青灰色5YR6/1に網目状、灰褐色2.5YR1/1に網目状、灰白色2.5YR1/1、深灰色2.5YR1/2、浅灰色2.5YR1/2、浅灰色7.5YR4/4～7/4、内面：にぼい黄褐色10YR2/4、器内：暗褐色5YR4/1に網目状。 | 外裏：横方向のユビオサニ、外裏：ハケのちナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 純粋の形態を呈する。横方向のユビオサニが裏面の内側部に沿って施されている。 | | | | |
| 114 4 | 土器 | 裏? | 外裏：にぼい褐色7.5YR5/3.7/3、内面：褐色5YR2/1? | 内外面：横方向のナデ。 | 3 3 3 3 3 | 3 | 鉄分付着。 | | | | |
| 115 2 | 用器 | 瓶? | 器底：灰褐色7.5YR7/1に網目状、器内：灰褐色7.5YR7/1半透明釉、火紋：褐色5GZ2/1。 | 器底：灰褐色7.5YR7/1。 | 2 2 | 2 | 小品品、底径2.4cm、細かい入丸あり。 | | | | |

Fig.30 9 トレンチ出土遺物観察表2

| No. | 層 番号 | 幅 員 (cm) | 幅 高 (cm) | 厚 さ (cm) | 重 量 (g) | 石材 | 備考 |
|-----|---------|----------------|----------------|----------------|---------------|----|--|
| 116 | 4 不明 | 6.1 | 3.65 | 2.9 | 75 安山岩 | | 断面は円形で、両端部が丸い。中心部は削っているようである。端部も削っているが、岩石の表面の凹凸が残っており、あまり丁寧ではない。 |



左：外面、右：内面

PL.31 9 トレンチ出土遺物

4.11 11 トレンチ

教育学部3号棟講義等の西側に位置する。1.5 m四方の大きさのトレンチである。

4.11.1 層位 (Fig.30)

基本層位として、1～4層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは3層のみで、出土量も少ない。

4.11.2 包含層出土遺物 (Fig.31)

3層より土器部と土器が出土している。このうち、実測できるものは土器片 (119) の1点のみ

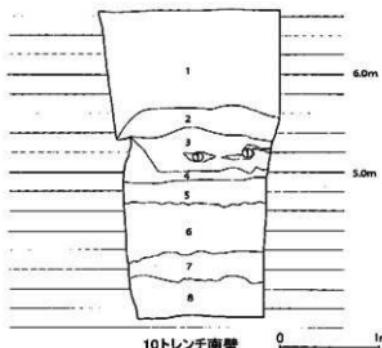


Fig.28 10 トレンチ南壁



P1 32 10 トレンチ南壁

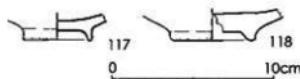


Fig. 29 10 トレンチ出土遺物 S-1/3

Tab. 22. 10. トウシテ出土遺物相容表

| No. | 等級 | 種類 | 特徴 | 色調 | 調査 | 幼虫 | | | | | 備考 |
|-------|----|----|----|--|----------------------|----|---|---|---|---|--------------------------------|
| | | | | | | R | G | B | S | S | |
| 117-2 | 幸台 | 横 | 底部 | 黒褐色：明瞭度0.100T/1に類似 の半透明。若木：灰白色88/0に類似。 | | 2 | 2 | | | | 約1/3生存、反転復元。底径(4.2)cm。高台型竹葉状葉。 |
| 118-2 | 阿賀 | 穂 | 底部 | 外面：オリーブ色104/4に類似。 内面：底白87.5/82に類似。 若木：灰褐色574/2に類似。 | 内面足込み條の目状に粒 みを取り。 | 5 | 2 | | | | 約1/3生存、反転復元。底径(4.9)cm。高台型竹葉状葉。 |

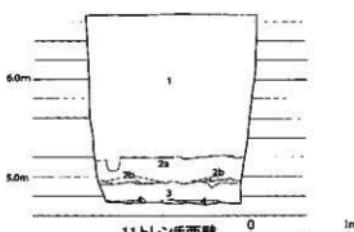


Fig. 30-11 トレンチ西壁

Tab. 31 10 トレンチ層位

| 番号 | 表上. | 色調・十質 | |
|----|------------------------------------|-------|----|
| 1 | 褐色7.5YR4/1. | | 現代 |
| 2 | 褐色7.5YR6/3. マンガン含む。 | | 近代 |
| 3 | にぶい褐色7.5YR6/3. | | |
| 4 | 褐色10YR6/1. シルト質砂。 | | |
| 5 | 褐色10YR5/1. シルト質砂、砾石（1～2cm を含む。） | | |
| 6 | 暗青黒色5BG2/1. 沈炭層。下部に5cm大の砾石 を含む。 | | |
| 7 | 暗青灰色5BG4/1. シルト混じり粗砂。 | | |
| 8 | 青灰色5BG5/1. 粗砂層。 | | |
| ① | 褐色10YR4/1. 砂層。 | | |

Tab. 32 19 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 縦 文 字 古 墳 | 須 恵 器 | 土 師 器 | 土 器 | 商 部 器 | レン ガ | ガ ラ ス | 石 巻 紙 | その 他 | 前 |
|---|-----------------------|-------------|-------------|--------|-------------|---------|-------------|-------------|---------|----|
| 1 | | | | 2 | 8 | | | | | 10 |
| 2 | | | 1 | 43 | | | 1 | 2 | | 47 |
| 計 | | | | 1 | 2 | 51 | | 1 | 2 | 57 |



图 33-10 上山古人类遗物

This image is a dark, high-contrast photograph. It features a prominent, bright, circular light source in the center-right area, which appears to be a lens flare or a reflection. The surrounding area is very dark and noisy, suggesting a low-light environment or a heavily underexposed shot.

PL-34 11 トレンチ西壁

Tab. 34 11 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 |
|----|--|
| 1 | 地表面～堆積面130cmは灰褐色土を基調として粗石やコンクリートブロックを含む。その以下に約25cmの厚さでシラスが盛られ、それ以下は堆積褐色シルト質砂や黑色シルト質砂、堆積褐色シルト質砂がブロック上に洗ざっている。 |
| 2a | 暗灰青色2.5Y4/2, シルト質砂。 |
| 2b | 黄褐色2.5Y4/1, シルト質砂。 |
| 3 | 褐色10YR4/1, シルト質砂。 |
| 4 | 黒褐色2.5Y3/1, シルト。 |



Fig. 31 11 トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 35 11 トレンチ出土状況

PL. 35 11 トレンチ出土遺物

| 層 | 縦 文 化 生 境 器 器 類 | 古 墳 土 器 器 類 | 土 器 器 類 | 土 器 器 類 | 南 部 器 器 類 | レ ガ ス ガ ス ガ ス | ガ ラ ガ ラ ガ ラ | 石 器 器 器 類 | その 他の 類 | 計 |
|---|--------------------------------------|----------------------------|------------------|------------------|-----------------------|---------------------------------|----------------------------|-----------------------|---------------|---|
| 3 | | 1 | 3 | | | | | | | 4 |
| 計 | | 1 | 3 | | | | | | | 4 |



PL. 35 11 トレンチ出土遺物

10cm

Tab. 36 11 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層位 | 被覆 | 器種 | 部位 | 色調 | 調整 | 助土 | 標 |
|-------|-----|----|-----|--|----|----|-------------|---|
| 119.3 | 土師器 | 杯 | 口縁形 | 外側: 淡黄褐色10YR8/3. 内側: 内外側: 脱粒小片. 淡褐色5YR8/4. | | | R N R G H S | |

であった。

4.12 12 トレンチ

教育学部2号講義棟の西側に位置する。1.5m四方の大きさである。

4.12.1 層位 (Fig. 32)

基本層位として、1～6層までを確認した。ほぼ水平に整合的に堆積している。遺物が含まれているのは1～5層だが、出土量は少なく、遺物は小片で磨滅している。

4.12.2 包含層出土遺物 (Fig. 33)

遺物は、古墳時代の土器、土師器、土器、陶磁器が1～5層で出土している。このうち実測できるのは5点である。古墳時代の甕(120)、土師器(121・122)、陶器2点(123・124)である。

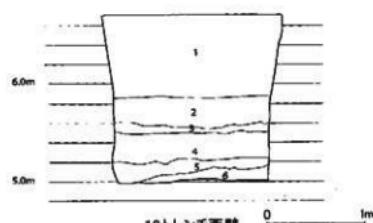


Fig. 32 12 トレンチ西壁

Tab. 37 12 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|---|-------|
| 1 | 土. | 現代 |
| 2 | 黄灰色2.5Y5/1, . 砂混じりシルト. | 近代・近世 |
| 3 | 褐色10YR4/1, 砂混じりシルトを基調とし, 別小箱SY5/8. の鉢分を含む。0.5～2cm大の轆轤を少し含む。 | 近世 |
| 4 | 褐灰色10YR4/1, 砂混じりシルト。0.5～2cm大の轆轤を少し含む。 | |
| 5 | 褐褐色10YR3/1, 砂混じりシルト。0.5～2cm大の轆轤を少し含む。 | 古墳 |
| 6 | 黄色2.5Y6/4, 粗砂層。 | |

Tab. 38 12 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 奥 文 古 土 厚 境 器 器 | 本 古 境 器 器 | 風 土 境 器 器 | 南 境 器 器 | レ 南 境 器 器 | ガ 南 境 器 器 | 石 南 境 器 器 | その 他の 境 器 器 | 計 |
|---|--------------------------------------|-----------------------|-----------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|----|
| 1 | | 2 | | 5 | 1 | | | | 8 |
| 2 | | | | 2 | 3 | | | | 5 |
| 3 | | 1 | | 12 | 11 | 1 | | | 25 |
| 5 | | | 1 | | 2 | | | | 3 |
| 計 | | 4 | | 12 | 20 | 5 | | | 41 |

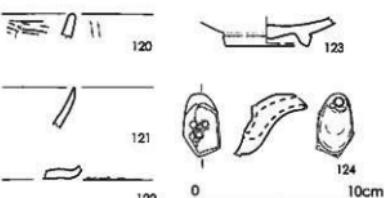
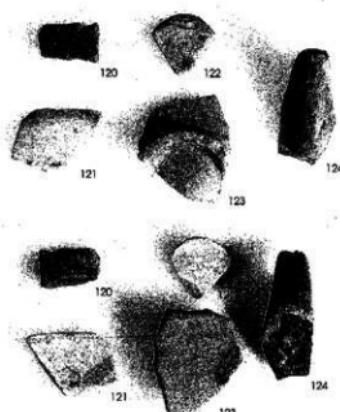


Fig. 33 12 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 37 12 トレンチ出土遺物

Tab. 39 12 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層 位 | 種類 | 特徴 | 部位 | 色調 | 関係 | 跡土 | | | | | 備考 |
|-------|---------|-----|-----------------------------|-------------|----------------------|----|----|----|----|---|----|------------------------------------|
| | | | | | | | R | Y | B | G | H | |
| 120 5 | 古切・土 壁? | 口縁部 | 内外面：褐色7.5YR4/4. | | ハケのちナダ. | | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 直立する口縁部の罐底だらうと推定される。 |
| | | | | | | | CD | CD | CD | A | CD | |
| 121 3 | 土師器 杯 | 口縁部 | 外側：灰白色2.5YR2/2. 内側：普 | | 固面ナダ. | | 2 | 2 | 2 | | | 口縁部が尖り、少し内青灰味に立ち上がる形態を呈する。 |
| | | | | | 内：灰白色10YR3/6. | | C | D | D | | | |
| 122 3 | 土師器 杯 | 底部 | 外側：褐色10YR2/6. 内面： | 外側：磨成している。内 | 面：磨成ナダ. | | 2 | 2 | 2 | | | 平底、單底し、鉄分付着。 |
| | | | 底部：灰白色10YR2/3. | 面：磨成ナダ. | | | C | D | D | | | |
| 123 2 | 陶器 瓢 | 底部 | 胎輪部：灰白色5YR4/3. 内外面：胎輪ナダ. 全面 | | 施釉. | | 3 | 3 | | | | 約1/3施釉、灰釉付着、底径(5.0) cm. |
| | | | 器内：灰白色7/0. | | | | BC | C | | | | |
| 124 3 | 陶器 茶末 | 缺口 | 外面：灰褐色5YR4/2. 内面：褐色 全面施釉. | | 7.5YR4/3. 器内：灰白色0/0. | | 1 | 1 | | | | 注口底丸の穴の部分は、内側に泥土が押出され穴のまわりに付着している。 |
| | | | | | | | D | D | | | | |

4.13 13 トレンチ

テニスコート北西隅に位置する。1.5m四方の大きさである。

4.13. 1 層位 (Fig. 34)

基本層位として、1~6層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは1~5層までで、出土量は少なく、破片も小さく磨滅している。

4.13. 2 包含層出土遺物 (Fig. 35)

出土遺物は古墳時代の土器、須恵器、土師器、土器、陶磁器が出土している。このうち、実測できるものは古墳時代の壺の口縁部と考えられる破片 (125)、土師器2点 (126~127) のみであった。

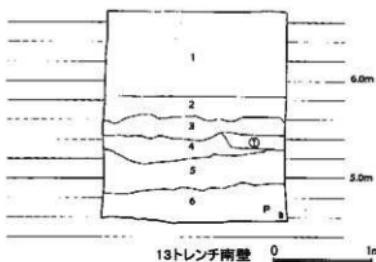


Fig. 34 13 トレンチ南壁層位断面図 S=1/40



PL. 38 13 トレンチ西壁



PL. 39 13 トレンチ出土遺物

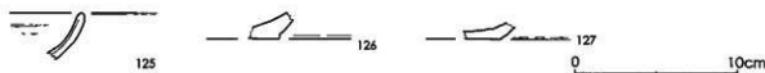


Fig. 35 13 トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 40 13 トレンチ層位

Tab. 40 13 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|---|----|
| 1 | 赤土。 | 現代 |
| 2 | 2.5Y5/1, 黄灰色, 砂混じりシルト。 | |
| 3 | 10YR4/1褐色, 砂混じりシルトを含む。0.5~2cm大の軽石を少しあむ。 | 近世 |
| 4 | 10YR4/1褐色, 砂混じりシルト, 0.5~2cm大の軽石を少しあむ。 | |
| 5 | 10YR3/1黒褐色, 砂混じりシルト, 0.5~2cm大の軽石を少しあむ。 | 古代 |
| 6 | 2.5Y6/4黄色, 粗砂岩。 | |

Tab. 41 13 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 陶 器 文 字 跡 | 甃 生 糞 塊 | 古 墳 器 器 | 鐵 器 器 | 土 器 器 | 陶 器 器 | 織 器 器 | レ ガ ガ ス | 石 器 器 | 其 他の 遺 物 | 計 |
|---|-----------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-------------|-------------------|----|
| 1 | | 2 | | | 1 | 4 | | | | | 7 |
| 2 | | 2 | | | 5 | 4 | | | | | 11 |
| 3 | | 1 | 1 | 3 | 7 | 1 | | | | | 13 |
| 4 | | | 2 | 2 | 3 | | | | | | 7 |
| 計 | | 5 | 3 | 10 | 15 | 5 | | | | | 38 |

Tab. 42 13 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 性別 | 年齢 | 層位 | 色調 | 測定 | 出土 | | | | | 備考 |
|-------|--------|-----|----------------------|--|---|---------|---------|---------|---------|---------|-------------------------------|
| | | | | | | R | G | B | Q | H | |
| 125 1 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 内外面：淡青色～淡緑色2.5Y5/1.5 | 外表面：ナゲ、内面：ハケ | 2 CD | 2 CD | 2 CD | 2 CD | 2 CD | 2 CD | 内青灰色の口縁部、断面に滑落痕が認められる。年成している。 |
| | | 器 | STB5/4、器内：淡赤褐色 | のらむ方向のナゲ。 | | | | | | | |
| | | | 2.5Y5/7.4. | | | | | | | | |
| 126 2 | 土器器 | 杯 | 底部 | 内外面：灰白色2.5Y8/2. | 内表面：粗粒ナゲ、底 面：細粒底。 | 2 C | 2 D | 2 D | 2 D | 2 D | 平底で、立ち上がり部が少し張り出す。年成してい る。 |
| 127 4 | 土器器 | 杯 | 底部 | 外表面：灰白色2.5Y8/2.4、内 面：灰白色7.5Y8/3.3、底面：内 面：粗粒底7.5Y8/2.4. | 底面：粗粒底7.5Y8/3.3、底面：内 面：粗粒底7.5Y8/2.4. | 2 BC | 2 D | 2 D | 2 D | 2 D | 平底、年成している。 |

4.14 14 トレンチ

球技場南東隅に位置する。南北2.5m、東西4.5mの大きさである。

4.14.1 層位 (Fig. 36)

基本層位として、1~7層までを確認した。土層は擾拌されており、4層以下は東側に傾斜している。遺物は1~3層までに含まれており、それ以下は無遺物層である。



PL. 40 14 トレンチ北壁

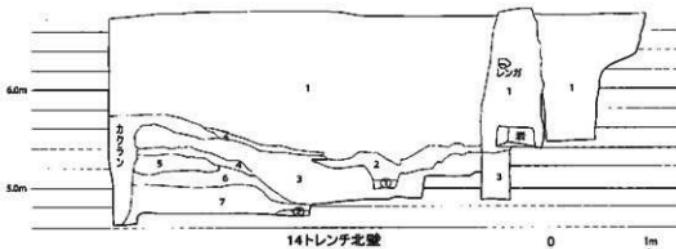


Fig. 36 14トレンチ北壁層位断面図 S=1/40

Tab. 43 14トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|---|-----------------|
| 1 | 灰色Y1/5, 細砂混じりシルト質砂、粗石・礫 20トレンチ1層上を多く含む。 | 20トレンチ1層上と同じ。現代 |
| 2 | オリーブ黄色SY3/5, 粗質シルト, 2cm大の礫 近代・近代石を含む。 | |
| 3 | 暗灰黃色2.5Y2/5, 細砂, 2cm大の礫石を含む 古墳? | |
| 4 | 黃灰黃色2.5Y1/4, 細砂混じりシルト, 2cm大の粗石を含む。 | |
| 5 | 褐色10YR1/4, 細砂, 2cm大の粗石を含む。 | |
| 6 | 暗灰黃色2.5Y2/4, 砂混じりシルト, 2cm大の粗石を含む。 | |
| 7 | 黒褐色2.5Y1/3, 砂混じりシルト, 2cm大の粗石を含む。 | |
| ① | 灰色5T1/5, 粗砂。 | |
| ② | 灰色5T1/4, シルト。 | |

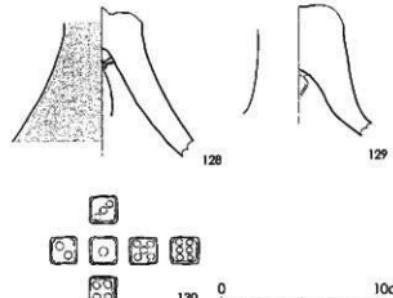


Fig. 37 14トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 45 14トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層 位置 | 種類 | 部位 | 色調 | 汚染 | 断面 | | | | | 備考 |
|---|------------------|-------------|-----|--|---|-----|---|---|---|---|--|
| | | | | | | R | T | B | Q | S | |
| 128.1 | 古墳・土 高付 脚部 | 外 部 | 脚部 | 外表面: 明赤10R4/8に類似, 中色 部: 明赤褐色SY5/6. 内面: 明赤褐色SY5/6. 内面: ハケ? のらナダ. | 外側: 暗赤向のミガキ, 内側: ハケ? のらナダ. | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 脚部との接合部で欠損している。外表面: 中色磨耗付 り、表面: 明赤褐色SY5/6. 内面: ハケ? のらナダ. |
| 129.1 | 古墳・土 高付 脚部 | 内 外 部 | 脚部 | 内外面: 明赤10R4/8に類似。 内面: 黄褐色2.5Y4/5. 内面: ハケ? のらナダ. | 内外面: 明赤10R4/8に類似。 内面: 黄褐色2.5Y4/5. 内面: ハケ? のらナダ. | 5 | 2 | 2 | 0 | 0 | 内外面: 明赤10R4/8に類似。 内面: 黄褐色2.5Y4/5. 内面: ハケ? のらナダ. |
| No. 層 位置 遺物 種類 長さ (cm) 幅 (cm) 厚さ (cm) 重さ (g) | | | | | | | | | | | |
| 130 | 1サイコロ | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 9.3 | 大理石 | 一辺18mmのサイコロである。目は、細く浅く盛んである。色は、白である。表面に着色などは認められない。 | | | | |

Tab. 44 14トレンチ遺物出土状況

| 層 | 鐵 | 銅 | 古 | 陶 | 土 | 瓦 | 骨 | 器 | 器 | 器 | ガラス | 石 | その 他 |
|---|----|---|----|-----|----|---|-----|---|---|-----|-----|---|---------|
| 1 | 18 | 4 | 75 | 16 | 4 | 5 | 122 | | | | | | |
| 2 | 29 | 4 | 2 | 101 | 9 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 149 | | |
| 3 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| 計 | 47 | 4 | 6 | 177 | 25 | | 4 | 2 | 7 | 272 | | | |



PL. 41 14トレンチ出土遺物

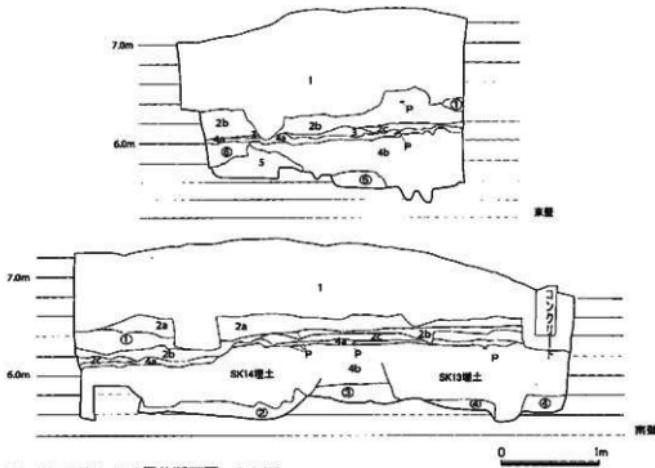


Fig. 38 15 トレンチ層位断面図 S=1/40



PL. 42 15 トレンチ東壁

Tab. 46 15 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|--|-------------------------|
| 1 | 黄土 | 現代 |
| 2a | 褐色7.5YR1/6, シルト質砂, 1~2cm大の 鉄石を多く含む。 | 近代・近世 鉄石が多く含む。 |
| 2b | に赤褐色7.5YR3/6, シルト質砂, 1~2cm大 の鉄石を多く含む, 鉄分浸透。 | 近代・近世 鉄石を多く含む, 鉄分浸透。 |
| 2c | 灰褐色7.5YR2/5, シルト質砂, 1~2cm大の 鉄石を多く含む。 | 近代・近世 鉄石を多く含む。 |
| 3 | 明黄褐色2.5YR6/6, 和卵状じりシルト質砂。 | 古墳? |
| 4a | 暗赤褐色5YR6/5, シルト, 2~3cm大の鉄石を古墳 含む, 鉄分が多く浸透。 | |
| 4b | 黑褐色5YR1/3, シルト, 1~5cm大の鉄石を多 く含む, やわらかい。 | |
| ① | 2b層と黄褐色1.0YR6/5シルト質砂との混土。 4層土をブロックで含む。 | |
| ② | 4b層と5層との混土, 4b層土が多い。 | SK14埋土 |
| ③ | 4b層と5層との混土, ②より5層が多い。 | SK22埋土 |
| ④ | 4b層と5層との混土。 | SK13埋土 |
| ⑤ | 4b層と5層との混土, 半々ぐらいの混在。 | SK14埋土 |
| ⑥ | 黒褐色7.5YR2/3砂混じりシルト。 | SK24埋土 |

Tab. 47 15 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 陶文 器 | 漆生 器 | 古墳 器 | 須 器 | 土 器 | 南 磁 器 | レ ン ガ ス 器 | 石 器 | その 他 | 計 |
|------|---------|---------|---------|--------|--------|-------------|-----------------------|--------|---------|------|
| 1 | 9 | 1 | 39 | 5 | 3 | | | | | 57 |
| 2 | 135 | 2 | 10 | 1035 | 44 | | | 2 | 2 | 1230 |
| 3 | 8 | | | | 1 | | | | | 9 |
| 4 | 7 | 192 | 1 | 3 | 824 | 1 | | 2 | | 1030 |
| SK13 | 1 | 13 | | | 102 | | | | | 118 |
| SK14 | 11 | 69 | | | 218 | 1 | | | | 299 |
| SK21 | 6 | | | | 43 | | | | | 49 |
| P48 | | 2 | | | | | | | | 2 |
| P60 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| P61 | | | | | 2 | | | | | 2 |
| 計 | 18 | 1 | 436 | 4 | 13 | 2265 | 51 | 3 | 4 | 2797 |

4.14.2 包含層出土遺物 (Fig. 37)

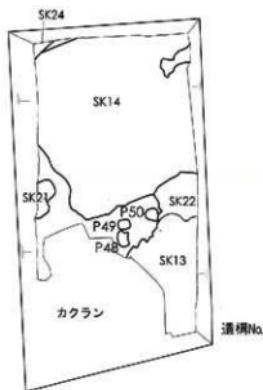
遺物は、土師器、須恵器、土器、陶磁器などが出土している。このうち、実測できるものは古墳時代の高杯 (128・129) と大理石製のサイコロ (130) のみであった。

4.15 15 トレンチ

附属中学校プールの北東隅に隣接する。南北3.2m、東西6mの大きさである。

4.15.1 層位 (Fig. 38)

基本層位として、1~4層までを確認した。いず



Tab. 48 15 トレンチ遺構一覧

| 遺構名 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 地土 | 備考 |
|------|------------|------------|------------|----------------------------|-------------------|
| SK13 | 185.4+e | 114.48+e | | 黒褐色SYR1/3, シルト と層位断面図④ | —○SK22 |
| SK14 | 297.6+e | 254.4+e | | 黒褐色SYR1/3, シルト と層位断面図③⑤ | —●SK24, —○SK22 |
| SK21 | 61.08 | 31.62+e | 24 | 黒褐色SYR1/3, シル ト, | |
| SK22 | 84.12 | 74.52+e | | 黒褐色SYR1/3, シルト, と層位断面図③ | —●SK13-14 |
| SK24 | 45.6+e | 18.0+e | | 層位断面図⑥ | —○SK14 |
| P48 | 19.44 | 13.8 | 22 | 黒褐色SYR1/3, シル ト, | |
| P49 | 21.54 | 19.92 | 45 | 黒褐色SYR1/3, シル ト, | |
| P50 | 20.16 | 19.68 | 21 | 黒褐色SYR1/3, シルト | |

—○ 切る, —● 切られる

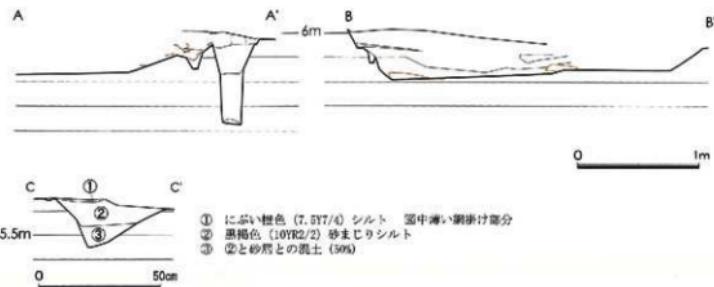
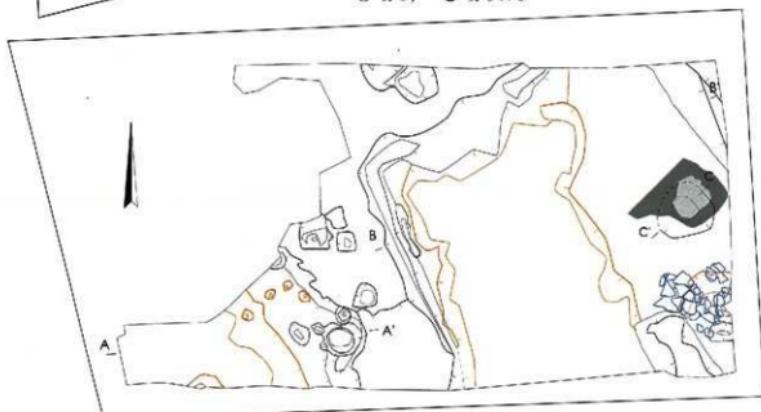
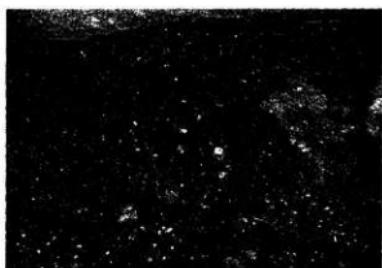
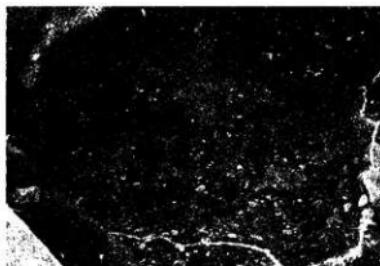


Fig.39 15 トレンチ遺構図 S=1/40, 炉断面S=1/20

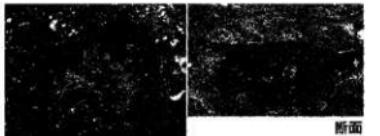
赤は、張床掘削後の底面。青は、床面上上から出土した土器。
濃い網掛けは炭散布範囲。薄い網掛けは橙色のシルト。



PL. 43 5層上面遺構検出状況



PL. 44 SK14床面検出状況



PL. 45 SK14炉

PL. 46 SK14壁溝
西壁付近、黒褐色の埋
土が溝状に残る。幅約
5cm、深さ5~10cm。



PL. 46 SK14床面出土土器
変形土器、脚部以外、ほぼ完
形品だがほとんど内面が上向
きになっている。割って置か
れたものか?

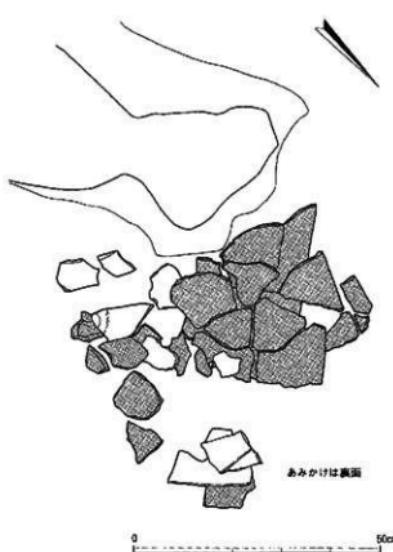


Fig. 40 SK14床面遺物出土状況 S=1/10

れも水平に整合的に堆積している。1~4層まで遺物が多量に包含されていたが、4b層上面で遺構を検出した。

4.15.2 遺構と遺物

4b層上面から土壤状遺構を4基、ビット3基を検出した (Fig. 39)。SK13・14・22は、住居跡と考えられる。

SK13

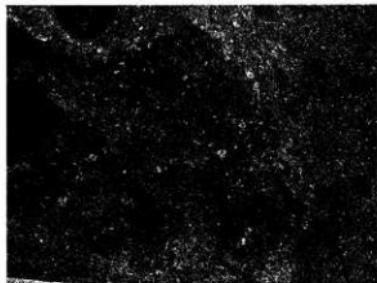
トレンチ北西部に位置する。遺構が調査区外に広がっていることと、現代の搅乱に切られていることから全形は不明だが、立ち上がり部に段を有することや、床面に張り床を有することから住居



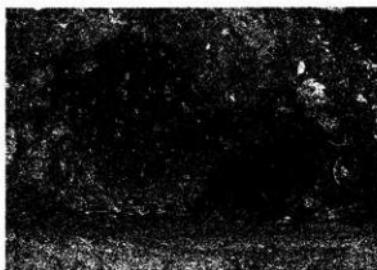
PL. 47 SK14 完掘状況



PL. 48 SK13 完掘



PL. 49 SK22 完掘



PL. 50 SK21 完掘

跡と判断した。壁際段部に、深さ約60cmのピットを1基持つ。張り床を除去した底面は緩やかに西側に傾斜し、住居の中央部に向かって深くなっている。北側にみられる小さなピット群は、張り床除去後に検出されたものである。

出土遺物 (Fig. 41-13 ~ 133)

遺物は、縄文土器と古墳時代の土器が出土している。いずれも埋土中出土である。縄文土器(131)は、SK14の張り床中から出土したものと同じ曾畠式である。古墳時代の土器を含めて小片が多い。

SK14

トレンチ東側に位置する。平面形は一辺が約3mの方形の整穴住居跡である。SK24に東端が切られ、SK22を切っている。張り床を有し、床面東壁際に炉が認められる。炉周辺には薄い炭の層が認められ(濃い網掛け部分)、炉中央部は土壇状を呈し、橙色の粘土が埋土となっていた(薄い網掛け部分)。北壁と西壁は段を有し、床面壁際には、板溝と思われる幅5cmほどの細い溝を検出した。張り床を除去すると、壁際の底面はさらになだらかに傾斜している。北側には、幅30cmほどの段を有する。また、この段を北側に延長した部分を境界として西側が、東側より一段低くなっているのが確認できた。しかし、床面はほぼ平坦であった。北側の段より東側部分は、床面とも若干低くなっている。その床面に密着して甕が出土した(Fig. 40)。床面検出遺物は、これが1点のみである。

甕は、東原式だが、脚部が接合面で外れていた。それ以外の欠損部分はほとんどない。残存率はよいが、ほとんどの破片が内面を上向きに置かれており、つぶれた状態というよりは、割れた破片を置いたものと考えられる。

出土遺物 (Fig. 41-134 ~ Fig. 42)

縄文土器と、古墳時代の土器、くはみ石が出土している。ほとんどが埋土中と、張り床中から出土している。遺物は、曾畠式土器(134~143)、弥生土器の甕(144)、古墳時代前半の甕(145~148・149)、古墳時代後半期の甕(146~147・151~154)、古墳時代の甕(156~157)、古墳時代後半の高杯(158~159)などである。曾畠式土器については、埋土中や張り床中から出土しており、また、同じ型式がSK13からも出土していることから、住居跡に伴うものではなく、5層(砂層)に含まれされたものが住居跡を掘削する際に混ざりこんだものと考

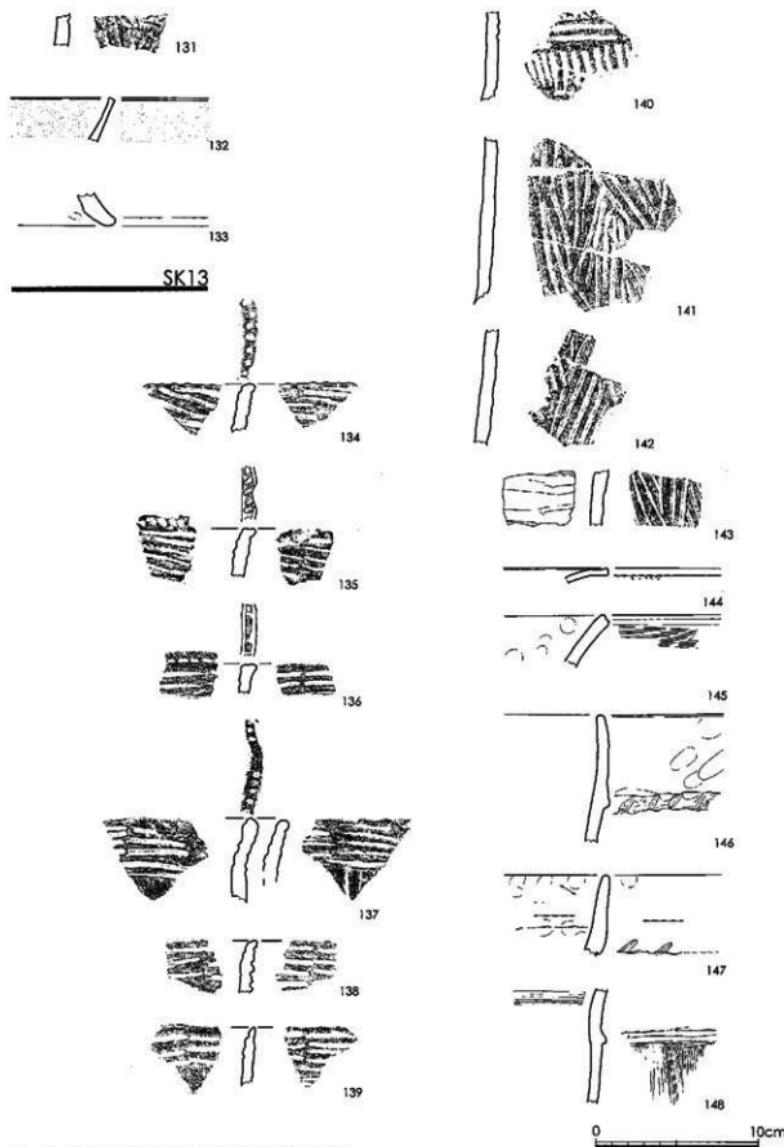


Fig.41 15 トレンチSK13・SK14出土遺物 S=1/3

Tab.49 15トレンチSK13・14出土遺物觀察表

| No. | 種類 | 断面 | 部位 | 色調 | 構造 | 粘土 | | | | | 備考 |
|----------|----------------------------|-----|-----------------------|-------------------------------|------------------------|----|---|---|---|---|----|
| | | | | | | 2 | 8 | 0 | 5 | S | |
| 131 SK13 | 陶文上器 鋼鉢 | 底部 | 内外側：黒褐色10YR5/2、 | 内外面：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | 沈文による鉢。施文した部分に表面をなでていい。外側にスズ付。 | | | | |
| 132 SK13 | 泥生土 不明 | 口縁部 | 外側：灰～明赤褐色5YR5/6～ | 外側：ナガ、 内側：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | 口縁部は平滑で、表面より若干厚く肥厚し | | | | |
| | | | 5/6、赤褐色、内側：墨色、 | | ABC D BCD ABC | | ABC D BCD A BC | | | | |
| 133 SK13 | 吉墳・土 壁 | 脚部 | 外側：灰褐色～墨褐色7.5YR4/2～ | 内外面：ナゲ、 | 5 3 3 3 3 | 3 | 脚部は高く、ふんばるような形状を呈する。 | | | | |
| | | | 3/2、内側：墨褐色2.5YR4/3に墨 | | ABC D BCD C ABC | | | | | | |
| 134 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 9件（削開） | 口縁部 | 外側：灰～墨褐色7.5YR5/3に墨 | 内外面：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | 内外面には比較的口縁部上面には施文によ | | | | |
| | | | 5/6、内側：墨褐色10YR4/1に墨 | | C CD CD BCD BCD ABC | | る施文が確認されている。施文は、施文に沿し、施文内には1条のボジの垂直線が認められるのがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる。削開している。137-141-142-143-172-248と同一個体。 | | | | |
| 135 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 (削開) | 口縁部 | 外側：灰～墨褐色10YR7/4に墨 | 内外面：ナゲ、 | 3 5 3 3 3 | 3 | 内外面には比較的口縁部上面には施文によ | | | | |
| | | | 5/6、内側：灰～墨褐色5YR5/4C | | CD BCD D CD CD | | る施文が確認されている。施文は、施文に沿し、施文内には1条のボジの垂直線が認められるのがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる。削開している。137-141-142-143-172-248と同一個体。 | | | | |
| 136 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 9件（削開） | 口縁部 | 内外面：赤褐色～墨褐色5YR5/6～ | 内外面：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | 内外面には比較的口縁部上面には施文によ | | | | |
| | | | 3/6、 | | CD D CD BC AB | | る施文が確認されている。施文は、施文に沿し、施文内には1条のボジの垂直線が認められるのがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる。削開している。137-141-142-143-172-248と同一個体。 | | | | |
| 137 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 (削開) | 口縁部 | 外側：墨褐色7.5YR5/3に墨 | 内外面：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | 内外面には比較的口縁部上面には施文によ | | | | |
| | | | 5/6、内外面：灰褐色7.5YR4/4、下 | | CD ABCD C C ABC | | る施文が確認されている。施文は、施文に沿し、施文内には1条のボジの垂直線が認められるのがあり、竹管状の工具を使用したものと考えられる。削開している。137-141-142-143-172-248と同一個体。 | | | | |
| 138 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 (削開) | 口縁部 | 外側：灰～墨褐色2.5YR5/3に墨 | 内外面：ナゲ、 | 4 4 4 | 4 | 口縁部は少し外側に反り、施文が尖形形 | | | | |
| | | | 5/6、墨褐色2.5YR5/3に墨 | | CD CD C | | Aを呈する。内外面はもともと竹管状の比較文によって施文を施している。削開している。137-141-142-143-172-248と同一個体。 | | | | |
| 139 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 (削開) | 口縁部 | 外側：墨褐色2.5YR5/3、内側： | 内外面：ナゲ、 | 4 4 | 4 | 口縁部は少し外側に反り、施文が尖形形 | | | | |
| | | | 5/6、墨褐色2.5YR5/2、 | | CD CD | | Aを呈する。内外面はもともと竹管状の比較文によって施文を施している。137-141-142-143-172-248と同一個体。 | | | | |
| 140 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 SK14は 9件（削開） | 脚部 | 外側：浅褐色～灰～墨褐色 | 内外面：ナゲ、 | 4 4 4 4 | 4 | ヘリによる比較文、2条の斜線の跡とその | | | | |
| | | | 10YR6/5～7/3、内側：灰白色 | | CD ABCD CD CD | | A下に斜線の跡が確認されている。施文の比較文の上にも斜線の跡が確認されているようだ | | | | |
| 141 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 9件（削開） | 脚部 | 外側：灰～墨褐色7.5YR4/4～ | 内外面：ナゲ、 | 3 5 3 3 3 | 3 | ヘリによる比較文、4、5条を一起として羽 | | | | |
| | | | 7/6、内側：灰褐色2.5YR5/3、に | | CD BCD D BCD BCD | | 状の文様を左から右に向いて施している。施文内には1条のボジの垂直線が認められた。竹管状の工具を使用したとの可能性である。 | | | | |
| 142 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 (削開) | 脚部 | 外側：灰～墨褐色7.5YR4/4に墨 | 内外面：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | ヘリによる比較文、4、5条を一起として羽 | | | | |
| | | | 5/6、内側：墨褐色10YR3/2に墨 | | CD BCD CD BC BC AB | | 状の文様を左から右に向いて施している。施文内には1条のボジの垂直線が認められた。竹管状の工具を使用したとの可能性である。 | | | | |
| 143 SK14 | 陶文土器 鋼鉢 (削開) | 脚部 | 外側：墨褐色2.5YR5/2に墨 | 内外面：ナゲ？、 | 3 3 3 3 3 | 3 | 外側には施文によって施文の跡が残れ | | | | |
| | | | 5/6、墨褐色10YR3/2に墨 | | ABC ABCD D CD BC | | ている。施文内には1条のボジの垂直線が認められた。137-138-141-142-172-248と同一個体。 | | | | |
| 144 SK14 | 泥生土 置? | 口縁部 | 外側：緑色7.5YR7/6、内側：淡黄 | 外側：瓶内の方のハケの跡 | 3 3 3 3 3 | 3 | 器盤が多く、シャープなつくりである。 | | | | |
| | | | 7.5YR4/4に墨 | 内側：下底赤褐色 ナゲ、内側：青色、内側：ナゲ、内側：ナゲ | BC C D ABCD B ABC | | 緑色7.5YR7/6に墨 | | | | |
| 145 SK14 | 吉墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：墨褐色7.5YR4/1に墨 | 内、外側：瓶内の方のハケ、内側： | 4 4 4 4 4 | 4 | 少し渦曲しながら周囲形で、彫形はヨ | | | | |
| | | | 5/6、内側：灰褐色2.5YR5/6に墨 | 青ナゲ、 | BC ABCD CD ABC BC ABC | | コナギによって跡を残す。少しくぼんでいる。外側にはスグが付着している。 | | | | |
| 146 SK14 | 吉墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：淡褐色7.5YR5/1に墨 | 内外面：墨減している。内 | 4 4 4 4 4 | 4 | 少し内側気泡は盛立する器壁は厚く、表面は墨減している。 | | | | |
| | | | 5/6、内側：灰褐色7.5YR4/4に墨 | 内、外側：ナゲ、ハケ、内側： | ABC ABCD CD ABC BC ABC | | ABCの跡み空隙を有する。表面は墨減している。 | | | | |
| 147 SK14 | 吉墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：墨褐色2.5YR5/1に墨 | 内、外側：ナゲオサの跡のナ | 3 3 3 3 3 | 3 | 器盤、内側気泡は盛立する口縁部で、外側 | | | | |
| | | | 5/6、内側：灰褐色2.5YR4/4に墨 | 内側：ナゲ、内側：ナゲ | ABC ABCD CD ABC BC ABC | | ABCにナゲ跡を残す口縁部を有する。その表面に墨減の跡が残っている。 | | | | |
| 148 SK14 | 吉墳・土 壁 | 内壁 | 外側：墨褐色10YR3/1に墨 | 内、外側：ナゲ、 | 3 3 3 3 3 | 3 | やややわらかに内壁する)空隙を持った口縁部で | | | | |
| | | | 5/6、内側：墨褐色2.5YR2/1に墨 | ナゲ、 | BC BCD CD ABCD BCD ABC | | ある。内壁は、表面が形状が乱し、その下面は下部に施されたハケ工具によって押され | | | | |

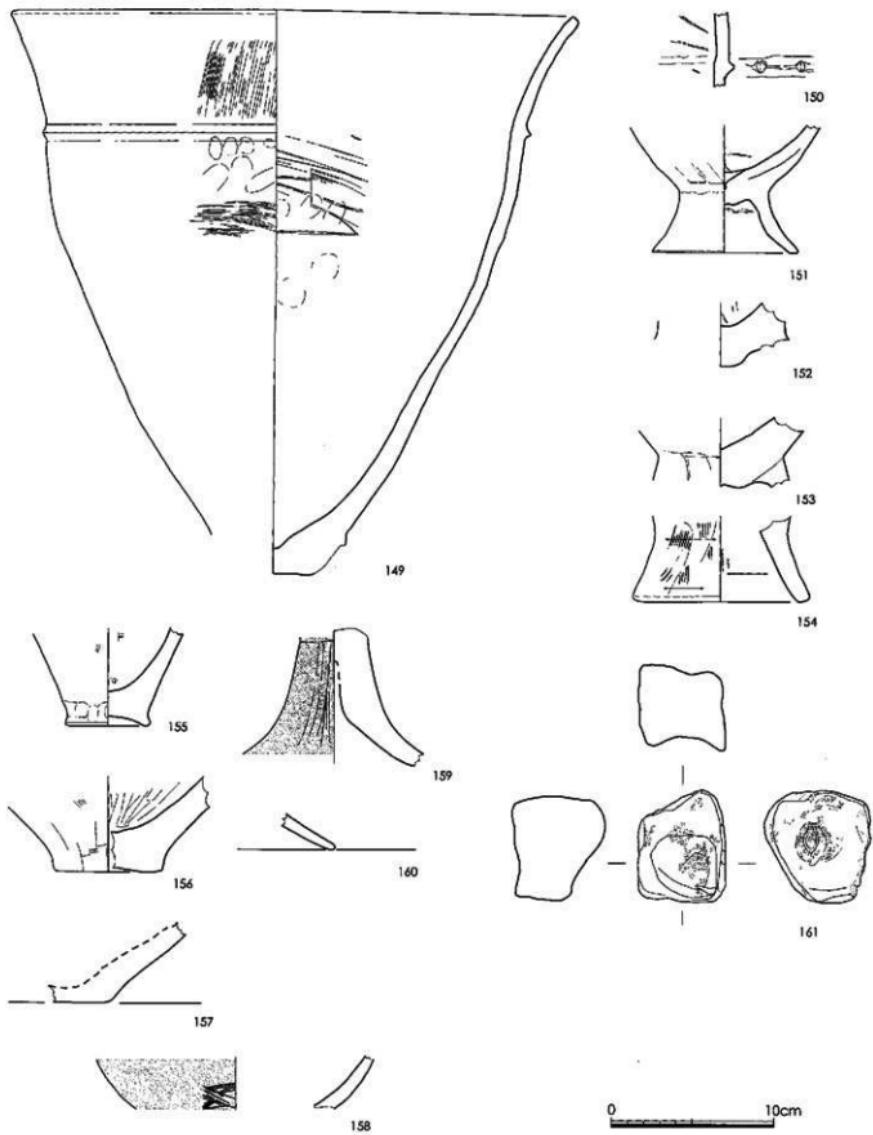
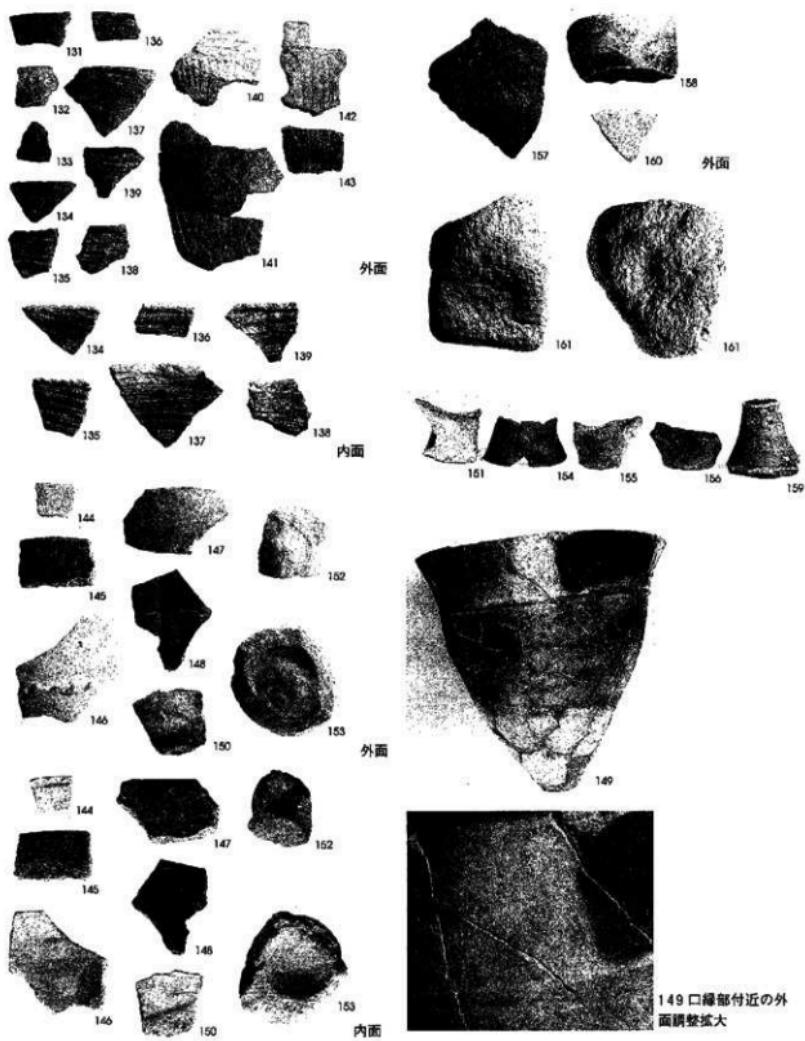


Fig. 42 15 トレンチ SK14 出土遺物 S=1/3



PL. 51 15 トレンチ SK13・14 出土遺物

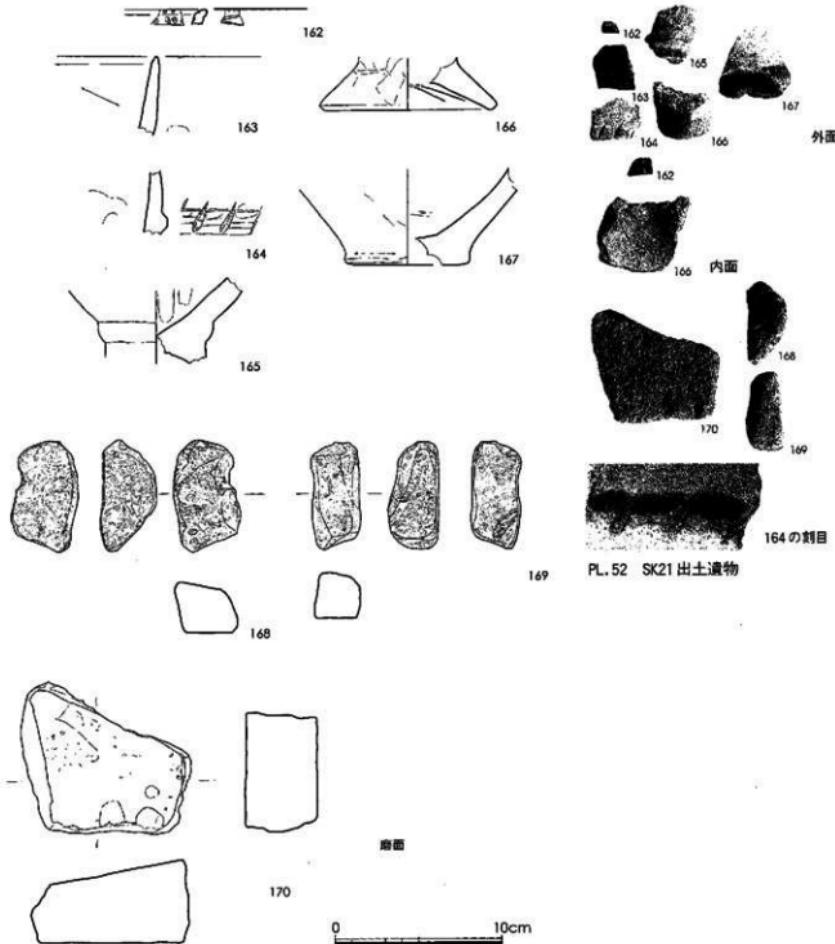


Fig.43 15 トレンチ SK21 出土遺物 S=1/3

Tab. 50 15 トレンチ SK14・SK21 出土遺物観察表

| 石種・ 岩相 | 種類 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石柱 | 備考 |
|-----------|------|------------|-----------|------------|-----------|-----|--|
| 161 SK04 | 閃石石英 | 6.9 | 5.4 | 6.5 | 315 | 安山岩 | 2面にくぼみがあり、くぼみを中心にして底が詰められる。金形の成形は複数である。 |
| 168 SK21 | 輝石長晶 | 6.8 | 4 | 3.35 | 17.9 | 矽岩 | 側面に擦り面が認められる。面の方向などは一定していない。 |
| 169 SK22 | 斜長石 | 6.55 | 2.95 | 3 | 11.4 | 輝石 | 側面に擦り面が認められる。 |
| 170 SK21 | 石墨 | 9.3 | 10.1 | 4.3 | 597 | 安山岩 | 表面に擦り面が認められる。特に背面は滑らかで平坦である。刻形の成形は複数である。 |

Fig. 51 15 トレンチ SK14・21 出土遺物観察表

| 品 種 名 | 種類 | 器種 | 部位 | 色調 | 調査 | 計 | | | | | 備考 |
|--------------------|----|--|---|---|-------------------------------------|--|---|---|---|---|----|
| | | | | | | R | G | B | Q | S | |
| 149 SK14 古墳・土 墓 器 | 古墳 | 外壇 | はぼ光色 外面：にぼい黄赤色10YR7/4に類 内外面：ユビオサエ。ハケ 3/3、内面：灰白色2.5YR17/2に類似。内面：のちナダ。 | 内外面：ユビオサエ。ハケ 3/3、内面：のちナダ。 | 3 S 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 | □底33.3~34.8cm. | | | | | |
| | | (辨な L.) | 上部：にぼい黄赤色1~7.5YR7/4。 灰白色2.5YR17/2に類似。下部：灰 褐色2.5YR5/2に類似。黒褐色 7.5YR3/1に類似。表面：にぼい 灰褐色SYR5/4~6/6。底面：黒 褐色に類似。 | | BC RCD D C C AB | | | | | | |
| 150 SK14 古墳・土 墓 器 | 古墳 | 外壇 | 深褐色 SYR5/6に類似。表面：ナダ。突起部付近 黒褐色2.5YR17/2に類似。内 面：暗赤色3~7.5YR7/4。 | ナダ。突起部付近 コロナ。内面：ハケのちナ ダ。 | 3 3 3 3 3 3 ABCD D ABCD BC ABC | 付近が肥厚している。外面にはスヌが 付着している。 | | | | | |
| 151 SK14 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：青褐色SYR5/4に類似。底面：ナ 赤褐色2.5YR5/4に類似。暗赤色K3/ ナは比較的丁寧だが、ハケ に類似。内面：にぼい黄褐色 10YR7/4。 | ナハケのちナダ。ナ ハケは比較的丁寧だが、ハケ に類似。内面：にぼい黄褐色 10YR7/4。 | ナハケのちナダ。ナ ハケは比較的丁寧だが、ハケ に類似。内面：にぼい黄褐色 10YR7/4。 | 4 4 4 4 4 4 ABCD CD ABCD ABC ABC | 底面：ナダ。見込み部に 黒褐色斑状が確認。外側にも土粒子付着が 確認。 | | | | | |
| 152 SK14 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：赤褐色2.5YR4/6に類似。内 面：にぼい黄褐色SYR5/6に類似。 底面：赤褐色2.5YR5/2。 | 内面：ナダのちナダ。その 後、赤褐色SYR5/6に類似。 見込み：ナダ。 | ナダのちナダ。ナ ハケのちナダ。 | 4 4 4 4 4 4 ABC ABCD RCD ABCD | 約1/2残存。見込み部下方へ著 意。底面も赤褐色SYR5/6に類似。 | | | | | |
| 153 SK14 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：にぼい黄褐色10YR7/3に類似。 内面：黒褐色SYR3/1に類似。 見込み：ナダ。 | 外表面：鈍方向へのハケの ナダ。内面：ナダ。 | ナダ。内面：ナダ。 | 4 4 4 4 4 4 ABCD D ABC BC ABC | 約2/3残存。反復復元。新面に剥離痕 が認められる。 | | | | | |
| 154 SK14 古墳・土 墓 器 | 脚部 | 外壇：明赤褐色SYR5/6に類似。底 面：2.5YR3/2に類似。内面：赤褐 色2.5YR5/6に類似。褐色 7.5YR7/5。 | 底面：明赤褐色SYR5/6に類似。底 面：2.5YR3/2に類似。内面： 赤褐色SYR5/6に類似。底面 7.5YR7/5。 | ナダ。内面：ナダ。 | 5 3 3 3 ABCD CD ABC | 約1/2残存。底面（9.7）cm. 体 幅との合せ部で欠損している。内面部は基 部が剥離している。 | | | | | |
| 155 SK14 古墳・土 体 器 | 底部 | 外壇：赤褐色～淡黃褐色10YR7- 2.5YR7/4. 黄褐色2.5YR1/6. 淡 褐色SYR5/2. 黑褐色2.5YR7/2. 内面： 赤褐色SYR5/2. 黑褐色2.5YR7/2. 底面：黒褐色SYR5/2. 黑褐色2.5YR7/2. | ナダのちナダ。外表面くびれ 部：ユビオサエ黒褐色。 | ナダのちナダ。外表面くびれ 部：ユビオサエ黒褐色。 | 4 5 4 4 4 4 ABC ABCD CD ABCD BC ABC | 約1/2残存。反復復元。底径（6.5）cm. 比 較的丁寧な作り。底部は厚く、底面は少し上 げ底座を形成する。 | | | | | |
| 156 SK14 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：褐色5~7.5YR6/5. 内面： 底面：2.5YR17/2に類似。番唇：赤褐色 7.5YR7/1. | 鈍方向のハケのちナダ。底 面：ナダ。外表面のナダは丁 寧。 | ナダ。外表面のナダは丁 寧。 | 5 3 3 3 ABCD CD ABCD | 約1/2残存。反復復元。底径（6.5）cm. 比 較的丁寧な作り。底部は厚く、底面は少し上 げ底座を形成する。 | | | | | |
| 157 SK14 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：灰褐色～淡褐色7.5YR4/1~ 3/1に類似。内面：淡褐色SYR5/3に のため不明。 | ナダ?。内面：剥離 | ナダ?。内面：剥離 | 4 4 4 4 4 4 ABC ABCD CD ABC | 平底で、底面はゆるやかに盛らんでいる。内 面は基部が崩落している。 | | | | | |
| 158 SK14 古墳・土 高杯 器 | 杯部 | 外壇：赤褐色SYR5/6に類似。赤色 内面：灰白色SYR5/6. 赤色 底面：明赤褐色SYR5/6. 赤色 脚部：明赤褐色SYR5/6. | 外壇：ナダのちミガキ。内 面：ナダのちナダ。 | ナダのちミガキ。内 面：ナダのちナダ。 | 2 2 2 CD CD CD | 約1/6残存。反復復元。鉢の唇部を量る 杯部。底底部との接合部で欠損している。外 面に赤色剥離。 | | | | | |
| 159 SK14 古墳・土 高杯 器 | 脚部 | 外壇：赤褐色2.5YR4/6. 赤色 内面：底面～灰褐色SYR4/3に類似。 脚部：ナダ。 | 外表面：鈍方向のミガキ。内 面：ナダ。 | 外表面：鈍方向のミガキ。内 面：ナダ。 | 5 2 2 CD CD CD | 杯部との接合部で欠損。外側に赤色剥離。 | | | | | |
| 160 SK14 古墳・土 高杯 器 | 脚部 | 外壇：明赤褐色～2.5YR7/4~ 7/6. 内面：藍色2.5YR7/4に類似。 底面：明赤褐色SYR5/6. 赤色剥離。 | 内面：ヨコナダ。 | 内面：ヨコナダ。 | 3 3 3 3 3 3 ABC ABCD CD BCD BC | わずかに赤色剥離が残存している。 | | | | | |
| 162 SK21 地文土器 滲井 | 口部 | 内面：にぼい黄褐色SYR5/4に類似。 底面：にぼい黄褐色SYR5/4に類似。 脚部：にぼい黄褐色SYR5/4に類似。 | 内外面：ナダ? | 内外面：ナダ? | 3 3 3 CD D CD | 外壇：模倣の沈旋律2条。内面：点文土を2列施 す。 | | | | | |
| 163 SK21 古墳・土 墓 器 | 口部 | 外壇：墨褐色SYR3/1に類似。内 外表面：ナダ?。 底面：にぼい黄褐色SYR5/4に類似。 脚部：にぼい黄褐色SYR5/4に類似。 | 内外面：ナダ? 底面：ナダ。 | 内外面：ナダ? 底面：ナダ。 | 3 3 3 3 3 3 ABC ABCD CD BCD BC | 立柱式の厚脚口壺である。外表面にはスヌが付 着している。 | | | | | |
| 164 SK21 古墳・土 墓 器 | 外壇 | 外壇：淡褐色～2.5YR7/3~ 7/6. 内面：灰褐色2.5YR17/1に類 似。灰褐色SYR5/1に類似。 | 内外面：ユビオサエのちナ ダ?。 | 内外面：ユビオサエのちナ ダ?。 | 3 3 3 3 3 3 BCD CD BCD | 底部で、所面崩壊状の剥き目形状を有する。 脚部のみ、ハケ工具によって削されている。 | | | | | |
| 165 SK21 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：暗褐色SYR7/5~7.5YR7/4. 内面：灰褐色SYR5/2に類似。 脚部：にぼい黄褐色 2.5YR5/4に類似。番唇：灰褐色 SYR5/6に類似。 | ナダ。内面：ユビオサエ。 ナダ。ナダ。 | ナダ。内面：ユビオサエ。 ナダ。ナダ。 | 4 4 4 4 4 4 ABCD D ABC BC ABC | 約1/4残存。反復復元。脚台上面に ABC 低い脚台。表面して後が、脚の脚台である 可能性もある。 | | | | | |
| 166 SK21 古墳・土 墓 器 | 脚部 | 外壇：灰褐色SYR5/2に類似。外壇： ユビオサエ。ナダ。 内面：赤褐色～明赤褐色2.5YR6/5~ 5/6. | 内面：ユビオサエのちナ ダ?。 | 内面：ユビオサエのちナ ダ?。 | 3 3 3 3 3 3 ABCD CD ABCD BC ABC | 約1/4残存。反復復元。底径（10.05）cm. ABC 低い脚台。表面して後が、脚の脚台である 可能性もある。 | | | | | |
| 167 SK21 古墳・土 墓 器 | 底部 | 外壇：にぼい黄褐色SYR7/4. 内面：にぼい黄褐色SYR5/4~5/5. 底面：にぼい黄褐色SYR5/6~5/6. | 内面：ナダ? 底面：ナダ? | 内面：ナダ? 底面：ナダ? | 4 4 4 4 4 4 ABCD CD ABC BC ABC | 約1/4残存。反復復元。底径（7.45）cm. ABC 底部で、立ち上がり部分は張り出す形態を呈 す。 | | | | | |

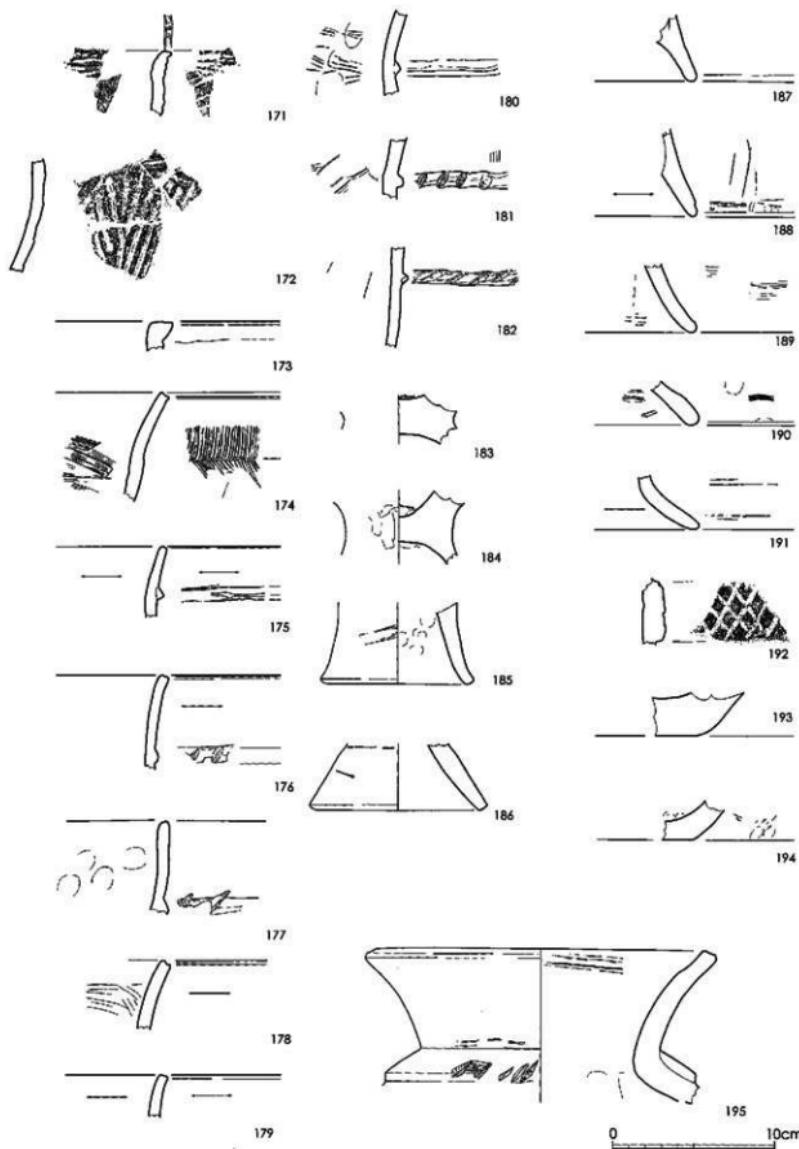


Fig.44 15トレンチ包含層出土遺物 1 S=1/3

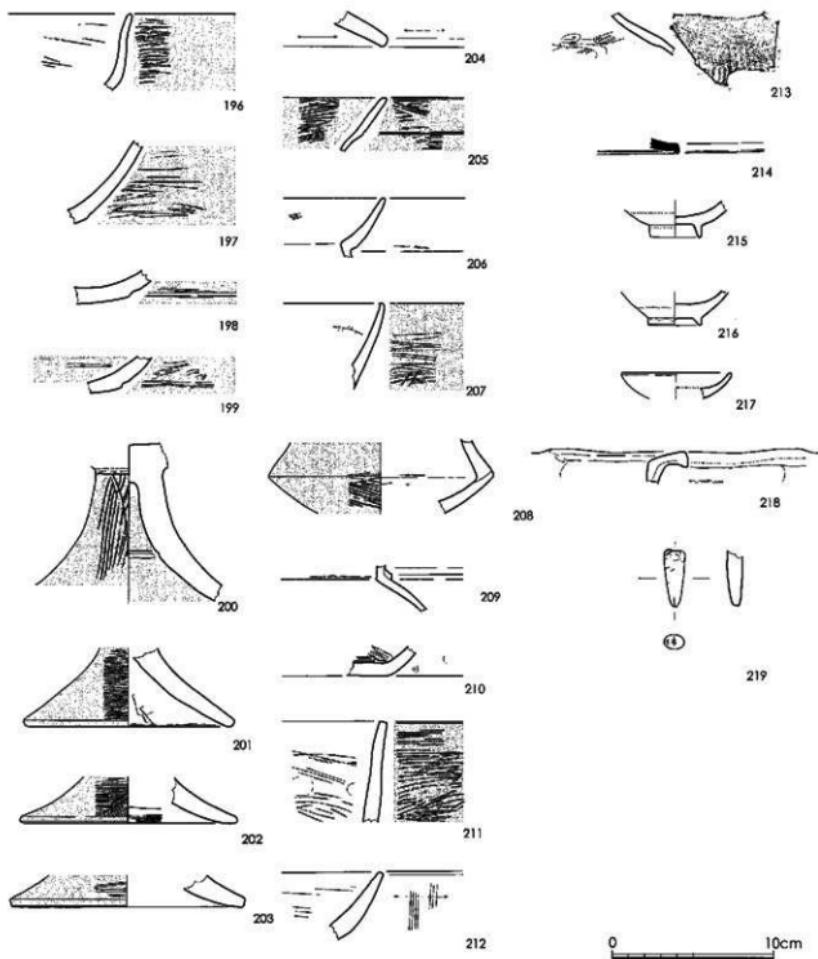


Fig. 45 15 トレンチ包含層出土遺物 2 S=1/3

Tab.52 15 トレンチ包含層出土遺物観察表

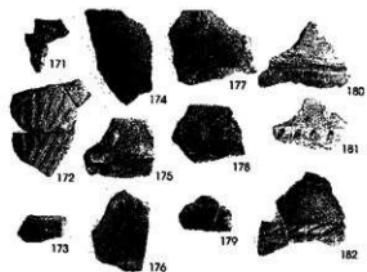
| No. | 層・ 成層 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 備考 |
|-----|----------|------------|-----------|------------|-----------|------------------------------|----|
| 219 | 4 不明 | 3.55±ε | 1.3 | 0.95 | 4 脊型 | 塊状で、下端部が強く、通常に擦り方向の削みが認められる。 | |

Fig. 53 15 トレンチ包含層出土遺物觀察表

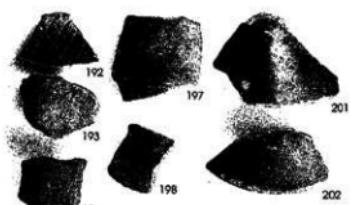
| No. | 用 途 | 形態 | 基盤 | 断面 | 色調 | 表面 | 跡上 | | | | | 備考 |
|--------|---------|-----|---|----------------------------------|----|----|----|---|---|---|---|--|
| | | | | | | | R | E | B | G | I | |
| 171.4 | 與文土器 頭部 | 口縁部 | 外側：暗赤褐色S8B3/3に施乳、内：内外両面：ナゲ。 上面：暗赤褐色S8B3/1に施乳、下： | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 青磁・式。此構文と同文文はより後光。口縁部上面 文文は定らし右方向へ斜めである。内面上面の削 痕は定らし右方向へ斜めである。 |
| 172.4 | 與文土器 深鉢 | 脚部 | 外側上面：暗赤褐色S8B3/3に施乳、下部：内：内外両面：ナゲ。 ふた：暗赤褐色S8B3/2に施乳。内面： にいが黄色S8B3/3に施乳。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | ヘラによる比較によって羽の文様を施して いる。比較するにボジン条線が1本あら、竹管軸の 工具を使用したものが推定できる。環底している る。134-137-142-143-249と同一削痕。序成してい る。 |
| 173.4 | 泥化・土 壁 | 口縁部 | 口縁上面部：にいが黄色 ふた：暗赤褐色S8B3/3に施乳 | 内外面：ナゲ？。 ふた：暗赤褐色S8B3/1に施乳 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 口縁部に三角尖部を吊り付けている。上面ははげ水 ABCD D C C ABC 平。削痕している。 |
| 174.4 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側上面：暗赤褐色S8B3/3に施乳、内：内外両面上面：ヨコナガ。 ふた：暗赤褐色S8B3/1に施乳。内面：に本 にいが黄色S8B3/3に施乳 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | やわらかに外反する口縁部。削痕部はいわゆるカキ くアガによって削痕を成している。外側にスス付着。 |
| 175.4 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内：内外両面上面：ヨコナガ。 ふた：暗赤褐色S8B3/3に施乳 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 短く外反する口縁部。削痕部に1条の三角尖部を施 す。外側にはススが付着している。 |
| 176.2 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側上面：暗赤褐色S8B3/3に施乳、内面： にいが黄色S8B3/5-6。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 端部のみ多く外反する口縁部。各辺み穴開きを持 つ。削み目はハケ工具による。底減し。削み目はハケ工具による。外側にはススと 糞粉付着。 |
| 177.2 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内面： 赤褐色S8B3/2-1、内側：赤褐色 S8B3/6、黒褐色S8B3/2-1 | | | | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 端部のみ多く外反する口縁部。1条の細み穴開 きを持つ。削み目はハケ工具による。外側にはススと 糞粉付着。 |
| 178.4 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 外面：ナゲ、内面：ハケ のちナガ。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | やわらかに外反する口縁部。削痕部は面を持ち、ヨコ くアガによって削痕を成している。外側スス付着。 |
| 179.4 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 外面：ナゲ、内面：ハケ のちナガ。 | | | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | やわらかに外反する口縁部。削痕部は面を持ち、ヨコ くアガによって削痕を成している。外側スス付着。 |
| 180.4 | 古墳・土 壁 | 口縁部 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6、黒褐色 S8B3/2-1に施乳。 | 外面：ヨコナガ、内面： エビササギ、ハケのちナ ガ。 | | | 5 | 3 | 3 | 3 | 3 | 多くの部分に留する口縁部。削痕部に1条の三角尖 部を施す。外側はススが付着している。 |
| 181.2 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ハケのちヨコナ ガ、内面：ハケのちナ ガ。 | | | 3 | 2 | 3 | 3 | 3 | 中なるかに外反する口縁部。削痕部は面を持ち、ヨコ くアガによって削痕を成している。削み目はハケ工具によ る。口縁部は外折している。外側にはスス付着。 |
| 182.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6、黒褐色 S8B3/2-1に施乳。 | 内面：ナゲ？。 | | | 5 | 3 | 3 | 3 | 3 | 頂頭部の削痕、削み目はハケ工具によって施され ていて。外側スス付着。 |
| 183.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | ABC D BC BC ABC いいが、削痕部は1条のみである。 |
| 184.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | ABC D BC BC ABC いいが、削痕部は1条のみである。 |
| 185.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1/3腰舟、尻筋底元、尾端（P.75）cm。作創との 結合部で欠損している。埋滅している。 |
| 186.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/3腰舟、尻筋底元、底端（P.15）cm。外側ス ス付着。 |
| 187.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 複合式で欠損している。数分割。 |
| 188.4 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 複合式で欠損している。 |
| 189.1 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：にいが黄色S8B3/5-6、黒褐色S8B3/2-1に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 削痕している。 |
| 190.2b | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 明るい黄色S8B3/5-6。 |
| 190.2c | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：区画色7.5YR8/3に施乳。内 にいが黄色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 明るい黄色S8B3/5-6。 |
| 191.2 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：明赤褐色S8B3/6、内面：に 外側：暗赤褐色S8B3/5-6。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | くるやかに屈曲して薄く削痕。 |
| 192.2 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側上面：暗赤褐色S8B3/3に 外側下面：白褐色S8B3/1に施乳。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 大型の窓によく付ける。海波文様、斜め格子文 ABC D ABC BC ABC を施す。削痕の中には有田花瓶が認められる。 |
| 193.2 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：青磁錦文-赤褐色S8B3/6-に 内面：黒褐色S8B3/1に施乳。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 青磁だが底面がゆるやかに内面をもつ。器底が厚 い。 |
| 194.2 | 古墳・土 壁 | 内面 | 外側：青磁錦文-赤褐色S8B3/6-に 内面：黒褐色S8B3/1に施乳。 | 内面：ナゲ？。 | | | 3 | 4 | 4 | 4 | 4 | ABC D ABC CD ABC |

Fig.54 15トレンチ包含層出土遺物観察表2

| No. | 種類 | 部位 | 色調 | 測定 | 鉄土 | | | | | 備考 |
|--------|----------|------|--|--|-----|-----|-----|----|-----|--|
| | | | | | B | T | H | G | S | |
| 195.2 | 古墳・土器 | 口縁・腹 | 外表面:赤褐色～褐色7.5M4/6、内表面:赤褐色7.5M4/7。 | 外表面:ハケ7.5のちナダ、内面:ユビオサギのちナダ、口唇部附近:ハケのちナダ。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 約1/6周が、灰褐色灰、口径(31.7)cm。大 |
| | | | | | ABC | BCD | ABC | BC | ABC | 底の直角部に鉄化灰が残す。椎山古墳にはハケ内面による鉄化目が施されている。内面は鐵化度以下の状態が判別している。全体に鐵化している。 |
| 196.4 | 古墳・土・高杯 | 口縁部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:赤褐色2.5M4/7。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ハケ7.5のちナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 端部が緩やかに外弧する口縁部、外側には石 |
| | | | | | CD | B | D | | | C 滑動研磨材。 |
| 197.4 | 古墳・土・高杯 | 杯部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5に鉄斑、赤色5M4/6に鉄斑、内表面:黒色5M4/7に鉄斑、内面:ナダ。 | 外表面:ミガキ、内面:ナダ。 | 5 | 2 | 2 | | | 2 |
| | | | | | CD | D | CD | | | C |
| 198.4 | 古墳・土・高杯 | 杯部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:赤褐色2.5M4/7。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:明褐色2.5M4/5に鉄斑、内面:ナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 研磨下部、外側立ち上がり部には、ゆるい段 |
| | | | | | D | D | CD | | | C を有する。外側に赤色顔料、鉄分含有。 |
| 199.4a | 古墳・土・高杯 | 杯部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:ミガキ。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ミガキ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 |
| | | | | | BC | D | BC | | | C 滑動研磨材。 |
| 200.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:黒色2.5M4/7、黒色5M4/8、内面:ナダ。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ミガキ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 研磨との滑動部で欠損している。外表面に赤色顔料、鉄分含有。 |
| | | | | | C | CD | D | | | C 内面は、ムラがあり少し込んでいた箇所には付着していない。内面に鉄化銀がある。 |
| 201.4b | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:赤褐色2.5M4/7。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ミガキ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 油り目銀、灰褐色灰。口径(12.95)cm。外 |
| | | | | | CD | D | CD | | | C 面に赤色顔料含有。 |
| 202.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:黒色2.5M4/7、黒色5M4/8、内面:ナダ。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ミガキ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 油り目銀、灰褐色灰。口径(13.35)cm。外 |
| | | | | | CD | D | CD | | | C 面に赤色顔料。 |
| 203.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内表面:赤褐色2.5M4/7。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:赤褐色2.5M4/6に鉄斑。 | 2 | 2 | 2 | 2 | | 2 約1/6周が、灰褐色灰。口径(14.15)cm。外 |
| | | | | | C | CD | D | BC | | C 面部、底部は壳をもつ。外側に赤色顔料。 |
| 204.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内面:ナダ。 | 外表面:ミガキ。 | 3 | 3 | 3 | | | 3 調査記。 |
| | | | | | BCD | B | ABC | | | ABC |
| 205.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内面:ナダ。 | 板方向のミガキ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 真面目付近から少し欠損し、ややいぶれ銀状の |
| | | | | | CD | B | D | | | C 銀を有する。底部は丸く、内面ともに赤色顔料で付着している。 |
| 206.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、内表面:赤褐色2.5M4/6。 | 外表面:ミガキ7.5のちナダ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 内側する口縁部で、摩耗している。 |
| | | | | | CD | D | CD | | | C |
| 207.4a | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内面:ナダ。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ミガキ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 約1/6周が、灰褐色灰。内側脚部の口脚部と |
| | | | | | BC | CD | B | | | C 部断面が薄く、断面が細くなる形を呈する。網状出張部の断面が鉄化銀が詰まっている。外表面に赤色顔料を施す。 |
| 208.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色2.5M4/5、赤色5M4/6、内面:ナダ。 | 外表面:板方向のミガキ、内面:ミガキ。 | 3 | 3 | 3 | | | 3 調査記。 |
| | | | | | BCD | B | ABC | | | ABC |
| 209.4 | 古墳・土・小底座 | 脚部 | 外表面:内面上面:に赤褐色、赤色5M4/6、下面:赤褐色2.5M4/7、赤色5M4/8。 | 外表面:ミガキ7.5のちナダ、下面:ミカナ。 | 3 | 3 | 3 | | | 2 内側する口縁部で、摩耗している。内部の銀斑 |
| | | | | | BCD | B | ABC | | | C 面部が非常に明瞭で、その上に口脚部との接合部が見られる。シャープを作りである。 |
| 210.4 | 古墳・土・高杯 | 底部 | 外表面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面:内面上面:ミカナ、5M4/7、5M4/8に鉄斑、赤褐色5M4/9に鉄斑、内面下面:赤褐色5M4/10に鉄斑。 | 外表面:ナダ7.5、内面:ミカナ7.5の5cm程のハケ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 平底で、立ち上がり部が塔の塔頂には明瞭な銀 |
| | | | | | CD | D | BCD | | | C 銀が認められる。 |
| 211.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面:内面上面:ミカナ、5M4/7、5M4/8に鉄斑、赤褐色5M4/9に鉄斑、内面下面:赤褐色5M4/10に鉄斑。 | 外表面:ナダ7.5、内面:ミカナ7.5の5cm程のハケ。 | 2 | 2 | 2 | | | 2 (注)垂直する山底部、底部には手を持ち、下 |
| | | | | | CD | D | BCD | | | C 面はわずかに膨らみ、外側に赤色顔料。 |
| 212.4 | 古墳・土・高杯 | 脚部 | 外表面:赤褐色5M4/6、5M4/7銀斑、内面:内面上面:ミカナ、5M4/7、5M4/8に鉄斑、赤褐色5M4/9に鉄斑、内面下面:赤褐色5M4/10に鉄斑。 | 外表面:ミカナ7.5、内面:ミカナ7.5の5cm程のハケ。 | 3 | 3 | 3 | | | 3 構造的器形を益する。外側にスジが付着して |
| | | | | | BCD | B | BCD | | | ABC いる。 |
| 213.4 | 調査器・壺 | 脚部 | 外表面:赤褐色5M4/6、5M4/7銀斑、内面:内面上面:ミカナ、5M4/7、5M4/8に鉄斑、赤褐色5M4/9に鉄斑、内面下面:赤褐色5M4/10に鉄斑。 | 外表面:ミカナ7.5、内面:ミカナ7.5の5cm程のハケ。 | 2 | 2 | | | | 2 壺部への立ち上がり部は欠損している。 |
| | | | | | BCD | D | BCD | | | ABC |
| 214.2 | 鍵匙器・壺 | 口縁部 | 外表面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面:内面上面:ミカナ7.5、内面:ミカナ7.5の5cm程のハケ。 | 外表面:ミカナ7.5、内面:ミカナ7.5の5cm程のハケ。 | 2 | 2 | | | | 2 键匙器の底面などつくりはシャープ。 |
| | | | | | CD | CD | | | | ABC |
| 215.2 | 匙子・壺 | 底部 | 透明感、透明:白色。 | 全周透明。 | | | | | | 約1/3周が、灰褐色灰。口径(2.9)cm。 |
| | | | | | D | | | | | ABC |
| 216.2 | 筒器 | 底 | 外表面:内面上面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面下面:赤褐色5M4/7に鉄斑。 | 外表面:内面上面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面下面:赤褐色5M4/7に鉄斑。 | 2 | 2 | | | | 約1/3周が、灰褐色灰。口径(3.05)cm。 |
| | | | | | BCD | D | BCD | | | ABC |
| 217.2 | 筒器 | 杯 | 口縁部 | 外表面:赤褐色5M4/6、内面:内面上面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面下面:油り目銀に赤褐色5M4/7に鉄斑。 | 2 | 2 | | | | 約1/6周が、灰褐色灰。口径(5.6)cm。 |
| | | | | | BCD | B | | | | ABC |
| 218.2 | 筒器 | 壺 | 口縁部 | 外表面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面:内面上面:油り目銀に赤褐色5M4/6、内面下面:油り目銀に赤褐色5M4/7に鉄斑。 | 3 | 3 | 3 | | | 3 口縁部の一部が壊れており、口部であると |
| | | | | | BC | D | BC | | | ABC は認定できる。 |
| | | | | | BCD | | | | | |



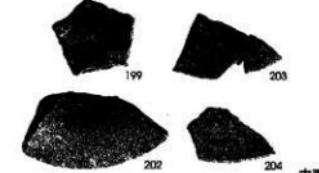
† 外面



† 外面



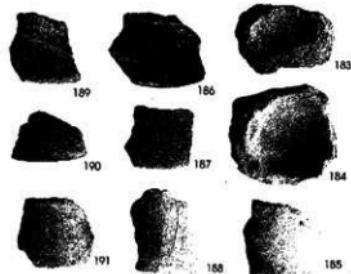
内面



内面



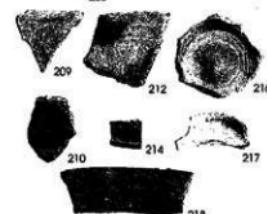
174 の外面（左）内面（右）の調整



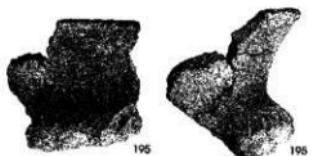
外 面



† 外面



内面



外 面



下 面

PL. 53 15 トレンチ包含層出土遺物

えられる。古墳時代の遺物に関しては、前半期のものと後半期のものが出土している。149以外は、埋土中出土遺物であることから、住居跡の時期は古墳時代前期であると考えられる。

SK21

調査区北側に位置する。土壤状造構としたが、ふたつのピットが重なったものである。ピットの新旧関係は不明である。埋土中より古墳時代の土器と石器が出土している。

出土遺物 (Fig. 43)

埋土中より、曾畠式土器 (162), 古墳時代後半の壺 (163～165), 古墳時代の壺 (166), 古墳時代の壺 (167), 軽石製品 (168・169), 石皿 (170) が出土した。

SK22

調査区南側に位置し、SK13とSK14に切られている。壁はなだらかに南側に傾斜しており、明確な下場のラインは確認できなかった。埋土中からも遺物は出土していない。

ピット (P48～P50)

SK13とSK14にはさまれた部分にピットを3基検出した。それぞれ、古墳時代と考えられる土器片が埋土中より出土しているが、実測できるものはなかった。このピットがどの造構と関連があるのかは不明である。

包含層出土遺物 (Fig. 44・45)

包含層からは、特に2・4層中より遺物が多量に出土している。遺物は、曾畠式土器 (171・172), 入来I式の壺 (173), 古墳時代前半の壺 (174～176・178～181), 古墳時代後半の壺 (177), 古墳時代の壺 (182～191), 古墳時代後半の壺 (192・193・195), 古墳時代の壺 (194), 古墳時代後半の高杯 (196～204), 古墳時代後半の壺 (205・207・208), 古墳時代の壺または小形丸底壺 (206・209・210)・古墳時代の鉢 (211・212), 須恵器 (213), 古代の須恵器 (214), 染付け椀 (215), 陶器 (216～218), 石錐? (219) である。

4.16 16トレンチ

球技場南西隅に位置する。南北3m, 東西5.8mの大きさである。

4.16.1 層位 (Fig. 46)

基本層位として、1～5層までを確認した。3層まではほぼ水平に整合的に堆積している。遺物は、

1層から4層まで多量に出土している。また、4層上面から造構が検出された。

4.16.2 造構と遺物

4層上面より、住居跡6基 (SK15～19・20) と、土壤状造構1基 (SK23), ピット4基が検出された (Fig. 47)。

SK15

調査区東側に位置し、SK19に切られ、SK18を切っている。SK19との境界が検出面でははっきりしなかったため、C-C'の位置に幅20cmのテストトレーンを設置して5層まで掘削した。その結果、SK19に張り床を確認したことから、両者の埋土をSK15の床面まで掘り下げた。SK15の床面がSK19の埋土にきされていたことから、両造構の新旧関係と範囲を認定した。その結果、SK19の北側の壁が西よりにかたよる形状を呈している。

SK15は平面形が一辺約3mの方形を呈する住居跡であると考えられる。南側のコーナー部には、壁に段を持つ。また、約10cmほどの厚さの張り床を持つ。中央部より少し南よりに炉を配し、炉の周りには炭が薄く広がっている (濃い網掛け部)。炉は少しくぼんでおり、橙色の粘土を基調とする埋土がつまっている。

出土遺物 (Fig. 48)

埋土中より、多くの遺物が出土している。実測可能なものの詳細をあげると、古墳時代前半の壺 (220・221・224・226), 古墳時代後半の壺 (222・223), 古墳時代の壺 (225～228), 古墳時代後半の壺 (229・230・231), 古墳時代後半の高杯 (232), 古墳時代後半の壺 (233・234), 古墳時代の壺 (235), 軽石製品 (236) である。

SK16

調査区西側に位置する、柄鏡型の住居跡である。



PL. 54 16トレンチ東壁

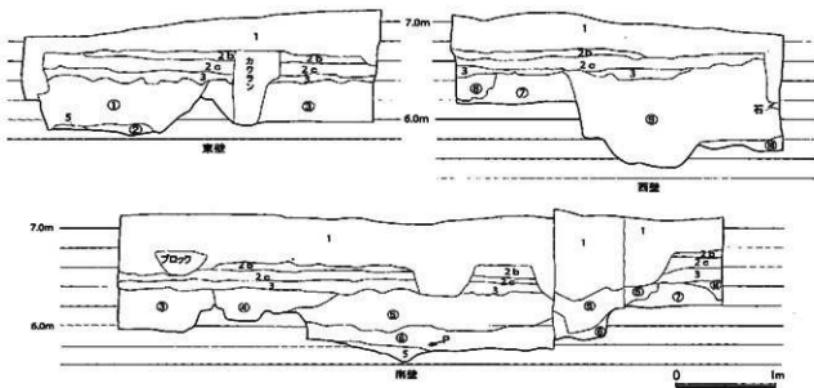


Fig. 46 16トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 55 16トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|---|---------|----|
| 1 表土 | | 現代 |
| 2a 黒褐色7.5YR1/6, シルト質砂, 1~2cmの大 の軽石を多く含む。 | | |
| 2b にいわ褐色7.5YR3/6, シルト質砂, 1~2cm大 の軽石を多く含む。鉄分浸透。 | | |
| 2c 黒褐色7.5YR2/5, シルト質砂, 1~2cm大の 軽石を多く含む。鉄分浸透。 | | |
| 3 明褐色2.5Y6/6, 粘土混じりシルト質砂。 | | 古墳 |
| 4 SYR1/3黒褐色, シルト, 1~5cmの大の軽石を多 く含む。 | | 古墳 |
| 5 2.5Y3/6, にいわ褐色, 粘土混じりシルト。 | | 古墳 |
| ① 黒褐色7.5YR2/3, 粘土混じりシルト, 2~3cm大 の軽石を含む。5層土をブロックで含む。 | SK15堆土 | |
| ② 5層土と①との混土。 | SK15堆土 | |
| ③ 黒褐色SYR1/3, シルト, 1~5cmの大の軽石を多 く含む。やわらかい。 | SK17堆土 | |
| ④ ③と同じだが、境界付近で③の方が若干褐色見 せる。 | SK23堆土 | |
| ⑤ ③~④に類似。若干色が薄い。 | SK20堆土 | |
| ⑥ 黒褐色7.5YR1/3, 砂質シルト, 上部に粗砂の うすい層が認められる部分がある(床面), 上 層より色が濃い。5層土を2~3cmのブロッ クで含んでいる。 | SK20堆土上 | |
| ⑦ 黒色1/1.7シルト。 | | |
| ⑧ ⑦に類似するが, ⑦をブロックで含む。 | | |
| ⑨ 黒褐色SYR1/2, 砂質シルト, 1~5cm大 の軽石を多く含む。黄土を含む。 | SK16堆土 | |
| ⑩ ⑨と5層土との混土。 | SK16堆土 | |

SK19に切られている。南東方向にのびる幅1mの
スロープ状の張り出しを持ち、厚さ約10cmの張り
床を呈する。張り床を除去した底面は、ゆるやか
に中心部に向かって傾斜している。底面の北東部
が浅いピット状の落ち込みがいくつか認められる

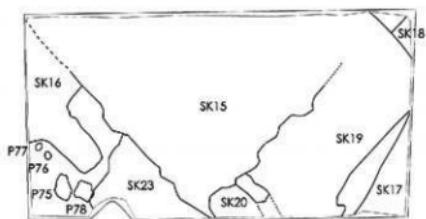
Tab. 56 16トレンチ遺構一覧

| 遺構名 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 深さ (cm) | 種上 | 備考 |
|------|------------|------------|------------|---------------------------|--------------------------|
| SK15 | 300+ε | 172.8+ε | | 層位断面図①② | —●SK18-19 |
| SK16 | 268.8+ε | 147.6+ε | | 層位断面図②③ | —●SK19 |
| SK17 | 177.6+ε | 74.4+ε | | 層位断面図③ | |
| SK18 | 104.52+ε | 51.6+ε | | 層位断面図②類似 | —●SK15 |
| SK19 | 304.8+ε | 297.6+ε | | 黒褐色7.5YR2/3, 砂混じ りシルト。 | 16・20 —○SK15- SK19 |
| SK20 | 40.2 | 32.52 | | 層位断面図④⑤・⑥ | —●SK19 |
| SK23 | 147.96+ε | 129.72+ε | | 層位断面図⑤ | |
| P75 | 46.68 | 29.16 | 6.8 | 黒褐色SYR1/3, シルト | |
| P76 | 14.76 | 10.92 | 8.8 | 黒褐色SYR1/3, シルト | |
| P77 | 14.7 | 10.8 | 8.3 | 黒褐色SYR1/3, シルト | |
| P78 | 27.96+ε | 27.96 | | 黒褐色SYR1/3, シルト | |

—○ 切る, —● 切られる

Tab. 57 16トレンチ遺物出土状況

| 層 | 通 文 件 | 古 墳 | 積 土 | 上 土 | 陶 器 | レ ン ジ | ガ ラ ス | 石 器 | 其 他 | 計 |
|------|-------------|--------|--------|--------|--------|-------------|-------------|--------|--------|-------|
| 1 | 1 | 91 | 2 | 470 | 9 | 3 | 1 | 1 | 1 | 578 |
| 2 | | 132 | 3 | 3 | 1498 | 9 | 1 | | 1 | 1649 |
| 3 | 2 | 125 | 5 | 1 | 788 | 2 | | | | 923 |
| 4 | | 450 | 1 | 1403 | | | 2 | | | 1856 |
| SK15 | 1 | 411 | | 1625 | 1 | | 9 | | 1 | 2047 |
| SK16 | | 75 | | 233 | | | 5 | | 2 | 313 |
| SK17 | | 10 | | 62 | | | | | | 72 |
| SK18 | | 1 | | | | | | | | 1 |
| SK19 | 1 | 1 | 332 | | 1246 | 1 | 12 | | 1 | 1593 |
| SK20 | | 2 | | | | | | | | 2 |
| SK23 | 1 | 49 | | 77 | | | 5 | | | 132 |
| 計 | 2 | 5 | 1678 | 11 | 6 | 7402 | 22 | 4 | 1 | 29166 |



PL. 55 16 トレンチ4層上面遺構検出状況

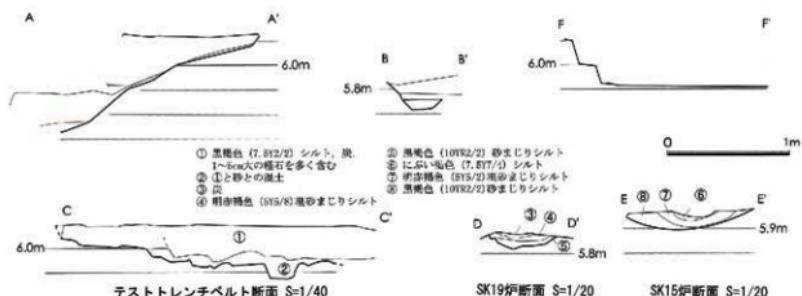
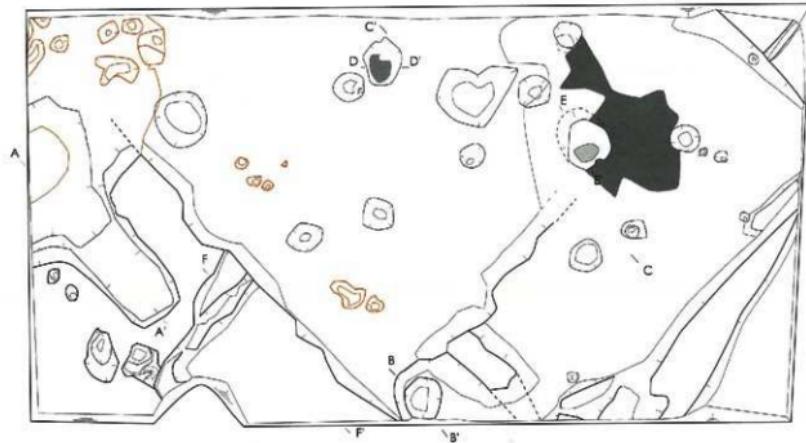


Fig. 47 16 トレンチ遺構図 S=1/40



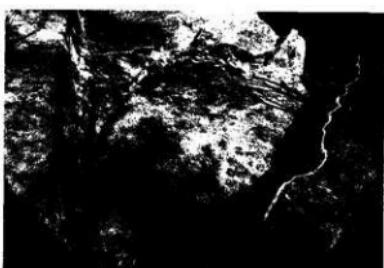
PL. 56 テストトレンチベルト断面



PL. 57 SK19出土鉦錠車



PL. 58 SK15-19床面検出状況

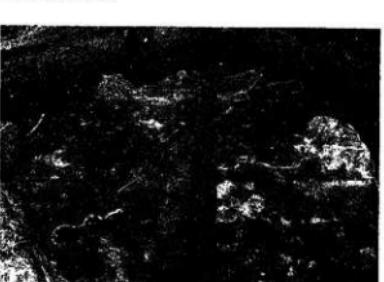


PL. 61 SK19完掘



PL. 59 SK15-19床面検出状況

埋土観察用ベルト除去後
手前がSK19

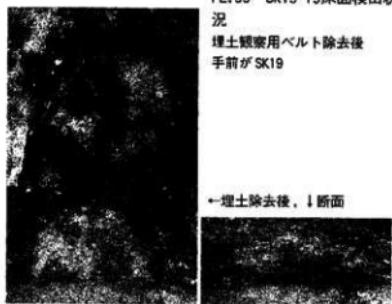


PL. 62 SK15床面検出状況



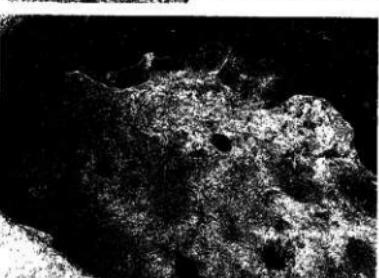
PL. 63 SK15炉跡

→埋土除去後、↓断面



→埋土除去後、↓断面

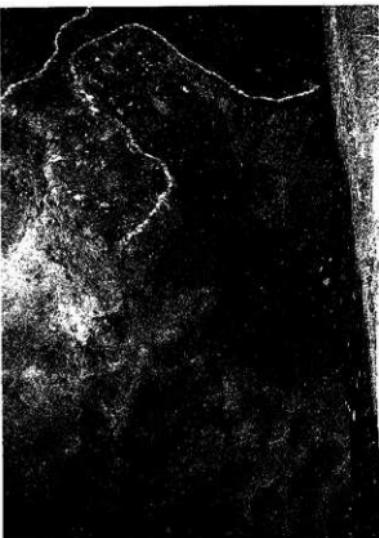
PL. 60 SK19炉跡



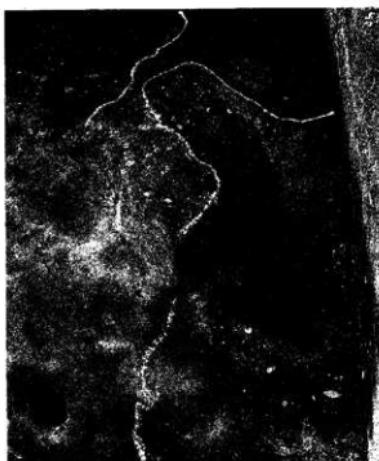
PL. 64 SK15完掘



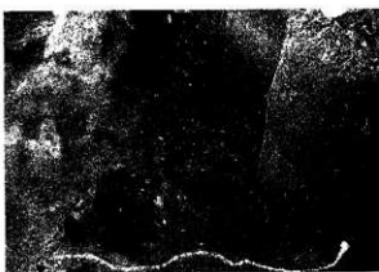
PL. 65 SK16 埋土断面



PL. 69 SK16 完掘



PL. 66 SK16 床面検出状況



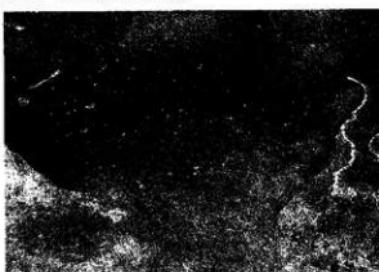
PL. 70 SK23 床面検出状況



PL. 67 SK17



PL. 68 SK18 壁溝



PL. 71 SK23 完掘

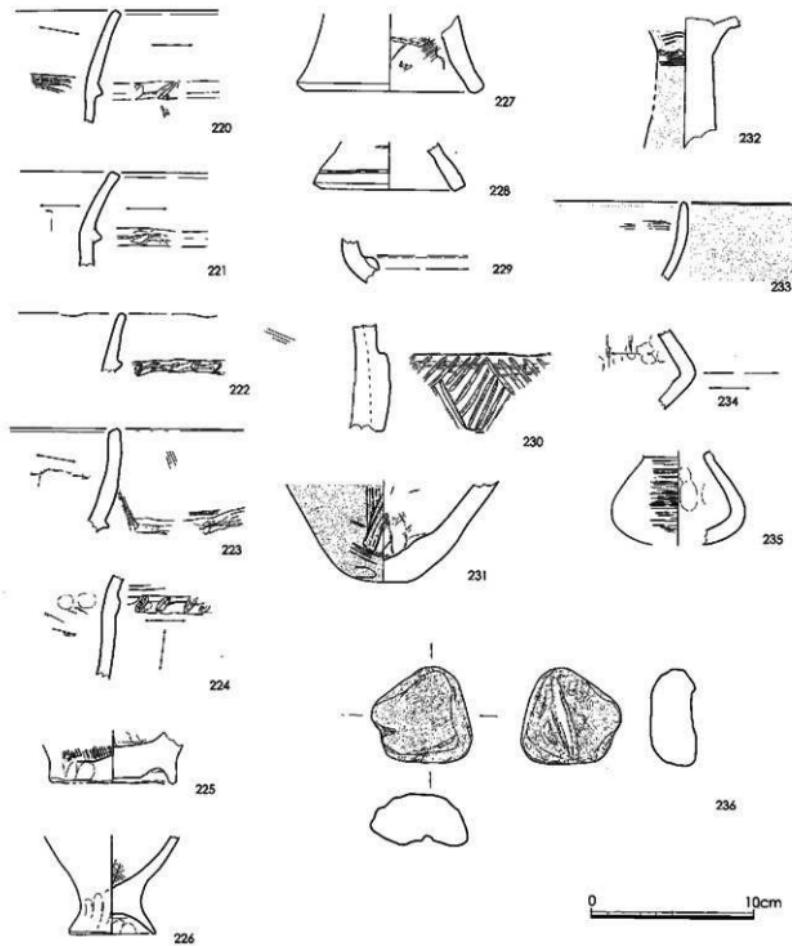
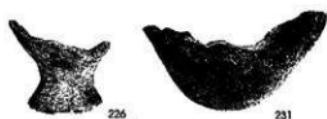
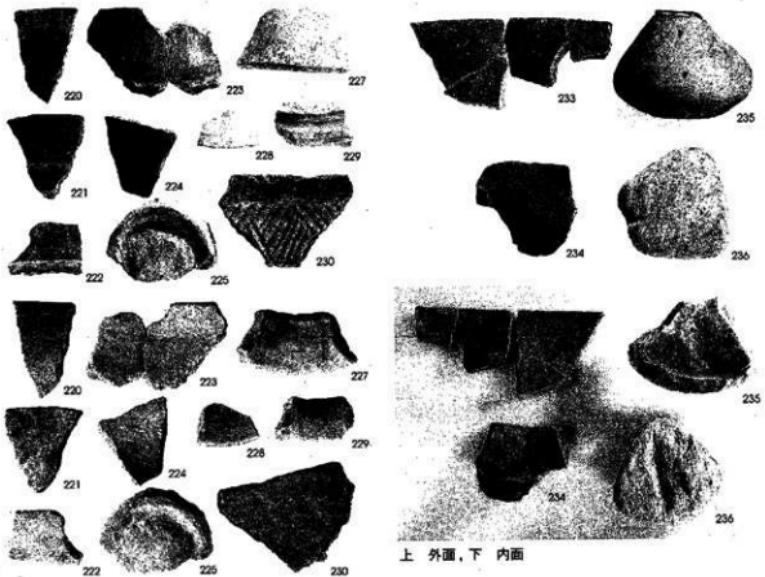


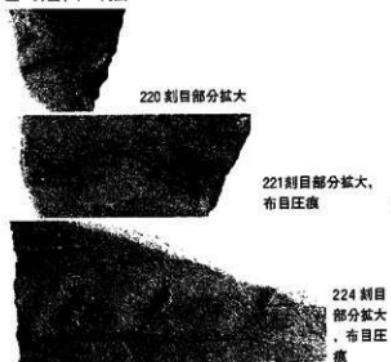
Fig. 48 16 トレンチSK15 出土遺物 S=1/3



PL. 72 SK15 出土遺物1



上 外面、下 内面



PL. 73 SK15 出土遺物 2 233 口唇部内面、赤色顔料が筆状の工具で施されているのがわかる。

が、住居を製作する時にいたる痕跡である可能性も高い。
出土遺物 (Fig. 49-217 ~ 244)

古墳時代の土器と石器が多量に出土している。実測できるものの詳細を見ると、古墳時代後半の壺 (237・238), 古墳時代の壺 (239), 古墳時代後半の壺 (240), 古墳時代の壺 (241), 軽石製品 (242 ~ 244) である。

SK17

調査区東側にSK15に隣接して位置する。壁の一部しか検出されていないが、他の住居跡と壁の方向が平行していることや、床面が平坦であることなどから、住居跡として捉えておきたい。

出土遺物 (Fig. 49-245 ~ 247)

出土遺物は、古墳時代の土器が出土している。実測できるものは、古墳時代前半の壺と考えられるもの (245), 古墳時代後半の壺 (246・247) である。

SK18

調査区北東すみに位置する。SK15に切られてい。壁がごく一部分しか確認できなかつたが、壁際に幅約5cmの溝が確認できた。板溝ではないか

Tab. 58 16 レンチ SK15 出土遺物観察表

| No. | 品種 | 器種 | 部位 | 色調 | 調査 | 出土 | | | | | 備考 | |
|-------------|---------|------------|---|--|---------------------------|----------------------|--|----------------------|----------------------|----------------------|---|----------------------|
| | | | | | | E | W | S | G | H | | |
| 220 SK15 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外側：に赤い黄褐色10YR5/4、内側：赤褐色5/2、SYR6/4~6/6。 | 内外面：ハケのちナダ。上部はヨコナダ。 | 3 3 3 BCD C D BCD | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 縦やかに外張する口縁部で、屈曲部に一束の糸を用いていた。糸はハケ工具による。外側にスス付着。 | |
| 221 SK15 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外側：黒褐色SYR2/1に類似。内面：明赤色2.5YR6/7~赤褐色4/2。に赤い黄褐色10YR4/4に類似。黒褐色5/2~6/6。 | ヨコナダ。 | 3 3 3 BCD D CD C | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | くの字状に屈曲する口縁部。屈曲部以上が仄面。糸はハケ工具による。外側にスス付着。 | |
| 222 SK15 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外側：暗褐色7.5YR5/4に類似。内面：明赤色5YR5/6に類似。 | ヨコナダ。 | 3 3 3 CD CD BCD C | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 長い口縁部。一束の糸を用いていた。糸はハケ工具による。口縁部が少しゆがんでいる。外側にスス付着。 | |
| 223 4. SK15 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外側：褐色~灰褐色10YR4/1~4/2。内面：に赤い黄褐色10YR4/1~4/2。 | 内外面：ハケのちナダ。 | 4 4 4 ABC ABCD CD | 4 4 4 ABC ABC ABC | 5 5 5 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 内側深溝に直立する口縁部。締縫部を一套施す。外側にスス付着。 | |
| 224 SK15 | 古墳・土 器 | 突起 | 外側：褐色5YR5/2に類似。内面：に赤い褐色7.5YR7/4~7/6。赤褐色5/2~7/6。 | 内外面：ナダ。内面：ハケのちナダ。 | 3 3 3 ABC CD CD ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 縦やかに外張する口縁部で、屈曲部に一束の糸を用いていた。糸はハケ工具による。外側にスス付着。 | |
| 225 SK15 | 古墳・土 鋏? | 底部 | 外側：褐色5YR5/7。内面：褐色5/2に類似。内面：に赤い褐色10YR7/4。赤褐色2.5YR7/2に類似。 | 外側：ヨコビオサエ。傾斜方向のハケ。内面：ハケのちナダ。見込み部：あらひナダ。色2.5YR7/2に類似。 | 3 3 5 CD CD BCD BCD | 3 3 5 ABC ABC ABC | 3 3 5 ABC ABC ABC | 3 3 5 ABC ABC ABC | 3 3 5 ABC ABC ABC | 3 3 5 ABC ABC ABC | 約1/2残存。反板復元。底径(?) cm。粗縫合を作り。 | |
| 226 SK15 | 古墳・土 鋏? | 底部 | 外側：に赤い褐色7.5YR5/4に類似。内面：褐色~灰褐色10YR5/2に類似。内面：に赤い褐色10YR5/6~5/8。見込み部：灰褐色10YR5/2に類似。 | 外側：ナダ。脚台くびれ付近。内面：ナダ。脚台くびれ付近。内面：ナダ。脚台くびれ付近。 | 3 3 3 ABC D BCD C | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 小型品。底径5.3cm。 | |
| 227 SK15 | 古墳・土 動? | 脚部 | 外側：浅黄褐色~に赤い黄褐色10YR6/4~1/4。内面：褐色SYR6/7。 | 外側：ナダ。内面：ナダ。内面：ナダ。 | 3 3 3 BCD CD BCD EC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 約1/4残存。反板復元。底径(10.4) cm。接合部で欠損している。 | |
| 228 SK15 | 古墳・土 動? | 脚部 | 外側：褐色SYR6/6。内面：褐色SYR6/5~5/6。 | ヨコナダ。 | 2 2 2 CD CD BCD C | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 約1/6残存。反板復元。底径(8.05) cm。底面をもつ脚部。外側に一束の糸を施す。 | |
| 229 SK15 | 古墳・土 動? | 脚部 | 外側：褐色SYR6/5~5/10に類似。内面：に赤い黄褐色10YR7/4。赤褐色SYR6/7。内面：赤褐色SYR6/5~5/6。 | 内面：ナダ。内面：ナダ。 | 3 3 3 CD D BC BC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 脚部に一束の糸を施す。摩耗している。 | |
| 230 SK15 | 古墳・土 動? | 脚部 | 外側：褐色SYR6/11に類似。内面：褐色SYR6/7~7/6。 | 外側：ヨコナダ。内面：ナダ。ほとんど剥落。 | 4 4 4 ABCD CD ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 4 4 4 ABC ABC ABC | 大型の脚部に施される粗粘表面。表面には平行波紋文による筋条文、比較内には布目彫文が認められる。 | |
| 231 SK15 | 古墳・土 動? | 底部 | 外側：赤褐色2.5YR6/7。褐色赤褐色2.5YR7/1に類似。赤褐色2.5YR6/6~6/7。 | 内面：ナダ。内面：ナダ。 | 3 3 3 ABC D ABCD ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 3 3 3 ABC ABC ABC | 底径2.4cm。わずかに平面をとどめるが、表面はかすれたような部分があり、繊維の工具を使用したことがうがえる。 | |
| 232 SK15 | 古墳・土 高杯 | 脚部 | 外側：褐色10YR4/7。赤褐色6/7。内面：褐色10YR4/1に類似。 | 外側：傾方向のミガキ。内面：褐色10YR4/1に類似。 | 2 2 2 ABC ABCD D BCD C | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 脚部上部、折部との接合部分で欠損している。外側に赤褐色剥離。表面は剥離している部分もあり。 | |
| 233 SK15 | 古墳・土 墓? | 口縁部 | 外側~内面上部：赤褐色7.5~10YR6/5。赤褐色内面下部：に | 外側~内面下部：傾方向のミガキ。内面下部：ナダ。 | 2 2 2 ABC CD D BCD C | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC |
| 234 SK15 | 古墳・土 墓? | 脚部 | 外側上部：褐色5YR7/6。赤褐色5/2~5/6。下部：赤褐色5YR6/1に類似。内面：に赤い褐色~5/6。 | 外側：ヨコナダ。内面：ヨコナダ。内面下部：ナダ。 | 2 2 2 D D D D D | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 D D D D D | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC |
| 235 SK15 | 古墳・土 墓? | 脚部 | 外側：褐色SYR6/4~6/6。内面：に赤い褐色~5/6。内面：に赤い褐色~5/6。 | 内面：ヨコナダ。内面：ヨコナダ。内面：ナダ。 | 2 2 2 D D D D D | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 D D D D D | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 2 2 2 ABC ABC ABC | 約1/4残存。反板復元。脚部底径(8.3) cm。なでて下ふくらみの跡跡。丁寧を作り。 | |
| 236 SK15 | 石 石製品 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 備考 | | | | | |
| 236 SK15 | 石 石製品 | 5.95 | 6.1 | 3.1 | 20.3 | 椎石 | 表面に削った平坦面を持つ。表面に、粗面のくぼみが認められるが、支障などを意識しているものかは不明である。 | | | | | |

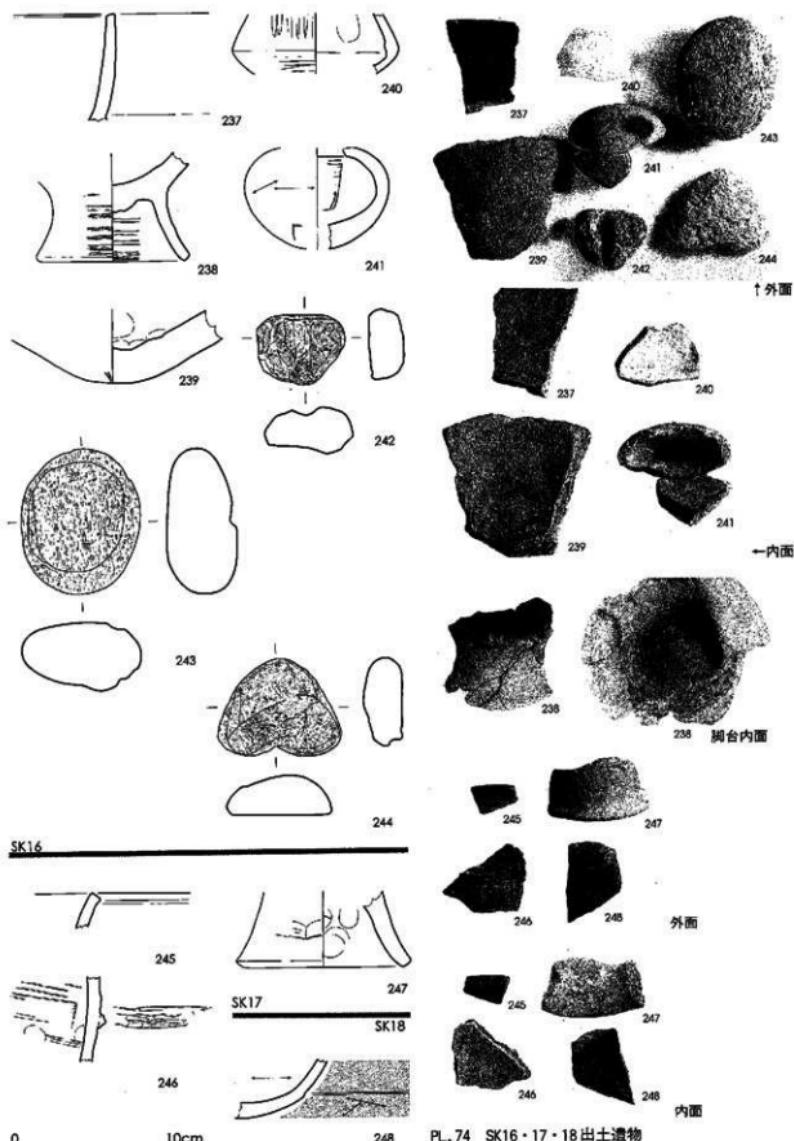


Fig. 49 SK16·17·18出土遺物 S-1/3

PL. 74 SK16・17・18 出土遺物

Tab. 59 16 トレンチ SK15 ~ 18 出土遺物観察表

| No. | 種類・ 器物 | 器種 | 部位 | 色調 | 調査 | 胎土 | | | | | 備考 | | |
|----------------|-----------|------------|--|------------|-----------|------|-------------------------------------|----|----|-----|-----|---|--|
| | | | | | | R | Y | B | Q | H | S | | |
| 237 SK15 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 外表面：黒色3.5YR 1/17に偏紅。内面：ナゲ。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 内青灰色に直立する口縁部、尖帶直上で灰黒色している。外周スリット。 | |
| 238 4. SK16 | 古墳・土 器 | 底部 | 外表面：褐色7.5YR 6/6に偏紅。内面：ハケのちナゲ。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/2残存、反転底部、底端(8.75)cm。裏面：黒色7.5YR 2/1に偏紅。 | |
| | 器 | | | | | ABCD | CD | BC | BC | ABC | ABC | 台見込み部は下部に張り出で、張り出しの辺縁はナゲによって被められている。 | |
| 239 SK16 | 古墳・土 器 | 底部 | 外表面：褐色5YR 6/6に偏紅。内面：外表面：ナゲ。内面：ニビオに近い赤褐色～明赤褐色3.5YR 5/1～5/6。裏面：赤褐色4/6に偏紅。底端：灰褐色～灰黑色4/4～4/5に偏紅。 | | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 底端2.4cm。胎土に墨岩を含む。少し尖り尖端だが、広く済ましながら上上がる器形を呈する。外蓋の移行があげられる。 | |
| 240 SK16 | 古墳・土 塙 | 側部 | 外表面：灰白色2.5YR 2/1に偏紅。内面：外側縫合部：板方向の1カ所。底端：浅黄褐色10YR 8/1～2.5YR 3/0。底内：灰褐色3/4に偏紅。内面：ナゲ。 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/4残存。反転底部。副頭最大径(1)cm。底端は分離し、外側縫合部を呈する構成。 | |
| 241 SK16 | 古墳・土 塙 | 側部 | 外表面：に近い黄褐色10YR 7/4。内面：ナゲ。内面：ハケの上部：褐色7.5YR 6/6に偏紅。下部：ナゲ。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/4残存。反転底部。腹部最大径(1)cm。底端は分離し、外側縫合部付近に底度あり。 | |
| 245 SK17 | 古墳・土 壈 | 口縁部 | 外表面：褐色2.5YR 2/1に偏紅。内面：ヨコナゲ。 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | わずかに外反する口縁部の複数、底端に内面：に近い赤褐色10YR 5/4に偏紅。 | |
| 246 SK17 | 古墳・土 壈 | 突堤 | 外表面：に近い黄褐色10YR 7/3。褐色3/0に偏紅。内面：浅黄褐色10YR 4/4。底内：灰褐色3/4に偏紅。 | | | 3 | 2 | 3 | 5 | 5 | 3 | 内青灰色に直立する口縁部、複数を欠損してある。1条の始端突堤を有する。胎土に径石を含む。 | |
| 247 SK17 | 古墳・土 壈 | 側部 | 外表面：浅黄褐色10YR 8/4～5/6。内面：ナゲ。 | | | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 約1/4残存。反転底部。底端(9.8)cm。胎土が複数する。外側縫合部よりその器形が少しあれてい。 | |
| 248 SK18 | 古墳・土 高杯 | 杯部 | 外表面：に近い褐色7.5YR 3/3。内面：ナゲ。 | | | 2 | 2 | 2 | | | | 複数を呈する杯形。立ち上がり部にあるいは底に張り付着する。 | |
| | 器 | | 内面：に近い褐色5YR 4/4に偏紅。内面上部：に近い褐色7.5YR 4/4。下部：黒色3/2に偏紅。 | | | BCD | D | D | | | | | |
| No. | 種類・ 器物 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 胎土 | | | | | 備考 | |
| | | | | | | | R | Y | B | Q | H | | |
| 242 SK16 | 繩文石製品 | 4.4 | 5.45 | 2.1 | 14.7 | 石英 | 表面に鋸歯のくぼみを持つ。表面は平均面を呈し、接着しているようである。 | | | | | | |
| 243 SK16 | 繩文石製品 | 9.1 | 6.4 | 4.23 | 68.8 | 石英 | 表面に平均面を持つ。全体が綿密な平均面を呈し、接着で形成している。 | | | | | | |
| 244 SK16 | 繩文石製品 | 6.05 | 7.6 | 2.45 | 19.3 | 石英 | 表面にはいくつかの擦り跡を持ち、裏面は平滑な平面である。 | | | | | | |

と考えられる。

出土遺物 (Fig. 49-248)

古墳時代後半の高杯 (248) が埋土中より1点だけ出土した。

SK19

調査区中央部に位置する。平面形が一辺約3mの方形を呈すると考えられる。SK15・16・20を切っている。SK15で前述したとおり、SK15の床面が切られた部分でSK19との境界を判断したため、SK19の南側ラインが東側に入り込んでいるが、4層上面の検出面からこの平面形であったかは不明である。床面中央部より南よりに炉を配する。炉は土壇状を呈し、真中には炭が層をなしている。厚さ約10cmの張り床を有する。

出土遺物 (Fig. 50・51)

繩文土器、弥生土器、古墳時代の土器、石器の他、陶磁器が1点出土している。遺物は、いずれも埋土

中より出土している。陶磁器は、小片で、後世の混ざりこみであると考えたい。繩文土器は、15トレンチで出土したものと同じ曾煙式で、やはり5層がその包含層で、住居製作時に掘削によって混在したものと考えられる。弥生土器も同様と考えたいたい。

実測できるものの詳細は、曾煙式土器 (249)、古墳時代前半の壺 (250・256)、古墳時代後半の壺 (251～255)、古墳時代の壺 (257・258)、古墳時代後半期の壺 (259～261)、古墳時代の壺 (262)、古墳時代後半の高杯 (263～267)、古墳時代の壺 (268)、古墳時代後半の壺 (269)、古墳時代の鉢 (270・271)、弥生時代の鉢? (272)、石製の紡錘車 (273・274)・たたき石 (275)・軽石製品 (276)である。古墳時代後半期の遺物が破片が大きく、器種もそろっている。また、紡錘車は、断面形台形状を呈し274には表裏面に線刻が施されている。

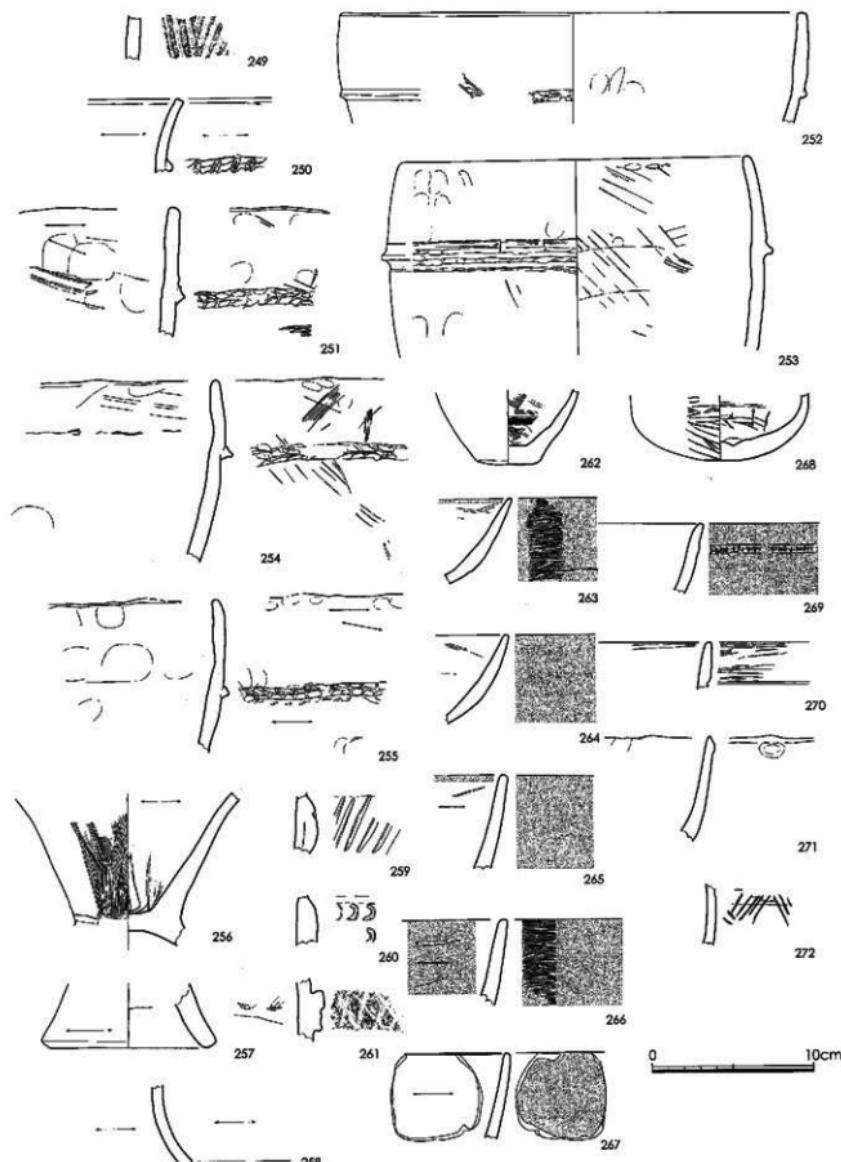


Fig. 50 16 トレンチ SK19 出土遺物 S=1/3

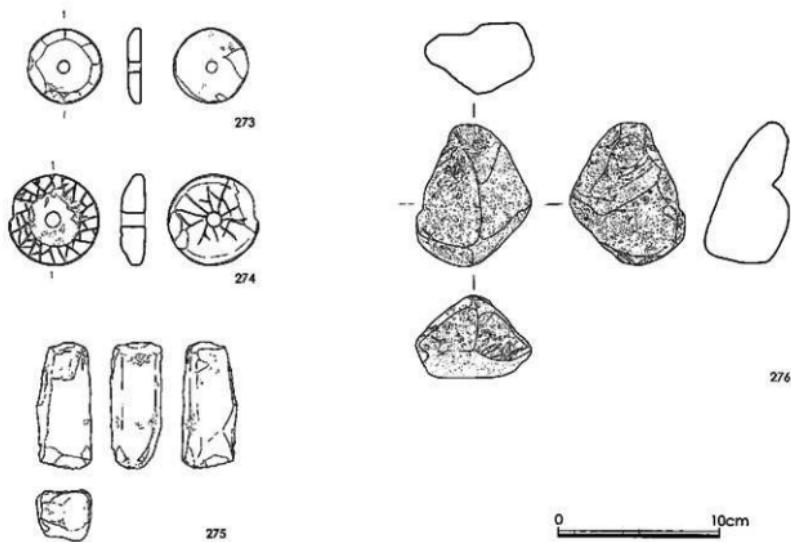
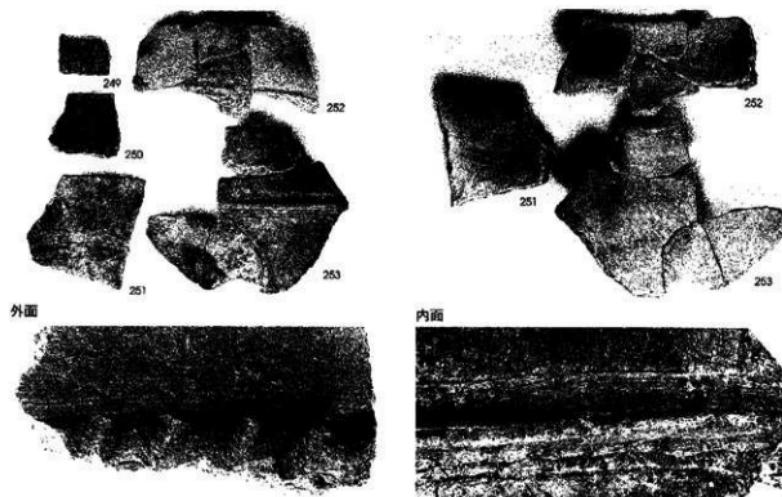
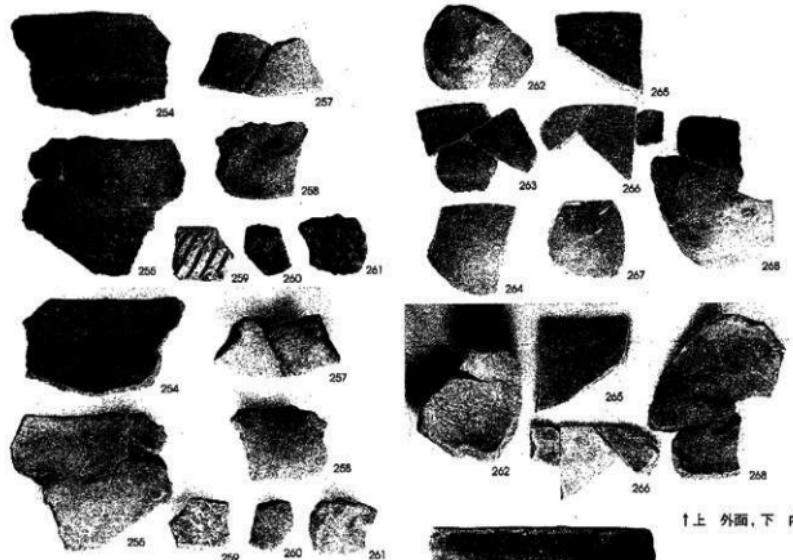


Fig. 51 16 トレンチ SK19 出土石器 S = 1/3



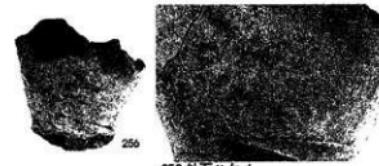
250 刻目部分拡大、ハケ工具による
PL. 75 SK19 出土遺物 1

253 実脊部拡大



上 外面、下 内面

†上 外面、下 内面



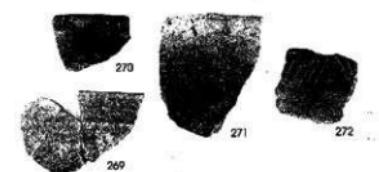
256 外面ハケメ



265 外面口唇部極
大、口唇部のみ赤
色顔料が塗い。



表面



裏面



269 刻目極大、非常
に細かい刻み。



272 刻目極大

PL. 76 SK19出土遺物 2

Tab.60 16トレンチSK19出土遺物観察表1

| No. | 地番 | 種類 | 形態 | 色調 | 測量 | 出土 | | | | | 備考 |
|-----|---------------------------|------------|--|--|----|----|---|-----|-----|---|---|
| | | | | | | Y | S | G | D | S | |
| 249 | SK19-6 内 (表面) | 美文太刀 頭部 | 頭部 | 外周：褐色2.396/4に黒板。内 部：黄褐色2.317/4に黒板。 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | ヘラによる先端部、頭部の文様を確認してい る。北側内には「美」の字の文様が認めら れ、竹刀のT字頭を使用したものと推定で ある。134-137-11-15-143-172と同一個体。 中止している。 |
| 250 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：内部：黒褐色2.333/2～ 3/2。 | 外周・内面下部：ヨコナ ギ。内面下部：ナギ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | ヘラによく外する口棒部で、頭部に一束 の頭部突起を持つ。頭部は持たない。ヨコ ナギによって遮んでいる。頭部はハナ工具に よる。 |
| 251 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黄褐色2.078/3、黃褐色 2.516/2に黒板。内面：浅黄色～ にい るナギやちび丁寧なナギ。 黒褐色10788/3～7/3。 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 真立する状態で、一条の棒脚突起を有 する。口棒部は下ゆがんでいる。穿孔して いる。 |
| 252 | 4. SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黄褐色10788/7、黃褐色 10.5/2。底面：浅黄色10788/2。 8/3。内面：黒褐色2.333/2～ 4/3。黒褐色2.392/2に黒 板。 | ヨコナギオサキ、ナ ギ。内面：ヨコナギオサキ、ナ ギ。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 約1/6残存。口底（22.2 cm）、内 部黒褐色に穿孔する口棒部で、一条の棒脚突起 を有する。 |
| 253 | 4. SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：にい 黄褐色10788/2.5. 2.392/2に黒板。黒褐色 10788/2.5に黒板。黒褐色 10788/2に黒板。黒褐色 10788/2に黒板。黒褐色 10788/2に黒板。 | 外周：ハケ？のちナギ。ナギ 上：ヨコナギ。黒褐色の工具で 10788/2に黒板。黒褐色： 黒褐色：黒褐色：黒褐色： 黒褐色。内面：ヨコナギ。黒褐色 2.392/2に黒板。黒褐色に黒板。 黒板を付したのち行なって にい 黄褐色10788/4. 黄白板 2.392/2に黒板。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/6残存。口底（22.2 cm）、内 部黒褐色に穿孔する口棒部で、一条の棒脚 突起を有する。口底は下ゆがんでいる。穿孔して いる。 |
| 254 | 4. SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黄褐色2.374/2に黒板。内 部：黒褐色2/2に黒板。 | ナギ。内面：ハケのちナギ。エ ビヤギ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 内面黒褐色に穿孔する口棒部で、一条の棒脚 突起を有する。口底は下ゆがんでいる。 内側には、船上形跡の跡が残っている。 |
| 255 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黄褐色2.078/4に黒板。 黒褐色2.392/2に黒板。黒褐色 2.392/2に黒板。内面：黄褐色 2.392/2に黒板。底面：浅黄色10788/2. 2.392/2。 | ヨコナギオサキ、ナ ギ。突起ア添に赤系あり。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 内面黒褐色に穿孔する口棒部で、一条の棒脚 突起を有する。口底は下ゆがんでいる。 舟形下に開拓をつままで形成した舟に ついたつじの跡が残っている。外側にス付 着。 |
| 256 | 4. SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黒褐色2.390/6、黒褐色 2.390/4に黒板。内面： 黒褐色10788/2に黒板。にい 黒褐色10788/5. 黑褐色 10788/4に黒板。 | ナギ。内面：舟形方向のハナのナ ラ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 内面黒褐色に穿孔する口棒部で、一条の棒脚 突起を有する。舟形下に開拓をつままで形成した舟に ついたつじの跡が残っている。外側にス付 着。 |
| 257 | SK19 古墳・土 墓 器 | 舟形 | 外周：にい 黄褐色～黄褐色程度～ 2.377/2。内面：にい 黄褐色～ にい 黄褐色～2.392/2。 | 内面：ナギ。 | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 4 | 約1/6残存。加賀復元。底性（9.6 cm）。 |
| 258 | SK19 古墳・土 墓 器 | 舟形 | 外周：黒褐色2.377/4、浅黄色 10788/4に黒板。黒褐色2.392/2. 10788/4に黒板。黒褐色2.392/2. 10788/4に黒板。内面： 舟形：舟形2.392/2に黒板。内面： 舟形：舟形2.392/2に黒板。 | ヨコナギ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 舟形下に開拓をし、外に聞く轟基を留する。 |
| 259 | SK19 古墳・土 墓 器 | 舟形 | 外周：浅黄色10788/4、黒褐色 10788/2。内面：浅黄色板 | ナギ。内面：摩滅し ているため不明。 | 3 | 3 | 5 | 4 | 3 | 3 | いわゆる船底穴穿、ヘラによる斜め手行丸。 C CD ABC BC ABC 穴底は下ゆがめに成ったと考えら れる。北側内は縦縫はシヤーブである。南側 に舟形跡の跡が残っている。 |
| 260 | SK19 古墳・土 墓 器 | 舟形 | 外周：黒褐色2.372/5.1。内面：に 外周：ナギ？。内面：摩滅 しないため不明。 | ナギ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | いわゆる船底穴穿、最竹行丸。東面に舟形 跡がある。 |
| 261 | SK19-6 古墳・土 墓 器 | 舟形 | 外周：黒褐色2.372/5.1。内 面：摩滅し、暗褐色2.392/2～5/2。 内面：摩滅。 | ナギ。 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 舟形穴穿、舟形舟子を留し、船の内には 舟形跡の跡が残っている。 |
| 262 | SK19 古墳・土 墓 器 | 舟形 | 外周：黒褐色2.372/5.1に黒板。 黒褐色2.392/2に黒板。黒褐色 2.392/2に黒板。内面： 黒褐色2.392/2に黒板。内面： 黒褐色2.392/2に黒板。 | 外周：ナギ？。内面下部： 黒褐色10788/2に黒板。黒褐色 2.392/2に黒板。内面下部： 黒褐色10788/2に黒板。内面下部： 黒褐色10788/2に黒板。 | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 底板2.392/2。船底にいわゆる船底穴穿合せ、基 ややに斜め手行丸。 |
| 263 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黒褐色2.372/5.1。内面： 黒褐色2.392/2.6。赤褐色 2.392/2.6。赤褐色。内面下 部：黒褐色2.392/2に黒板。 | 外周～内面下部：赤褐色 2.392/2.6。赤褐色。内面下 部：ナギ？。内面下部：ナギ。 内面：にい 黄褐色2.392/2に黒 板。黒褐色2.392/2に黒板。 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 桿板を留する舟形。立ち上がり船にゆるい現 象を持つ。外側から内面底部には赤褐色附着。 |
| 264 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：赤褐色2.372/5.1。内 面：黒褐色2.392/2.6。 | ナギ？。内面下部：ナギ。 | BC | C | D | ABC | ABC | 2 | 桿板の跡を留する。外側から内面底部に 赤褐色附着。 |
| 265 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：舟形2.392/2.6。赤褐色 2.392/2.6。赤褐色。内面下 部：舟形2.392/2.6。 | ナギ？。内面下部：ナギ。 内面：にい 黄褐色2.392/2に黒 板。黒褐色2.392/2に黒板。 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 桿板の跡を留する。外側から内面底部に 赤褐色附着。 |
| 266 | SK19 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：内面下部：赤褐色2.392/2.6。 赤褐色。内面下部：赤褐色2.392/2.6。 | ナギ？。内面下部：ナギ。 | BC | D | D | CD | CD | 2 | 桿板を留する。 |
| 267 | SK19-6 古墳・土 墓 器 | 口棒部 | 外周：黒褐色2.377/1に黒板。 赤褐色2.392/2.6。赤褐色 2.392/2.6。赤褐色。内面下 部：ナギ？。内面下部：ナギ。 | ナギ？。内面下部：ナギ。 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | もとは舟形の口棒部であるが、蓮片の痕跡 跡が、内面：黒褐色2/2に黒板。 |

Tab.61 16トレンチSK19出土遺物観察表2

| No. | 層 遺物 | 種類 | 部位 | 色調 | 特徴 | 計上 | | | | | 備考 | |
|-----|-----------------------|------|---|---|----------------|---------------|---------------------------------------|--|---|---|--|--|
| | | | | | | E | F | G | H | S | | |
| 268 | SK15 古墳・土 壁 器 | 底部 | 外壁：褐色5-7.5YR6/6、高麗色 7.5YR3/1.5、内面：白色5YR6/7。 褐色5YR6/1に類似。 | 外壁：ハケのうち筋方向のみ ガキ、ミガキが付くではな く、下地のハケが残っている。 内面：ユリオサエ、ハ ケ、ハケ工具を底面を中心部 から放射状に打ち込んでハ ケを放している。底面中心部 は、塗んこ状断面である。 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 底壁2.4cm。 ABCD D CD CD C | |
| 269 | SK19、古切・土 高杯 はり灰 器 | 口縁部 | 外壁：内面上部：赤色10R4/8、赤 色顔料、内面下部：灰青褐色 質：丁寧なナダ。 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 口縁部を鍛やかに外反させ、拘束を呈す ABC D D 0 CD C る。1系の細い長い目次形を持つ、組み も非常に固い。内面口縁部から外壁に赤色 顔料が施されている。 | |
| 270 | SK15 古切・土 高杯 器 | 口縁部 | 外壁：暗赤褐色2.5YR3/9、にぼい 内面：後方のミガキ、 褐色7.5YR6/4に類似。内面：暗赤 褐色10R4/2に類似。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 口縁部外側を少し肥厚させ、外壁に段を有 CD CD BC BC ABC する。外壁に赤色顔料付着。 | |
| 271 | SK15 古墳・土 体？ 器 | 口縁部 | 口唇部：浅黄色10YR6/3、その 内外側：ナダ、 質：灰青色10R4/5/1。 | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 拘束を要するが、外面の口縁部直下に丸く CD 0 CD C BC 穴の先端がひとつ付着されている。 | |
| 272 | SK19 来少土 瓢 | 瓢箪 | 外壁：にぼい褐色7.5YR5/4、内 面：黒褐色7.5YR3/1-2/1。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 平行波線による網し文様を施している。鉛く ABC D CD C ABC 置い工具による。 | |
| No. | 層 遺物 | 種類 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 高 さ (cm) | 重 量 (g) | 石材 | 備考 | | | | |
| 273 | SK19 砂輪車 | 砂輪車 | 4.6 | 4.6 | 0.8 | 34.4 | 青岩 | 表面は一概欠損しているが、平面で、表面は山形を呈する。成形時の擦過痕がみとめられる。 | | | | |
| 274 | SK19 砂輪車 | 砂輪車 | 5.6 | 5.6 | 1.5 | 58.9 | 砂輪の砂岩 表面最も部分的に欠損あり、細い光沢で羅密状の文様を呈している。 | | | | | |
| 275 | SK19 たたき石 | たたき石 | 7.7 | 3.4 | 3.10 | 135 | 砂岩 | 表面は若干丸い、成形時の打抜が認められる。 | | | | |
| 276 | SK19 磨石製品 | 磨石製品 | 8.8 | 7.05 | 3.1 | 67.6 | 砂岩 | 握り面がいくつも認められる。 | | | | |

SK20

調査区北側に位置する。SK19に切られている。住居西コーナー部分を検出した。壁際に段を有する。約20cmの厚さの張り床を持つ。

出土遺物 (Fig. 52-277)

古墳時代の土器が少し出土している。そのうち、実測できたのが277の手づくね土器である。コップ形だが、非常に粗雑なつくりである。

SK23

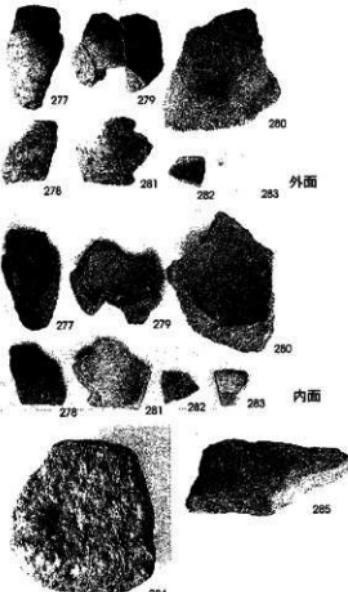
調査区北側中央部に位置する。SK15と19に隣接するが、検出時は切りあい関係は明確にできなかったが、北壁層位の観察から、SK20を切っていることが確認された(北壁④・⑤)。遺構の性格は不明である。

出土遺物 (Fig. 52-277 ~ 285)

弥生土器1点と、古墳時代の土器と石器が出土した。古墳時代の壺(278)、弥生後期の壺(279)、古墳時代の壺(280)、古墳時代後半の高杯(281)、古墳時代の鉢(282・283)、輕石製品(284)、擦り石(285)である。

ピット (P75 ~ P78)

SK16とSK20の間にピットを4基検出した。これらが、どの遺構に伴うのかは不明である。遺物などは出土しなかった。



PL. 77 SK20・23出土遺物

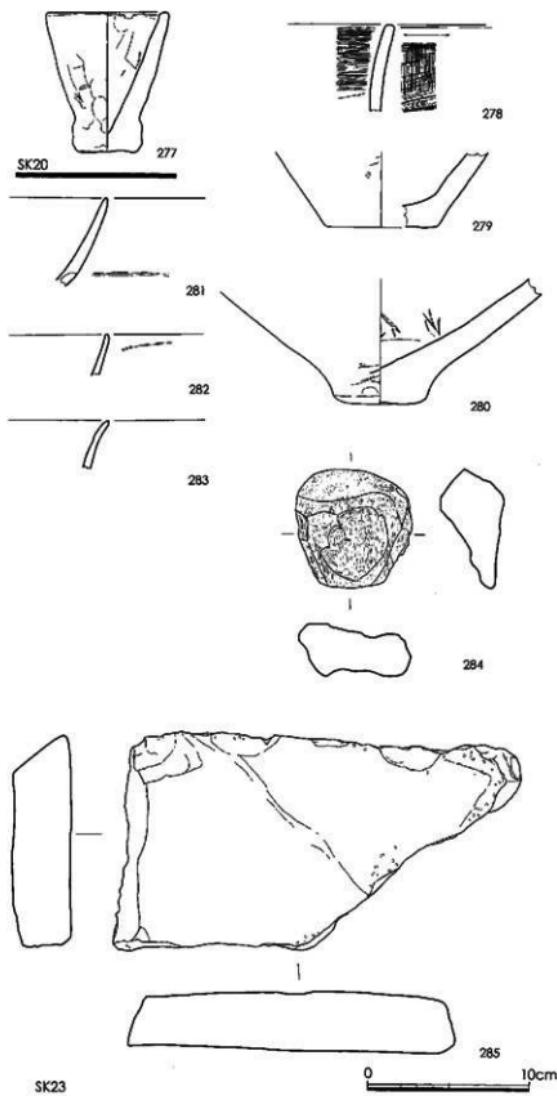
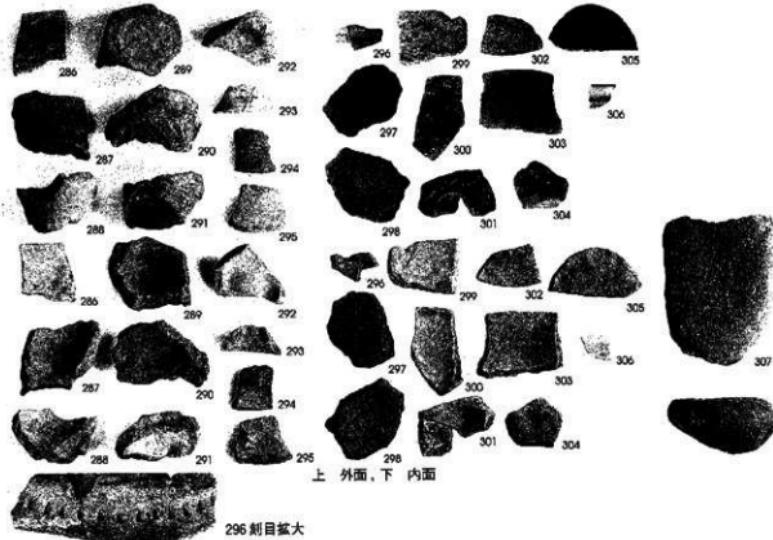


Fig. 52 16 トレンチSK20・23 出土遺物 S=1/3

Tab. 62 16トレンチSK20・23出土遺物観察表

| No. | 層・ 遺物 | 種類 | 器種 | 誕生 | 色調 | 圖案 | 胎土 | | | | | 参考 |
|----------------|------------|----------|------------|--|------------|------------------------|-----|--|---|---|---|--|
| | | | | | | | R | I | B | Q | H | |
| 277 SK20 | 古墳・土 器 | 小量体 器 | 先形 | 外表面：黒褐色1/3に鐵紅、明赤和 ～水銀色2.5YR5/6～6/6、内面：ナゲ。 堆赤褐色2.5YR3/2、赤黒色 2.5YR2/1に類似。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/4残存、反転鏡光、口径 (7.55) cm、底 径 (3.50) cm、高さ8.6cm。コップ状の胎形 を有するが、器蓋が厚く、粗粒を作りであ る。特に外周下部の凹度はあらかじめ、器蓋の凹 凸が目立つ。底盤になるようだが、底面もゆ がんでいる。 |
| 278 SK23 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 口縁部 | 外表面：にぼい赤褐色ST4/3に鐵 紅、内面：橙2.5YR8/6に類似。 近：ヨコナダ。 | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 施や少し外反する胎形を呈する。外側にはス リット付。 |
| 279 1. SK23 | 古墳・土 器 | 底部 | 底部 | 外表面：褐灰～褐褐色7.5YR1/1～ 3/1、内・底面：褐～明赤褐色 5YR5/6～5/6。 | | 外表面：ハケ？のちナゲ、内 面：ナゲ。 | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 約1/4残存、反転鏡光、底径 (6.55) cm、平 底で、立ち上がりはシャープである。 |
| 280 SK23 | 古墳・土 器？ | 底部 | 底部 | 外表面：にぼい赤褐色7.5YR5/4、にぼ い赤褐色～暗赤褐色5YR4/4～3/4。 内面：暗赤褐色5YR5/5。 | | 外表面：ハケ？のちナゲ、内 面：ナゲ。 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 約1/2残存、反転鏡光、底径 (5.75) cm、小 さな分厚い底盤で大きめの外広がる器形を 呈する。底盤は、膨らんでおり、器蓋があれ ている。 |
| 281 SK23 | 古墳・土 器 | 口縁部 | 口縁部 | 外表面：内面上部：赤～暗赤色 10R4/6～3/6、水銀色等、内面下 部：淡黄～淡褐色2.5YR4/4～3/4。 10R8/4～7/4。 | | 外表面：ミガキ、 内面下部：ナゲ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 少しが内側赤味の胎形を呈する。器蓋が薄く、 いわば成形として作っている。この部分の胎土に 粗糸が認められる。内面口縁部から外側に 赤色顔料が施されているが、内面は非常に 顔料が施されている。300と同一体か？ |
| 282 SK23 | 古墳・土 器？ | 口縁部 | 口縁部 | 外表面：褐灰色R3/3に類似、内面： にぼい赤褐色10R7/3。 | | 外表面：ヨコナダ。 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 少しが内側赤味の胎形を呈する。器蓋が薄く、 いわば成形として作っている。この部分の胎土に 粗糸が認められる。内面口縁部から外側に 赤色顔料が施されているが、内面は非常に 顔料が施されている。300と同一体か？ |
| 283 SK23 | 古墳・土 器？ | 口縁部 | 口縁部 | 外表面：淡黄～淡褐色2.5YR4/4～ 7/4。 | | 外表面：ヨコナダ。 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | わずかに外反する口縁部の端部、器壁が薄 い。 |
| No. | 層・ 遺物 | 種類 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 質等 | | | | |
| 284 SK23 | 研磨品 | | 7.4 | 7.15 | 3.9 | 49.2 | 研石 | 固狀の胎形を呈する。口縁部の外側底盤が厚く、 内面口縁部から外側に赤色顔料が施されている。 | | | | |
| 285 SK23 | 石皿 | | 13.5 | 25.1 | 3.6 | 2000 | 安山岩 | 内面に平坦な裏面を持つ。底盤もろいもので、作りは薄である。 | | | | |



PL. 78 16トレンチ包含層出土遺物

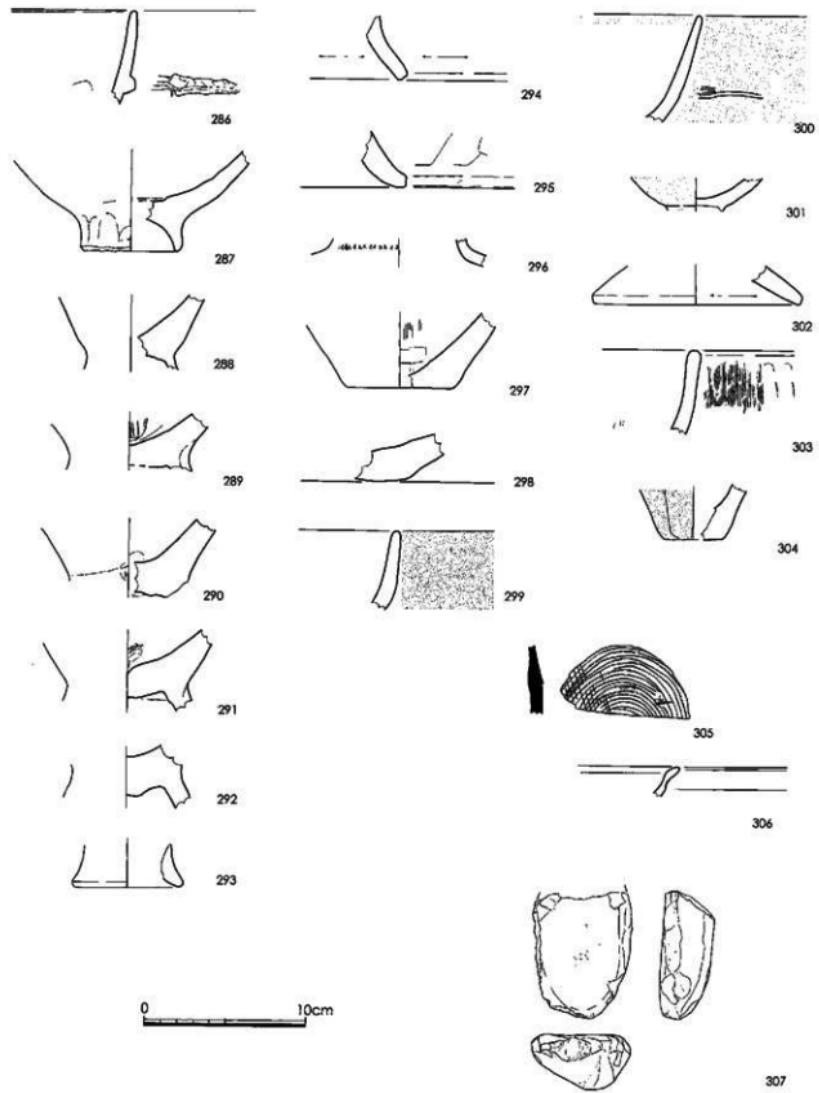


Fig. 53 16 トレンチ包含層出土遺物 S=1/3

Tab.63 16トレンチ包含層出土遺物観察表1

| No. | 層位 | 性状 | 器種 | 部位 | 色調 | 調整 | 出土 | | | | | 備考 |
|-------|--------|-----|--|----|----|----|----|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | R | T | B | Q | H | |
| 265 3 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外側：黒褐色1070X/2に傾斜。内：内外面：ナゲ、内：に赤い黄褐色1070X/3。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 外側スス付着、少し内折気味に直立する口縁部 CD D BC TC BC DCで、一条の路線を有する。外側は漆塗りである。 |
| 267 3 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：暗褐色R2/4に傾斜。所：白地 内外面：ビニオサエ、ナ 2.57B/4に傾斜。内面：無分付着。 | | | | 4 | 4 | 4 | 5 | 4 | 約1/3残存。反転復元。底径(5.7)cm。低い脚台 BCD CD BCD BC BC を有する。通體はビニオサエによってゆがんでい る。外側の墨跡は少しあれている。内面：無分付着。 |
| 268 2 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：明褐色1070X/7。内面：内外面：無分付着のため 付着。内面：無分付着のため不規則。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/2残存。反転復元。断面に漆塗が認められ BCD D ABC BCD BC |
| 269 3 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：暗褐色570X/2に傾斜。内面：ハケのちナゲ、 無分付着。内面：に赤い黄褐色1070X/3。ナゲ、ナゲ。 2.57B/4に傾斜。無分付着。青見足：青見足。 | | | | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 約2/3残存。反転復元。断面に漆塗が認められ ABC D ABC ABC ABC 4.無分付着。 |
| 270 4 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：暗褐色1070X/6。内面：黒褐 外側：腹方向のハケのち 2.57B/4に傾斜。内面：ナゲ、内面：ビニオサエ 2.57B/4に傾斜。内面：ナゲ。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/3残存。反転復元。脚台と見込みの中央部が下方に C ABCD CB BCD C ABC いる。 |
| 271 4 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：に赤い黄褐色1070X/6に傾斜。内面：漆塗のため不明。 付着。内面：底面：底面：漆塗のためシゴリ痕 2.57B/4に傾斜。内面：底面：漆塗のためシゴリ痕 2.57B/4に傾斜。内面：漆塗のためシゴリ痕。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/2残存。反転復元。脚台見込みの中央部が下方に C D BC ABC ABC 梨り出す形態を有する。半滅している。 |
| 272 2 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：に赤い黄褐色1070X/6に傾斜。内面：ナゲ？。漆塗し 1070X/4~7/6。内面：黒褐色 2.57B/4に傾斜。内見足：漆塗後 1070X/4。 | | | | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 約1/3残存。反転復元。脚台見込みの中央部が下方 C ABCD CD BC BC ABC に梨り出し。そのまわりはナゲによって歪んでい る。非常に壊滅している。 |
| 273 4 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外側：青褐色1070X/4。内面： 外側：ナゲ？。漆塗し に赤い黄褐色1070X/5~7/6 ている。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/3残存。反転復元。底径(6.6)cm。脚部が C D (D) 残合部で欠落したものである。漆塗している。 |
| 274 3 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外側：明褐色2.57B/4に傾斜。内面：無分付着。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 漆塗部で欠落している。 |
| 275 3 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外側：底面：に赤い黄褐色570X/2 外側：腹方向のハケのち 2.57B/4に傾斜。内面：ナゲ、内面：ナゲ、内面：ナゲ。 | | | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 半滅している。 |
| 276 2 | 生土土器 | 脚部 | 内面：に赤い黄褐色1070X/4。 内外面：ナゲ。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/6残存。反転復元。脚部に刻画油文を有す。 D D D C 工業は先の漆塗名でのある。 |
| 277 4 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：に赤い黄褐色570X/2に傾斜。外側：ナゲ、内面：漆塗 2.57B/4に傾斜。内面：黒褐色3/2~2/6に向のハケのちナゲ。 | | | | 5 | 4 | 4 | 4 | 4 | 約1/4残存。反転復元。底径(6.3)cm。半滅で、 ABC D BCD C ABC 立ち上がりは查定低価。 |
| 278 2 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：黄褐色5.57B/2/2。内面：漆 外側：漆塗しているた 内面：付着のため不明。 | | | | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 部分に平底だが、底面は膨らんでいる。立ち上がり ABC D BCD C ABC 部との境界もゆるやか。漆塗している。 |
| 279 2 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外側：底面：1025X/5に傾斜。外側：腹方向のミガキ、 内面：漆塗後。内面：漆塗後。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 脚部の外側、外側に赤色粘料を施している。漆塗 BC D G BCD C している。 |
| 280 4 | 古墳・上 墓 | 口縁部 | 外側：上面：漆塗7.5~ 1070X/4。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 脚部の漆塗部がわざなくはみ出している。内面に赤色粘料 BC D CD BCD C として施されている。同じ一塊か？ |
| 301 4 | 古墳・上 墓 | 折部 | 外側：白色5~5.5/2/6に傾斜。外側：腹方向のミガキ、 内面：漆塗後。内面：漆塗後。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/3残存。反転復元。被塗部を剥すとえられる BC D CD 柄下部。外側に赤色粘料を施す。漆塗との接合部で 欠損している。小標品か？ |
| 302 4 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外側：に赤い黄褐色1070X/4に傾 外側：ナゲ、内面：ナ 内面：内面：漆塗後。内面：漆塗後。 | | | | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/6残存。反転復元。底径(12.5)cm。底く、 BC D C BC BC 外へ広がる形態を見る。外側は漆塗している。 |
| 303 2 | 古墳・土 墓 | 口縁部 | 外側：底面：1070X/4に傾斜 に 外側：ハケ、ナゲ、内面：ナ 内面：に赤い黄褐色1070X/4に傾斜。内面：ナゲ、 1070X/4に傾斜。 | | | | 3 | 3 | 5 | 3 | 3 | 被塗を差し、端部が丸く分かれ、内面の着色はあれ C CD ABCD BC BC てない。 |
| 304 2 | 古墳・土 墓 | 底部 | 外側：一端：漆塗1070X/4~5/6。外側：ミガキ？。漆塗し 内面：漆塗後。内面：漆塗後。 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/3残存。反転復元。底径(3.5)cm. 平底。外 CD BCD D G BCD C 面に赤色粘料が施されている。底部は接着部で 欠損している。小標品か？ |
| 305 4 | 楕丸盤 | 脚 | 脚部(脚 壁) 内面：青褐色570X/5/1。表面：タキキ。 底面：漆塗後。 | | | | 2 | | | | | 外側にタキキあり。内面はタキキの出で鳥張が印象 CD で、凸凹が大きい。 |
| 306 3 | 白壁 | 脚 | 口縁部 内面：白地。5~5.5/2/1に傾斜の半透 全面施塗。 内面：漆塗後。 | | | | 2 | 2 | | | | 白入あり。 |

Tab.64 16 トレンチ包含層出土遺物観察表2

| No. | 名稱 | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石材 | 備考 |
|--|------|------------|-----------|------------|-----------|------|----------------|
| 表面はほぼ平坦である。中央部に少し打痕が認められる。下面はつぶれて、多くの打痕が認められる。上部は欠損している。 | | | | | | | |
| 307 | たたき石 | 7.7 | 6.05 | 3.0 | 195 | 電柱砂岩 | いる。表面の成形は鎌である。 |

包含層出土遺物 (Fig.53)

包含層中からは、古墳時代後半の壺 (286・289~292)、古墳時代の壺 (287・288・293~295)、弥生時代か古墳時代の壺 (296)、古墳時代の壺 (297・298)、古墳時代後半期の高杯 (299~302)、古墳時代の鉢 (303・304)、須恵器横瓶? (305)、白磁 (306)、たたき石 (307) が出土している。

4.17 17 トレンチ

競技場と球技場間の西側に位置する。南北3m、東西6.5mの大きさである。

4.17.1 層位 (Fig.54)

基本層位として、1~5層までを確認した。ほぼ水平に整合的に堆積している。5層上面で遺構を確認した。遺物は、1~4層まで出土している。

4.17.2 遺構と遺物

5層上面で3基の土壙状遺構と、36基のピット群を検出した (Fig.55)。

SK27 あさいくば地状の遺構である。中に、さらにピット状のおちこみがあるが、最深部で29cmである。

SK28 トレンチ南東角付近に位置し、東側におちこんでいる。調査区外に広がるため全形は不明だが、深さ70cmにおいて、住居跡の壁にあたるのではと推定できる。

SK29 不定形のあさいくば地状を呈する。

包含層出土遺物 (Fig.56)

遺物は、古墳時代の土器、土師器、陶磁器などが出土している。このうち、実測できるものは古墳時代の壺 (308)、古墳時代の高杯形ミニチュア土

Tab.65 17 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|-----------------------|----------------------------------|--------|
| 1 | シラスの二次堆積。 | 現代 |
| 2 | 褐色色7.5YR1/6、シルト質砂。1~2cmの大粒砂多く含む。 | 近世 |
| 3 | 明黄褐色2.5Y6/6、粗砂混じりシルト質。 | 古墳? |
| 4 | 黒色7.5YR1/2、シルト。3~4cmの大粒砂を含む。 | |
| 5 | 2.5Y3/6、にぶい黄色、粗砂混じりシルト。 | |
| ① 2層と4層の混土。 | | |
| ② 黒褐色5YR1/3シルト、やわらかい。 | | SK28埋土 |

Tab.66 17 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 縦 丈 度 | 井 筒 生 古 墳 窓 器 器 器 器 | 箱 土 器 器 器 器 | 土 器 器 器 器 | 陶 器 器 器 器 | レ ン チ ガ ラ ス 器 | 石 器 器 器 器 | その 他の 施 設 | 計 | |
|---|-------------|--|----------------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|-----------------------|--------------------|-----|----|
| 1 | | | | | 1 | 10 | | 1 | 1 | 13 |
| 2 | | 10 | 1 | 65 | 5 | | 1 | 1 | 83 | |
| 3 | | | | | 2 | | | | 2 | |
| P | | 4 | | | 7 | | | | 11 | |
| 計 | | 14 | 1 | 75 | 15 | | 2 | 2 | 109 | |



PL.79 17 トレンチ南壁

器 (309)、青磁碗 (310) のみであった。

4.18 18 トレンチ

競技場と球技場の間の、ほぼ中央部に位置する。

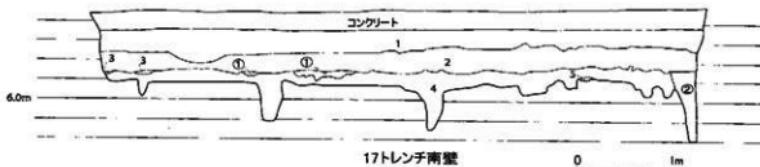
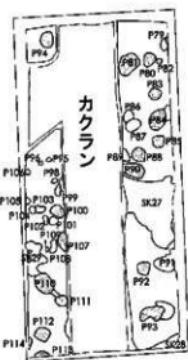


Fig.54 17 トレンチ層位断面図 S=1/40



Tab. 67 17 トレンチ遺構一覧

| 造形名 | 長径 (cm) | 短径 (cm) | 厚さ (cm) | 埋七 |
|------|------------|------------|------------|------------------|
| SK27 | 134.55 | 87.9+e | 29 | 黒色7.SYR1/2, シルト |
| SK28 | 18.85 | 2.47 | 60 | 黒色7.SYR1/3, シルト |
| SK29 | 64.74 | 34.0+e | 29 | 黒色7.SYR1/4, シルト |
| P79 | 26.78 | 11 | 6 | 黒色7.SYR1/5, シルト |
| P80 | 25.61 | 15.9 | 37 | 黒色7.SYR1/6, シルト |
| P81 | 42.51 | 24.1 | 53 | 黒色7.SYR1/7, シルト |
| P82 | 11.31 | 7.8 | 6 | 黒色7.SYR1/8, シルト |
| P83 | 22.75 | 16.9 | 25 | 黒色7.SYR1/9, シルト |
| P84 | 39.0+e | 28.2 | 43 | 黒色7.SYR1/10, シルト |
| P85 | 22.23 | 16 | 24 | 黒色7.SYR1/11, シルト |
| P86 | 23.79 | 13.8 | 14 | 黒色7.SYR1/12, シルト |
| P87 | 28.86 | 16.6 | 24 | 黒色7.SYR1/13, シルト |
| P88 | 26.52 | 17 | 31 | 黒色7.SYR1/14, シルト |
| P89 | 24.57 | 9.0+e | 19 | 黒色7.SYR1/15, シルト |
| P90 | 27.1+e | 26.65 | 29 | 黒色7.SYR1/16, シルト |
| P91 | 38.3+e | 38.35 | 15 | 黒色7.SYR1/17, シルト |
| P92 | 24.96 | 22.75 | 24 | 黒色7.SYR1/18, シルト |
| P93 | 45.63 | 19.76 | 35 | 黒色7.SYR1/19, シルト |
| P94 | 29.51 | 21.97 | 37 | 黒色7.SYR1/20, シルト |
| P95 | 8.58 | 7.15 | 1 | 黒色7.SYR1/21, シルト |
| P96 | 8.45 | 7.8 | 9 | 黒色7.SYR1/22, シルト |
| P97 | | | | 黒色7.SYR1/23, シルト |
| P98 | 11.31 | 8.71 | 13 | 黒色7.SYR1/24, シルト |
| P99 | 20.8 | 9.75 | 3 | 黒色7.SYR1/25, シルト |
| P100 | 26.52 | 20.54 | 37 | 黒色7.GYR1/26, シルト |
| P101 | 16.64 | 14.3 | 6 | 黒色7.SYR1/27, シルト |
| P102 | 18.33 | 8.19 | 2 | 黒色7.SYR1/28, シルト |
| P103 | 16.12 | 12.87 | 12 | 黒色7.SYR1/29, シルト |
| P104 | 15.6 | 9.75 | 7 | 黒色7.SYR1/30, シルト |
| P105 | 11.96 | 4.5+e | 2 | 黒色7.SYR1/31, シルト |
| P106 | 11.7 | 8.45 | 2 | 黒色7.SYR1/32, シルト |
| P107 | 39.65 | 15.7+e | 32 | 黒色7.SYR1/33, シルト |
| P108 | 25.35 | 3.38 | 6 | 黒色7.SYR1/34, シルト |
| P109 | 10.4 | 7.085 | 1 | 黒色7.SYR1/35, シルト |
| P110 | 41.06 | 30.29 | 37 | 黒色7.SYR1/36, シルト |
| P111 | 22.1 | 18.72 | 42 | 黒色7.SYR1/37, シルト |
| P112 | 29.64 | 27.95 | 29 | 黒色7.SYR1/38, シルト |
| P113 | 26.91 | 11.0+e | 41 | 黒色7.SYR1/39, シルト |
| P114 | 23.4 | 6.4+e | 32 | 黒色7.SYR1/40, シルト |

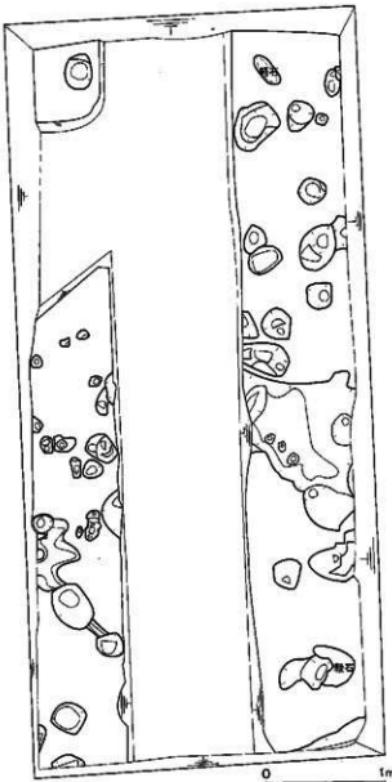


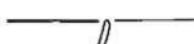
Fig. 55 17 トレンチ検出遺構 S=1/40



- 30 -



20



10

Fig.56 17 トレンチ出土遺物 S=1/3

Tab. 68 17 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層位 | 使用 | 器種 | 部位 | 色調 | 測量 | 粘土 | | | | | 備考 |
|-------|---------|----|----|---|---|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---|
| | | | | | | | E | Y | B | G | H | |
| 308 | ビット古墳・上 | 口杯 | 外 | 外面：灰-明赤褐色5YR5/6-5/6、内面：に赤い黄褐色10YR7/4。 | 口部-外側上部：ヨコ3 ナダ、外側下部：横方向ABC のナダ、内面：ヒビオサ エのナダ。 | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | わずかに外覆する。外側：スス付近。 |
| 309 2 | ミニチュ | 高杯 | 脚部 | 外側：に赤い黄褐色5YR5/4、裏面 色10YR3/1、内側：褐色7YR6/6、 裏：ナダ。脚部にはシボ に赤い黄褐色10YR7/3、褐灰色 10YR5/1。 | 外側：横方向のナダ、内 面：ナダ。脚部にはシボ に赤い黄褐色10YR7/3、褐灰色 10YR5/1。 | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 3 CD CD ABC | 中様で扭曲して局部が大きく開く器形を呈する。極 端な作りで、サイズも小さいので実用品とは考え にくい。 |
| 310 2 | 青磁 | 瓶？ | 口杯 | 瓶身部分：灰白色7.5Y7/2に類似 透明感、器内：灰白色 7.5Y7/1。 | 全面釉施、内面に1条の の字透明感、器内：灰白色 7.5Y7/1。 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |



Fig. 80 17 トレンチ構造完掘状況



PL. 81 17 トレンチ出土遺物

東西6m、南北3mの大きさである。

4.18.1 層位 (Fig. 57)

基本層位として、1~5層までを確認した。いずれもほぼ水平に整合的に堆積しているが、5層上面が西側に少し傾斜している。1~3~5層で遺物が出土している。

4.18.2 包含層出土遺物 (Fig. 58)

遺物は、古墳時代の土器、須恵器、土師器、土器、陶器が出土しているが、いずれも小片である。実測できたのは、中津野式の壺(311)・青磁瓶(312)、染付け(313)、陶器(314・315)である。

4.19 19 トレンチ

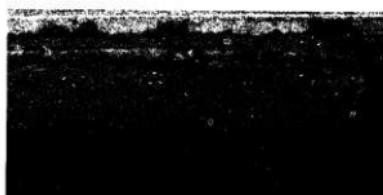
競技場と球技場の間で、福利厚生施設(EDUCA)の西側に位置する。東西方向に5m、南北に3mの大きさである。

4.19.1 層位 (Fig. 59)

基本層位として、1~9層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含しているのは1~4層までで、出土量も少ない。

4.19.2 包含層出土遺物 (Fig. 60)

遺物は、弥生土器、古墳時代の土器、須恵器、土



PL. 82 18 トレンチ

Tab. 69 18 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 備考 |
|----|---|-------|
| 1 | に赤い褐色7.5YR3/7、シラスの二次堆積。 | 現代 |
| 2 | 黄灰色2.5Y1/5、シルト、鉄分浸透。 | 近代・近世 |
| 3 | 灰色5Y1/6、砂混じりシルト、鉄分浸透。 暗灰黄色2.5Y2/4、粗砂混じりシルト、鉄分浸透。 | 近世以降 |
| 4 | 透。 | |
| 5 | 暗灰黄色10YR1/4、砂混じりシルト、鉄分浸透。 | |
| ① | 灰青褐色10YR2/5、砂混じりシルト。 | |
| ② | 浅黄色2.5Y3/7、粗砂。 | |

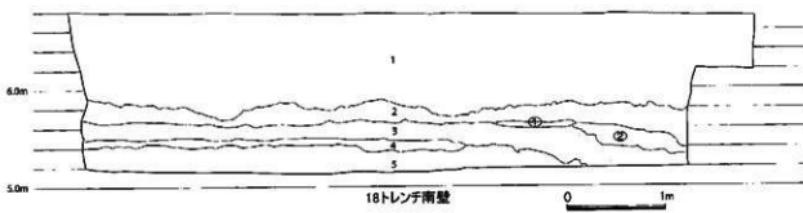


Fig.57 18 トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 70 18 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 純 文 | 孫 生 | 古 墳 | 須 恵 器 | 土 師 器 | 七 器 | 陶 器 | レン ガ | ガ ラ ス | 石 器 | その 他 | 計 |
|---|--------|--------|--------|-------------|-------------|--------|--------|---------|-------------|--------|---------|-----|
| | | | | | | | | | 類 | | | |
| 1 | | 4 | | | 2 | 68 | 7 | | | | | 81 |
| 3 | | 4 | 1 | | | 61 | 8 | | | 1 | | 75 |
| 4 | | | 6 | | | 1 | 102 | | | | | 109 |
| 5 | | 4 | | 3 | 48 | 3 | | | | 1 | | 59 |
| 計 | | | 18 | 1 | 6 | 279 | 18 | | | 2 | | 324 |

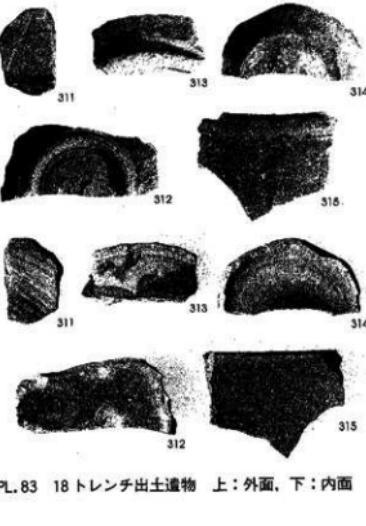


Fig. 58 18 トレンチ出土遺物 S-1/3

Tab. 71 18 トレンチ出土遺物観察表

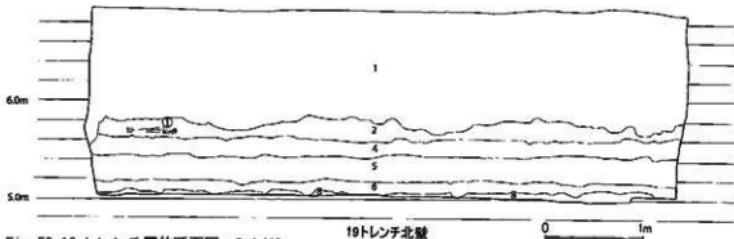


Fig. 59 19 トレンチ層位断面図 S=1/40

19トレンチ北壁

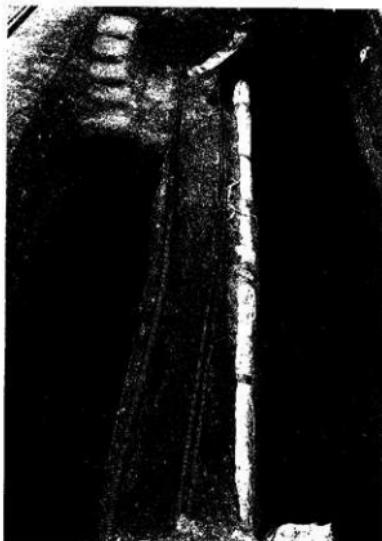
0 1m

Tab. 72 19 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 鑑定 |
|----|--|----|
| 1 | 上部灰色5Y1/5、粗砂混じリシルト質砂、鉄分含む。下部に赤い褐色SYR4/7、シルト質砂。 | 現代 |
| 2 | 黄褐色2.5YB1/1、粗砂混じリシルト、鉄分混入、鉄石(最大径2cm)含む。 | |
| 3 | 暗灰褐色2.5YR2/5、砂混じリシルト、鉄分混入、鉄石(最大径2cm)含む。 | |
| 4 | 暗灰褐色2.5Y2/4、砂混じリシルト、鉄分混入、鉄石(最大径2cm)含む。 | 近世 |
| 5a | 褐色2.5Y1/3、シルト、鉄分混入、鉄石(最大径2cm)含む。 | |
| 5b | 褐色2.5Y1/3、シルト、鉄分混入、鉄石(最大径2cm)含む。 | |
| 6 | 黄褐色2.5Y1/4、砂混じリシルト、鉄分混入、鉄石(最大径2cm)含む。 | |
| 7 | 赤褐色2.5Y3/6、砂砂、鉄石を多く含む。 | |
| 8 | 黒色10YR1/1.7、泥炭質、鉄分混入。 | |
| 9 | 灰褐色2.5Y2/6、粗砂。 | |
| ① | 黒褐色2.5Y1/3、シルト、鉄分混入。 | |

Tab. 73 19 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 縦文 | 赤生 | 古墳 | 須 | 土 | 陶器 | 骨器 | ガラス | 石器 | その他 | 計 |
|---|----|----|----|---|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1 | | 1 | | 1 | 5 | 4 | | | | | 11 |
| 2 | | 1 | | | 8 | | | | | | 9 |
| 3 | | 5 | | 3 | 27 | 1 | | | | | 36 |
| 4 | | 1 | 6 | 1 | 6 | 35 | 1 | | | | 51 |
| 計 | | | | 1 | 13 | 1 | 10 | 75 | 6 | | 107 |



PL. 84 19 トレンチ

Tab. 74 19 トレンチ出土遺物観察表

| No | 層・遺物 | 種類 | 器皿 | 部位 | 色調 | 隔壁 | 鉢土 | 備考 |
|-------|---------|-----|---------------------------|---------------|-----------|-----------------------------|----|----|
| 316 4 | 弥生(中 売) | 口縁部 | 外側: 暗褐色10YR6/1に偏紅。内 | 外側: ココナゲ?、内 | 3 3 3 3 3 | 入来1式、両面三角形を呈する口縁部を持ち、その | | |
| | | | 内: 黒褐色2.5Y3/1に偏紅。 | 面: ユビオサエのちナ | D C C | ABCD 部には刷毛目を施す。外側: 鉄分付赤。 | | |
| | | | 器 | テ。 | | | | |
| 317 3 | 古墳・土 墓 | 脚部 | 外側: 淡黄褐色7.5YB6/4、内面: | 外側: ハケのちナゲ。脚 | 3 3 3 3 3 | 約1/3残存、反転復元、底径(9.85)cm、両面に脚 | | |
| | | | 内面: 暗褐色7.5YR6/1、脚台内側: 灰褐色 | 内面: 鉄分付赤 | D D BC BC | 部の被合部が認められる。焼成している。 | | |
| | | | 器 | 色7.5YR6/2に偏紅。 | | | | |
| 318 4 | 土師器 杯 | 底部 | (内外面: 暗褐色7.5YR7/6、 | 外側: 2号、内面: 濃成 | 5 2 2 2 | 底径5.0、5.3cm、低い平底で、立ち上がり部分は | | |
| | | | 背) | している。底面: ヘラ切 | B D D C | 張り出す。花形はゆがんでいる。焼成している。 | | |
| | | | | | | | | |
| 319 4 | 土師器 破 | 底部 | 外側: 淡黄褐色10YR6/4、内面: | 外側: 破壊しているため | 2 5 2 2 | 約1/3残存、底面復元、底径(7.65)cm高台状の脚 | | |
| | | | 赤褐色10R4/5、赤色頬附。 | 不明、内面: 四乳ナゲ、 | D D D D | 部をもつ杯の後杯である。内面: 赤色頬附着、青 | | |
| | | | | | | 青に墨染している。 | | |

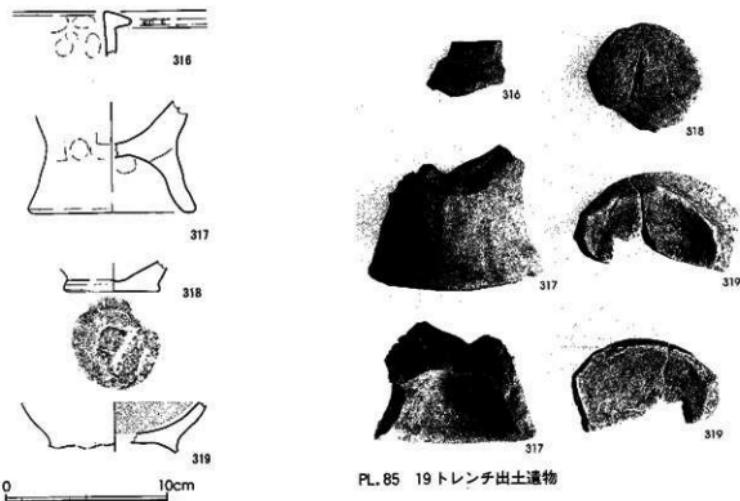


Fig. 60 19 トレンチ出土遺物 S=1/3

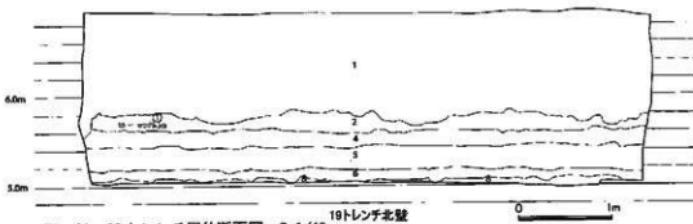


Fig. 61 20 トレンチ層位断面図 S=1/40



PL. 86 20 トレンチ北壁



PL. 87 20 トレンチ完掘状況

Tab. 75 20 トレンチ層位

| 番号 | 色調・土質 | 備考 |
|----|---|----|
| 1 | 上部灰色Y1/5、粗砂混じリシルト質特、軽石・現代 礁多く含む。下部5Y6/7に細い鉄色、シルト 質砂、シラスの二次堆積。 | |
| 2 | 黄褐色2.5Y3/3、砂混じリシルト、バサバサし ている。鉄分濃度、1~3cm大的軽石を含む。 | |
| 3a | に細い黄褐色10Y6/5、シルト、鉄分が細かい。近世 崩壊に因る。上面が厚さ5mmの鉄分が覆ってい る。1~3cm大的軽石を含む。 | |
| 3b | 黄褐色10Y6/4、シルト、砂混じリシルト、鉄分が3a層 より多く濃度、1~3cm大的軽石を含む。 | |
| 4a | 黄褐色10Y6/5、シルト、バサバサしている。中世か古代 鉄分濃度、1~3cm大的軽石を含む。 | |
| 4b | 褐色10Y6/4、シルト、バサバサしている。1 ~3cm大的軽石を含む。 | |
| 5 | 黒色10YR1/1.7、シルト、下部に5cm大的軽石 を多量含む。 | |
| 6 | 褐褐色10Y3/3、粗砂、軽石を多く含む。 | |
| ① | 褐灰色10YR1/4、シルト。 | |

Tab. 76 20 トレンチ出土状況

| 層 | 縦 | 深 | 古 | 東 | 土 | 陶 | レ | ガ | 石 | その | 計 |
|-----|---|---|---|---|----|----|----|----|---|----|---|
| 層 | 文 | 生 | 墳 | 惠 | 土 | 器 | 器 | ガ | ス | 他 | |
| 3 | | 3 | 1 | 1 | 9 | 15 | | | 1 | 30 | |
| 4 | | | 4 | 5 | 14 | | | | 1 | 24 | |
| Sd4 | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| 計 | | | | 7 | 1 | 6 | 24 | 15 | 2 | 55 | |

器、陶器などが出土している。実測可能な遺物は4点のみであった。入来I式の壺(316)、古墳時代の壺(317)、土師器(318・319)である。

4.20 20 トレンチ

競技場北の東側に位置する。東西4.5m、南北3mの大きさである。

4.20.1 層位 (Fig. 61)

基本層位として、1~6層までを確認した。いずれも水平に整合的に堆積している。遺物が包含し

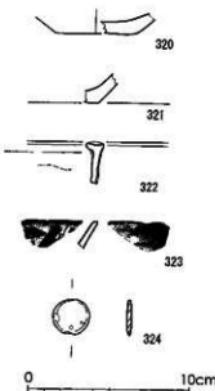
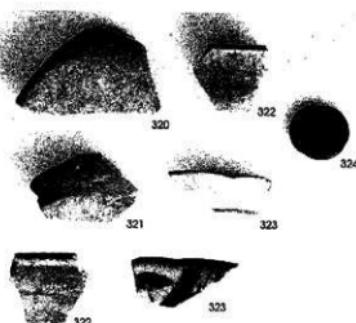


Fig. 62 20 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 88 20 トレンチ出土遺物

Tab. 77 20 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 層・ 遺物 | 種類 | 形状 | 部位 | 色調 | 調査 | 出土 | 備考 | | | | |
|-------|----------|----|-----|--------------------|----------------------------|------|-----|----|----|--|----------|--|
| No. | 層・ 遺物 | 種類 | 形状 | 部位 | 色調 | E | B | H | Q | D | S | 備考 |
| 320 4 | 土師器 | 杯 | 底色 | 内外面: 淡黃褐色7.5YR6/5. | 発達のため不明。 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/3生存、底板復元、底径(4.65)cm、平底、非 常に密接している。 | | |
| 321 4 | 土師器 | 杯 | 底部 | 内外面: 棕色5YR7/8. | 内外面: 四脚ナメ、外面 の調査が少しあらい。 | BC | (D) | 2 | 2 | 2 | | |
| 322 3 | 青磁 | 碗? | 口縁部 | 器内: 黄白色8R/0/0に類似。 | 内面下部のみ無釉。 | U | D | A | | | 口縁上面は厚め。 | |
| 323 3 | 青磁 | 碗? | 口縁部 | 器内: 黄白色8R/0/0に類似。 | 全面無釉。 | 1 | | | | | | |
| 324 3 | 青磁 | 碗? | 口縁部 | 器内: 黄白色8R/0/0に類似。 | 全面無釉。 | 1 | | | | | | |
| No. | 層・ 遺物 | 種類 | 形状 | 部位 | 色調 | E | B | H | Q | D | S | 備考 |
| 324 | 青磁? | 碗? | 2.2 | 2.18 | 0.25 | 2.44 | 青白 | 青白 | 青白 | 青白 | 青白 | 青白は薄な丸い芯である、青白は半透明だが、器部は暗くなっている、黒色である。 |

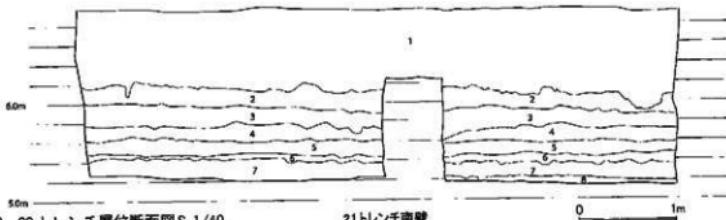


Fig. 63 22 トレンチ層位断面図 S=1/40.

21トレンチ南壁

Tab. 78 21 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 参考 |
|----|---|------------|
| 1 | 上部SYR6/6褐色、シルト質砂、下部SYR4/7に はい覆色、シルト質砂、どちらも、シラスの二 次地層。 | 現代 |
| 2 | SYR2/5褐色黃色、砂混じりシルト、鉄分混 合、1cmの大粒石を含む。 | 近代・近世 通 |
| 3 | SYR2/5褐色黃色、砂混じりシルト、鉄分混 合、1cmの大粒石を含む。 | 近世 通 |
| 4 | SYR2/3オリーブ褐色、粗砂混じりシルトを基盤 とする、鉄分後退、1cmの大粒石を含む。 | 中世 |
| 5 | SYR1/4黄褐色、砂混じりシルト。マンガンを 含む、1cmの大粒石を含む。 | |
| 6 | SYR1/4褐色、シルト、バサバサしている。中世 マンガン飛逸、1cmの大粒石を含む。 | |
| 7 | SYR1/4黄褐色、砂混じりシルト。マンガン飛 逸、1cmの大粒石を含む。 | |
| 8 | SYR3/6にい黄色、粗砂、粗石を多く含む。 | |

Tab. 79 21 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 縄文 | 古墳 | 唐 | 土器 | 土器 | 陶器 | 磁器 | レンガ | ガラス | ガラス | 石器 | その他 | 計 |
|---|----|----|---|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 1 | | | | | | 1 | | | | | 2 | 3 | |
| 2 | | 1 | 3 | | 11 | 20 | 8 | | | | | 43 | |
| 3 | | 1 | | 7 | 15 | 79 | 13 | | | 1 | 3 | 119 | |
| 4 | | | | 1 | 12 | 6 | | | | 1 | | 20 | |
| 5 | | | | 7 | 12 | 36 | | | | | | 55 | |
| 6 | | | | 2 | 2 | 4 | 57 | 3 | | | 1 | 69 | |
| 計 | | 1 | 1 | 20 | 2 | 54 | 199 | 24 | | | 2 | 6 | 309 |



PL. 89 21 トレンチ南壁



PL. 90 21 トレンチ完掘状況

ているのは3・4層のみで、出土量も少な区、破片
も小さい。

4.20.2 包含層出土遺物 (Fig. 62)

遺物は、古墳時代の土器、須恵器、土師器、土器、
陶磁器が3・4層より出土している。このうち、実
測できるものは4点のみであった。土師器杯(320・
321)、青磁香炉(322)、染付け(323)、基石(324)
である。

4.21 21 トレンチ

競技場北の中央部に位置する。東西4.5m、南北
3mの大きさである。

4.21.1 層位 (Fig. 63)

基本層位として、1～8層までを確認した。いず
れも水平に整合的に堆積している。遺物が包含し
ているのは1～7層までである。1層は現代、2・3
層は近世以降、4～7層は中世の包含層であると考
えられる。

4.21.2 包含層出土遺物 (Fig. 64)

遺物は、縄文土器・弥生土器・古墳時代の土器・
須恵器・土師器・陶磁器などが出土している。破片
が小さく磨滅しているものが多いが、中世の土師

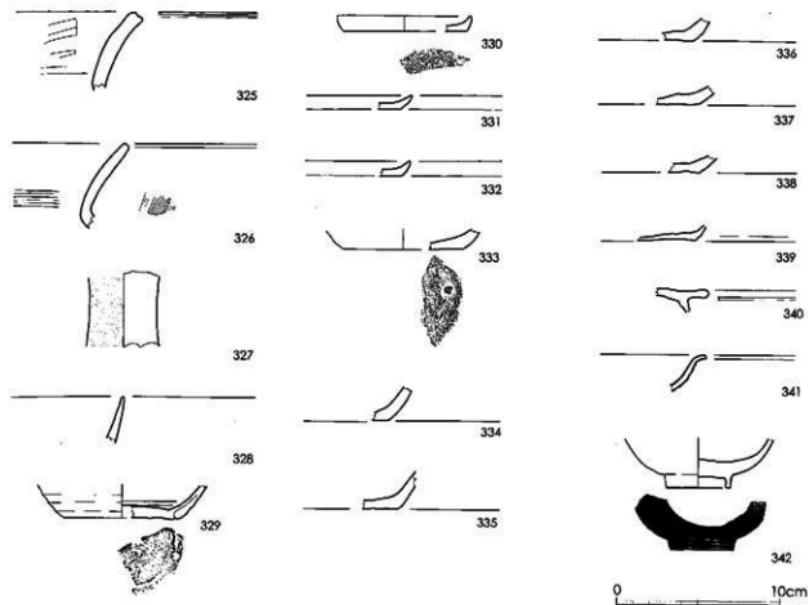
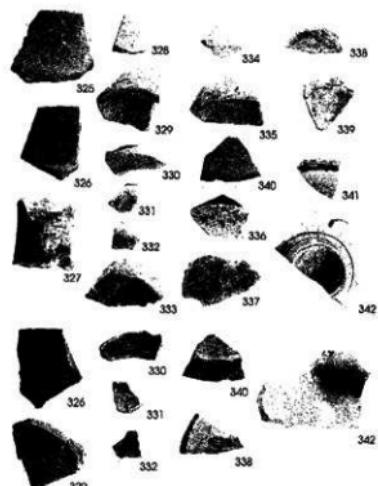


Fig. 64 21 トレンチ出土遺物 S=1/3



PL. 91 21 トレンチ出土遺物

器が他のトレンチに比べて比較的多いのが特徴である。4・6・7層で出土している。古墳時代前半の甕(325・326), 古墳時代後半期の高杯(327), 土師器杯(328~339), 陶器蓋(340), 青磁(341), 染付け椀(342)である。

4.22 22 トレンチ

競技場北の西側に位置する。東西4.5m, 南北2.6mの大きさである。

4.22.1 層位 (Fig. 65)

基本層位として、1~8層までを確認した。1~3層は北へ傾斜しているが、5層以下はほぼ水平に堆積している。6層以下は、下層の8層土が混在している部分も見られる。なお、東側に8層土に突き刺した木杭が検出された。2層土までに埋まっているが、時期は不明である。2層から6層までは河川跡であることも考えられる。

遺物が包含しているのは1~7層までである。1層が現代、2~6層が近代・近世、7層が古代以降であると考えられる。

Tab. 80 21 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 種類 | 器種 | 部位 | 色調 | 調査 | 地土 | | | | | 備考 |
|-------|-------|-----|-----|-------------------------------------|--|----|---|---|---|-----|--|
| | | | | | | T | E | H | S | K | |
| 325 2 | 古墳・土器 | 口縁部 | 外側 | にぶい黄褐色10YR6/4、内側：白、裏面：青白 | 外側：ナガ、内側：後方 裏面：青白10YR7/5、背面：青白のハケのちナガ、灰色2.5YR7/6。 | 4 | 4 | 4 | 4 | ABC | 溝曲しながら外反する口縁部で、底曲部附近で少しお損している。地部はヨコナギによって面を持ち、くぼんでいる。 |
| 326 3 | 古墳・土器 | 口縁部 | 外側 | 黒色1.5YR0/0、内側：褐色5YR7/6、裏面：青白5YR6/6。 | 外側：D部前方のハケ、内側：後方のハケのちナガ、裏面：後方のハケのちナガ。 | 2 | 2 | 2 | | C | 中津野式、ぐの字に彫る口縁部、底部は平緩な面を持つ、外側にスス付有、後分も付在している。 |
| 327 3 | 古墳・土器 | 胸部 | 外側 | 赤褐色2.5YR4/6、赤色顔料、基 | 赤褐色2.5YR4/6、赤色顔料、基 | 2 | 2 | | | CD | 横方向の1オキ、上部は杯体との連合痕で欠損しているを減らしている。 |
| 328 4 | 土器 | 杯 | 口縁部 | 外側：褐色10YR7/6、器内：青白 | 外側：四輪ナガ、裏面：四輪ナガ、底部：褐色2.5YR4/6。 | 2 | 2 | 2 | | C | 内外面に赤色顔料が付着しているかもしれない、底丸して唇部が削れている所より赤っぽい色調を呈する、小片のため焼き不均。 |
| 329 7 | 土器 | 杯 | 裏部 | 内外面：淡黃褐色7.5-10YR8/3、 | 内外面：四輪ナガ、底 | 2 | 2 | | | D | 約1/6残存、反転版元、底径(8.35)cm、底面周縁部に唇部との接合剥離跡に與る。 |
| 330 6 | 土器 | 杯 | 突起 | 外側：淡黃褐色10YR8/3、内側： | 内外面：四輪ナガ、底 スス付有、淡褐色10YR3/1、 | 2 | 2 | 2 | | C | 約1/6残存、反転版元、口径(8.35)cm、底径(7.45)cm、肩高:0.95cm。 |
| 331 6 | 土器 | 杯 | 突起 | 内外面：褐色~7.5YR7/6、赤色 | 内外面：四輪ナガ、底 顔料、裏面：灰白~淡褐色 | 2 | 2 | | | C | 小片、焼成している。 |
| 332 6 | 土器 | 杯 | 突起 | 外側：淡黃褐色10YR8/2、内側： | 内外面：四輪ナガ、底 底黄褐色10YR6/2、スス付有、 | 2 | 2 | 2 | | C | 小片、焼成している。 |
| 333 6 | 土器 | 杯 | 底部 | 外側：灰白色10YR8/2、内 | 内外面：四輪ナガ、底 面：灰白色10YR8/2、 | 2 | 2 | 2 | | DC | 約1/3残存、反転版元、底径(7.15)cm、底面板本。 |
| 334 4 | 土器 | 杯 | 底部 | 外側：灰白色10YR8/2、内側： | 内外面：四輪ナガ、底 底黄褐色10YR8/3、 | 2 | 2 | 2 | | C | 平底、焼成している。 |
| 335 6 | 土器 | 杯 | 底部 | 外側：褐色2.5YR6.5/6、部分的に | 内外面：四輪ナガ、底 底灰褐色2.5YR6.5/1、内側：褐色 | 2 | 2 | 2 | | C | 平底、焼成している。 |
| | | | | 2.5YR6.5/6、にぶい黄褐色 | 部：素切り、 | | | | | | |
| 336 6 | 土器 | 杯 | 底部 | 外側：底面：灰白色10YR8/3、 | 外断：焼成している、内 面：素切りナガ、 | 2 | 2 | | | C | 平底、焼成している。 |
| 337 6 | 土器 | 杯 | 底部 | 内外面：灰白色2.5YR7/2、 | 内面：四輪ナガ、底 部：素切り、 | 2 | 2 | 2 | | C | 平底、焼成している。 |
| 338 4 | 土器 | 杯 | 底部 | 外側：褐色2.5YR7/2、構内：後 | 内外面：四輪ナガ、底 底黄褐色10YR8/3、 | 2 | 2 | | | CD | 平底だが、底面が少しむがんでいる、焼成している。 |
| 339 4 | 土器 | 杯 | 底部 | 外側：灰白色2.5YR7/2、 | 内外面：四輪ナガ、底 部：素切り、 | 2 | 2 | | | ABC | 平底、唇部が薄く、少しむがんでいる、焼成している。底面にはわざかに糸切り痕認められる。 |
| 340 3 | 陶器 | 壺 | | 上面：灰褐色10YR8/2、オリ | 上面のみ施 色5YR7/2、外側：拂灰～張継、 | 1 | | | | D | 釉は化粧して、少し白濁している。 |
| 341 3 | 青磁 | 碗? | 口縁部 | 灰白色10YR8/2、半透明釉、器内： | 全體施釉、 | 2 | 2 | | | D | |
| 342 3 | 朱付 | 碗 | 底部 | 灰白色10YR8/6、 | 高台置け部以外施釉、 | 1 | | | | D | 約1/2残存、反転版元、底径(3.85)cm。 |
| | | | | 器内込みみは他の器と似た | 釉は | | | | | | |

4.22.2 包含層出土遺物 (Fig. 66)

遺物は、縄文土器、古墳時代の土器、須恵器、土師器、陶器等が出土している。実測可能なものは21点で、その種類は古墳時代の壺(343～345)、中津野式の壺(346)、古墳時代の壺(347)、高杯(348)、古墳時代のミニチュア土器(349)、中世の土師器(350・351)、須恵器(352～354)、青磁(355・356)、陶器(357～361)、素焼きの香炉？(362)、七匣(363)がある。



PL. 92 22 トレンチ西壁

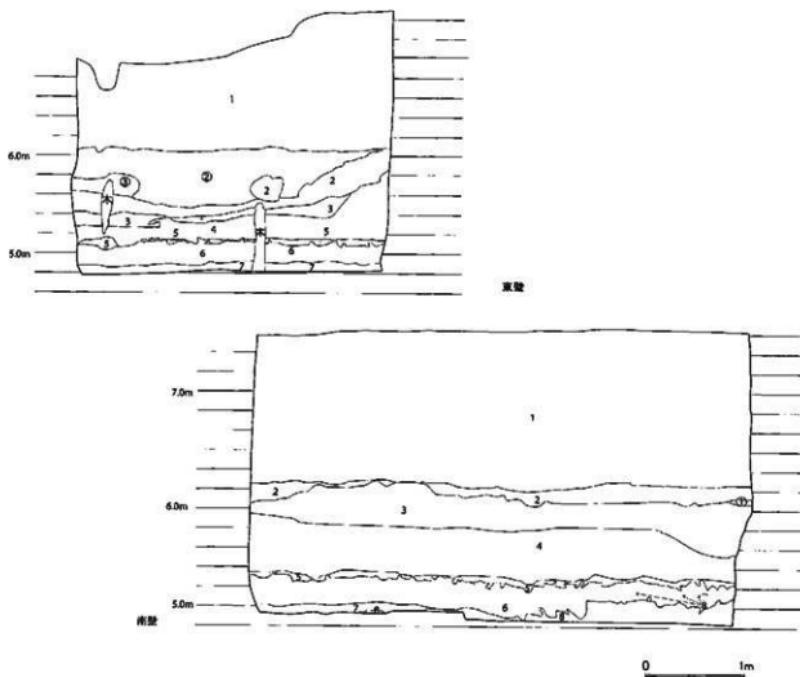


Fig. 85 22 トレンチ層位断面図 S=1/40

Tab. 81 22 トレンチ層位

| 層名 | 色調・土質 | 特考 |
|----|---|-------|
| 1 | 上部浅黄色2.5Y4/7, シルト質砂, シラスの二 次堆積, 厚さ約65cm, 下部灰色5Y1/5, 粗砂混 じりシルト質砂, 錐石・礫を多く含む。 | 現代 |
| 2 | 褐色5Y6/4, 砂混じりシルト, 鉄分を含 む。 | 近代・近世 |
| 3 | 暗灰黄色2.5Y2/5, 砂混じり砂質シルト, 簡状 にかたった鉄分付層。 | 近世 |
| 4 | 黄灰色2.5Y1/5, 砂混じり砂質シルト, 上層 より砂がやや粗い, 鉄分混透。 | 古代 |
| 5 | 褐褐色2.5Y1/3, シルト, 鉄分混透。 | 近世 |
| 6 | 黄褐色2.5Y1/4, 砂混じりシルト, 鉄分混 透。 | 古世 |
| 7 | にぶい黄色2.5Y3/6, 粗砂, 軽石を多く含む。 | 古代以降 |
| 8 | 黒色10YR1/1.7, 粗砂, 鉄分混透。 | |
| ① | 暗灰黄色10YR1/1.7, 細砂。 | |
| ② | 褐灰色10YR, 細砂, 鉄分混透。 | |
| ③ | 上部暗色5YR6/6, 下部7.5YR3/9ににぶい橙色, シルト質砂。 | |
| ④ | 灰青褐色10YR2/5, 砂層。 | |

Fig. 82 22 トレンチ遺物出土状況

| 層 | 純 文 字 | 器 具 | 古 墳 墓 | 土 器 | 陶 器 | 石 器 | レ ガ ラ ス | ガ ラ ス | 其 他 | 計 |
|---|-------------|--------|-------------|--------|--------|--------|------------------|-------------|--------|-----|
| 1 | | 1 | 3 | 8 | | | 1 | 13 | | |
| 2 | 1 | 12 | 5 | 5 | 90 | 36 | | 1 | 4 | 154 |
| 3 | | 4 | 2 | | 17 | 11 | | | | 34 |
| 5 | | 9 | 3 | 14 | 67 | 1 | | | | 94 |
| 6 | | 5 | 1 | 20 | 1 | | | | | 27 |
| 7 | | | | | 3 | | | | | 3 |
| 計 | 1 | 31 | 10 | 23 | 197 | 57 | | 1 | 5 | 325 |



PL. 93 22 トレンチ
完掘状況

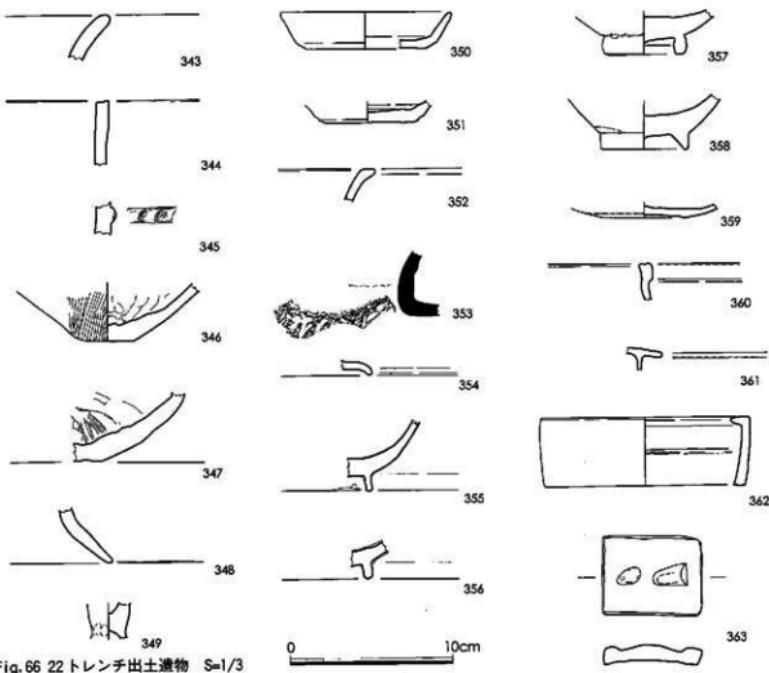
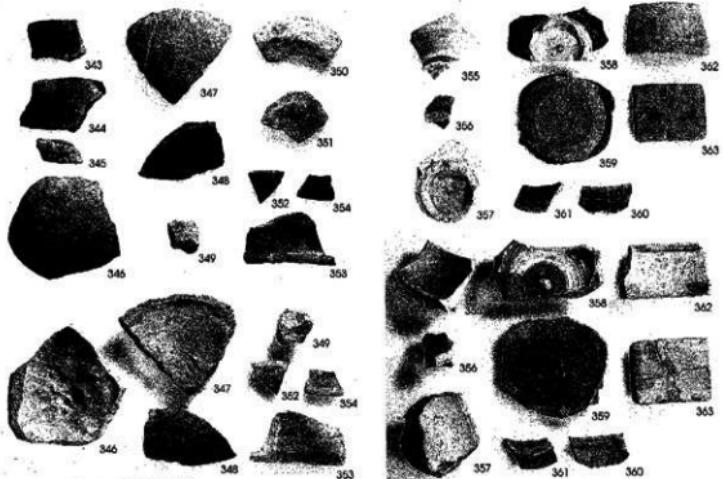


Fig. 66 22 トレンチ出土遺物 S-1/3



PL. 94 22 トレンチ出土遺物

Tab.83 22 トレンチ出土遺物観察表

| No. | 形・ 遺物 | 種類 | 部材 | 色調 | 調査 | 断土 | | | | | 備考 |
|-------|--------------------|------------|--|--------|-----------------------------|----|---|---|---|---|--|
| | | | | | | R | W | S | O | H | |
| 343.5 | 古墳・土 壁 器 | 口縁部 | 外面：にい・黒色SYR6/2.5. 内 面：上部淡褐色SYR6/3. 下部に水 墨・深褐色SYR6/1~6.6. | ココナゲ. | 3 3 3 3 3 3 CD CD H CD | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 少し背曲して開く口縁部である。外側にスカが少し 付着している。 |
| 344.2 | 古墳・土 壁 器 | 口縁部 | 外面：にい・黒色7.SYR7/4. 内 面：内黄褐色～にい・黒色 10YR8/3~7/3. 脱肉：黒色SYR7/4. | ココナゲ. | 3 3 3 3 3 C AB D CD CD | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 丁寧になでている。端部は平頭に仕上げられ、少し 削い、削きは不明。 |
| 345.6 | 古墳・土 壁? 器 | 断面 | 外面：にい・黄褐色10YR6/3. 内 面：にい・黒色7.SYR7/4. | ナデ? | 4 4 4 4 4 HCD D C C A | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 断面渦巻状の突審に、ハケ工具によると考えられ る跡み目を残している。先番の形から量の問題と推 定したが、焼の可能性もある。廃城している。 |
| 346.1 | 古墳・土 壁 器 | 底盤 | 外面：褐色7.SYR4/4. 内面：男赤 外面：腹側方向のハケ。内 側色2.SYR5/7. | ユビオサエ. | 3 3 3 HCD HCD A | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 底径：3.6cm。小さな平底だが、底脚は少し丸み を帯びている。外側にはハケ調整が顕著で、ハケの 跡が広い。内面にはユビオサエ痕が頗るで、器底の凹 凸が目立つ。風化有り。 |
| 347.5 | 古墳・土 壁 器 | 断面 | 外面：褐色SYR2/6に似似。内面：外側：ユビオサエのナラ 色2.5-SYR2/6. 脱肉：黒色 内面：褐色SYR2/6に似似。内面：壁側状の工具 跡? (底盤)。 | ナラ? | 3 3 3 3 3 CD CD CD A R | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 小さ日の手延を呈すると思われる。内面の網状が 非常に高く、工具痕の凹凸が顕著である。外側の 網状もあっている。 |
| 348.6 | 古墳・土 高 脚器 杯? | 断面 | 内面：灰褐色7.SYR5/5.2. 近く：灰褐色10YR6/1. 脱肉部分 跡? (底盤)。 | ココナゲ. | 3 3 3 5 3 C HCD D A BC | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 崩曲して既く脚部、傾きや予想される径の大きさか ら高杯としたが、鉢の口縁部である可能性もある。 |
| 349.6 | 古墳・土 壁 器 (?) | 底部 | 内面：灰素～後灰褐色2.3YV 10YR8/3. | スピオサエ. | 4 4 4 5 5 4 C D D BC C A | 4 | 4 | 4 | 5 | 5 | ミニチュア品、複数を作りである。 |
| 350.1 | 土器器 杯 | 底 | 外側：浅灰褐色7.SYR8/4. 内面：内面：底盤ナダ? 底 盤:SYR7/7. | ナダ? | 3 3 3 3 HCD HCD HCD HCD | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 約1/4残存、復元復元。口径 (10.4) cm. 底径 (7.15) cm. 高さ：2.3cm. 平底で、底盤はゆる やかに立ち上がる。壊滅している。 |
| 351.6 | 土器器 杯? | 底部 | 内面：浅灰褐色10YR8/4に須 鉢分付着のため不明。 但し。 | ナダ? | 2 2 2 B D D | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 約1/4残存、復元復元。底径 (5.2) cm. 平底で、 立ち上がり部が少し張り出す。壊滅している。 |
| 352.2 | 須恵器 杯 | 口縁部 | 内面：灰褐色5.0/0. | ココナゲ. | 2 2 D D | 2 | 2 | | | | 内面の縫隙は非常にシャープである。 |
| 353.2 | 須恵器 杯 | 底 | 外側：灰褐色4/0. 形的に自然釉 番部以下：タキモ、淡 黑褐色2.5YR3/1に似似。内面：上 部：細縫ナダ. 部底灰褐色2.5YR4/1. 下部灰褐色5/1 に似似。 | ナダ? | 2 2 D D | 2 | 2 | | | | 外側の脚部付近から下部へ自然釉が付着している。 壊滅している。 |
| 354.5 | 須恵器 杯 | 口縁部 | 内面：灰褐色6/0に似似。 | ココナゲ. | 5 2 D (D) | 5 | 2 | | | | 端部はわずかに下方へ包曲する。 |
| 355.2 | 青瓷 | 底 | 施釉部：明灰褐色10YR7/1に須 紅、背面：灰褐色8/0. | ナダ? | 1 D | 1 | | | | | 高台内面に歩などと輪轍。 |
| 356.2 | 青瓷 | 底 | 内面：灰白色8/0/1に似似。高台見 込み無施釉部分：暗青褐色2.SYR2/3 に須 紅に似似。 | ナダ? | 1 D | 1 | | | | | 釉が厚い。貯入有り。 |
| 357.2 | 周器 碗? | 底基 | 施釉部：灰白色SYR6/1に須紅。無 施釉部：にい・黒色SYR6/4に須 紅。内面：内面施釉乱。 | ナダ? | 2 2 HCD HCD | 2 | 2 | | | | 底径4.25cm. 釉が厚い。 |
| 358.2 | 周器 碗? | 底基 | 外側施釉部：暗青褐色10YR7/1に須 紅。外側無施釉部分：須 紅。内面：須の裏目には釉が厚 い。外側無施釉部分：須 紅。内面：オーバーペ イ・須紅。内面：5YR6/8-5YR6/5. 内面：5YR6/8-5YR6/5 に須紅。部分的に暗褐色 10YR3/4に須紅。 | ナダ? | 2 ABCD | 2 | | | | | 約2/3残存。底径5.25cm. |
| 359.表 | 周器 | 底部 | 外側施釉部：黑色SYR1.7/1に須 紅。外側無施釉部：にい・赤褐色 SYR4.5/4. 内面：赤褐色 2.5YR2/2.5. | ナダ? | 3 3 3 HCD HCD HCD | 3 | 3 | 3 | | | 底径4.85cm. |
| 360.3 | 周器 碗 | 口縁部 | 施釉部分：暗オーバーペ イ・須紅。無施釉部分：須 色 上面のみ施釉。 7.SYR6/3/3に須紅。 | ナダ? | 2 2 2 2 CD CD CD | 2 | 2 | 2 | 2 | | |
| 361.3 | 周器 | 茶家 盆 | 上面施釉部分：墨褐色2.SYR2/2. 内 外面：内面：にい・赤褐色 7.SYR6/3/3に須紅。 | ナダ? | 5 2 CD CD | 5 | 2 | | | | |
| 362.2 | 青瓷 碗 | 脚台 完形 | 外側～内面上部：にい・褐色 7.SYR2/3. 内面：灰褐色5.YR8/1 に須紅。 | ナダ? | 2 2 2 D D D | 2 | 2 | 2 | | | 約1/6残存。復元復元。口径 (12.6) cm. 底径 (12.15) cm. 器高：4.25cm. |
| 363.2 | 青瓷 碗 | 七 完形 型? | 内面：にい・褐色～墨褐色SYR6/4~ 6/6. | | | | | | | | 上面に2箇所くぼみ有り。壊滅している。剖面には 周する辺縁が認められる。 |

5まとめ

5.1 層位

調査が広範囲にわたったため、層位は各トレンチごとに層名を設定したが、層位A～層位Dまでの4つのグループに分類することができた。

層位A：表上の下に、灰色を基調とする水田層と、その下に黒褐色基調とする層が砂層の直上に堆積し、黒褐色層の検出レベルが標高6m前後であ

る。トレンチ1, 7, 8, 15, 16, 17。黒褐色が古代から弥生時代終末期の遺物包含層となっている。

層位B：層位Aに似るが、黒褐色層の検出レベルがAより低く、標高5.5m以下である。トレンチ11, 12, 13, 19, 20, 21。

層位C：河川跡の堆積物であると考えられる砂層または氾濫時の堆積物が見られる。トレンチ6, 9,

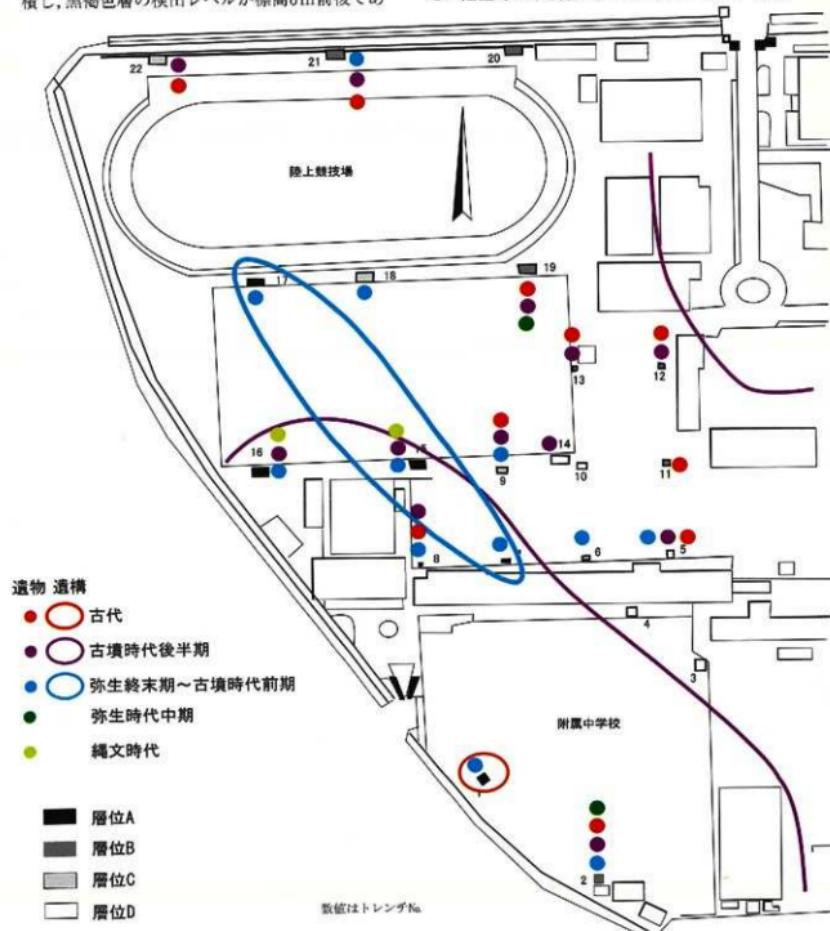


Fig. 67 層位と弥生時代終末期～古代の構造・遺物分布

層位D：現代の遺構によって地山直上まで掘削されている。トレンチ3, 4, 5, 10, 14。

層位のグループと古墳時代前後の遺構との関係を見てみると（Fig. 67），層位Aの場所に遺構が存在し，調査区の北東方向から南西方向に斜めに配置されていることがわかる。層位Aはその時期の包含層が標高6mほどで検出し，地山である砂層の検出レベルも高い部分である。縄文時代に形成された砂洲地形の高い部分に住居など構えていたと考えられる。また15・16トレンチでは，曾畠式土器が出土した。住居張り床や埋土中出土であったが，これは縄文時代前期の遺物包含層を古墳時代の住居建設時に掘り返した結果混在したものと考えられ，砂洲の形成と人間活動の開始時期を示唆していると考える。

層位Cのうち，確実に河川跡の堆積物であると考えられるのは22トレンチのみであった。あとは，氾濫や湿地の堆積物であると考えられる。層位Cは，層位Aの位置に沿うように分布している。地山の砂層レベルも低い。その東側に，層位Bが分布しており，砂層レベルが層位Cよりは高くなっている。過去の調査成果をみると，さらに東側には，弥生時代から古墳時代の遺構が確認されており，層位Aと類似した層位が広がっている。

北西方向から南東方向に走る砂洲の起伏が，東西方向に繰り返されると推定でき，先史時代の遺構の配置も，旧地形によって規定されているものと思われる。

5.2 遺構

遺構が検出されたのは，1トレンチ，2トレンチ，7トレンチ，8トレンチ，15トレンチ，16トレンチ，17トレンチで，調査範囲の南西部にあたる。遺構の時期は，大きく3つに分類することができる。弥生時代終末期～古墳時代前期：7, 15, 17トレンチ

古墳時代後半期：2, 8, 15, 16トレンチ

古代：1トレンチ

弥生時代終末期～古墳時代前期

遺構の種類は，ピット群と住居跡である。ピット群は7トレンチと17トレンチで確認されたが，いずれも，配列は確認できなかった。不定形の土壤状のものも含まれることから，住居跡の一部であ

る可能性も高い。7トレンチの土器はいずれも中津野式で，弥生時代終末期であると考えられる。17トレンチからは，少量の遺物しか出土していないが，先史時代の遺物が，弥生時代終末期から古墳時代前期の特徴を備えているため，遺構もその範疇で捉えておきたい。

15トレンチからは，SK13・14がこの時期のものと考えられる。SK14床面には東壁際に炉があり，SK13とも住居跡であると考えられる。SK14は東原式の窓が出土していることから，古墳時代前期である。いずれも住居跡の全形を知りうることはできないが，平面形が方形を基調とし，軸が北西-南東方向を向いている。SK14には南側に間仕切りのような段が認められる。両者とも，張り床を持つ。古墳時代後半期

遺構の種類は，住居跡とピットである。住居跡が確認できたのは8トレンチと16トレンチである。いずれも，北西-南東方向を軸とする。SK16以外は，平面は方形を基調とし，張り床をもつ。SK16は壁の一部が突出する柄鏡形を呈する。これも，張り床をもつ。15トレンチと同様，住居跡が幾重にもなり合うが，このトレンチの住居跡はすべて笠貫式の時期である。住居跡出土遺物群のうち，年代が推定できるものは須恵器を伴っているSK6のみである。これには，笠貫式の土器群と，須恵器の杯蓋，短頸壺と考えられる肩部が出土しているが，須恵器の杯蓋がTK10に比定できることから，SK6は6世紀中ごろの住居であると考えられる。他の住居跡に關しても，出土遺物が笠貫式土器で，それらに特に時期差を認められないことから，6世紀代を考えたい。

なお，SK16のような平面形が柄鏡形の住居跡は，本遺跡においては，中央図書館における発掘調査で検出され，2例目である。この住居跡も，笠貫式の時期で，張り床を有していた。

古代

1トレンチでのみ遺構が検出された。平面形が円形や梢円形の土壤状遺構である。大きさは，直径約50cmから140cmほどで多少ばらつきがある。最も大きいSK4の埋土中には，多量の炭化物が混在していた。しかし，土師器片のほか，特徴的な遺物は出土しなかった。土師器から，9世紀後半以降と考えられる。

5.3 遺物

本調査で出土した遺物の時期は現代から縄文時代にまで及んでいる。先史時代の遺物についてみると、縄文土器、弥生中期土器、弥生時代終末期～古墳時代の遺物、古代のものがある。中でも、造構が存在する弥生時代終末期～古代の遺物が多い。

縄文時代

縄文時代前期の曾畠式土器が出土している。15点出土したが、15トレンチから出土したものがほとんどで、16トレンチから1点だけ出土している。いずれも共通した特徴がある。縦やかに屈曲する器形で、口縁部外面には棒状の施文具で施された横位の数条の沈線文や短沈線文を、さらに下には縦位または鋸歯文の沈線文が施されている。内面には、口縁部に横方向の短沈線文や沈線文を、口唇部上面には刺突文を施している。これらの特徴から、すべて曾畠2式であると考えられる⁴⁾。

弥生時代土器

弥生時代後期までの遺物は、全部で5点出土している。前期後半の壺(173)と、入来I式の壺(316)、入来II式の壺(26)、中期の壺(27)、後期の壺と考えられる口縁部(144)である⁵⁾。全体の遺物数に比べるとこの時期のものは非常に少なく、破片も小さい。周辺からの流れ込みであると考えられる。

弥生時代終末期～古墳時代前期の遺物

中津野式・東原式と呼称する土器が主体である(Fig. 68)⁶⁾。壺(149・174・96・220・221・256・56・226)は、くの字状に縦やかに屈曲する形態を呈し、突帯を持つものと持たないものがある。突帯には刻み目を施すものがあり、布目圧痕が認められるものもある。脚台は、体部との接合部が細く、脚台が三角形状を呈する。脚端部は丸く仕上げることが多い。また、脚台内面天井部は、ドーム状に丸い。壺は少ないが、一条の刻み目突帯を胴部に有し、底部は、小さい平底である。少し太めのハケを施す。高杯は、外反しながら大きく外に開く口縁部と屈曲部が伸びてからうじて弱い稜線のみを残す109がある。脚部は、中程で屈曲し、下半部は大きく広がる形態を呈する。屈曲部付近に穿孔を有するものもある。鉢は、小さな平底を有し、内湾気味の口縁部をもつもの(59)がある。口唇部をヨコナデによって細くシャープに尖らせている。外面下半部は、織維状の工具によって磨

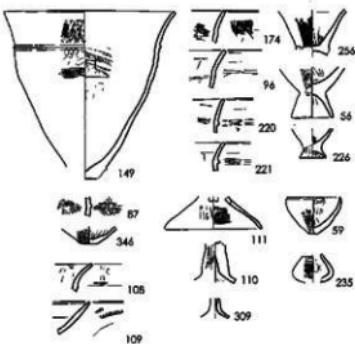


Fig. 68 弥生時代終末期～古墳時代前期土器 S=1/10



Fig. 69 古墳時代後半期の土器・須恵器 S=1/10

いている。小形丸底壺は、下膨らみの胴部を持つ235がある。底部は欠損しているが、丸底になると考えられる。

中津野式は、256・226・87・346・108・59、東原式は149・174・96・220・221・109・235で、残りはどちらの時期のものか判別できない。

7トレンチから、石戈ではないかと考えられる石

器が出土している(55)。このトレンチは、土壌状造構とピット群が検出され、55はSK26から出土した。他のピット群や包含層の遺物から、中津野式に伴うものと考えられ、弥生時代終末期以前と捉えたい。現在のところ、石戈であろうと推定しているが、そうであれば、日本南端の出土品である。鏃がなく、厚みも薄いことから、下條信行による分類のC型式²⁷にあたると推定される。

古墳時代後半期の土器

古墳時代後半期の土器は、Fig. 69に示した。辻堂原式・笹貫式と呼称されるもの²⁸だが、両者の区別を毫以外でつけることが難しいため、一括した。ちなみに、毫だけを見ると、東原式と笹貫式の中間形態である、辻堂原式は無い。毫の形態は、ゆるやかにくの字状に屈曲するものから、バケツ状に直立または内湾する口縁部にすぐに変化するのかもしれない。

毫には、結縄突帯を1条有するものと、本来突帯が添付されている位置以上を肥厚させ、段の部分に刻み目を施すもの(147)がある。突帯の中には、一巡せずに、端部をわざとずらしているもの(252)がある。脚台は、根元が太く、がっしりしている。脚台内面天井部は、体部の器形に合わせて飛び出している(238)。また、低脚で粗雑な作りのものがみられる(30)。165は、脚台と体部の接合部に突帯を一条付けるものである。笹貫式の毫にまれに見られるものである。

壺は、大型の壺(195・280・230)と中型(70・71)、小型のもの(105)がある。また、胸部や頸部に施す幅の広い突帯に、斜格子文、鋸歯文、斜線文、半截竹管文を施している。底部は、分厚く、非常に重い。底面は緩やかに四面をなす。

高杯は、赤色顔料を添付しているものがほとんどである。細かく磨いており、杯部は横方向、脚部の上部は縱方向、脚部下部は横方向に磨くものが多い。杯部の形態は、椀状のものだが、わずかに口唇部を外反させるもの(196)や口縁部直下に細く細かい刻み目突帯を施すもの(77)がまれにみられる。脚部は、太く重い。壺は、内輪気味の口縁部に、算盤珠状に屈曲する胸部を持つ(208)。壺も赤色顔料が施されていることがほとんどだが、まれに着色されていないもの(206)もある。やはり、磨きを施すが、全面横方向の磨きが多い。

高杯や壺に施される赤色顔料は、内面全面に施

されることはあまり無く、内面口縁部付近で、着色されている部分とされていない部分の境がよく観察できる。この中には、顔料が飛び散ったようについているものや、明らかに筆状の工具で液体状の顔料を添付したと判断できるものがある。

その他の器種で、鉢に含めたが、広口のもの(271)と、コップ状の小型品が見られる(79・277)。小型品は、いずれも粗雑な作りである。

古墳時代後半期の遺物として、須恵器も少量出土している。杯蓋、大壺、短頸壺(?)、横瓶の破片であるが、このうち、時期が判断できるのは、80の杯蓋のみであった。TK210²⁹と考えられる。

古墳時代の石器

古墳時代の住居跡から、石器が出土している(Fig. 70)。

161のくぼみ石は、SK14から出土しており、東原式に伴うものと考えたい。

他の石器は、笹貫式の住居跡から供伴したものである。石包丁、紡錘車、叩き石、台石、輕石製品がある。これらは、いずれも住居埋土中から出土したものであるが、この時期に使用されていたと考えられるものである。特に、輕石製品の出土数が



Fig. 70 弥生時代終末期～古墳時代の石器 S=1/10

多く、いくつかに類型化できる。A類：円形に整形しているもの（243）、B類：くぼみもしくは太い刻みが施されているもの（284・242・236）、C類：不規則な複数の面を持つもの（278・84・168・244・169）である。C類は、面が切りあっているように見え、角度を変えながら、表面を何かにこすりつけた結果残ったものであるように観察できる。

古代の遺物

古代の土師器が、1トレンチを中心に出土した。壺、杯、椀、杯蓋が出土している。壺は、口縁部のみ出土しているが、器形にばらつきがある。杯は完形品は無いが、底部からの立ち上がりが直線的な平底（18・6）と少し丸みを帯びる平底（19）に分けられる。中村和美による分類のAa0にあたると考えられる¹⁰⁾。椀は、充実した高台状の底部（318）、高台（319・21）がある。杯蓋は、須恵器模倣品である。杯や椀から、9世紀後半から10世紀前半のものと考えられる。

古代の須恵器も少量出土している。杯の口縁部（36・37）と杯蓋（214）である。小片で時期を確定するのは難しいが、蓋のかえりなどから、9世紀以降に位置付けられるだろう。

註

- 河口貞剛（1987）。付録I 教育学部附属中学校敷地内遺跡。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報II。鹿児島大学埋蔵文化財調査室。
- 松永幸男・砂田光紀（1989）。第4章 鹿児島大学

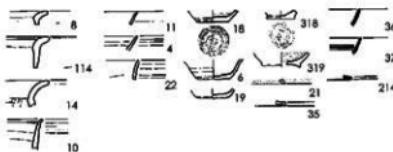


Fig. 71 古代の遺物 S=1/10

郡元閉地Q-9・10区における（附属中学校プール上屋取扱に伴う）発掘調査報告。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V。鹿児島大学埋蔵文化財調査室。

- 中村直子（1991）。付録I 鹿児島大学郡元閉地S-T-6・7区（教育学部附属小学校プール上屋建設地）における発掘調査報告。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VI。鹿児島大学埋蔵文化財調査室。
- 中村原（1982）。曾烟台式土器。縄文文化の研究、3。雄山閣。
- 中國聰（1997）。九州南部地域弥生土器編年。人類史研究、9。
- 中村直子（1986）。成川式土器再考。鹿大考古、6。
- 下條信行（1976）。石戈論。史源、113。
- 6)に同じ。
- 田辺昭三（1981）。須恵器大成。角川書店。
- 中村和美（1997）。鹿児島県における古代の在地土器。鹿児島考古、31。

SUMMARY

This is the report of the rescue excavations and surveys of the sites in the campuses of Kagoshima University in the 1999 fiscal year.

This report also includes the results of the excavations carried in 1944 in an appendix. Appendix reports the excavations of Area M-T-7~12 in Korimoto campus.

LOCATION AND HISTRICAL BACKGROUND

Kagoshima University is located in the center of Kagoshima city, south Kyushu Island. The western part of the city is highland and the eastern part is lowland. Active volcano Mt. Sakurajima is in the center of Kagoshima Bay.

This report includes the results of excavations and field surveys at Korimoto campus, Handicapped children's school attached to Faculty of Education. Korimoto campus and Handicapped children's school are located in the lowland.

The sites at Korimoto campus are registered to be those of late Kofun period at 500 to 700 AD., and near Handicapped children's school, the sites in the Yayoi and Kofun period are found.

OUTLINE OF EXCAVATIONS IN THE 1999 FISCAL YEAR

The center carried one excavation, one test excavation and six surveys. They were all rescue arcaeological surveys. At the Code99-1 excavation, there are the troughs of a field of medieval period and a mound made of Kofun potteries. A lot of potteries of Kofon period were found. Excavation will be continued also to next year. We presumes that the many pit houses in Kofun period exist.

APPENDIX : Area M-T-7~12 in Korimoto Campus

Archaeological Research Center made a rescue excavation from January 10 to April 19, 1994, before the construction of the lighting institution of the ground at Faculty of Education. We excavated twenty-two trial trenches and we found the layers contained remains of prehistoric age. At 8th, 15th and 16th trench, we found the pit houses of Kofun period. At First trench, the pits of ancient time were found. The diameter of the pits is 140cm from 50cm, and the depth is about 80cm from 50cm. But it is unknown for what these pits were used.

報告書抄録

| ふりがな | かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうじゅうご | | | | | | |
|--|--|-----------------|--|-----------------|------------------------|------------------------|-----------|
| 書名 | 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 15 | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | | |
| 編著者名 | 中村直子・新里貴之 | | | | | | |
| 編集機関 | 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 | | | | | | |
| 所在地 | 〒 890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 TEL 099-285-7270 | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2001 年 3 月 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード 市町村・遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査起因 |
| かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 二通りもとだんな 郡元団地 J-10 区 | かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっぽうめ 一丁目 21 番 35 号 | 4620 | 31 34 11 | 130 32 48 | 20000322 ~ 20000329 | 4 | |
| かごしまだいがくこうないいせき 鹿児島大学構内遺跡 二通りもとだんな 郡元団地 M ~ T-7 ~ 10 区 | かごしましこおりもと 鹿児島市郡元 いっぽうめ 一丁目 20 番 6 号 | 4620 | 31 34 11 | 130 32 48 | 19940110 ~ 19940419 | 10 | 照明灯 取設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 J-10 区 | | 古墳 | | 古墳時代の土器 | | | |
| 鹿児島大学構内遺跡 郡元団地 M ~ T-7 ~ 10 区 | 縄文 弥生 古墳 古代 | 住居跡 土壤状遺構 | 縄文土器 弥生土器, 石庖丁, 石戈? 土師器 軽石製品 石製防護車 砥石 須恵器, 青銅製品 | | | | |

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 15

2001年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目 21番 24号

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島市新屋敷町 14番 16号

TEL 099-226-3747

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.15

CONTENTS

Chapter

| | |
|---|---|
| 1 Report of archaeological research In the fiscal year 1999 | 1 |
| 2 The test excavation at Area J-10 in Korimoto Campus | 5 |
| 3 Reports of rescue surveys | 8 |

Appendix

| | |
|--|----|
| Report of excavation at Area M~T-7~10 in Korimoto Campus | 19 |
|--|----|

Published by

**Kagoshima University Research Center for Archaeology
2001**